

令和2（2020）年度  
中部環境パートナーシップオフィス運営業務  
年間報告書

2021年3月

中部環境パートナーシップオフィス  
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）



## 目 次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成及び公表	7
(1) 令和2年度の業務実施計画の作成	7
(2) 定量的な達成目標の設定	10
(3) 参画する各主体の役割分担の明確化	13
(4) 業務実施計画の公表等について	16
2 運営会議の設置・開催	19
(1) EPO 中部運営会議	19
(2) 中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議	23
(3) 業務における運営委員との連携（主催イベントへの登壇等）	27
3 基本業務	29
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	29
(2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務	34
(3) 施設の維持・管理	50
4 協働取組の促進のための業務	53
(1) 協働コーディネーターと連携したフォーラム（対話の場）の開催	53
(2) 協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【富山地域】	55
(3) 協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【福井地域】	71
(4) 活動の見える化	76
5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務	87
(1) ESD 活動を支援するための情報共有等	87
(2) ESD 活動の支援等	99
(3) ESD 活動のネットワーク形成に係る業務	99
(4) 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等	106
6 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	109
(1) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業	109
(2) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	128
7 EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理	135
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	141
(1) 地域住民・市民等向けのワークショップ開催	141
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	143
(1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	143
(2) 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センターのネットワークの活用及び連携の確保・強化	169
10 外部資金を活用した事業	173
(1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	173
(2) 地球環境基金	178
(3) 愛知県コーディネート業務	181
11 今後に向けて	183



# 業務概要

---

## (ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全の意欲の増進及び環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(以下「環境教育等促進法」という。)第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針(以下「促進法基本方針」という。)により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス(以下「EPO」という。))」を全国に設置し、事業を実施しているところである。

また、「我が国における持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム実施計画(以下「ESD国内実施計画」という。))」では、ESD活動に取り組む様々な主体が参画・連携し、地域ESD活動推進拠点(以下「地域ESD拠点」という。)の形成並びに地域が必要とする取組支援及び情報・経験の共有を可能とするネットワーク機能の体制としてESD活動支援センター(全国・地方)を整備することとされており、「ESD推進ネットワークの構築に向けて(平成28年3月ESD活動支援企画運営準備委員会 文部科学省 環境省)」において、地方ESD活動支援センターの運営には、EPOを活用することとされている。

本業務は、環境教育等促進法の規定する国の役割及びESD国内実施計画の規定するESD推進ネットワーク構築の役割を果たすため、全国のEPO・地球環境パートナーシッププラザ(以下「GEOC」という。)及びESD活動支援センター(全国・地方)のネットワークを活用しつつ、中部地域の特性・事情を踏まえて各種事業を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動等を活性化させること、及びESDを一層推進させることを目的に実施した。併せて、環境教育等促進法に定義する協働取組として本業務を実施することにより、協働取組のあり方を示すことを副次的な目的として実施した。

さらに、「第5次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)では、今後の環境政策は経済社会システム、ライフスタイル、技術などあらゆる観点からイノベーションの創出や、経済・社会的な課題の同時解決を実現し、将来に渡って質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげていくこととなっている。その中で、地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むこととなっていることに留意し、実施した。

## (イ) 業務の内容

中部環境パートナーシップオフィス(以下「EPO中部」という。)には、主に①持続可能な社会の実現に向けた地域の協働取組モデルの創出・支援、②持続可能な社会の構築に向けたESD・SDGsの推進、③地域における中間支援機能の強化、④環境教育等促進法の普及・促進、⑤情報の提供・相談対応等の5つの役割が地域において期待されている。

EPO中部の第5期事業(平成30年4月から令和3年3月まで)においては、「動機づけ」と「見える化」の視点を重視して、①協働コーディネーター育成事業の発展的展開、②地域における持続可能な地域・社会の構築に向けた中間支援機能との連携強化を図ることとしており、このために「中部地方の協働・ESD・SDGs(持続可能な開発目標)の活動支援に資するツールとシステムの構築」及び「活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策の確立」を達成目標とした。

今年度は第5期事業の3年目となることから、上記役割を踏まえた目標達成に向けて、第5期としての達成目標及びその方針を明確にした上で、必要な業務を実施した。

## (ウ) 実施業務

### (1) 業務実施計画の作成及び公表

- ①令和2年度業務計画（第5期事業計画等含む）の作成
- ②達成目標・役割分担の設定
- ③運営会議での協議
- ④中部ESDセンター作成計画の実践
- ⑤HPへの掲載

### (2) 運営会議の設置・開催

- ①EPO 中部運営会議（8名）
  - ・開催準備及び取りまとめ
  - ・会議の開催・運営（2回）
- ②中部地方ESD活動支援センター企画運営会議（6名）
  - ・開催準備及び取りまとめ
  - ・会議の開催・運営（2回）

### (3) 基本業務

#### ア. 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

- ①ホームページの更新及び維持管理（月2回程度）
  - ・トップページの更新等
- ②メールマガジンの作成及び発行（月1回程度）
- ③リーフレットの作成及び配布（A4フルカラー、1000部）
- ④地域ニーズの把握

#### イ. 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

- ①照会・相談対応
- ②対話の体制の構築
- ③定例報告

#### ウ. 施設の維持・管理

### (4) 協働取組の促進のための業務

#### ア. 協働コーディネーターと連携したフォーラム（対話の場）の開催

#### イ. 協働コーディネーターの遠隔地域における地元のネットワークを活用した環境教育の推進

##### 【富山地域】

- ①多様な主体との協働
- ②フォーラム又はワークショップの実施、事後調査
- ③情報共有

##### 【福井地域】

- ①多様な主体との協働
- ②フォーラム又はワークショップの実施、事後調査
- ③協議会の運営／ワークショップの実施
- ④情報共有

##### 【活動の見える化】

- ・上記イ. について「見える化」の取りまとめ、中間支援団体へフィードバック
- ・事例のモデル化と発信／協働の取組方のモデル（基本的フロー/理想的モデル）のまとめ

### (5) 中部地方ESD活動支援センター運営業務

#### ア. ESD活動を支援するための情報共有等

- ①ESDのためのSDGsチェックリストの活用及びパッケージ化
- ②学生等を対象としたコンテンツ等の開発

- イ. ESD 活動の支援等
- ウ. ESD 活動のネットワーク形成に係る業務
  - ①ESD 活動支援センター（以下、全国 ESD センター）開催会議等への出席
    - i 全国 ESD センター企画運営委員会
    - ii ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会
    - iii 全国 ESD フォーラム
  - ②ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催
  - ③ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催
  - ④SDGs へ向けた ESD 推進のための教育現場の実態把握と連携強化
- エ. 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等
  - ①全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携
  - ②地域 ESD 拠点登録支援等
- (6) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務
  - ア. 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
    - ①地域プラットフォーム支援等業務
      - ・採択団体（5 団体程度）への各種サポート
      - ・過年度の地域循環共生圏プラットフォーム（採択）及び登録団体へのフォローアップ
    - ②地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等の支援業務
    - ③上記②の意見交換会（5 団体）での見える化プログラム活用
    - ④環境省主催の情報交換会等への出席
    - ⑤担い手主体（団体等）の把握及びネットワーク形成の情報交換
    - ⑥地域循環共生圏プラットフォーム事業採択団体の行事のオンライン・サポート
  - イ. 地域課題の解決に向けた地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
    - ①森川里海推進ネットワーク形成会合の開催
      - ・情報交換会の実施
      - ・次年度行事開催に向けたオンライン意見交換
    - ②地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業
      - ・情報交換会やワークショップ等の開催
- (7) EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理及び公表
  - ・第 4 期までの EPO 中部が集積したノウハウ・業務等の整理、公表
- (8) 環境基本計画に沿った環境教育支援業務
  - ・地域住民・市民等向けのワークショップ開催
- (9) 関係主体との連携及び協働に関する業務
  - ア. 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換
    - ①定期的な打合せ（月 1 回程度）、日々の業務報告
    - ②外部評価委員ヒアリングへの対応（出席、資料作成等）、第 5 期中間報告とりまとめ
    - ③中部地方環境事務所主催行事への参加（白書を読む会、中部カンファレンス、全国ユース環境活動発表大会の審査委員の選定）
    - ④EPO 中部の行事での記者発表対応
    - ⑤行事での学生参画企画で全国ユース環境活動発表大会の参加校等の積極的な登壇の考慮
  - イ. 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）との連携
    - ・GEOC 主催の全国 EPO 連絡会議に参加
- (10) 年間報告書等（年間報告書、四半期報告書）の作成
- (11) 外部資金を活用した事業

## (エ) 業務の実施概要 (2021年3月22日時点)

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
1 業務実施計画作成	1-1	業務実施計画の作成及び公表	作成済み		
	1-2	達成目標・役割分担の設定	作成済み		
	1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	運営会議に諮問→HPに掲載		
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	第1回:6/1 議事録公開	第2回:1/22 議事録公開	
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	第1回:6/5 議事録公開	第2回:1/20 議事録公開	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	適宜実施	アクセス数(ページビュー数):EPO495,659件/ ESDC12,796件(3月22日現在)	
	3-2	EPO中部HPのリニューアル	12/25リニューアル公開	<a href="https://www.epo-chubu.jp/">https://www.epo-chubu.jp/</a>	
	3-3	メールマガジンの作成・発行	適宜実施	毎月1回発行	
	3-4	リーフレットの作成・配布(印刷1,000部)	前年度残部300部 10月に500部増刷	(1月末現在、300部のストックあり)	2021.2月に500部増刷
	3-5	地域ニーズの把握(次年度行事ニーズ、新規連携の可能性)【1/7〆切】	地域ニーズを協働コーディネーターにヒアリング→1/7提出		
	3-6	照会・相談対応、対話の体制の構築	適宜実施	相談対応件数:41件/電話・メールでの相談・照会 件数:191件(3月22日現在)	
	3-7	定例報告	適宜実施	来館利用件数:83件(来館者数:166人) (3月22日現在)	
	3-8	施設の維持・管理	適宜実施	事業実施日数:計256日(3月22日現在)	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【信州で1回(3時間)】	11/10信州・地域循環共生圏セミナーを開催		
	4-2-1	環境教育の推進(富山地域)【フォーラム:2回(3時間)】	セミナー:8/20開催/ フォーラム:12/12開催	事後調査:報告書記載あり	業務報告書:提出
	4-2-2	環境教育の推進(福井地域)【フォーラム:2回(3時間)】【協議会:1回(2時間)】	WS:9/12開催/フォーラム:12/20開催	地域のエンディングノート	業務報告書:提出
	4-3-1	活動の見える化(対象:4-2、4-3)とフィードバック	4-2-1、4-2-2、PF事業:尾鷲、小布施、SDGs未来都市の3市		
	4-3-2	事例のモデル化と発信(対象:4-2)	上記をWebサイトで公開		
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催【東海で1回(2時間)→小規模で計4回】、パッケージ公開	6/29に開催(オンライン)	参加者自主企画①7/29、②10/5、③10/28開催	
	5-2	ESD推進のためのダイアログ開催【岐阜で1回(半日)/Uエコパーク等と協働】	11/15に白山ユネスコエコパークと連携開催		
	5-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【中部で1回(半日)/学生参加促進】	2/14開催		
	5-4	学生等を対象としたコンテンツ等の開発	旅行会社と連携したツールの原稿を作成	→ツアーで試行活用→改訂	→デザイン原稿作成
	5-5	教育現場の実態把握と連携強化	①8/20富山県高校教員向けセミナー参加者ヒアリング、②10/17愛知県ユネスコスクール交流会で愛知県教育委員会にヒアリング		
	5-6	地域ESD拠点登録支援等	適宜実施	新規登録:1団体	
	5-7	全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国フォーラム【1回】等に出席・参加	運営会議:①7/27、②3/8	連絡会:①6/2、②8/28、③2/8	フォーラム:12/19
	5-8	全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)	適宜実施		

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
6 地域循環共生圏の創造推進業務	6-1	プラットフォーム採択団体の支援	適宜実施		
	6-2	プラットフォームの行事等のオンライン活用サポート	適宜実施		
	6-3	プラットフォーム意見交換会(EPO主催)の支援【各団体×2回】、とりまとめ報告、見える化プログラム活用	ヒアリング:5/18-5/22にかけて5団体実施(オンライン) 意見交換会:郡上10/28、越前10/27、小布施10/21、根羽10/14、尾鷲11/5		
	6-4	森里川海推進ネットワーク形成会合(情報交換会)の開催【三重で2回(3時間)、意見交換1回(2時間)】	第1回:12/7	第2回:1/18	2/10DBJヒアリング実施
	6-5	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業(情報交換会・ワークショップ等)【中部で2回(2時間)】	郡上:11/25	越前:1/26	
	6-6	担い手主体の把握・ネットワーク形成(応募の後押し)【各半日、2事例】	①福井県小浜市事例にヒアリング2/6	②長野市エリアの取組にヒアリング2/4	
	6-7	環境省主催情報交換会の出席【2回(2泊3日)】	キックオフ7/2-3(オンライン)	情報共有会議①9/1(オンライン)	中間報告:12/1提出
7	EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理		Webサイトリニューアルに併せて作成コンテンツ等を公開		
8	環境基本計画に沿った環境教育支援業務	地域住民・市民向けワークショップの開催【名古屋で1回(半日)ノ市役所と連携】	片平学区:11/14		
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1	事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	適宜実施 打合せ:毎月1回実施		
	9-2	外部評価ヒアリングへの出席、資料作成対応、第5期中間報告資料のとりまとめ	2/10ヒアリング実施	第5期中間報告書を11/末に提出	
	9-3	中部地方環境事務所主催行事への出席・参加	白書:7/10(オンライン)	カンファレンス:①12/9、②2/27	中部ユース大会に審査委員推薦
	9-4	記者発表等報道対応	8/20富山セミナー、11/14片平WSの新聞掲載		
	9-5	GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	①6/25会議、6/30研修会に参加(オンライン)	8/5会議に参加(宮城県仙台市)	②1/15、1/19
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務		適宜実施		
11 外部資金を活用した事業	11-1	グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト(イベント開催支援)	三重:7/18、9/26開催	福井:8/1開催	
	11-2	地球環境基金	助成金説明会:10/22	中部ユース大会に審査委員推薦	
	11-3	愛知県コーディネート業務【相談業務:5件ノコーディネート業務:5件】	相談業務5件、コーディネート業務5件実施		
12 仕様書	12-1	環境省情報セキュリティポリシーの遵守及び情報セキュリティ体制等の届出	4/1提出済み		
	12-2	情報セキュリティ対策の報告について	3/31納品時に提出		
	12-3	オフセット印刷又はデジタル印刷の工程における環境配慮チェックリスト	3/31納品時に提出		
	12-4	資材確認票	3/31納品時に提出		



# 1 業務実施計画の作成及び公表

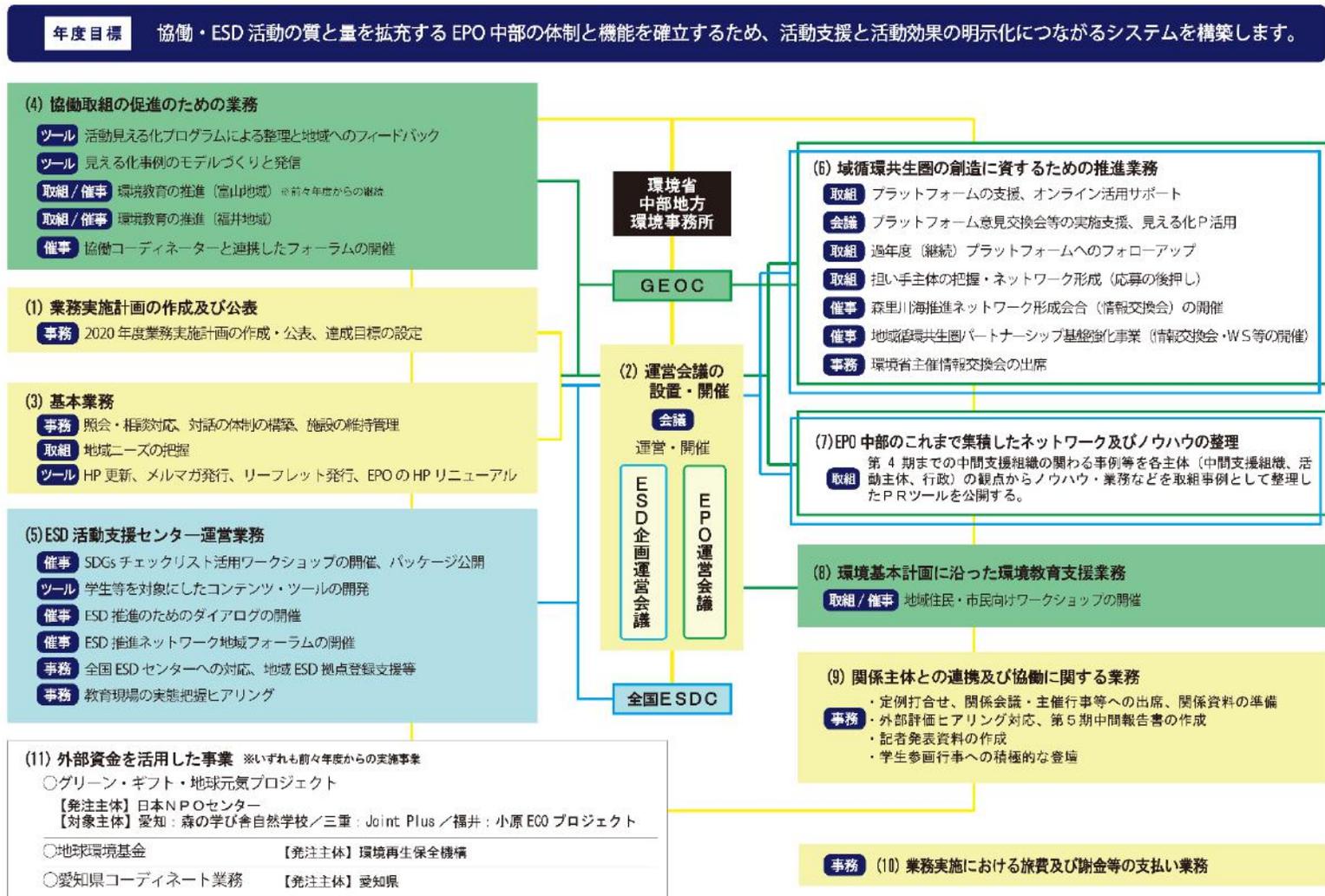
## (1) 令和2年度の業務実施計画の作成

### ア 業務概要

EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター

緑色：EPO 関連/水色：ESD 関連/黄色：共通

※EPO、中部地方環境事務所は業務全体に関わる



第5期目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムを構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

# イ 業務スケジュール

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 業務実施計画作成	1-1 業務実施計画の作成及び公表	富田	作成	EPO/ESD運営会議への提示					実際のスケジュール反映		再掲載			
	1-2 達成目標・役割分担の設定	原												
	1-3 運営会議での協議、HPへの掲載	富田			修正→公開									
2 運営会議	2-1 EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	清本、原、富田	資料作成、開催準備・調整	EPO①運営会議開催(WEB)	開催結果とりまとめ→公開					資料作成、開催準備・調整	EPO②運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		
	2-2 中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	清本、原、富田		ESD①運営会議開催(WEB)	開催結果とりまとめ→公開						ESD②運営会議開催	開催結果とりまとめ→公開		
3 基本業務	3-1 HP(EPO、ESD)の更新維持管理	富田、小松	月2回以上の更新を適宜実施											
	3-2 EPO中部HPのリニューアル	富田、小松		EPO①運営会議に確認	ウェブ・デザイナーとの協議		ウェブ・デザイナーによる作業		移行		リニューアル公開		EPO②運営会議に報告	
	3-3 メールマガジンの作成・発行	小松	月1回以上の配信を適宜実施											
	3-4 リーフレットの作成・配布(印刷1,000部)	富田、小松	適宜実施											
	3-5 地域ニーズの把握(次年度行事ニーズ、新規連携の可能性)【1/7×切】	清本、原、富田	イベント時等に適宜実施し、報告資料作成									最終とりまとめ提出		
	3-6 照会・相談対応、対話の体制の構築	清本、原、富田	適宜実施し、記録及び報告											
	3-7 定例報告	富田	毎月初めに報告資料を集計・作成、提出											
	3-8 施設の維持・管理	富田、小松	適宜実施											
4 協働取組の促進のための業務	4-1 協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【信州で1回(3時間)】	清本、原、富田、小松			調整・準備					フォーラム開催(6-2連携)				
	4-2-1 環境教育の推進(富山地域)【フォーラム:2回(3時間)】	清本、原	各連携主体にヒアリング↓企画案等を作成	EPO①運営会議に諮る	開催準備→	フォーラム/WS開催				開催準備→	協議会/フォーラム/WS開催	事後調査実施		
	4-2-2 環境教育の推進(福井地域)【フォーラム:2回(3時間)】【ワークショップ:1回(2時間)】	清本、原			参画呼びかけ協議会設置	開催準備→	フォーラム/WS開催			開催準備→	協議会/WS開催	事後調査実施	エンディングノート作成	EPO②運営会議に諮る
	4-3-1 活動の見える化(対象:4-2)とフィードバック	原							見える化Pヒアリング作成	フィードバック				
	4-3-2 事例のモデル化と発信(対象:4-2)	原、富田							モデリング(手順書)	公開				
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1 SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催【東海で1回(2時間)→小規模で計4回】、パッケージ公開	原、小松	パッケージ公開		ファシリ育成WS開催				①ファシリ実践WS開催	②ファシリ実践WS開催	③ファシリ実践WS開催	パッケージ活用事例として整理	公開	
	5-2 ESD推進のためのダイアログ開催【岐阜で1回(半日)】/Uエコパーク等と協働	清本、原、富田、小松						関係機関との調整・準備				ダイアログ開催		
	5-3 ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【中部で1回(半日)】/学生参加促進	清本、原、富田、小松						登壇者との調整・準備				準備	フォーラム開催	
	5-4 学生等を対象としたコンテンツ等の開発	原	企画案等を作成	ESD①運営会議に諮る										ESD②運営会議に諮る
	5-5 教育現場の実態把握と連携強化	原							ヒアリング実施①	ヒアリング実施②		ヒアリング結果のとりまとめ		
	5-6 地域ESD拠点登録支援等	原、小松	適宜対応											
	5-7 全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加	原、富田	適宜実施											
	5-8 全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)	原、小松	適宜対応											

仕様書業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
6 地域循環共生圏の創造推進業務	6-1 プラットフォーム採択団体の支援	清本、原、富田	各団体のサポート計画(スケジュール・意向等)に応じて適宜実施										中間報告	次年度展開の事務局打合せ	フォーラム開催
	6-2 プラットフォームの行事等のオンライン活用サポート		適宜、行事・会合でのオンライン配信等設置支援												
	6-3 プラットフォーム意見交換会(EPO主催)の支援【各団体×2回】、とりまとめ報告、見える化プログラム活用		関係主体、協働コーディネーターへのヒアリング	各PFにヒアリング実施	とりまとめ・報告	サポート計画づくり	PFとの調整／見える化プログラムの作成			PF5団体それぞれで意見交換会開催	とりまとめ・報告				
	6-4 森里川海推進ネットワーク形成会(情報交換会)の開催【三重で2回(3時間)、意見交換1回(2時間)】		企画案作成	EPO①運営会議に諮る	関係団体との協議・調整					企画検討	情報交換会①	情報交換会②	意見交換会		
	6-5 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業(情報交換会・ワークショップ等)【中部で2回(2時間)】		関係機関等との調整										6-1支援・連携開催	6-2支援・連携開催	
	6-6 担い手主体の把握・ネットワーク形成(応募の後押し)【各半日、2事例】												落選団体、4-2連携団体、協働コーディネーター等へのヒアリング等	ヒアリング結果、支援ニーズ等のとりまとめ	
	6-7 環境省主催情報交換会の出席【2回(2泊3日)】		適宜実施												
7 EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理	富田、小松	EPO①運営会議に確認	検索リストの作成、過去報告書のデータ整理			リニューアルHPへの掲載作業			HP公開	EPO②運営会議に報告					
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	地域住民・市民向けワークショップの開催【名古屋で1回(半日)／市役所と連携】	原	関係機関との調整・協議、ワークショップ案の作成・確認							ワークショップ開催					
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1 事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	清本、原、富田	適宜実施(原則月1回以上の打合せ)												
	9-2 外部評価ヒアリングへの出席、資料作成対応、第5期中間報告資料のとりまとめ		適宜実施											第5期中間報告の作成	外部評価ヒアリングに出席
	9-3 中部地方環境事務所主催行事への出席・参加		適宜実施												
	9-4 記者発表の作成等	富田、小松	適宜実施												
	9-5 GECC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	清本、富田	適宜実施												
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松	適宜実施													
11 外部資金を活用した事業	11-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト	清本	日本NPOセンターの枠組みに則り適宜実施												
	11-2 地球環境基金	清本	環境再生保全機構の枠組みに則り適宜実施												
	11-3 愛知県コーディネート業務【相談業務:5件／コーディネート業務:5件】	清本、原	愛知県(環境局環境活動推進課)の仕様書に則り適宜実施												

実施開催結果報告とりまとめ

## (2) 定量的な達成目標の設定

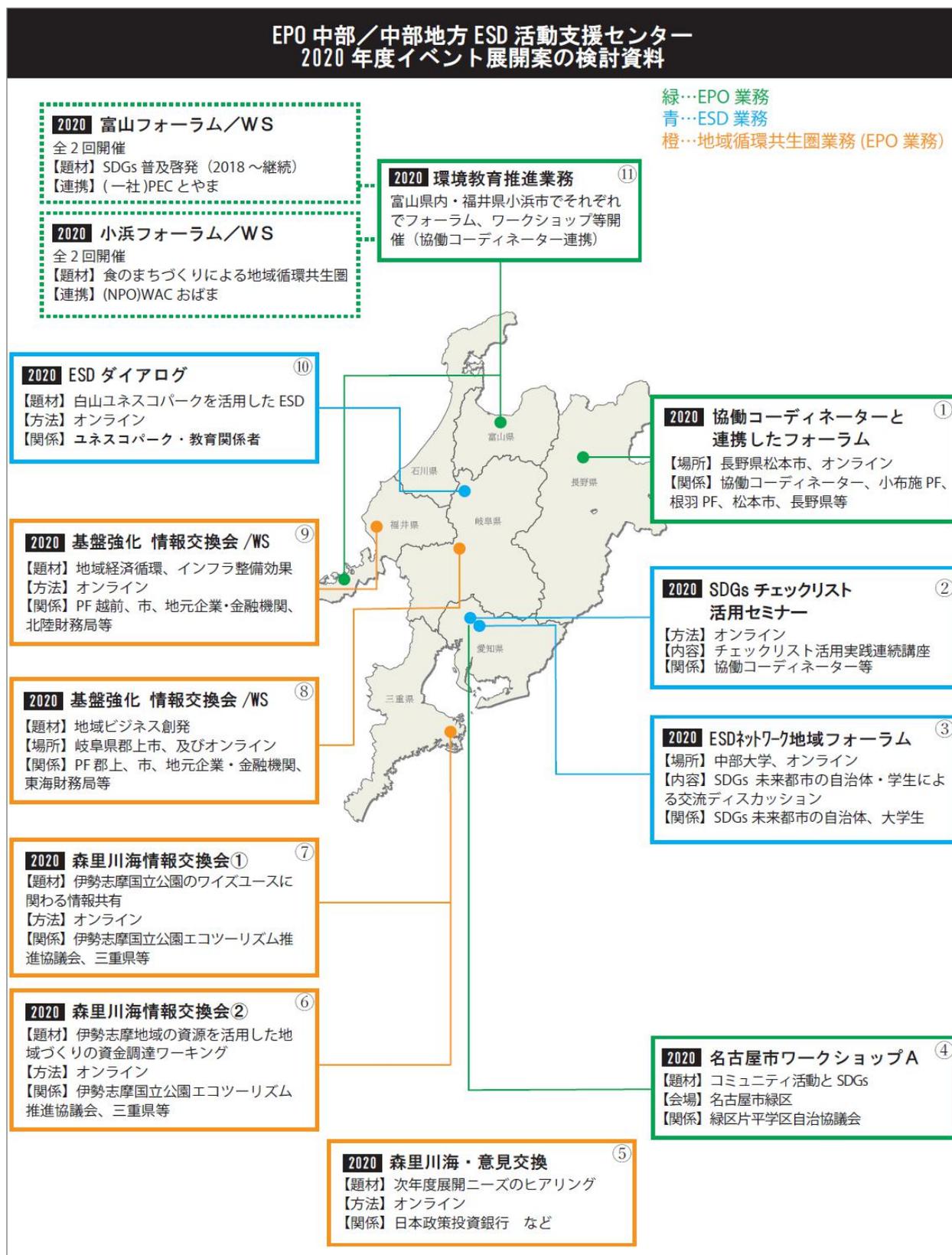
仕様書業務項目	業務内容		アウトプット			アウトカム		備考
			コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定	
1 業務実施計画作成	1-1	業務実施計画の作成及び公表	・第5期計画改定作成 ・当年度業務実施計画作成			業務遂行計画として事業推進の基準が見える化された。	B	
	1-2	達成目標・役割分担の設定	・目標一覧表作成 ・ESDセンター活動方針(案)作成			それぞれの業務についてアウトプット、アウトカムの評価が可能となった。	B	
	1-3	運営会議での協議、HPへの掲載	計画のHP掲載			計画のWebページ掲載により透明性が確保された。	B	
2 運営会議	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【2回】	記録作成		オンラインで2回開催 参加数 第1回8名 第2回8名	オンラインにすることにより多数参加いただき有用な意見をいただいた。 座長の協働ワークショップ参加、委員の業務への積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	A	
	2-2	中部ESD企画運営会議の開催・運営【2回】	記録作成		オンラインで2回開催 参加数 第1回6名 第2回5名	オンラインにすることにより多数参加いただき有用な意見をいただいた。 座長のフォーラム参加、委員のダイアログ企画に参加いただくなど、業務に積極的な参画を得て効果的な活動展開に寄与いただいた。	A	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	2月末現在 EPO116件 ESDC69件	FB管理	ページビュー数(2月末現在) EPO480千件 ESD12千件	記事の継続的掲載、情報の更新をこまめに実施した。FBも活用を継続している。ページビュー数は昨年度より増加。	A	
	3-2	EPO中部HPのリニューアル	HPリニューアル終了			単なる事業情報発信から目的別の構成となり、運営委員等より好評をいただいている。	A	
	3-3	メールマガジンの作成・発行	月1回発行 記事数335		各月770部程度で推移	順調に発行しており、否定的な意見は現れていない。	B	
	3-4	リーフレットの作成・配布(印刷1,000部)	作成		800部(2月末現在)	順調に配布しており、否定的な意見は現れていない。	B	
	3-5	地域ニーズの把握(次年度行事ニーズ、新規連携の可能性)【1/7ヶ月】	試行実施、報告書作成		8地域のニーズの掘り起こしを実施	協働コーディネーター及び主催イベントの参加者アンケートから現実的なイベントに対するニーズを把握した。	A	
	3-6	照会・相談対応、対話の体制の構築	記録簿作成		・相談対応27件(昨年度同時期36件)、来館者10件、電話メール等185件、対話構築115件(セミナー等対応18件、打合せ等96件)(2月末現在)	相談対応件数は前年度よりやや低水準。コロナの影響等も考えられる。コロナのため閉鎖したこともあり来館者は少ない。	B	
	3-7	定例報告	報告文書を定例様式で毎月作成			毎月、所定の書式で中部地方環境事務所へ提出、報告実施。	B	
	3-8	施設の維持・管理		良好な空間を維持		職員が快適に作業できた。来訪者も快適に過ごしている。	A	
4 協働取組の促進のための業務	4-1	協働コーディネーターと連携したフォーラム開催【信州で1回(3時間)】	実施記録を作成		・参加49名(現地参加20名、オンライン登壇2名、YouTube視聴27名) ・長野県NPOセンターと連携、協働	講演とワークショップを通じて地域循環共生圏の普及啓発、理解促進に貢献した。	A	
	4-2-1	環境教育の推進(富山地域)【フォーラム:2回(3時間)】	実施報告書を作成		第1回高校教員向けSDGs教育導入セミナー(WS)参加者22名、講師1名 第2回フォーラム参加者60名(オンライン)、講師1名、話題提供4名 ヒヤリング:高校1か所、企業1か所	富山地域における企業、学校、研究機関、教育委員会、学会など様々なセクターと協働することにより高校教育におけるESD推進や、社会におけるSDGs認知の拡大につながるともに、新たな交流に貢献した。	A	
	4-2-2	環境教育の推進(福井地域)【フォーラム:2回(3時間)】【ワークショップ:1回(2時間)】	実施報告書を作成		食のまちづくりワークショップ参加者12名 地域循環共生圏フォーラム参加者50名、講師1名	コロナ禍で参加者規模が縮小したのもあったが、小浜市のまちづくりと過疎対応に関する課題が抽出され、今後の地域循環共生圏づくりの基盤形成に貢献した。	B	
	4-3-1	活動の見える化(対象:4-2)とフィードバック	・4-2-1において団体取組を分析、4-2-2においてまちづくり条例を視視化LWSで活用。 ・5-3で3事例、6-2で2事例を分析活用			合計7事例の分析とフィードバック活用を実施し、分析活用事例を蓄積。	A	
	4-3-2	事例のモデル化と発信(対象:4-2)		・基本フローを作成モデルをWeb掲載		上記とともに活用基本フローの公開により活動可視化のSDGs認識の拡大に貢献。	A	

仕様書業務項目	業務内容	アウトプット			アウトカム		備考	
		コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定		
5 中部地方 ESD活動 支援セン ター運営 業務	5-1	SDGsチェックリスト活用ワークショップの開催【東海で1回(2時間)→小規模で計4回】、パッケージ公開		スキルアップWS動画の公開とともに、活用WSに加え4事例の内容をWeb公開	・スキルアップWS(オンライン)コア参加者4名、視聴27名、事後視聴18名 ・活用WSコア参加による自主開催3回、各40名、4名、32名	コロナ禍ではあったが、オンラインワークショップを多用することにより本業務のみで125名に訴求。また他の業務4事例でも活用し事例を蓄積。ツール活用の拡大に貢献。	A	
	5-2	ESD推進のためのダイアログ開催【岐阜で1回(半日)】/UEコパイク等と協働】	WS開催記録を各回作成、録画記録をWeb公開		・当日視聴29名、事後視聴40名、専門家3名、発表者6名	オンラインによる開催であったが運営委員の尽力により多くの参加が得られるとともにオンラインホワイトボードによるディスカッション等の新たな試みによるESD交流の可能性が広がった。	A	
	5-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【中部で1回(半日)】/学生参加促進】	開催記録を作成、録画記録をWeb公開		・コア参加35名(内専門家9名)、視聴32名	SDGs未来都市3都市の職員と4大学14名の学生の交流をオンラインで実現。高等教育におけるSDGsに向けたESDモデルを構築。	A	
	5-4	学生等を対象としたコンテンツ等の開発	2場面×2種類(事前事後)、計4種類を作成	4種類ガイドシート(ツアー名変更可)をデザイン	2回のエコツアー(バス)で検証第1回19名参加第2回20名参加	「清流を見つめて編」「森のやぐわり編」のそれぞれに「はじめに」「ふりかえり」の計4種類を作成し、汎用性の高いエコツアー用ツールを作成、実証し今後の野外ESDに貢献できる。	A	
	5-5	教育現場の実態把握と連携強化	ヒヤリング記録2件			現場の生の声を収集することができ、今後の支援に資する情報が得られた。	B	
	5-6	地域ESD拠点登録支援等			現18拠点、昨年度より1拠点増加	コロナ禍もあり支援が困難であった。	C	
	5-7	全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【3回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加			全国ESDセンター運営会議【2回】、連絡会【2回】、全国ESDフォーラム【1回】等に出席・参加(オンライン)	コロナ禍であったがすべてオンラインで参加することができた。ただし対面でないため効果的な交流ができたとは言えない。	B	
	5-8	全国ESDセンター等との連携(情報提供、アンケート実施支援など)			全国ESDフォーラム(オンライン)において四国センターと協働で分科会を企画運営	当初想定されていなかった全国フォーラムにおいて四国センターと協働で「SDGsの取組を社会実装するためのESD」を企画運営することによりESDネットワーク活動に貢献。	A	
6 地域循環 共生圏の 創造推進 業務	6-1	プラットフォーム採択団体の支援	・5件の採択団体へ適宜伴走支援、記録を作成。	・5件の採択団体へ適宜伴走支援(全25件)、支援ノウハウ、活動内容に関する支援知見を集積	・他のイベントで見えた適切な伴走支援を実施①小布施の事例紹介を協働コーディネーターと連携したフォーラム(4-1)へ登壇依頼2名、②森里川海イベント(6-4)に尾鷲の事例紹介について登壇依頼③SDGsフォーラム(5-3)に富山大学(前年度)が参加	採択5団体に対して特徴に応じた適切な伴走支援を実施。関係者の聞き取りでは、新たな提案や関係性が得られたの反応。おおむね満足との評価を得る。	A	
	6-2	プラットフォームの行事等のオンライン活用サポート		・郡上PF2回オンライン配信サポート		オンライン配信により遠距離の関係者も視聴参加するなど、関係性強化に貢献した。	A	
	6-3	プラットフォーム意見交換会(EPO主催)の支援【各団体×2回】、とりまとめ報告、見える化プログラム活用	・地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等開催記録 ・ヒヤリング結果記録	・意見交換会で見える化プログラム作成活用2件、概念活用3件	意見交換会(意見ヒヤリング)参加者数 ・根羽PF13名 ・小布施PF10名 ・尾鷲PF76名 ・郡上PF20名 ・越前PF20名	採択5団体それぞれの特性に合わせた意見交換会を実施した。参加者の反応は肯定的、生産的であった。	A	
	6-4	森里川海推進ネットワーク形成会合(情報交換会)の開催【三重で2回(3時間)、意見交換1回2時間】	・森里川海推進ネットワーク形成会合記録		第1回 ・参加者30名 ・講師4名 第2回 ・参加者42名 ・講師3名	オンライン参加の他、録画した動画をYouTubeに限定公開し、欠席者及び関係者に案内するなど波及効果も含めネットワークが強化された。	A	
	6-5	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業(情報交換会・ワークショップ等)【中部で2回(2時間)】	・情報交換会、ワークショップ開催記録		第1回郡上 ・参加者49名 ・講師2名 第2回福井 ・参加者56名 ・講師3名	これらをきっかけに今後の展開についての情報収集のため、金融機関(日本政策投資銀行)との情報交換を実施するなど、さらなるネットワーク形成が実施された。	A	
	6-6	担い手主体の把握・ネットワーク形成(応募の後押し)【各半日、2事例】	・情報交換記録		情報交換会2団体各1回実施	令和3年度プラットフォーム事業への応募を検討していた2団体を対象にヒヤリングを実施し中部地方環境事務所と共有するなどネットワークを形成。	A	
	6-7	環境省主催情報交換会の出席【2回(2泊3日)】		・参加による情報共有(オンライン20回)		多数の情報交換会に参加し情報を共有、ネットワークを形成。	A	
	7	EPO中部のこれまでに集積したネットワーク及びノウハウの整理	報告書をリスト化。過去のイベント事例を整理。登壇者を抽出。			報告書をリスト化、過去のイベント事例を整理、登壇者を抽出することにより、今後の活動に資する知見を整理した。	B	

仕様書業務項目	業務内容	アウトプット			アウトカム		備考
		コンテンツ等、情報の発信、記録	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など	アウトカム評価	評価判定	
8	環境基本計画に沿った環境教育支援業務 地域住民・市民向けワークショップの開催【名古屋で1回(半日)／市役所と連携】	・ワークショップ開催記録(1回片平学区)		片平学区参加者62名、専門家1名	参加人数は目標を上回った。また請負団体別事業が片平学区の小学校ESDとの協働に発展。全校生徒と教諭・約650名に校内テレビによるクイズ放送が実現。	A	
9	9-1 事務所担当官と業務の責任者として定期的な打合せ・報告、資料作成対応	月次報告を各月作成			定期的に密な連絡と情報共有を維持。円滑な運営に寄与。	A	
	9-2 外部評価ヒアリングへの出席、資料作成対応、第5期中間報告資料のとりまとめ	オンラインヒヤリングに出席、対応			外部評価委員に適切なアドバイスをいただいた。	A	
	9-3 中部地方環境事務所主催行事への出席・参加	中部事務所主催オンラインカンファレンスに出席			現状の環境問題と環境省の施策についてEPOスタッフの認識を深めた。	B	
	9-4 記者発表の作成等			新聞取材1件(8)、テレビ取材1件(4-2-1)	マスコミ取材と報道により多くの対象に情報発信できた。また新聞取材のイベント(8)をきっかけとして地元小学校のテレビ校内放送を活用したESDの新聞テレビ取材に発展し、大きな波及効果となった。	A	
	9-5 GEOC主催の全国EPO連絡会議【2回】、その他関連会議等への参加・協力	GEOC主催会議(オンラインとリアル)各回に参加	・九州、関東、GEOCの交流会(リアル)を中部で開催 ・GEOCとの意見交換会(ハイブリッド)を中部で開催	・交流会5名参加 ・意見交換会2名参加	GEOC事業に協力した他、見える化プログラムの認知拡大、地域循環共生圏にかかる運営知見の拡大に貢献した。	A	
10	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務						未評価
11	外部資金を活用した事業	11-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト					未評価
		11-2 地球環境基金					未評価
		11-3 愛知県コーディネート業務【相談業務:5件／コーディネート業務:5件】					未評価

### (3) 参画する各主体の役割分担の明確化

- 次図の通り、2020 年度開催のフォーラム、ダイアログ等主催イベントについて企画検討を行い、イベントにどのような主体が登壇するかについても業務実施計画の一部として提示した。
- 主だった業務については、プロジェクト個票を作成し、業務の着手にあたって中部地方環境事務所担当者と業務内容、進め方等についての確認を行った。



令和2年度計画

個票No.5-1

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	SDGs チェックリストパッケージ活用ワークショップと公表		
	表番号	業務内容	
	5-1	SDGs チェックリスト活用ワークショップの開催【東海で1回(2時間)】、活用パッケージ公開	
仕様内容	<p>OECD のための SDGs チェックリストの活用及びパッケージ化          企業、市民、NPO 等を対象としたワークショップを開催する。その際、SDGs の裾野が広がるような活動とする(東海地域において計1回、50名程度、2時間程度想定)。          また、同チェックリストをパッケージ化し公表する。</p>		
計画概要	<p>平成31年度までに作成したSDGsチェックリストを活用したワークショップを開催する。ワークショップ活動を通じてSDGsの裾野が広がることを念頭に、コロナ対策を考慮して少人数でEPO中部Mスペースを中核に用いて断続的に行う。そのため、ESDのキーマンなどの活用スキルの習得を目指したワークショップ1回(8人程度)と実際に活用するワークショップを3回(各15人程度)実施する。またワークショップの結果を取りまとめて活用事例パッケージとして公開する。</p>		
関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働コーディネーター</li> <li>・EPO中部、中部ESDC運営会議関係者</li> <li>・ESD拠点関係者</li> <li>・これまで開催したSDGsイベント関係者</li> </ul>		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>(1) SDGs チェックリストパッケージ活用ワークショップ(1回)          平成31年度事業で作成したチェックリスト活用スキルを習得していただくための体験セミナーを開催し、EPO中部関係者や協働コーディネーターに呼びかけ参加していただく。参加者には(2)の「身近なSDGsワークショップ」の講師役を複数で務めていただく。          場所：EPO中部Mスペース 日時：6月頃 平日午後          プログラム案          ①SDGs チェックリストパッケージについて(説明)          ②チェックリスト、ワーキングシート体験          ③SDGs チェックリスト活用企画作成ワークショップ</p> <p>(2) 身近なSDGsワークショップ(3回)          上の③の結果をベースに参加者自身が講師として実施するワークショップを開催する。対象は企業、NPO、一般市民などとし、一般からの他に講師の関係者などを中心に募集する。          場所：EPO中部Mスペース、講師が開催しやすい場所など 日時：7月~10月          プログラム案          ①講師による話題提供          ②個人ワーク 個人ワークシート、チェックリストの記入          ③グループワーク 個人ワーク結果のグループ内共有、グループワークシートの作成          ④ワーク成果の紹介と発表</p> <p>(3) SDGs チェックリスト活用事例パッケージのWeb公開          3回のワークショップの結果を取りまとめて事例パッケージとして公開する。</p>		
主要アウトプット 目標	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者(数)、対象者(数)など
		SDGs チェックリスト活用事例パッケージ	ワークショップ参加者 50名 内活用スキル獲得者 8名程度
アウトカム 目標	SDGs を身近に感じられる活動の裾野が広がる。		
備考			

令和2年度計画

個票No.5-4

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	学生等を対象としたコンテンツ等の開発		
	表番号	業務内容	
	5-4	学生等を対象としたコンテンツ等の開発	
仕様内容	学生等を対象としたコンテンツ等の開発 コンテンツ、アプリ等の開発を検討し公表する。		
計画概要	岐阜県の委託でエコツアー行っている日本旅行と協働し、体験ツアーで最も見てほしい事象について、当地で説明を担う方にヒアリングした内容を元に、SDGs との関連性を説明するガイドシートを作成するための、汎用シートフォーマット、及び具体的なシート事例を作成する。		
関係者	○日本旅行（又は岐阜県庁）の現場をよく理解している担当者 ○現地の NPO など説明者や関係する専門家		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>(1) コンテンツイメージ タイトル案：野外体験 SDGs ガイドシート～見つめる自然が地球につながる イメージ (A4 両面カラーコピー)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">野外体験SDGsガイドシート～ 見つめる自然が地球につながる</p> <p style="text-align: center;">SDGsってなんだ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">野外体験SDGsガイドシート～ 見つめる自然が地球につながる</p> </div> </div> <p>(2) 実施手順</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○汎用シートフォーマットのプロトタイプを作成</li> <li>○シート事例対象ツアーの選定（3か所程度）</li> <li>○対象ツアーの現地説明者へのヒアリング</li> <li>○ガイドシート事例の作成（3事例程度）</li> <li>○対象ツアーでのガイドシート活用と使い方ヒアリング</li> <li>○汎用シートフォーマットとガイドシート事例のとりまとめ、及び活用手引きの作成</li> </ul> <p>(3) 協働方法の案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中部 ESDC <ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用シートフォーマットのプロトタイプを作成する。以後の手順の中で試行錯誤しながら修正する。</li> <li>・他の関係者とヒアリングや打合せしながら実際のガイドシート案を作成する。</li> <li>・ガイドシート事例活用とともにヒアリング等で使い方や効果をフィードバックする。</li> <li>・事例をまとめてガイドシートの作り方手引きを作成する。</li> <li>・ガイドシート事例と作り方手引きを Web 等で紹介する。</li> </ul> </li> <li>○日本旅行（又は岐阜県庁）の現場をよく理解している担当者 <ul style="list-style-type: none"> <li>・シートに記載する内容を集めてもらう。現地の人にヒアリングする。</li> <li>・現地で大切にすると人との関係、SDGs との関連を考えてもらう。</li> <li>・ガイドシートの修正、校正を行う。</li> <li>・コピーして体験ツアーに活用する。</li> </ul> </li> <li>○現地の NPO など説明者や関係する専門家 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前のヒアリングで、その現場で特に見てもらいたい事象を指摘していただく。</li> <li>・その事象を保全するための条件、人との関わりについて示していただく。</li> <li>・ガイドシートを確認していただく。</li> </ul> </li> </ul>		
主要アウトプット 目標	コンテンツ等、情報の発信	設備・システム・知見など	参加者（数）、対象者（数）など
	具体的なシート事例（3事例）	ガイドシート汎用シートフォーマット、活用手引き	エコツアー参加者 60 人程度
アウトカム 目標	エコツアーにおける ESD の促進により SDGs の理解が広がる。		
備考			

## (4) 業務実施計画の公表等について

### (ア) 地域循環共生圏に関する反映

- 前項・業務実施計画では、業務全般において地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択団体への支援、及び地域循環共生圏の普及・啓発を目的とした業務内容の企画を行った。
- Web サイトのリニューアルでは、地域循環共生圏及び SDGs の各専用コーナーを新設した。  
(「7 EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理」参照。)

### (イ) 運営会議での協議

- 業務実施計画については、6月1日に実施したEPO中部運営会議（第1回）、6月5日に実施した中部地方ESD活動支援センター企画運営会議（第1回）に諮問しており、事後、委員からの意見を反映する形で修正等を行った。

#### 【中部環境パートナーシップオフィス運営会議】

	開催日	協議の実施
第1回会議	2020年6月1日	「2020年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

#### 【中部地方ESD活動支援センター企画運営会議】

	開催日	協議の実施
第1回会議	2020年6月5日	「2020年度業務及びスケジュール」「アウトプット目標」等について協議を行い、内容についての了解を得て確定とした。

### (ウ) ESDセンター計画の実践

- 本年度の業務計画書におけるESD業務については、昨年度（2019年度）に作成した中部地方ESD活動支援センターの展開方針案に基づく業務展開を盛り込んだ。

#### 【中部地方ESD活動支援センターの活動方針についての検討資料（2019年度作成）より】

#### 中部地方ESD活動支援センターの活動原則

##### ①設置定義に基づく活動

「ESD推進ネットワークの構築に向けて」に示されている地方ESD活動支援センターの役割に基づき活動する。

##### ②効率的活動

中部地方のあらゆる分野をカバーすることになるため、既存の資産を活かした効率的なESD推進活動が重要。

##### ③ESD活動の推進を「支援」する立ち位置

「支援センター」であることから、「支援」を主活動とする。

##### ④活動主体の自主性の尊重

支援にあたっては、活動主体の自主性を尊重することが重要。

##### ⑤公共性の確保

社会的公共性を配慮した支援を行う。

##### ⑥内外の経済合理性に沿った活動

特に地域経済合理性に沿った活動を行う必要がある。

##### ⑦SDGsへ貢献する教育活動

「環境」、「社会」、「経済」を踏まえ、複数のSDGsに同時に貢献する教育活動を目指す。

## (エ) ホームページへの掲載

- 作成した2020年度の業務計画等については、EPO 中部ウェブサイト、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトそれぞれに掲載・公開した。

### 【EPO 中部ウェブサイト】

**業務実施計画**

- 2020年度 業務実施計画等 
- 2019年度 業務実施計画等 
- 第5期事業計画と2018年度業務実施計画 
- 平成29年度 業務実施計画 
- 平成28年度 業務実施計画 
- 平成27年度 業務実施計画 

### 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

2020.06.30 **センター概要**

2020年度の中部地方ESD活動支援センターの業務計画について

中部地方ESD活動支援センター（及びEPO中部）の2020年度の業務計画をご紹介します。

**【2020年度業務計画】**

業務一覧、業務スケジュール、業務の目標アウトプット等をまとめた資料です。



※参考）第5期（2018年度～2020年度の3か年）の事業計画は[コチラ](#)を参照してください。



## 2 運営会議の設置・開催

### (1) EPO 中部運営会議

#### ア 第1回会議

##### ① 日時

- 2020年6月1日(月)  
13:30～16:30

##### ② 開催方法

- Web会議



##### ③ 出席者

(委員)

氏名	所属	役職
加藤 義人	岐阜大学	客員教授
新 広昭	金沢星稜大学経済学部	教授
田辺 友也	認定 NPO 法人まちづくりスポット	専務理事
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
松井 真理子	四日市大学総合政策学部	教授
山室 秀俊	(NPO 法人) 長野県 NPO センター	事務局長
山本 哲也	株式会社日本旅行	名古屋法人営業支店副支店長 兼 中部地方創生推進部担当部長

(事務局) 福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松  
(中部地方環境事務所) 萩ノ脇課長、西田主査

##### ④ 議事次第

1. ご挨拶
2. 運営会議設置要綱の確認
3. 地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所
4. EPO 中部の 2020 年度業務事務局案の説明
  - (1) 2020 年度業務計画 (業務内容、スケジュール、設定目標等) について
  - (2) 地域循環共生圏づくりの支援について
  - (3) 主催イベントの開催について
  - (4) ウェブサイトのリニューアルについて
  - (5) 「活動見える化プログラム」の活用について
  - (6) その他
5. 意見交換
6. その他

## ⑤ 会議資料

資料1：運営会議設置要綱（改訂案）  
 資料2：2020年度業務計画（業務内容、スケジュール、設定目標）  
 資料3：2020年度業務の事務局展開案説明資料  
 資料4：協働コーディネーター連携事業の紹介資料  
 参考資料1：地域循環共生圏について  
 参考資料2：協働コーディネーターの紹介冊子（パンフレット）

## ⑥ 開催結果のWebサイトへの掲載

（第2四半期報告書で報告済み）

- 運営会議委員の変更に伴い、EPO 中部 Web サイトの委員名簿、規約を修正・更新した。
- 作成した第1回運営会議の議事概要を各委員に確認した上で、EPO 中部 Web サイトに公開した。

## イ 第2回会議

### ① 日時

- 2021年1月22日（金）  
13:30～16:30

### ② 開催方法

- Web 会議

### ③ 出席者

（委員）



氏名	所属	役職
加藤 義人	岐阜大学	客員教授
新 広昭	金沢星稜大学経済学部	教授
田辺 友也	認定NPO法人まちづくりスポット	専務理事
千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部	教授
中里 茂	のと共栄信用金庫	顧問
松井 真理子	四日市大学総合政策学部	教授
山室 秀俊	(NPO法人) 長野県NPOセンター	事務局長
山本 哲也	株式会社日本旅行	名古屋法人営業支店副支店長 兼 中部地方創生推進部担当部長

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田

（中部地方環境事務所）西田主査

## ④ 議事次第

1. ご挨拶
2. 2020年度業務の実施状況の説明
  - (1) 地域循環共生圏づくりの支援について
  - (2) 主催イベントの開催について
  - (3) 「活動見える化プログラム」の活用について
  - (4) Web サイトのリニューアルについて

3. 第6期（2021～2023年度）に向けて
  - (1) コロナ下のEPO業務のあり方、EPO施設利用促進について
  - (2) 地域循環共生圏づくりに取り組む地域の「支援」と「掘り起し」について（地域ビジネス創発に向けた多様なステークホルダーの巻き込みについて）
  - (3) リニューアルWebサイトの活用について
  - (4) 地域ニーズに即した地域イベントの開催について（協働コーディネーターとの連携・協力による業務／イベントの展開について）
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

## ⑤ 会議資料

資料1：2020年度業務実施状況の説明資料

資料2：「活動見える化プログラム」の2020年度作成チャート

参考資料1：地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業採択団体（中間報告）

参考資料2：2020年度EPO中部業務の一覧表

参考資料3：第5期EPO中部運営業務の中間報告（2020年12月時点報告資料）

## ウ 会議開催結果のウェブサイトへの掲載

### (ア) 第1回EPO中部運営会議の議事概要

- 運営会議委員の変更に伴い、EPO中部Webサイトの委員名簿、規約を修正・更新した。
- 作成した第1回運営会議の議事概要を各委員に確認した上で、EPO中部Webサイトに公開した。

#### 【EPO中部Webサイト】

### 運営会議

#### 運営会議の設置

EPO中部は、多様なステークホルダーが構成する運営会議を年2回開催し、事業の検討、協議、評価を行っています。

また、運営会議委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施できるスキームを持っています。

■第5期運営会議委員■（氏名五十音順、敬称略）

- 加藤 義人氏(岐阜大学客員教授)
- 新 広昭氏(金沢星稜大学経済学部教授)
- 田辺 友也氏(NPO法人まちづくりスポット 専務理事)
- 千頭 聡氏(日本福祉大学国際福祉開発学部教授)〈座長〉
- 中里 茂氏(のと共栄信用金庫顧問)
- 松井 真理子氏(四日市大学総合政策学部教授)
- 山室 秀俊氏(NPO法人長野県NPOセンター事務局長)
- 山本 哲也氏(株式会社日本旅行名古屋法人営業支店副支店長 兼 中部地方創生推進部担当部長)

#### 規約

。

第5期(2018～2020年度)運営会議設置要綱 [📄](#)

。

平成29年度運営会議設置要領 [📄](#)



## (イ) 第2回 EPO 中部運営会議の議事概要

- 作成した第2回運営会議の議事概要を各委員に確認した上で、リニューアル後の EPO 中部 Web サイトに設置した「EPO 中部運営会議」ページに掲載した。

### 【EPO 中部 Web サイト（リニューアルサイト）】

Environmental Partnership Office Chubu  
**EPO中部** 環境省 中部環境パートナーシップオフィス

キーワードで検索

EPO中部とは EPO中部がお手伝い お役立ちツール EPO中部のお知らせ 皆さんのお知らせ

**EPO中部とは**

**EPO中部運営会議**

運営会議の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営会議を第2回開催し、EPO業務についての検討、協議、評価を行っています。  
 また、運営会議委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組で、EPO中部の機能を盛り込んで実施するスキームとなっています。

**第5期運営会議委員**（氏名五十音順、敬称略）

- 加藤 義人氏（岐阜大学客員教授）
- 新 広昭氏（金沢星稜大学経済学部教授）
- 田辺 友也氏（NPO法人まろづくりスポーツ専務理事）
- 千頭 聡氏（日本福祉大学国際福祉開発学部教授）〈滋賀〉
- 中里 茂氏（のと共栄信用金庫顧問）
- 松井 高穂子氏（四日市大学総合政策学部教授）
- 山室 秀俊氏（NPO法人長野県NPOセンター事務局長）
- 山本 哲也氏（株式会社日本旅行名古屋法人営業支店副支店長 兼 中部地方創生推進部担当部長）

規約

第5期（2018～2020年度）運営会議設置要綱

第4期（2017年度/平成29年度）以前の規約

議事録

【2020（令和2）年度】  
 2020年度（令和2年度）第2回運営会議議事録、2020年度（令和2年度）第1回運営会議議事録

【2019（令和元）年度】  
 2019年度（令和元年度）第2回運営会議（書面会議）委員意見  
 2019年度（令和元年度）第1回運営会議議事録

カテゴリ

- EPO中部とは →
- 第5期EPO中部の目標と方針 →
- EPO中部運営会議 →
- ご利用案内・交通アクセス →
- スタッフのあれこれ →

## (2) 中部地方 ESD 活動支援センター 企画運営会議

### ア 第 1 回会議

#### ① 日時

- 2020 年 6 月 5 日 (金)  
13:30~16:30

#### ② 開催方法

- Web 会議



#### ③ 出席者

(委員)

氏名	所属	役職
伊藤 恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤 隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアム (金沢大学)	ESD コーディネーター (准教授)
杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
戸成 司朗	一般社団法人中部 SDGs 推進センター	代表理事
古澤 礼太	中部 ESD 拠点協議会 (中部大学国際 ESD センター)	事務局長 (准教授)
水谷 瑞希	信州 ESD コンソーシアム (信州大学教育学部)	助教

(事務局) 福井理事長、清本事務局長、原、富田、小松  
(中部地方環境事務所) 萩ノ協課長、西田主査

#### ④ 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 企画運営会議設置要綱の確認
3. 地域循環共生圏について 環境省中部地方環境事務所
4. 中部地方 ESD 活動支援センターの 2020 年度業務の報告
  - (1) 2020 年度業務計画 (業務内容、スケジュール、設定目標等) について
  - (2) SDGs チェックリストの活用について
  - (3) 主催イベントの開催について
  - (4) その他業務について
5. 意見交換
6. その他

#### ⑤ 会議資料

- 資料 1 : 企画運営会議設置要綱 (改訂案)
- 資料 2 : 2020 年度業務計画 (業務内容、スケジュール、設定目標)
- 資料 3 : 2020 年度業務の事務局展開案説明資料
- 資料 4 : SDGs チェックリスト
- 参考資料 1 : 地域循環共生圏について
- 参考資料 2 : センターの活動方針

## イ 第2回会議

### ① 日時

- 2021年1月20日（水）  
13:30～16:30

### ② 開催方法

- Web 会議

### ③ 出席者

（委員）



氏名	所属	役職
伊藤 恭彦	名古屋市立大学 大学院人間文化研究科	副学長
加藤 隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアム（金沢大学）	ESD コーディネーター（准教授）
杉浦 真理子	株式会社アクト	代表取締役
古澤 礼太	中部 ESD 拠点協議会 （中部大学国際 ESD センター）	事務局長（准教授）
水谷 瑞希	信州 ESD コンソーシアム （信州大学教育学部）	助教

※都合により戸成委員は欠席。

（事務局） 福井理事長、清本事務局長、原、富田  
（中部地方環境事務所）西田主査

### ④ 議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 2020年度業務実施状況の報告
  - (1) SDGs チェックリストについて
  - (2) 主催イベントについて
3. 第6期（2021～2023年度）に向けて
  - (1) SDGs チェックリストの活用促進について
  - (2) 主催イベントの展開について
  - (3) センターに対する地域ニーズの拾い上げについて
4. 意見交換
5. その他
6. 閉会

### ⑤ 会議資料

資料1：2020年度業務実施状況の説明資料

資料2：ESD ネットワークフォーラムの開催案内チラシ（2月14日開催）

資料3：作成した学生向けコンテンツ

参考資料1：国のESD円卓会議（12月10日開催）資料

参考資料2：2020年度EPO中部／中部地方ESD活動支援センター業務の一覧表

参考資料3：第5期EPO中部運營業務の中間報告（2020年12月時点報告資料）

## ウ 会議開催結果のウェブサイトへの掲載

### (ア) 第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

- 作成した第1回企画運営会議の議事概要を各委員に確認した上で、中部地方ESD活動支援センターWebサイトに公開した。

#### 【中部地方ESD活動支援センターWebサイト】

2020年度第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催

日時：2020年6月5日（金）13：30～16：30

開催方法：Web会議

参加者：委員6名、中部地方環境事務所2名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）5名

計13名



2020年度第1回目の企画運営会議を開催しました。

ダイアログ、フォーラムの開催、SDGsチェックリストを活用したワークショップのファシリテーター育成など、今年度のセンターの業務計画の事務局案に対し、委員の皆さんから様々な示唆に富んだご意見をいただくことができました。

【議事録】 [2020年度・第1回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要](#)

### (イ) 第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要

- 作成した第2回企画運営会議の議事概要を各委員に確認した上で、中部地方ESD活動支援センターWebサイトに公開した。

## 【中部地方 ESD 活動支援センターWeb サイト】

2021.02.17 企画運営会議

2020年度第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を開催

日時：2021年1月20日（水）13：30～16：30

開催方法：Web会議

参加者：委員5名、中部地方環境事務所1名、事務局（中部地方ESD活動支援センター）4名  
計10名



2020年度第2回目の企画運営会議を開催しました。

今年度にセンターが実施したダイアログ、フォーラムの開催、SDGsチェックリストを活用したセミナー、ワークショップ等について報告し、委員の皆さんにディスカッションをしていただきました。

**【議事録】** [2020年度・第2回中部地方ESD活動支援センター企画運営会議の議事概要](#)



### (3) 業務における運営委員との連携（主催イベントへの登壇等）

- 今年度開催した主催イベントでは、下記の通り、運営会議委員に登壇等していただき、連携・協力を得た。

#### 【EPO 中部、中部地方 ESD 活動支援センター主催イベント一覧】

※青字が運営委員の連携・協力を得て実施した事項。

区分	形式	開催日	実施内容	開催方法
協働コーディネーターと連携したフォーラム	フォーラム	11/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 運営委員／協働コーディネーター・山室氏の協力を得て開催。</li> <li>● 会場:長野県松本市</li> <li>● 共催:松本市、後援:長野県。</li> </ul>	ハイブリッド(現地開催+ライブ配信)※ワークショップは現地のみ
森里川海 三重県伊勢志摩国立公園	(第1回)	12/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の情報交換会として開催。</li> </ul>	オンライン+録画配信
	(第2回)	1/18	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PF尾鷲による取組紹介、東海財務局のオブザーバー参加あり。</li> </ul>	オンライン+録画配信
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業	①郡上	11/25	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PF郡上の第4回勉強会時に併せて開催。</li> <li>● 登壇者はPF事業アドバイザー・谷中修吾氏と、東海事務局岐阜財務事務所総務課長。</li> </ul>	ハイブリッド(現地開催+ライブ配信)※後半ワークショップは現地のみ
	②越前	1/26	<ul style="list-style-type: none"> <li>● PF越前のメンバー、越前市、北陸財務局、日本政策投資銀行等が登壇。</li> <li>● 運営委員・加藤氏がトークセッションにコーディネーター登壇。</li> </ul>	オンライン
地域住民向けワークショップ	SDGsワークショップ	11/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 名古屋市緑区片平学区関係者からの相談対応を発端に実施。</li> <li>● 運営委員・千頭氏が講師として登壇。</li> </ul>	現地
環境教育推進業務【富山エリア】	セミナー	8/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協働コーディネーター・堺氏との連携業務(3年目)。</li> <li>● SDGs・地域循環共生圏づくりの普及・啓発事業を展開。</li> </ul>	現地
	フォーラム	12/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フォーラムでは3年間の成果発表を実施(環境教育学会にて)。</li> </ul>	オンライン
環境教育推進業務【小浜エリア】	ワークショップ	9/12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協働コーディネーター・中島氏との連携業務。</li> <li>● 小浜市が進める「食のまちづくり」をテーマにした地域循環共生圏づくりを目指す事業を展開。</li> </ul>	現地
	フォーラム	12/20	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次年度PF事業に応募。</li> </ul>	現地

#### 中部地方ESD活動支援センター主催イベント一覧

区分	場所	開催日	実施内容	開催方法
ESDダイアログ	オンライン	11/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ユネスコエコパーク(白山BR)を活用したESDをテーマに開催。</li> <li>● 運営委員・水谷氏が登壇ほか、各地域・登壇者との調整など協力。</li> </ul>	オンライン(ウェビナー+録画配信)
SDGsチェックリストの活用WS	①活用セミナー	6/29	<ul style="list-style-type: none"> <li>● チェックリスト活用ファシリテーター養成講座として開催。</li> <li>● 協働コーディネーター3名、(一社)グローバル愛知の参加により、ワークショップをオンラインで実施。及びYouTubeで配信。</li> </ul>	オンライン(ライブ+録画配信)
	②(株)テクノプラス(名古屋市)	7/29	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記①活用セミナー参加者の(一社)グローバル愛知による自主企画で、チェックリストを活用してSDGsワークショップを関連企業で実施。</li> <li>● 社団の活動報告書にセミナー、ワークショップの記事掲載。</li> </ul>	現地
	③PECとやま	10/5	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上記①セミナー参加者(協働コーディネーター)による自主企画で、チェックリストを活用したSDGsワークショップを実施。</li> </ul>	オンライン(ウェビナー)
	④ネクストステップ	10/28	● "	オンライン(ライブ配信)
ネットワーク地域フォーラム	中部大学+オンライン	2/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGs未来都市の自治体、大学生の交流ディスカッションを実施。</li> <li>● 運営委員・伊藤氏が登壇。</li> <li>● 古澤氏の協力で中部大学のデジタルアースルームで開催。</li> </ul>	ハイブリッド
学生向けコンテツ	岐阜県多治見市	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本旅行(EPO運営委員の山本氏所属先)、岐阜県の協力を得て、環境学習ツアー向けツールを企画作成。</li> <li>● 川・清流版(2種)、山林版(2種)を作成。</li> </ul>	現地(エコツアー)



### 3 基本業務

#### (1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

##### ア ホームページの更新及び維持管理

###### (ア) 更新・維持管理の実施状況

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトについて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

###### 【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

①：Web リニューアル前／②：Web リニューアル後のコーナー名

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		①EPO アクション	①みんなのアクション	①スタッフあれこれ	EPO 中部とは	②EPO 中部がお手強い	②お役立ちツール	その他(メルマガ掲載等)
		②EPO 中部のお知らせ	②皆さんのお知らせ	②スタッフのあれこれ				
4月	10	3	5	1	0			1
5月	13	1	10	1	0			1
6月	18	5	9	1	2			1
7月	21	3	16	1	0			1
8月	12	1	9	1	0			1
9月	19	4	13	1	0			1
10月	8	1	5	1	0			1
11月	13	4	7	1	0			1
12月	11	6	3	1	0			1
12月25日 Web リニューアル公開 (※リニューアルに伴う作業は日常更新作業から除外)								
1月	19	4	12	1	1	0	0	1
2月	39	4	29	1	2	1	1	1
3月	45	1	40	0	1	1	1	1
計	228	37	158	11	6	2	2	12

###### 【中部地方 ESD 活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp/>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		センターからのお知らせ	企画運営会議	取材レポート	事業報告 (SDGs チェックリスト含む)	イベント&ニュース	中部の地域 ESD 拠点	その他
4月	10	1	0	1	1	2	2	3
5月	9	0	0	2	0	7	0	0
6月	7	3	1	0	2	1	0	0
7月	12	0	0	0	1	10	1	0
8月	7	0	1	1	1	4	0	0
9月	6	0	0	1	0	5	0	0
10月	4	0	0	1	0	3	0	0
11月	4	0	0	1	0	3	0	0
12月	10	0	0	0	5	4	1	0
1月	5	0	0	0	0	4	1	0
2月	4	0	1	1	0	2	0	0
3月	11	0	0	0	0	11	0	0
計	89	4	3	8	10	56	5	3

※ いずれも「3月」の数値は3月22日時点で集計を行った。

## (イ) ウェブサイトのアクセス数

### 【下表の各項目について】

- 訪問者数：サイトに1回以上アクセスを行ったユーザー／閲覧した人の数（一人が2回アクセスした場合は一人として集計）
- 訪問件数：全ての訪問者が「サイト」にアクセスをした回数（一人が2回アクセスした場合は2件として集計）
- ページビュー数：閲覧されたサイト内のページの総数
- ページビュー数の平均：ここでは訪問者1人あたりが閲覧したページビュー数を算定

※ いずれも「2020年度3月」の数値は3月22日時点で集計を行った。

### 【EPO 中部ウェブサイト】

	本年度／2020年度				2019年度 ページ ビュー数	2018年度 ページ ビュー数	2017年度 ページ ビュー数
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページビュー数(ページ)				
			平均 (ページ/人)				
4月	2,900	6,721	66,930	23.08	59,319	19,311	32,869
5月	3,392	7,187	56,664	16.71	30,280	18,382	37,951
6月	2,959	7,609	61,297	20.72	29,150	20,060	27,827
7月	3,002	6,537	52,720	17.56	34,314	18,763	19,752
8月	3,054	6,086	43,742	14.32	38,479	17,688	25,807
9月	3,136	6,415	43,419	13.85	72,087	14,795	34,714
10月	3,193	5,452	42,768	13.39	75,127	16,176	24,051
11月	2,754	5,078	38,630	14.03	102,551	16,289	18,034
12月	2,919	4,988	35,352	12.11	182,209	31,808	23,287
1月	2,635	3,897	23,878	9.06	107,374	39,694	31,568
2月	1,464	2,550	14,677	10.03	61,384	21,378	35,860
3月	1,119	1,506	15,582	13.92	67,883	44,972	23,308
計	32,527	64,026	495,659	14.90	860,157	279,316	335,028

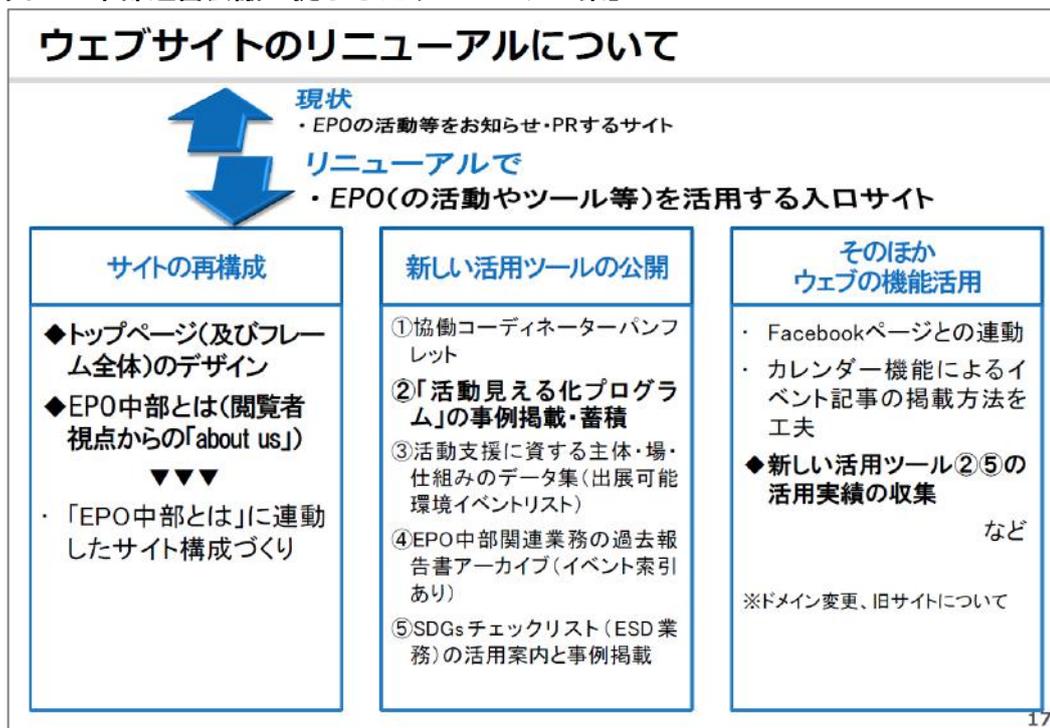
### 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

	本年度／2020年度				2019年度 ページ ビュー数	2018年度 ページ ビュー数	2017年度 ページ ビュー数
	訪問者数 (ユニーク数) (単位:人)	訪問件数 (単位:件)	ページビュー数(ページ)				
			平均 (ページ/人)				
4月	289	382	1,165	4.03	618	595	未開設
5月	181	244	648	3.58	828	857	未開設
6月	313	487	1,620	5.18	955	1,301	未開設
7月	284	401	1,164	4.10	832	795	684
8月	227	295	827	3.64	1,111	1,144	298
9月	254	346	797	3.14	1,232	818	295
10月	366	518	1,179	3.22	1,192	904	366
11月	317	451	950	3.00	1,064	1,085	325
12月	312	547	1,420	4.55	1,139	879	287
1月	279	434	1,183	4.24	841	841	362
2月	261	390	1,080	4.14	1,181	641	1,343
3月	162	259	763	4.71	1,258	752	897
計	3,245	4,754	12,796	3.96	12,251	10,612	4,857

## (ウ) HP更新及びトップページの更新 (Web サイトのリニューアル)

- EPO 中部ウェブサイトのリニューアル実施に向けて、第 1 回 EPO 中部運営会議にリニューアルのコンセプト案資料を提示した。

### 【第 1 回 EPO 中部運営会議に提示したリニューアル案】



- コンセプト案をもとに、Web デザイナーとのリニューアル構成、デザイン案等の検討を行い、12月25日付で全面リニューアルした新サイトを公開した。(※ドメインは従来の epo-chubu.jp を継続した。)

### 【新サイトトップページ紹介資料 (第 2 回 EPO 中部運営会議資料より)】

**旧サイト**

EPO中部の活動等をお知らせ・PRするサイト

**新サイト**

EPO中部を活用してもらうための入口サイトに

12/25に  
リニューアル  
公開

22

**「EPO 中部がお手伝い」コーナーを新設**

- ① 地域循環共生圏…PF事業の支援など
- ② SDGs…ワークショップ実施など
- ③ 協働…同時解決事業や協働コーディネーター連携事業など、作成した「見える化」チャートで①②以外の協働取組も紹介などを紹介

また、事例を掲載・公開(=事例の蓄積)

**「お役立ちツール」コーナーを新設**

- 見える化プログラム
- 協働コーディネーター
- イベントリスト
- EPO過去報告書のアーカイブなどを公開

23

## イ メールマガジンの作成及び発行

- 毎月第2火曜日に、メールマガジンを次表のとおり発行した。
- 発行済みメールマガジンのバックナンバーは、EPO 中部ウェブサイトからのリンク閲覧が可能である。

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数			
					冒頭部 (事務所コラム 含む)	イベント 情報	募集情報	その他情報
4月	臨時号	4月6日	775部	1	1	-	-	-
	130号	4月14日	771部	26	4	※	15	7
5月	131号	5月12日	772部	25	3	※	16	6
6月	132号	6月9日	772部	22	2	10	10	-
7月	133号	7月14日	773部	32	1	14	17	-
8月	134号	8月11日	768部	34	2	17	15	-
9月	135号	9月8日	768部	33	2	17	14	-
10月	136号	10月13日	756部	37	7	17	13	-
11月	137号	11月10日	754部	29	3	17	9	-
12月	138号	12月8日	753部	21	4	9	8	-
1月	139号	1月12日	754部	24	2	16	6	-
2月	140号	2月9日	749部	30	4	17	9	-
3月	141号	3月9日	747部	21	0	12	9	-
計				335	35	146	141	13

- ※ 「冒頭部」の記事数は、中部地方環境事務所職員によるコラム記事（138号で終了）を含めた、環境省及び中部地方環境事務所関連のトピック記事（目次前に掲載した記事）の数となっている。
- ※ 4月発行（130号）及び5月発行（131号）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが中止となっており、「イベント情報」の掲載を見合わせた。

## ウ リーフレットの作成及び配布

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットを前年度のストック 300 部と 10 月に増刷した 500 部を配布し、今年度は計約 800 部を配布した。
  - また、2 月末に 500 部を増刷し、今年度内に印刷（増刷）したリーフレットは、計 1,000 部となっている。
- ※ リーフレット原稿について：2018 年度に作成・発行。EPO 施設の開館時間変更等にあわせて改訂を行った。



## エ 地域ニーズの把握

- 9 月末に協働コーディネーターを対象にした EPO 中部の業務・イベントに対するニーズ調査を実施し、12 月末時点で協働コーディネーターからの回答、及び主催イベントの参加者アンケート結果を整理し、中部地方環境事務所へ提出した。

### 【EPO 中部業務・主催イベントに対する地域ニーズ】

対象エリア	EPO業務(イベント・事業)に対する地域ニーズ、アイデア等の内容	記入者／引用等
長野県	<p>富山のSDGs×探究の学びの高校の先生向けセミナーについては、長野でもできないかと思いました。というのも、探究的学びの授業の企画、運営を今年になって、ものすごい勢いでオファーがきており、高校で担当になった先生がとても悩まれている状況が見えています。</p> <p>講師の佐藤先生には、地球環境基金の若手プロジェクトの中間コンサルでアドバイスもいただきました。</p> <p>もし、富山のセミナー時の資料を提供可能であれば、ご恵与くだされば、さいわいです。</p> <p>11月のセミナーをきっかけに、循環共生圏構築にむけて舵をきる市町村がでて、当方と協働関係をつくってもらえればと期待しています。</p> <p>何卒よろしくお願いいたします。</p>	協働コーディネーター
富山県	<p>【テーマ】 「学び」と「協働」のスパイラルによる地域循環共生圏づくり(各地域への協働実践支援)</p> <p>【対象対象】 地域プロジェクト実践(予定)者(過年度にEPO中部で関わった方や新規の方)</p> <p>【実施内容】 ①コア人材への協働スキル研修×1回(10名程度) →研修例:コミュニティ・オーガナイズ(ing)(<a href="http://communityorganizing.jp/">http://communityorganizing.jp/</a>) ②2地域での協働支援:地域ステークホルダーの巻き込み促進支援 →コア人材との協働によるワークショップ企画・運営(1回×2地域) ③情報交換会(オンライン成果発表会)×1回</p>	協働コーディネーター

対象エリア	EPO業務(イベント・事業)に対する地域ニーズ、アイデア等の内容	記入者／引用等
中部・全国	環境活動に取り組んでいる会員が全国にいる一般社団法人日本環境NPOネットワークの各地方ブロックと各EPOとの連携・情報交換をしていき、環境活動のリーダー養成などを協働で進めていけるとありがたいです。	協働コーディネーター
三重県四日市市域	・四日市市内で見落とされがちな南西部(農村地帯で過疎化が進んでいる)工業都市であり、そちらに視線が集中しがちで取り残されている感じがある。しかし、地域の特産品もあり、内部川流域(鈴鹿川支流)で頑張っている地域の農業者をつないで、点から線、そして面へと広げる地域循環共生圏を目指した活動をしたい。	協働コーディネーター
三重県全域、高等学校	長野県の要望は、三重県内でも聞くことが多くなっている。富山、長野で展開されている内容があれば、三重にも提供してほしい。各校の校長、県教委に提供したい。	協働コーディネーター
信州ほか	・地域での地産地消となる発掘方法(調査)について知りたいです。 ・再生可能エネルギーの推進に関する内容(財産権と住民感情とのジレンマ等) ・プラットフォーム事業の事例(より深く掘り下げる内容で)	2020.11.10 信州の地域循環共生圏セミナーの参加者アンケート結果より
ESD関係	・地域とともにある学校の実践例 ・SDGsと地域創生を紐づけにした活動内容 ・中学校でSDGsと関わらせながら学ぶ方法など(他校での実践)	2020.11.14ESD ダイアログ(白山)参加者アンケート結果より
岐阜県郡上エリアほか	・圏域別に事例を上げた取組みについてセミナーをお願いしたい。 ・事業のマッチングセミナー ・仮題①人口「減」受入れセミナー、仮題②「脱」観光ビジネスフォーラム とか。 ・先進地の事例発表や視察研修 ・郡上の各地でなされている現場で体感するセミナーやワークショップとの連動型のものをやりたい。 ・再エネ活用の事業化	2020.11.25 基盤強化:郡上会合参加者アンケート結果より

## (2) 相談対応及び対話の体制の構築に関する業務

### ア 照会・相談対応

- 相談者との面談や資料・情報収集、マッチング作業、照会先との連絡・調整などを要した照会・相談は、下記の通りである。
- 照会・相談対応については、中部地方環境事務所のフォーマットに則り、記入票を作成し、定期的に中部地方環境事務所へ提出した。
- なお、2020年4月～5月、2021年1月～2月は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、EPO施設内オープンスペースの一般開放を中止したが、相談対応は通常通り受付を行った。

#### 【2020年度の照会・相談対応件数】

相談に対し(広報協力以外の)支援対応等を行った案件(①)事例件数※1	照会・相談対応等の延べ件数	来館件数 延べ件数※2			メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等(③)延べ件数※2	
			相談・照会、資料配架依頼等(②)	会議利用		その他情報収集、資料収集等
41	274	83	10	52	21	191

※1) 事例件数：最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2) 延べ件数：同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

※ いずれも「3月」は3月22日時点で集計を行った。

① 相談に対し（広報協力以外の）支援対応等を行った案件

- 相談に対し、EPO/ESD センターが何らかの支援対応等を行ったもの（及び後日に対応発生が必要と予想されたものも含む）は下記の通りである。

【相談方法・相談主体別の相談件数】

	相談件数・計	相談方法				相談主体の分類					
		電話	メール	来所	その他	初等・中等教育関係機関・ネットワーク・社会教育施設等	高等教育機関・学術研究機関・ネットワーク	地方自治体・行政首長部局	公益法人_NGO_NPO等	企業等	その他
4月	4	1	1		2	1		1	2		
5月	2	2							1	1	
6月	5	2		2	1			3	1	1	
7月	2		2					1		1	
8月	1	1									1
9月	5	2	2	1				2		2	1
10月	4	2	1		1			1	1	2	
11月	2	1			1		1		1		
12月	2				2				1	1	
1月	5	2	2		1	1	1		1	1	1
2月	3	2	1						2	1	
3月	6	2	2	1	1	1				3	2
計	41	17	11	4	9	3	2	8	10	13	5

【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	相談件数・計	EPO による支援内容分類					
		政府の ESD 関連施策問い合わせ	教材・ツールの紹介	講師等人材紹介	研修・事業の企画運営	SDGs に関わる相談	その他
4月	4			3	1		
5月	2			1			1
6月	5		3				2
7月	2						2
8月	1						1
9月	5			2	1		2
10月	4		2	2			
11月	2			1		1	
12月	2				1	1	
1月	5					4	1
2月	3						3
3月	6				1	5	
計	41	0	5	9	4	11	12

【具体の相談内容と EPO による対応内容】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
1	3月8日	学校	・新1年生に対する総合学習のESD講師をお願いしたい。希望時期4/30(木)	・3/6EPO 中部職員を講師派遣して対応。愛知県環境学習コーディネーター事業のマッチング案件として取り扱い。 ・3/31EPO 中部に相談者来訪打合せ。 ・4/9 新型コロナウイルス対応のため中止連絡を受ける。再設定の場合は新たに相談しなおすとのこと。	
2	2019年12月26日	その他	4月18or19日の気候変動ワークショップの話題提供してほしい	・スタッフが話題提供者として対応することで了解。 ・テーマについて具体的に示してもらおうよう依頼 ・日程を4/18日(土)で調整いただくよう依頼	・コロナ禍影響でオンラインで実施
3	4月24日	NPO	助成金説明会についてEPOと連携したい。今年度の開催方法について相談にのってほしい。	・4/24 に電話にて相談あり。地球環境基金説明会の例年の開催準備の進め方などについて情報提供し、お互いに具体的な動きがあった際に、情報交換、連携の可能性などを連絡し合うことになった。 ・7/2 電話があり、先方の助成金説明会が10/4開催となること、広報協力をいただきたい旨を依頼された。 ・8/31 電話、メールがあり、説明会の広報協力依頼があった。	
4	4月8日	自治体	職員にESDの研修を実施するので講師を依頼したい。	・講師はスタッフが対応。 ・4/8 市役所で別件会合において5/29実施計画中の職員向けESD研修を去年実施したプログラムでできないかとの打診あり。新型コロナの影響で開催が流動的との保留条件付き。 ・4/23 打合せで集合して実施することは困難との判断を伝えられる。資料を配布することで代替は可能かとの打診。Web開催または動画配信について提案。 ・5/8 打合せで動画収録と職員への配信の方針で講師を依頼される。5/29収録。	・収録完了
5	5月22日	事業者団体・ネットワーク	SDGsをテーマにしたWebセミナーのパネリストとして登壇してほしい。	・パネル出演はスタッフが対応。オンラインで実施。ZOOMを用いて7/18に収録予定。YouTubeで配信。 ・5/27 電話あり、収録日を変更8月以降に。 ・その後連絡なし	
6	5月26日	NPO	温暖化防止センターの実績についての問い合わせ	・建築事業者から省エネ住宅セミナーが豊田市で開催されたと聞いたことに関し、愛知県地球温暖化防止活動推進センターが関わっていたか。 ・愛知県センターに問い合わせ、10年前に名古屋市で実施したことがあるとの回答を転送。	
7	6月4日	事業者団体・ネットワーク	就職希望の留学生・外国人を対象にしたSDGsワークショップを開催したいが、どのように開催したらよいか教えてほしい。	・6/4 に来館し、ウェブサイトを見て、SDGs チェックリストを活用したワークショップを自団体に留学生・外国人向けに開催したい、またチェックリストやワークショップ用U字シートの使用許可はどのように取ればよいかとの質問などをいただいた。 ・昨年度のチェックリスト活用ワークショップの様子などを紹介しながら、今年度もESDセンター主	・6/29開催SDGsチェックリスト活用セミナーにコア参加。

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
			い。SDGsチェックリストやワークショップ用U字シートを使用させてほしい。	催によるチェックリスト活用ファシリテーター養成を目的としたワークショップを何度か開催することをお伝えしたところ、ぜひ、参加したいとのことだったため、開催が決定した際には、所属先団体に連絡する旨をお伝えした。また、SDGs 関連の諸資料・パンフレットもお渡しした。 ・開催結果を報告していただければ、当センターWeb サイトに掲載してPR させていただきたい旨お話しした。 ・6/5 に電話があり、前日に紹介していた「地域 ESD 拠点登録」について、申請方法の問合せをいただいた。 ・6/8 全国センターに確認の上、中部センターから申請書類等を送付した。	
8	6月4日	自治体	ユネスコスクール支援会議で紹介した SDGs チェックリストについて教職員に紹介したいがどうすればよいか。	・CL が Web 上からダウンロードできることを伝える。 ・月末に活用セミナーを開催する予定なのでご案内する。興味ある先生にも聴講可能なように展開いただければと伝える。	
9	6月9日	自治体	「なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ」を推進するにあたって、SDGs に関わる情報交換をしたい。	・6/9 に来館して名古屋市の取組状況、EPO (ESD センター) の SDGs に関わる業務・取組等の情報交換を行った。 ・特に SDGs チェックリスト活用ワークショップに関心をもたれていたため、6/29 開催ワークショップを紹介したところ、聴講したいとのこと。 ・そのほかどのような組織が SDGs に関心を持っており(相談に来るか)、どのような取組を展開しているかに関心をもたれていた。 ・当日中に御礼メールと共に、6/29 開催ワークショップへの参加(聴講のみ)申込をいただいた。	・後日、主催イベントの後援依頼をいただいた。
10	6月11日	事業者団体・ネットワーク	地域循環共生圏プラットフォーム事業について教えてほしい。	・5/29 に伺いたいとの電話をいただいたが、新型コロナウイルス感染拡大のため来館をお断りさせていただいた。地域循環共生圏プラットフォーム事業について質問したいことを整理しておくため、緊急宣言解除後に改めて来館し回答対応いただきたいとのこと。 ・6/11 に来館されて、「関連する支援メニュー」「プラットフォーム」「里山と地産地消の該当性」について質問され、回答した。具体的には、過去の加速化事業(竹鶏物語)採択団体の関係者であり、同事業の取組が地域循環共生圏の事業として応募ができそうか、関係者の中で検討しているとのことであった。(来館された方は難しいのではという所感を持たれているようであった。)	
11	6月15日	自治体	デザインのことでナッジを活用したい。概要について教えてほしい。	・6/19 に来所いただき、ナッジについて情報提供、情報交換する。 ・6/19 来訪。COOL CHOICE 普及啓発の考え方など全般について意見交換を実施	
12	7月2日	自治体	片平学区の来年度の活動でイオン環境財団を利用する案が出ているが情報はないか	・活動対象が自然環境であること、確定した計画が助成対象であることを考慮しての申請が必要と電話で助言 ・関係 Web ページと資料をメールで送付	
13	7月3日	企業	昨年度講演した省エネ家電取組大会の活動報告をお知らせ	・報告に感謝し、内部で共有する旨返信	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
			いただく。		
14	8月24日	事業者団体・ネットワーク	名刺に SDGs ロゴを使用して活動のPRを行いたいが可能か。	・電話で相談され、可能であると回答した。また、ネットで検索すると名刺に SDGs ロゴを記載した活用事例があることを紹介した。 ・また、地元新聞に、関係者による昨年の台風被災からの復興関連記事掲載についての紹介があった。	
15	9月8日	その他	この度たちあげた団体について、環境方面からの支援やアドバイスをいただきたい。	・資料を送付するのでそれを見て来所日を調整したい(9/8) ・送付された資料を確認後(9/14)電話で調整。9/30、10時来所予定。(10/1 来訪に変更)	
16	9月16日	企業	ESD・SDGsに関わる取組企画について相談したい	・来訪日程をメールで調整、9/30の13:30~とした(9/17)。 ・防災トイレの出前授業の実績があるが横展開する方法はないかとの相談に対し、以下のアドバイスを行った。 ・トイレ自体は生活とSDGsをつなぐ格好のアイテムなので、持続可能社会におけるトイレの貢献性から話をおこし、レジリエンスが求められる現代での防災トイレの話につなげたらどうか。 ・講座開催については、なごや環境大学など既存の環境学習プラットフォームを用いる方法がある。 ・学校現場への出前教室は工場見学が行われている常滑市でまず実績作りをしたらどうか。	
17	9月18日	自治体	ナッジを活用したデザインを作成したので意見がほしい。	・来訪日程を調整、9/24、10時より来訪とした。 ・愛知県で作成中のチラシを題材にナッジ活用の意見交換を実施。有意義な意見交換となった。	
18	9月28日	企業	オンライン小学生講座で温暖化問題を講義する講師を紹介してほしい。	・愛知県地球温暖化防止活動推進センター事務局次長を講師として紹介。メールと電話にて当人に依頼、了承を得る。	
19	9月28日	自治体	県主催市町村職員向け研修で講演してほしい。	・講師派遣を了承。10/1に担当者来訪、趣旨説明と依頼内容について打合せ。 ・事前にアンケートを実施する内容を10/20に来所打合せ。	
20	10月7日	企業	SDGs チェックリストと企業での使い方について教えてほしい	・Web掲載のPDF版は自由に使ってもらってよい。Excel版については変更内容と活用場所の報告を前提に提供は可と回答。 ・ワークショップの実施活用等については同じくWeb上の活用ガイドを参考にしてほしいと紹介。 ・「気づき」のためのツールとして作成したので、企業内活用においては、初期段階の教育に使っていただけると助言。	
21	10月8日	NPO	理事をしているNPO 法人事業のあいち環境塾の卒業生に対するSDGs 講座開設計画の講師を頼めないか	・内容が整合すれば講師派遣は可能。来年度計画が具体化したら再度相談する。	
22	10月	自治体	SDGs 職員研修の講師を派遣	・講師派遣を了承。趣旨説明と依頼内容について打合せ。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
	9日		してほしい		
23	10月19日	企業	所属先企業のSDGs研修で活用できそうな資料を紹介してほしい。	・「SDGs チェックリスト」と国連の資料を紹介した。	
24	11月26日	学校	学内教職員向け SDGs・ESD 講演の講師を紹介してほしい	・対応を了承。メールベースで内容検討と提案を行うこととする(12/01)	
25	12月9日	事業者団体・ネットワーク	豊田市の鉄鋼会の勉強会で来年度 SDGs と省エネについて話題提供してほしい	・対応を了承。EPO から派遣する方向で返答。 ・4/15 に開催予定。	
26	12月1日	その他	COOL CHOICE 普及啓発で子ども対象の省エネ教室プログラムを実施してほしい	・対応を了承。X 博士キャラクタープログラムを片平小学校と平沢トワイライトスクールで実施(1/6)。	
27	11月10日	その他	省エネプラットフォーム事業のセミナーで SDGs の話題提供講師を派遣してほしい	・対応を了承。豊田市(11/30)、みよし市(12/1)、岡崎市(12/3)に EPO から派遣。	
28	1月7日	その他	石ヶ瀬会館の来年度市民向 SDGs 講座の講師を派遣してほしい	・対応を了承。ESDC から派遣、5/23 予定について了解。事前に打合せを設定予定。	
29	1月8日	その他	SDGs AICHI EXIPO 2020 内で2/6に開催するフォーラムで取組を発表してほしい	・対応を了承。EPO 中部 ESDC の取組を発表することについて登録。	
30	1月13日	その他	地球温暖化問題と地域の町づくりを関連させ、人間と自然が共生するライフスタイルの提案をしたいが、参考となる情報やヒントを得たい。	・次の3点についてメールにより返信(1/15)。 1)岐阜県地球温暖化防止活動推進センター及び地域の未来・志援センターのホームページのご案内 2)EPO 中部における各種団体資料・パンフレット等の配架案内、情報収集を目的とした施設利用のご案内 3)メールマガジン登録による情報提供のご案内 ・1/21 にメールによる返信あり(メールの御礼、コロナの状況をみて EPO 訪問意向ある旨等)	
31	1月21日	事業者団体・ネットワーク	四国の中小企業同友会所属の経営者による SDGs 勉強会においてワークショップを実施。その中で SDGs チェックリストを活用したい。	・自由に活用いただける旨を案内。 ・勉強会では四国環境事務所長、四国 EPO も講演登壇予定であるとのこと。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
32	1月 26日	企業	金融機関としてCL活用など今後SDGsに取り組んで行くに当たり情報を得たい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3に来訪、意見交換を実施実施。</li> <li>・来年度の事業にて後援依頼、講師派遣依頼をする可能性あり。具体化したらまた相談したい。</li> </ul>	
33	2月 3日	NPO	同時解決事業・飯山林福連携事業についてヒアリングさせてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3に電話があり、NPOと協力して林業の生業づくりに取り組む予定があり、林福連携事業に取り組んだ飯山市での同時解決事業の内容について、オンラインでヒアリングをしたいとのこと。先方内で日程調整の上、改めて連絡をいただけることになった。</li> <li>・2/9にメールがあり、ヒアリング日を2/18に設定。</li> <li>・2/18に中部のNPO2名、近畿のNPO3名が参加してヒアリングを実施。同時解決事業・飯山林福連携事業の概略やステークホルダー、その後の状況等について紹介した。また、地域経済循環分析ツールの循環構造図に記載の数字の積算方法について質問されたため、環境省ウェブサイトの該当ページに記載の問合せ先にお尋ねするようお伝えした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/19に御礼メールをいただいた。</li> </ul>
34	2月 3日	企業	北陸の脱炭素の取組に関する情報交換をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/3にメールがあり、1/26主催フォーラムに登壇した方から、全社的に脱炭素への貢献を検討しており、北陸における取組状況、事例等についての情報交換をオンラインでお願いしたいとの連絡をいただいた。中部地方環境事務所にも同席を依頼し、日程調整を行った結果、2/10にオンライン打合せを行うことになった。</li> <li>・2/10にオンラインで本省環境計画課、金融室、中部地方環境事務所が同席して金融機関との情報交換会合を実施した。</li> <li>・終了後、御礼のメールと共に、北陸の取組自治体2市の担当部署についての問合せがあり、回答メールを送付した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/15に御礼メールをいただき、早速自治体側に連絡を取られるとのこと。</li> </ul>
35	2月 18日	事業者団体・ネットワーク	留学生向けにSDGsチェックリストを活用したワークショップを開催予定。修了者に証明書等を発行予定であり、発行名義にESDセンターを記載できないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名義申請については、全国センターが一括して受け付けているため、後援申請に倣う形で、全国センターに問合せいただくようお伝えした。</li> </ul>	
36	3月 8日	事業者団体・ネットワーク	北陸3県の環境活動を行う団体の情報提供をお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/8にメールで依頼があり、一般社団法人PECとやま、NPO法人WACおばま、そのほか地域ESD拠点等の紹介を行った。</li> </ul>	
37	3月 11日	企業	個人事業がSDGsの取組がどのようにできるか相談したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/10にメール連絡があり、3/10に日程を設定、3/22に来館することになった。</li> </ul>	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
38	3月 11日	事業者団体・ネットワーク	北陸圏内の方から SDGs・ESD に関するご相談を EPO 中部に繋いでもよいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大歓迎と返事。</li> <li>・具体的な話になったら、つないでいただく。</li> </ul>	
39	3月 15日	企業	SDGs のロゴの使用方法、企業の登録制度について知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用方法については、国連のロゴ規定を案内した。</li> <li>・企業の登録制度については、愛知県の登録制度はないが、各省庁で SDGs の表彰制度等があることを案内した。</li> </ul>	
40	3月 15日	企業	来年度の親子ツアーの岐阜県事業企画について今年度と同様な支援が受けられないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツは公開されるので使っていただきたい。</li> <li>・EPO に来ていただければ、レクチャーできる。</li> <li>・現場に行くのは検証調査という形ではないので難しい。</li> </ul>	
41	3月 15日	学校	知り合いに中学校教諭がおり、市教委からの SDGs 企画募集の相談は可能か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の詳細が必要。</li> <li>・EPO で詳細の相談ができるので日時調整が必要。</li> </ul>	

## ② 来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	-	
5月	-	
6月	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職希望の留学生を対象にした SDGs を学ぶためのワークショップ開催について</li> <li>・自治体と情報交換（SDGs 関連）</li> <li>・過去の加速化事業の関係者から地域循環共生圏についての相談</li> <li>・自治体から温暖化対策広報におけるナッジ活用方法についての相談</li> </ul>
7月	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体がイベント広報チラシの配架依頼</li> </ul>
8月		
9月	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と SDGs について情報交換</li> </ul>
10月	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・任意団体の ESD 活動に対する助言・相談等</li> <li>・自治体と研修会講師依頼打合せ</li> <li>・自治体から環境活動に関する相談</li> </ul>
11月	-	
12月	-	
1月	-	
2月	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融機関から顧客に対する SDGs 普及促進に関わる情報収集の相談</li> </ul>
3月	-	
<b>計</b>	<b>10件</b>	

## ③ メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 団体からグリーンギフトについて相談の電話</li> <li>・地域 ESD 拠点から WEB セミナーの講師依頼メール（2件）</li> <li>・自治体から環境イベント実行委員会招聘についての電話</li> <li>・自治体からユネスコ支援会議委員依頼についての電話</li> <li>・自治体から招聘されていた環境イベント実行委員会書面会議についての電話</li> <li>・地域 ESD 拠点主催 4/18 開催 WEB ワークショップへの登壇に関する設営確認</li> <li>・Web 会議に関わる連絡調整</li> <li>・ほかの地方 EPO から運営会議の開催方法に関する質問メール</li> <li>・ほかの地方 EPO から勤務体制・施設運営に関する質問の電話</li> <li>・地域 ESD 拠点からワークショップ（オンライン開催）の広報依頼</li> <li>・同時解決採択団体からの事業報告、資料に関する問合せの電話</li> <li>・自治体からパブコメ募集の周知依頼</li> <li>・NPO から主催する助成金説明会の企画運営に関する相談の電話</li> <li>・自治体から PF 事業について電話</li> <li>・自治体からパブコメ募集に関する周知依頼のメール</li> <li>・自治体から Web 掲載記事について御礼のメール</li> <li>・SDGs セミナー参加企業から環境型商品の案内についてのメール</li> </ul>
5月	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地方 EPO から勤務体制・施設運営に関する質問の電話</li> <li>・公益財団から講座開催延期についての手紙</li> <li>・EPO 来館による資料収集の可否の問合せの電話</li> <li>・生物多様性、地域循環共生圏に関する資料について問合せの電話</li> <li>・自治体から Web 会議試行テストについて電話</li> <li>・NPO から講座参加者募集広報の依頼メール</li> <li>・NPO から Web 掲載についての御礼メール</li> <li>・自治会団体から勉強会に関する打合せについてのメール</li> <li>・JC から Web セミナーのパネリスト依頼の電話</li> <li>・自治会団体による勉強会打合せについてのメール</li> <li>・自治体から EPO に委員招聘依頼に関する電話</li> <li>・自治会団体による勉強会企画についてメール</li> <li>・一般の方から EPO 中部の長野県内における環境活動について問合せの電話</li> <li>・シンクタンクから地域循環共生圏について質問の電話</li> <li>・自治会団体による勉強会の日程等についてのメール</li> <li>・全国 ESD センターから助成金・イベント等の広報協力依頼メール</li> </ul>

月	件数	相談・問合せ内容
6月	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体から環境関連資料送付依頼についての電話</li> <li>・全国 ESD センターから企画競争（公募）について広報協力依頼メール</li> <li>・一般社団から ESD 拠点登録手続きについて問合せの電話</li> <li>・環境省から配架資料について提供依頼の電話</li> <li>・一般社団から ESD 拠点登録手続きについて資料受取のメール</li> <li>・自治体（SDGs 担当）から情報交換を目的とした訪問についての電話</li> <li>・環境省からコンテスト広報依頼についてのメール</li> <li>・環境カウンセラーから資料について問合せ及び送付希望の電話</li> <li>・環境省から表彰事業について募集開始案内についてのメール</li> <li>・環境カウンセラーから資料受取の御礼の電話</li> <li>・財団からインターン募集について広報依頼のメール</li> <li>・自治体から資料照会と資料受取の御礼の電話</li> <li>・一般社団から主催セミナーについて申込と問合せのメール</li> <li>・地域 ESD 拠点から主催セミナーについて問合せの電話</li> <li>・一般社団から主催セミナーについて問合せの電話</li> <li>・自治体から環境イベント業務の委託先に関する相談の電話</li> <li>・自治体から SDGs チェックリストのワークショップでの使用の問合せ</li> <li>・自治体から EPO 運営委員について問合せの電話</li> <li>・自治体からイベントの後援依頼についてのメール</li> <li>・自治体から ESD センター後援申請手続きについての確認メール</li> <li>・NPO から主催イベントについて広報依頼のメール</li> <li>・環境省（受託企業）から主催イベントについて周知依頼のメール</li> <li>・環境省（受託企業）から主催イベント掲載について御礼のメール</li> </ul>
7月	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地方 EPO から PF 事業の進め方についての問合せ電話</li> <li>・企業財団から環境助成金制度の広報依頼電話</li> <li>・公益社団から助成団体募集について広報依頼のメール</li> <li>・公益社団から助成団体募集について広報御礼のメール</li> <li>・NPO から助成金セミナーについての問合せ・広報依頼の電話</li> <li>・中部 ESD 拠点団体から塾生募集について広報依頼のメール</li> <li>・公益財団法人からメンバー募集の広報依頼についてのメール</li> <li>・公益財団法人から広報協力について御礼のメール</li> <li>・NPO からセミナーについての電話</li> <li>・自治体からワークショップ打合せについてのメール（2件）</li> <li>・NPO からセミナー企画について問合せのメール</li> <li>・自治体から学生向けコンテンツ（アンケート）についての電話</li> <li>・自治体からセミナー及びワークショップの後援依頼についてのメール</li> <li>・自治体からワークショップ企画内容について相談のメール</li> <li>・一般の方から PCB 蛍光灯について問合せの電話</li> <li>・中部 ESD 拠点団体からセミナー広報依頼のメール</li> <li>・NPO からイベント広報依頼のメール</li> <li>・NPO からイベント広報協力の御礼のメール</li> <li>・自治体から協議会解散についてのお知らせ（郵便）</li> <li>・自然環境保全団体から講座募集についてお知らせのメール</li> <li>・NPO からボランティア募集について広報依頼のメール</li> <li>・公益財団法人からイベントについて広報依頼のメール</li> <li>・NPO から募集掲載について御礼のメール</li> <li>・公益財団法人からイベント掲載について御礼のメール</li> <li>・自治体からワークショップ開催見送りについてのメール</li> <li>・NPO からイベント広報について依頼のメール</li> <li>・自治体から EPO・ESD センター後援イベントの御礼と広報協力依頼メール</li> </ul>
8月	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校から校外学習中止についての電話連絡</li> <li>・中部 ESD 拠点団体からイベントの広報依頼についてメール</li> <li>・環境カウンセラーから配架資料について発送要望の電話</li> <li>・GEOC から Web サイトの広報協力依頼</li> <li>・公益財団法人からイベント周知依頼についてのメール</li> <li>・環境カウンセラーから資料受取の御礼の電話</li> <li>・他地方 EPO から PF 事業についての電話</li> <li>・GEOC から「脱炭素チャレンジカップ 2021」エントリー募集開始の広報依頼メール</li> <li>・地域 ESD 拠点から講座の周知依頼のメール</li> <li>・NPO からイベント広報について依頼のメール</li> <li>・NPO からセミナー広報について依頼の電話</li> <li>・企業から助成金募集について広報依頼のメール</li> </ul>

月	件数	相談・問合せ内容
9月	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO から活動参加協力者募集広報の協力依頼メール</li> <li>・ 学校関係者からコーディネート業務について問合せ</li> <li>・ NPO から広報協力御礼のメール</li> <li>・ NPO 団体から事業について支援要望についての電話</li> <li>・ NPO 団体から ESD 資料について在庫及び送付希望の電話</li> <li>・ 公益社団法人から参加者募集の広報協力依頼のメール</li> <li>・ 公益社団法人から広報協力について御礼のメール</li> <li>・ ESD 拠点から講座案内のメール</li> <li>・ NPO 団体から活動支援について相談の電話</li> <li>・ 企業から ESD/SDGs の取組について相談のメール</li> <li>・ 企業から ESD/SDGs の取組について相談日程のメール</li> <li>・ NPO からイベント広報依頼についてメール</li> <li>・ 自治体から地球温暖化関連事業についての電話</li> <li>・ NPO 団体からオンラインセミナーについての広報協力依頼のメール</li> <li>・ 公益財団法人から自然保護活動コンテストの広報依頼メール</li> <li>・ 環境イベント実行委員会からイベントの広報依頼メール</li> <li>・ NPO 団体から来館日程の調整の電話</li> <li>・ 行政からイベント周知依頼の電話</li> <li>・ 行政から広報協力御礼のメール</li> <li>・ NPO 団体から広報協力御礼のメール</li> <li>・ 企業から助成金広報協力依頼の電話</li> <li>・ 行政から Web 掲載記事の問合せ先修正依頼のメール</li> <li>・ 企業からオンライン授業（小学生）について相談のメール</li> <li>・ 行政から Web 掲載記事修正対応の御礼のメール</li> <li>・ 企業からオンライン授業の講師紹介についてメール</li> </ul>
10月	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業から SDGs チェックリスト活用方法に関する電話</li> <li>・ 自治体からセミナー・ワークショップの広報依頼のメール</li> <li>・ ESD 拠点団体からシンポジウム等の広報依頼のメール（2件）</li> <li>・ 自治体から広報協力に対するお礼のメール</li> <li>・ 自治体からセミナー広報協力依頼の電話・メール（2件）</li> <li>・ 自治体から広報協力に対するお礼のメール</li> <li>・ 自治体からイベント参加御礼とイベント登録機関係紹介の電話</li> <li>・ 協働コーディネーターから SDGs 研修で使用できる資料紹介の相談メール</li> <li>・ NPO 団体の方から主催行事について照会の電話</li> </ul>
11月	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加申込者から主催イベントについて照会の電話</li> <li>・ 教育関係団体からイベントについて後援依頼のメール</li> <li>・ 一般の方から粗大ごみについて問合せの電話</li> <li>・ 主催イベントについて問合せの電話</li> <li>・ 主催イベントについて問合せのメール</li> <li>・ 一般社団法人から SDGs イベントについてご案内メール</li> <li>・ 自治体からイベント広報依頼の電話</li> <li>・ 企業から助成金募集の広報依頼についてメール</li> <li>・ 自治体から広報協力について御礼のメール</li> <li>・ 企業から広報協力について御礼のメール</li> <li>・ 行政から事業について広報協力依頼のメール</li> <li>・ 企業からイベントの web 掲載内容の変更について依頼・お礼のメール（2件）</li> </ul>
12月	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育機関から SDGs 講師紹介依頼についてのメール（2件）</li> <li>・ 東海財務局から 12/7 伊勢志摩情報交換会のオンライン視聴の EPO 利用の依頼の電話</li> <li>・ 一般の方から汚水処理についての問合せ電話</li> <li>・ 地球環境や資源についての電話照会</li> <li>・ 協働コーディネーターから EPO との今後の連携・協力についてメール連絡</li> <li>・ SDGs チェックリスト活用についての問合せ</li> <li>・ 林野庁からイベント参加募集の周知依頼についてのメール</li> <li>・ 自治体から環境施策アンケートの中身について相談のメール</li> <li>・ NPO からイベント周知依頼のメール</li> <li>・ イベント参加募集の協力について御礼のメール</li> </ul>
1月	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去に EPO が作成・発行した印刷物の活用について協力した NPO からの問合せ電話</li> <li>・ 東海財務局から SDGs ワークショップの開催方法について問合せ電話</li> <li>・ NPO から助成金募集広報依頼のメール</li> <li>・ 一般の方から地球温暖化と町づくりを考えるにあたっての情報提供依頼の手紙</li> <li>・ 自治体からイベント案内のメール</li> </ul>

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs チェックリストを四国の経営者勉強会のワークショップで使用したいとの電話連絡</li> <li>・企業から顧客に対する SDGs 普及促進の支援方法について相談の電話</li> <li>・公益財団法人からイベント広報依頼のメール</li> </ul>
2月	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境カウンセラーから NPO 関連冊子について要望の電話</li> <li>・自治体のシンポジウム広報協力についての電話</li> <li>・自治体イベントの広報協力について御礼のメール</li> <li>・NPO から同時解決事業（林福連携）についての情報提供依頼の電話</li> <li>・金融機関から北陸エリアにおける脱炭素の取組についての情報交換の依頼メール</li> <li>・環境カウンセラーから資料受取の御礼の電話</li> <li>・自治体イベントチラシ設置の御礼のメール</li> <li>・地域循環共生圏 PF 事業応募について問合せの電話</li> <li>・NPO から活動紹介についてのメール</li> <li>・公益財団法人からイベント広報依頼の電話</li> <li>・公益財団法人からイベント広報協力依頼のメール</li> <li>・一般財団法人から助成金広報について依頼のメール</li> <li>・NPO からイベント周知依頼のメール</li> <li>・地域 ESD 拠点から SDGs チェックリストを活用したワークショップの終了証でセンター名義使用について問合せの電話</li> <li>・NPO からイベント広報協力御礼のメール</li> <li>・PF 事業応募申請に関わる連絡メール</li> <li>・ESD 拠点から活動報告書送付についての相談のメール</li> <li>・ESD 拠点からメルマガ掲載希望記事についてメール</li> </ul>
3月	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業から意見交換会出席者の連絡調整依頼</li> <li>・一般の方から企業向け SDGs の相談のメール</li> <li>・NPO からプロジェクト公募の広報協力についてメール</li> <li>・一般の方から個人事業についての相談のメール</li> <li>・個人事業における SDGs の相談の来訪連絡</li> <li>・JICA から今後の連携についての協力依頼</li> <li>・一般の方から国立公園について問合せの電話</li> <li>・企業から SDGs 推進の登録制度について問合せの電話</li> </ul>
<b>計</b>	<b>191 件</b>	

## イ 対話の体制の構築

### (ア) 会議等の招聘・委嘱

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが協力依頼への対応を行った地域の各種会議や地域活動等は次の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇などのほか、業務に伴う打合せを適宜実施したほか、セミナー等開催の機会に併せて関係自治体を訪問し、意見交換等を行った。

#### 【会議・セミナー等地域活動への対応】

	県	主体	名称	開催日	対応
1	愛知	名古屋市	「なごや環境デー」実行委員会 ※書面会議	①4月20日 ②6月8日	委員
2	愛知	日本体験学習研究所(JIEL)	第1回私たちの暮らしを考えるワークショップ ※ウェビナー	4月18日	講師
3	愛知	日進市	職員向け ESD 研修	5月29日	講師
4	福井	福井県地球温暖化防止活動推進センター	推進員研修でのセミナー「あなたの普及啓発活動は、GOOD or BAD？」	7月14日	講師
5	三重	三重県地球温暖化防止活動推進センター	推進員研修でのセミナー「あなたの普及啓発活動は、GOOD or BAD？」	8月4日	講師
6	岐阜	郡上市地域共生圏協議会	第1回勉強会	8月28日	ファシリテーター
7	愛知	日進市立東小学校	SDGs 出前教室	10月29日	講師

	県	主体	名称	開催日	対応
8	愛知	豊田市	省エネ実践セミナー 企業の省エネ対策とSDGsの取り組みについて	11月30日	講師
9	愛知	みよし市	省エネ実践セミナー 企業の省エネ対策とSDGsの取り組みについて	12月1日	講師
10	愛知	岡崎市	省エネ実践セミナー 企業の省エネ対策とSDGsの取り組みについて	12月3日	講師
11	愛知	愛知県地球温暖化防止活動 推進センター	COOL CHOICE 普及啓発実務者のための「ナッジ活用 チェックノート」活用&検証ワークショップ	12月10日	講師
12	愛知	愛知県環境活動推進課	環境学習等行動計画普及・定着事業 市町村職員向け 研修	12月11日	講師
13	愛知	愛知県教育委員会生涯学習 課	ユネスコスクール支援会議	12月18日	委員
14	愛知	大府市環境課	職員向け環境研修	12月21日	講師
15	愛知	大府市環境課	職員向け環境研修	12月24日	講師
16	愛知	名古屋市立片平小学校	X 博士と学ぶ 地球との約束	1月6日	講師
17	愛知	名古屋市白沢ワイライトス クール	クールチョイスでおうちの省エネ大作戦！	1月6日	講師
18	愛知	愛知県地球温暖化防止活動 推進センター	気候変動フォーラム	1月29日	講師
19	愛知	東海学園大学	教職員研修会	3月11日	講師

#### 【そのほか業務に伴う打合せや地域との意見交換等の実施】

	県	日付	主体	担当部署等	同席者等	実施内容
1	中部	4月27日	中部地方環境事務所	伊勢志摩国立公園事務所	中部地方環境事務所環境 対策課	森里川海業務の進め方打合せ
2	岐阜	4月24日	日本旅行	日本旅行岐阜 支店		学生向けコンテンツ作成連携依頼
3	愛知	5月8日	日進市	日進市環境課		職員向けESD講座オンラインの打合せ
4	福井	5月13日	WAC おばま		小浜市関係課	環境基本計画に沿った環境教育支援業務計画打 合せ、小浜市連携依頼
5	中部	5月14日	中部地方環境事務所	環境対策課	中部地方環境事務所の各 課PF事業担当者等	PF事業支援の進め方、事務局打合せ・ヒアリング の実施内容についての説明・確認
6	愛知	5月26日	名古屋市片平学区	名古屋市片平 学区連絡協議 会	学区関係者3名、名古屋 市コミュニティサポーター2 名	学区の学習会とのすり合わせ、要望の確認
7	三重	6月3日	三重県	農林水産部み どり共生推進課 自然公園班	—	森里川海業務の説明、伊勢志摩国立公園エコツ ーリズム推進協議会への協力依頼
8	岐阜	6月4日	岐阜県	環境企画課	—	学生向けコンテンツ業務説明、連携依頼
9	中部	6月9日	中部地方環境事務所	環境対策課、 野生生物課	—	PF事業の次回打合せの進め方等についての確 認
10	長野	6月17日	協働コーディネーター	長野県NPOセ ンター	—	EPO主催・協働フォーラムについての企画打合せ
11	岐阜	6月16日	郡上市地域共生圏協 議会		中部地方環境事務所環境 対策課	PF事業打合せ②
12	長野	6月17日	一般社団法人スマ ートテロワール協会		中部地方環境事務所環境 対策課	PF事業打合せ②
13	長野	6月22日	根羽村		中部地方環境事務所の PF 根羽村担当者	PF事業打合せ②
14	福井	6月23日	越前市イノベーション 研究会		中部地方環境事務所の PF 越前担当者	PF事業打合せ②
15	三重	6月24日	尾鷲SEAモデル協 議会		中部地方環境事務所の PF 尾鷲担当者	PF事業打合せ②

	県	日付	主体	担当部署等	同席者等	実施内容
16	岐阜	7月2日	岐阜県、可児市、日本旅行	日本旅行岐阜支店	岐阜県2名、可児市2名、めだかの楽校3名	8/9実施予定エコツアー内容の調整、学生コンテンツ内容について
17	中部	7月10日	中部地方環境事務所、なごや環境大学			環境白書を読む会に参加
18	福井	7月15日	WAC おばま	WAC おばま		今年度活動の流れとスケジュールについての打合せ
19	愛知	7月22日	名古屋市	環境局工場課、環境学習センター、総務課		南陽工場ワークショップ打合せ
20	福井	7月28日	越前市イノベーション研究会		(オンライン参加:中部地方環境事務所、MURC)	PF事業打合せ③
21	岐阜	7月29日	郡上市地域共生圏協議会		中部地方環境事務所(オンライン参加:本省環境計画課、MURC)	PF事業打合せ③
22	長野	8月3日	松本市	環境部環境政策課	長野県NPOセンター	11/10開催信州セミナーの企画打合せ
23	愛知	8月5日	名古屋市片平学区	名古屋市片平学区連絡協議会	学区関係者3名、名古屋市コミュニティサポーター2名	企画原案についての検討、スケジュール
24	愛知	8月6日	中部大学	中部高等学術研究所	中高研研究者2名	ネットワークフォーラム素材作成研究内容
25	長野	8月7日	中部 COOL CHOICE 普及啓発促進研究会		中部7県1市の地域地球温暖化防止活動推進センター担当者	地球環境基金ナッジ活用実証研究
26	愛知	8月11日	中部 COOL CHOICE 普及啓発促進研究会		専門家WG会議メンバー	地球環境基金ナッジ活用実証研究ガイドブック企画
27	愛知	8月12日	片平コミュニティセンター		学区関係者1名、名古屋市コミュニティサポーター2名	ワークショップ会場現地確認
28	愛知	8月18日	中部大学	中部高等学術研究所	中高研研究者2名	ネットワークフォーラム素材作成研究内容
29	全国	8月22日	日本環境教育学会	第31回年次大会(オンライン)実行委員会	学会員	学会口頭発表、シンポジウム聴講参加
30	全国	8月23日	〃	〃	学会員	学会口頭発表聴講参加
31	福井	8月26日	WAC おばま	—	—	業務打合せ
32	愛知	8月31日	中部大学	中部高等学術研究所	研究者等7名	ネットワークフォーラム開催計画等
33	岐阜	9月5日	岐阜県環境計画課	日本旅行岐阜支店	岐阜県の親子	川に親しむ森里川海エコツアー
34	中部	9月8日	財務省東海財務局	財務部総務課	中部地方環境事務所	パートナーシップ基盤強化業務に関わる説明と協力依頼
35	全国	9月8日	ESG 金融セミナー	—	—	セミナー参加
36	全国	9月8日	九州 EPO、GEOC、関東 EPO	—	—	PF事業そのほか EPO 業務についての情報交換
37	三重	9月10日	伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会	SDGs 実現部会事務局:三重県農林水産部みどり共生推進課	—	基盤強化・森里川海業務の会合に関わる地域ニーズの確認打合せ
38	長野	9月14日	小布施市・スマートテロワール協会	—	本省環境計画、パシフィックコンサルタント、ETIC、中部地方環境事務所	※支援事務局本部が設営 PF 小布施の支援チーム派遣に関する打合せに出席
39	長野	9月14日	小布施市・スマートテロワール協会	—	中部地方環境事務所	※EPO 中部実施打合せ PF 事業・意見交換会についての事務局打合せ
40	三重	9月16日	おわせ SEA モデル協議会(尾鷲市)	尾鷲市企画調整課	中部地方環境事務所	PF 事業・意見交換会についての事務局打合せ
41	中部	9月18日	アール・エ北陸	—		PF 郡上、PF 越前の事務局コンサルとの打合せ

	県	日付	主体	担当部署等	同席者等	実施内容
42	愛知	9月18日	中部ESD拠点協議会	中部ESD拠点協議会事務局(中部大学国際ESD/SDGsセンター)	構成会員	第13回中部ESD拠点協議会総会への参加
43	愛知	9月23日	中部大学	中部高等学術研究所	研究者等2名	ネットワークフォーラム関係資料の打合せ
44	岐阜	9月29日	郡上市地域共生圏協議会		中部地方環境事務所	PF 郡上・第2回勉強会に参加
45	中部	10月1日	中部地方環境事務所	—	中部地方環境事務所	インターン学生にEPOの紹介
46	愛知	10月1日	中部COOL CHOICE普及啓発促進研究会		専門家WG会議メンバー	地球環境基金ナッジ活用実証研究ガイドブック検討
47	愛知	10月2日	日進市立東小学校		環境創研1名、他の講師1名	SDGs出前授業打ち合わせ
48	三重	10月5日	東海財務局津財務事務所	総務課	尾鷲市2名、中部地方環境事務所1名	PF 尾鷲・意見交換会への協力依頼打合せ
49	富山	10月5日	PECとやま		地元企業、環境活動者	SDGsチェックリストWS
50	福井	10月6日	越前市イノベーション研究会		中部地方環境事務所	PF 越前・第1回勉強会に参加
51	三重	10月7日	伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会	SDGs実現部会議	中部地方環境事務所	基盤強化・森里川海業務の会合に関わる地域ニーズの確認打合せ
52	愛知	10月9日	中部大学	中部高等学術研究所	研究者等2名	ネットワークフォーラム関係資料の打合せ
53	愛知	10月9日	大府市環境課	環境係	環境課スタッフ	職員研修の依頼と打ち合わせ
54	愛知	10月10日	中部COOL CHOICE普及啓発促進研究会		専門家WG会議メンバー	地球環境基金ナッジ活用実証研究ガイドブック検討
55	長野	10月12日	根羽村	総務課	MURC1名	PF 根羽・意見交換会 10/14の事前打合せ
56	愛知	10月15日	(株)よしもとエリアアクション	取締役東日本本部長(中部エリアマネージャー、東海支社長)	中部地方環境事務所	地方創生に関わる取組の紹介、意見・情報交換
57	福井	10月16日	越前市イノベーション研究会	—	—	PF 越前・意見交換会 10/27の事前打合せ
58	愛知	10月17日	愛知県ユネスコスクール支援会議	愛知県教育委員会生涯学習課	愛知県内のユネスコスクールの教職員、生徒、保護者等	愛知県ユネスコスクール交流会への参加(名古屋市市内ウィルあいちにて開催)
59	愛知	10月20日	愛知県環境活動推進課	環境活動推進課	愛知県職員	愛知県内職員研修内容確認と合わせて行うアンケート項目の打ち合わせ
60	長野	10月22日	長野県庁	環境部環境政策課	中部地方環境事務所	11/10 信州共生圏セミナーについての打合せ
61	長野	10月22日	長野県庁	県民文化部県民協働課	中部地方環境事務所	2019年度福井SDGsセミナー登壇についての御礼と挨拶
62	愛知	10月22日	中部大学	中部高等学術研究所	研究者等2名	ネットワークフォーラム関係資料の打合せ
63	長野	10月24日	信州ESDコンソーシアム	信州大学教育学部事務局	コンソーシアムメンバー	通常総会参加
64	三重	10月28日	ネクストステップ研究会		地元企業、環境活動者	SDGsセミナー
65	愛知	10月29日	日進市立東小学校		児童	SDGs出前教室
66	岐阜	11月3日	岐阜県環境計画課	日本旅行岐阜支店	岐阜県の親子	木に親しむ森里川海エコツアー
67	愛知	11月11日	片平コミュニティセンター		学区関係者2名、名古屋市コミュニティサポーター2名、学識者(オンライン)	ワークショップ開催打合せ
68	愛知	11月16日	GEOC		GEOC1名	地域循環共生圏PF等意見交換

	県	日付	主体	担当部署等	同席者等	実施内容
69	福井	11月18日	越前市イノベーション研究会	—	中部地方環境事務所	PF 越前・第3回研究会の事前打合せ
70	福井	11月27日	越前市イノベーション研究会		中部地方環境事務所	PF 越前・第3回研究会に参加
71	福井	11月27日	越前市イノベーション研究会		越前市、中部地方環境事務所、アールエ北陸	PF 事業の今後の方向性等についての事務局打合せ
72	愛知	11月27日	名古屋市	環境企画課	—	2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラム参加依頼打合せ
73	富山	12月4日	富山市	環境政策課	—	2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラム参加依頼打合せ
74	石川	12月4日	金沢市	企画調整課	—	2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラム参加依頼打合せ
75	愛知	12月4日	名古屋市立片平小学校			子ども向け環境教育プログラム実施の打合せ
76	中部	12月9日	中部地方環境事務所	—	—	地球温暖化に関する中部カンファレンスに参加
77	岐阜	12月16日	郡上市地域共生圏協議会		郡上市、中部地方環境事務所、アールエ北陸	PF 事業の今後の方向性等についての事務局打合せ
78	福井	12月17日	越前市イノベーション研究会		中部地方環境事務所	PF 越前・第4回研究会に参加
79	石川	12月17日	金沢星稜大学		—	2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラムでの学生登壇の依頼打合せ
80	愛知	12月18日	中部大学			2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラムでの学生登壇の依頼打合せ
81	愛知	1月8日	中部大学	国際 GIS センター		2/14 開催 ESD ネットワーク地域フォーラムでの学生登壇の依頼打合せ
82	愛知	1月25日	東海学園大学		東海学園関係者3名	3/11 講演会講師依頼の対応と打合せ
83	愛知	2月6日	中部 ESD 拠点協議会	中部 ESD 拠点協議会事務局 (中部大学国際 ESD/SDGs センター)	中部 ESD 拠点 2021SDGs フォーラム参加者	中部 ESD 拠点 2021SDGs フォーラムにて EPO 中部、中部 ESD センター取組発表
84	長野	2月6日	信州 ESD コンソーシアム	信州 ESD コンソーシアム事務局	発表会参加者	令和2年度成果発表会で発表
85	北陸	2月10日	日本政策投資銀行		環境省環境計画課2名、金融室2名、中部地方環境事務所2名	北陸エリアにおける脱炭素の取組の情報交換
86	中部	2月27日	中部地方環境事務所	—	—	地球温暖化に関する中部カンファレンスに参加

## (イ) EPO 中部のイベント後援名義使用

- イベント等での EPO 中部の後援名義使用について、下記の4イベントから依頼があり、イベント企画書等を中部地方環境事務所の担当官と共に確認のうえ、使用を許可する対応を行った。
- ※ 中部地方 ESD 活動支援センターによる後援については、全国センターが申請先となるため、「5(4)ア. 全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携」の項目で整理した。

申請主体 (行事主催者) : 「なごや環境大学」実行委員会、名古屋市 (※依頼は名古屋市環境局環境企画課)  
 申請行事 : SDGs まちづくりプロジェクト in 錦二丁目  
 行事開催日 : 第1回…2020年8月19日 / 第2回…2020年8月26日  
 開催方法 : オンライン

申請主体 (行事主催者) : 北陸 ESD コンソーシアム・石川県ユネスコ協会  
 申請行事 : 2020 年度北陸ユネスコスクール交流会  
 行事開催日 : 2020 年 12 月 13 日  
 開催方法 : オンライン

申請主体（行事主催者）：なごや環境大学実行委員会（※依頼は名古屋市環境局環境企画課）  
 申請行事：SDGs まちづくりプロジェクト【報告会】  
 行事開催日：2021年1月20日  
 開催方法：オンライン

申請主体（行事主催者）：愛知県地球温暖化防止活動推進センター  
 申請行事：気候変動対策交流フォーラム  
 行事開催日：2021年1月29日  
 開催地：愛知県名古屋市、及びオンライン

## ウ 定例報告

- 前項の対話の構築等に関わる EPO 中部に関わる審議会・委員会・検討会・会議等（他の団体が主体のもの）への出席状況や相談対応状況のほか、EPO 施設の運営・利用状況については、毎月、所定の書式で中部地方環境事務所へ提出、報告を行った。

## (3) 施設の維持・管理

### ア オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、法規定に則り、2018 年度に常勤スタッフが「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成の上、管轄消防署への届出を行った。
- 防火・防災に関わる身のまわりのチェックを定期的（週 2 回程度）に実施しているほか、7 月 17 日にはビル内一斉の防火・防災検査が実施され、ビル管理会社を通して、中部地方環境事務所による押印済みの検査結果書類を 9 月 3 日付で消防署へ提出した。
- いずれの届出書類も「防火管理台帳」による保管を行っており、また、各種届出等関係書類は、中部地方環境事務所へも提示・確認を行った。

### 【防火・防災点検結果報告書】

別記様式第1  
防火対象物点検結果報告書 令和 2 年 9 月 3 日

名古屋市消防署長 殿 届出者  
 住 所 名古屋市中区錦2-5-2  
 氏 名 名物地環境事務所 佐藤 浩幸  
 電話番号 052-935-2130

下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記

所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号		
名称	錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス		
用途	事務所	令別表第一(15項)	
構造・規模	耐火造	地上 22階 地下 4階	
	床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡
点検実施日	令和 2 年 7 月 17 日		
点検票	別添のとおり		
消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号	<input type="checkbox"/> 無	
住 所	名古屋市中区秋葉二丁目90番地		
氏 名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249)		
免 状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号
	講習機関名 (明)日本消防教育 協会センター	平成30年12月4日	第441600203号
再講習受講年月日	年 月 日	再講習受講年月日	年 月 日
※受 付 欄	※経 過 欄	※備 考	

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。  
 3 ※印の欄は、記入しないこと。

別記様式第1  
防災管理点検結果報告書 令和 2 年 9 月 3 日

名古屋市消防署長 殿 届出者  
 住 所 名古屋市中区錦2-5-2  
 氏 名 名物地環境事務所 佐藤 浩幸  
 電話番号 052-935-2130

下記のとおり防災管理対象物の点検を実施したので、消防法第36条第1項において準用する同法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。

記

所在地	名古屋市中区錦二丁目4番3号		
名称	錦パークビル 4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス		
用途	事務所	令別表第一 15 項	
構造・規模	耐火造	地上 22階 地下 4階 PH 2階	
	床面積	3,335.78㎡	延べ面積 27,227.54㎡
点検実施日	令和 2 年 7 月 17 日		
点検票	別添のとおり		
住 所	名古屋市中区秋葉二丁目90番地		
氏 名	渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社 052-589-3249)		
免 状	講習機関名	免状交付年月日	免状交付番号
	講習機関名 (明)日本消防教育 協会センター	令和元年5月14日	第642101532号
再講習受講年月日	年 月 日	再講習受講年月日	年 月 日
※受 付 欄	※経 過 欄	※備 考	

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 消防法施行規則第4条の2の6第2項の適用の欄は、当該規定が適用される場合は「有」の□にレ点を記入し、適用されない場合は「無」の□にレ点を記入すること。なお、「有」の場合において、同項第1号の規定が適用される場合は「第1号」の□にレ点を記入し、同項第2号の規定が適用される場合は「第2号」の□にレ点を記入すること。  
 3 ※印の欄は、記入しないこと。

## イ 施設・設備の維持管理

- 当施設の本年度の来館件数とメール・電話による問合せ件数の合計は次の通りであった。
- ※ 2020年4月・5月、2021年1月・2月は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、EPO施設内オープンスペースを短時間利用に限定した。
- ※ いずれも「2020年3月」の数値は3月22日時点で集計を行った。

### 【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日 数・計 (日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による 問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
				日平均 (人/日)		日平均 (人/日)		日平均 (件/日)		日平均 (人/日)
4月	22	21	4	0.2	3	0.1	18	0.9	63	2.6
5月	18	18	6	0.3	2	0.1	16	0.9	61	2.5
6月	22	22	15	0.7	10	0.5	23	1.0	72	2.0
7月	22	21	16	0.8	10	0.5	28	1.3	61	2.2
8月	21	17	16	0.9	5	0.3	12	0.8	55	2.0
9月	24	20	23	1.2	10	0.5	25	1.3	67	2.4
10月	23	23	21	0.9	13	0.6	11	0.5	72	2.0
11月	26	20	16	0.8	6	0.3	13	0.7	84	2.2
12月	23	19	12	0.6	6	0.3	11	0.6	85	2.5
1月	19	19	16	0.8	9	0.5	8	0.4	81	3.1
2月	21	18	14	0.8	6	0.3	18	1.0	68	3.1
3月	15	15	7	0.5	3	0.2	8	0.5	44	2.9
計	256	233	166	0.7	83	0.4	191	0.8	813	3.5

### 【(参考)前年度・2019年度の実績】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日 数・計 (日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による 問合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
				日平均 (人/日)		日平均 (人/日)		日平均 (件/日)		日平均 (人/日)
4月	20	20	22	1.1	10	0.5	32	1.6	60	3.0
5月	19	19	21	1.1	13	0.7	22	1.2	61	2.7
6月	22	19	25	1.3	17	0.9	33	1.7	68	2.8
7月	24	22	34	1.5	14	0.6	22	1.0	80	3.0
8月	18	18	37	2.1	17	0.9	12	0.7	68	2.6
9月	22	19	28	1.5	13	0.7	20	1.1	75	3.4
10月	21	21	23	1.1	14	0.7	13	0.6	79	3.3
11月	25	21	27	1.3	15	0.7	15	0.8	88	2.6
12月	24	20	19	1.0	17	0.9	16	0.8	72	2.9
1月	19	19	11	0.6	8	0.4	25	1.3	57	2.5
2月	20	18	16	0.9	5	0.3	21	1.2	50	2.4
3月	22	22	32	1.5	13	0.6	14	0.7	60	2.7
計	256	238	295	1.2	156	0.7	245	1.0	818	3.4

## ウ オフィスの運営

- オフィスの運営及び業務実施に必要な機材・消耗品等を揃え、その使用料の支払、EPO 中部及び中部地方 ESD センターの HP・メールアドレス・固定 IP の維持管理費用の支払等、維持管理に必要な事務を適宜実施した。



## 4 協働取組の促進のための業務

### (1) 協働コーディネーターと連携したフォーラム(対話の場)の開催

#### ① 日時

- 2020年11月10日(火) 13:00～16:30

#### ② 開催場所

- Mウイング/松本市中心公民館(長野県松本市)
- 一部プログラムをYouTubeで配信

#### ③ 出席者

- 49名(現地参加20名、オンライン登壇2名、YouTube視聴27名)

#### ④ プログラム

- ごあいさつ
- 情報提供・話題提供  
長野県気候非常事態宣言—2050ゼロカーボンへの決意—  
長野県環境部環境政策課企画係長 龍野 真一 氏  
今こそエコツーリズム・ワーケーション!～中部山岳国立公園における取組も交えながら～  
環境省中部山岳国立公園管理事務所所長 森川 政人 氏
- 地域循環共生圏とは(環境省事業の紹介)  
地域循環共生圏  
環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 西田 清紀 氏
- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業採択地域の取組  
根羽村〔活動エリア:根羽村及び矢作川流域〕  
一般社団法人スマート・テロワール協会〔活動エリア:小布施町及び北信〕
- 質疑応答
- ワークショップ  
「エコロジカルシンキング・ワーキングシート」で信州・地域循環共生圏を仮想してみる!  
ファシリテーター: EPO 中部



## ⑤ 開催案内チラシ

信州の地域循環共生圏セミナー  
**地域循環共生圏づくり  
への取組ハジメにあたり**

開催日：2020年11月10日(火) 13:00～16:30（開場12:45）  
会場：Mウイング（松本市中央公民館）会議室3-1・3-2  
オンライン聴講：プログラム1～3をYouTubeでライブ配信  
来場参加、オンライン聴講どちらも事前申込が必要です(参加無料)。  
信州エリア以外の方のご参加・聴講も歓迎いたします。  
※参加・聴講の申込方法についてはウラ面を参照願います。  
※新型コロナウイルス等の情勢によっては、オンライン配信のみとなる可能性があります。

1. はじめに  
■ごあいさつ：松本市

2. 情報提供・話題提供  
■長野県気候非常事態宣言－2050ゼロカーボンへの決意－  
：長野県環境部環境政策課企画係長 龍野真一氏  
■今こそエコツーリズム・ワーケーション！  
～中部山岳国立公園における取組も交えながら～  
：環境省中部山岳国立公園管理事務所所長 森川政人氏

3. 地域循環共生圏とは（環境省事業の紹介）  
■地域循環共生圏  
：環境省中部地方環境事務所環境対策課主査 西田清紀氏  
■地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業採択地域の取組  
：根羽村(活動エリア：根羽村及び矢作川流域)  
：一般社団法人スマート・テロワール協会(活動エリア：小布施町及び北信)

4. ワークショップ（※来場参加のみ）  
「エコロジカルシンキング・ワーキングシート」で  
信州・地域循環共生圏を仮想してみる！

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）  
共催：松本市  
後援：長野県（申請中）  
協力：長野県NPOセンター

## ⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった（6名のみ）ため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて／エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## (2)協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【富山地域】

### ア 多様な主体との協働

#### (ア) 共催・後援名義申請を通じた告知集客等への協力依頼

##### ① 実施概要

今年度事業（セミナーとフォーラム）の実施に際しては、いずれもより効果的な告知集客等につながるよう戦略的な後援名義申請を行った。

##### ● 協働団体

- ◇ 高校教員向けセミナー：【後援】富山県教育委員会（高校教育管轄のため、うまく協力を得られれば全高校に伝わる）※私学に向けては企画調整室私学振興担当を通じてメールによる県内全私立高校への周知を依頼した。
- ◇ フォーラム：【共催】日本環境教育学会中部支部（全国周知につながる）【後援】富山県教育委員会、富山県、富山市、北陸ESD推進コンソーシアム、北日本新聞社

##### ② 結果

- 高校教員向けセミナー：富山県教育委員会を通じて、富山県下の全県立高等学校へチラシ配布していただいた。私学には企画調整室私学振興担当より県下全私立高等学校へメール周知していただいた。その結果、県立高校 11 校、私学 2 校、計 13 校 22 名の集客につながった。
- フォーラム：共催・後援依頼した団体を通じて広くチラシ配布等事前周知が行われ、オンライン配信のリアルタイム視聴者が約 60 名となった。公開を続けている録画動画は翌日には再生回数が 100 を超えた（2021.2.4 16:45 現在 再生回数 408）。

#### (イ) 事業の協働運営

##### ① 実施概要

今年度事業（セミナーとフォーラム）の実施に際しては、様々な主体と今まで構築した関係性を元にしつつ、新たな団体も加えながら準備から当日に至るまで協働実施した。

##### ● 協働団体

- ◇ 高校教員向けセミナー：富山県立大学（清水准教授）、北日本新聞社、富山テレビ（BBT 放送）、富山市、富山県教育委員会
- ◇ フォーラム：【登壇】富山市環境政策課、北酸株式会社、黒部市社会福祉協議会、富山県立砺波高等学校、【スタッフ協力】富山県立大学、松本大学、富山国際大学、sound ETHNOS（音響機材提供）

##### ② 結果

##### ● 高校教員向けセミナー

- ◇ 富山県立大学（清水准教授）：富山県内の多くの高校と関係性を築いている清水氏の協力により、セミナー企画時における高校への事前ヒアリングが実現し、高校の年間スケジュールを勘案した日程決めやニーズに合わせたセミナー内容の調整が実現できた。集客においても、各高校へのチラシ直接配布等で協力いただいた。当日は、講師のサポートも引き受けていただき、参加した教員とすでに築かれた関係性から、セミナーを打ち解けた状態で開催することができ、浸透度等をより充実させることができた。
- ◇ 北日本新聞社、富山テレビ：両社の SDGs 普及意向とタイミングが合い、北日本新聞は記事に、富山テレビはその日の夕方のニュースで取り上げてもらうに至った。

- フォーラム

- ◇ 多様なセクターの登壇者：それぞれの所属元に対する当該企画の認知につながり、より多方面に伝えることができた。また登壇者同士が直接つながる機会にもなり、新たなパートナーシップ構築にもつながった。



- ◇ 多様なセクターの運営協力：オンライン配信のテクニカルサポートを、関係のあった富山県立大学の情報系の研究室・学生に依頼したことで、学生にとっては実地経験の場として、主催側には金銭的な面で相互利益が生じる結果となった。また、関係する団体個々人の特性や能力を反映した役割分担によって全員で作りに上げたフォーラムという一体感が生まれたと、事後の振り返りコメントで多く寄せられた。



## (ウ) 考察及び今後の展望

今回の多様な主体との協働を経て、協働による次のようなメリットを実感するに至った。

- 協働する団体それぞれに主体性があるので、個で実施するよりも少ないインプットでより大きな効果が得られる（例：集客数、伝搬範囲等）。
- 協働する団体それぞれが持つコネクションもさらに加味されることがあるため、雪だるま式に多様な主体の巻き込みが図られ、上記のような効果がさらに大きくなる。
- 異なる分野主体で1つの事業に向き合うことで、相互の気づきが起点となるパートナーシップマインドが醸成される。

今後は、このような協働によるメリットを理解したうえで、戦略的な協働促進・マネジメントを行い、協働件数の増加を図り、多様な主体間での学び（環境教育・ESD等）と協働のスパイラルが生じることで、複雑な課題の根本解決（SDGs達成）に繋がるような支援活動を展開したい。

# イ フォーラム又はワークショップの実施

## (ア) 高校教員向け SDGs 教育導入セミナー（ワークショップ）

### ① 実施概要

- セミナータイトル：高等学校教員向け SDGs 教育セミナー 『「総合的な探究の時間」における SDGs 教育』
- 主旨： SDGs（エス・ディー・ジーズ：持続可能な開発目標）をテーマに探究学習を行う方法を、ワークショップ形式で学び合う。
- 日程：8月20日（木）13:30～16:30
- 場所：富山県民共生センター サンフォルテ 307室（3密を避けた広めの部屋）  
〒930-0805 富山県富山市湊入船町6-7 TEL：076-432-4500
- 講師：佐藤真久（さとうまさひさ）氏：東京都市大学大学院環境情報学研究科教授
- 対象：SDGs 教育に関心のある富山県内の高等学校教職員
- 定員：30名
- 内容（構成）：①SDGs の基礎知識、②高校の探究の時間における SDGs 教育の実際
- 後援：富山県教育委員会
- 使用テキスト：
  - ①「探究×SDGsー地域課題解決のコツー」②「未来の授業 私たちのSDGs 探究BOOK」
- チラシ

高等学校教員向け  
SDGs教育セミナー

『総合的な探究の時間』における  
SDGs教育

2030年までの世界共通の行動計画  
SDGs(エス・ディー・ジーズ：持続可能な開発目標)  
をテーマに探究学習を推進する方法  
について学びます。

2020  
8/20 木  
13:30~16:30

富山県民共生センター サンフォルテ 307室  
〒930-0805 富山県富山市湊入船町6-7 TEL:076-432-4500

対象 SDGs教育に関心のある富山県内の高等学校教職員  
定員 30名 ※1名につき1名まで参加を希望いたします。  
参加費 無料  
内容(構成) 1. SDGsの基礎知識  
2. 高校の探究の時間におけるSDGs教育の実際  
使用テキスト 各人にて事前に用意してください。 ※必須品  
①「探究×SDGs 地域課題解決のコツー」(牛原長徳編著)  
※入手方法はこちらのページで印刷をご希望いたします。  
②「未来の授業 私たちのSDGs探究BOOK」  
<https://www.sdg-s.jp/books/3123/>

参加ご希望の方は下記フォームよりお申込みください。 〆 〆 〆 7/31 (金)  
<https://forms.gle/INSPvHFiiCw9KxYEB>  
※2名で参加される場合は、お手数ですがお一人ずつの人数ください。

講師  
佐藤真久 氏  
東京都市大学大学院環境情報学研究科教授。  
国際的な環境・社会協力のほか、高専ガバナンス、社会性学習、学習支援機能などの地域マネジメント、人材論、学習・教育の時間に関する研究を進めている。著書『持続可能な開発のための教育～ESD入門』(編著、筑波大学、2012)ほか多数。

【主催】 環境省中部環境パートナーシップオフィス(〒904-2331)  
一社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)  
【後援】 富山県教育委員会

【お問い合わせ】  
一社団法人環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) 事務局  
Tel:076-400-8305 E-Mail: info@pectoyama.org 担当：堺

## ② 結果

### i) 参加者

県立高校 11 校（県内全 43 校）、私学 2 校（県内全 10 校）、計 13 校 22 名  
→県内約 1/5 の高校へインプットが図れた。



### ii) 実施内容

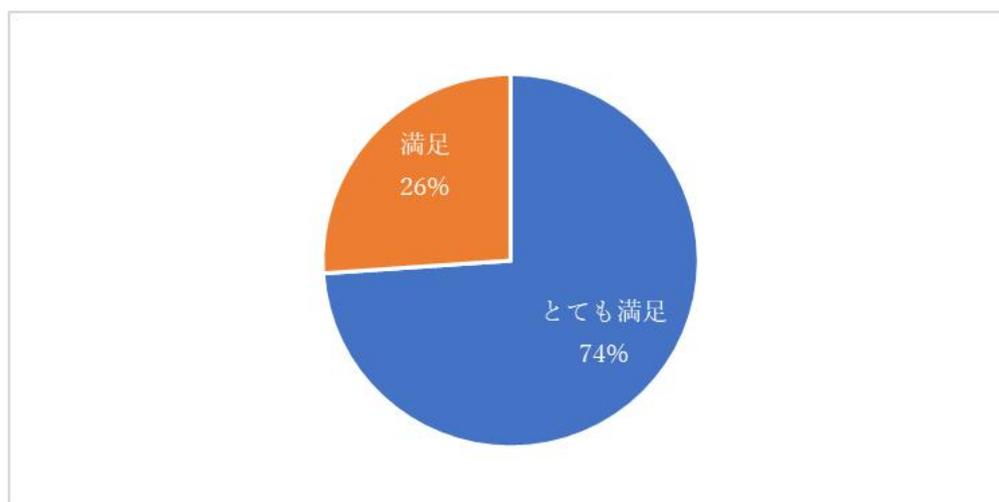
- グループ対話：これからの時代と 2050 年の日本社会についての意見交換
- レクチャー①これからの時代と 2050 年のありうる日本社会
- グループワーク（カードを用いたワークショップ）
  - 日本の社会課題（3つ選択）
  - 選択理由を共有
  - 社会課題どうし関連性を議論
  - SDGs との関連づけ
- レクチャー②：
  - 正解のない問いと共に生きる時代～「学び」の作戦変更～
  - 教育改革に見られる探究モードへの挑戦～持続可能な社会の担い手づくり～

- 探究の高度化・自律化：「国連・ESD の 10 年」、SDGs、観察に基づく発想 WW 型問題解決モデル、思考ツールを活かす、グローバルな視点へ視座を高める、学習スタイルを活かす、“問い”を作ることから“問いかけ”（社会化）へ
- 事例紹介：横浜市 ESD 推進コンソーシアムの経験ー公立学校における ESD の取組を主としてー



### iii) アンケート結果（回答者 24 名）

- 満足度（大変満足・満足・やや不満・不満の 4 段階）



- 良かった点/不満な点
  - 「探究」での学びに必要であるとわかった。本来ならば校長をはじめ管理職、教務主任向けにやるべきと思った。
  - 17 の目標に目が行きがちであったが具体的にどのように生徒へ提示しようか参考になりました。
  - SDGs がツールで考える視点を持つために使うことができるということがわかった。企業も本気で SDGs に取り組んでいることを知り学校だけではないことがわかった。

- SDGs と地域理解はつながらないものと考えていましたが密接につながっているということが理解できました。
- SDGs についてたくさんの新たな視点が得られました。
- SDGs について知らなかったことをたくさん知ることができたが内容レベルがやや高くすぐ実践できないことも多かったかなと思う。
- SDGs に関する探究学習の方法を知ることができたし、SDGs の解決が個々ではなく総合的解決の必要があることが分かった。いろいろな物事を繋げ社会を捉え直して自分を変えて社会を変えていくということの大切さを感じた。
- SDGs に対する理解が間違っていたことが分かった。単なる問題解決ではないことがわかった。SDGs が目標とすることを正しく理解することができとても有意義なセミナーだった。
- SDGs の取り組み方や SDGs のイメージを大まかに掴むことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
- SDGs をツールとして自分ごとに落としていく体験がよかった。
- 自分自身の理解が深まる機会となりました。変わっていくことの大切さを感じました。
- SDGs を活用する本質的な授業プランを考えるのに役立ちました。新しい知見を頂きありがとうございました。WW型のアプローチが特に有効だと思いました。
- SDGs を自分ごとにするための考え方や方法のヒントが得られました。また、問題解決の時は問題解決最適化の視点を取り入れることが大切であることに気づかせていただきました。
- これまでの教育では about in for のトライアングル重視であったが、これからは as が加わり変容 transform が大切と知れた。また、変容も自他ともにとということなので教師として生徒だけでなく自分も変わっていこうと思った。
- 学校現場ですべきことがわかりました。
- まずは SDGs を知ること。つながりを作ることが大切だということがわかりました。
- 現場の先生と生の意見交換ができたことは大変有意義だった。探究学習はスタートであり、聞かれたものとして大人にとっても継続的に実践していくことが重要。その意味で様々なステークホルダーが集まったこのイベントは今後ますます重要なものになっていくと感じた。
- 考え方として重要な部分について共有できてよかったと思う。
- 行政の立場での参加だったが、生徒教員だけでなく SDGs を広める必要があるように感じた。探究の方法についてもっと詳しく聞きたかった。
- 今まで遠い存在だと思っていた SDGs を少し近くに考えることができた。
- 佐藤先生の話、資料がとても分かりやすく3時間があっという間だった。グループでの話し合いは参考になり講義そのものが自分ごととして考えることができた。探究の時間で授業しながらもやっとしていたことがストンと落ちた。
- 「社会を変える。自分が変わる。」が印象に残った。
- 探究のアプローチについてわかりやすく実践的に学ぶことができた。
- 探究活動への SDGs の活用の手法やどのような力を伸ばしていくことが必要なのかなど詳しく学ぶことができ大変有意義な研修でした。
- 本質的かつ実践的な話を聞かせてもらった。ワークショップを交えることにより理解を深めることができた。
- SDGs の必要性が腑に落ちた。これまでも考えていたことでしょうか？と思っていたがつながりが大切。ラベルだけでなく中身の変容を本気で求めていかなければいけないと思いました。

- 今後実践したいと思う点
  - 「総合の時間で探究がなぜ必要なのか」について教員の意識レベルに差がある。校内研修を行いたいと思いました。
  - SDGs に関する生徒向けの講座
  - SDGs の事柄を自分ごとにするための取組を行ってみたい。
  - SDGs の探究の進め方の例があったので1 学年 2 学年 3 学年を通した取組にしたい。
  - カードを使ったグループ活動、話し合い。
  - ゲームファシリテーターであるがゲームからさらに深めた探究であるべきだと考える。
  - とともに総合を担当する教員に総合的解決が SDGs のポイント！！と伝えたいと思います。
  - とりあえず“SDGs”の基本的なことを生徒たちとともに学びたい。また、少しでも統合化自分化できるような声かけをしていきたい。
  - マルチステークホルダーの連携を一層強化していくことが大切と感じた。探究学習での気づきをアクションとつなげていくための仕組みづくりを行っていきたい。
  - 課題をつなげていく導入から。探検を取り入れて生徒と共にわくわくできる活動をしていきたいです。
  - 具体的な構想を与えていただいたと思います。連携のあり方も様々あるということがわかりました。
  - 現1年生の課題研究→探究の時間につなげていきたいと思います。
  - 講座等で生徒に話す際の参考にしたい。
  - 授業ですぐにはいかないが部活（美術部）で遊び探究しながら生徒たち自らが行動を起こしていけるようにできたらと思います。カードを使い考えさせることは授業として取り組みやすいかもしれません。考えていきたいです。
  - 新聞を使ってシステム思考をさせること。
  - 生徒は教科ごとにすべて別のものとして区別している。様々な問題を学習したことと関連付けられるような考え方を個人変容、社会変容と関連させていければと思いました。
  - 探究活動のプロセスを「総合的な探究」の時間に活用したいと考えています。
  - 知る、理解することから実践していくためにまずは自分、地域で何が課題であるかを問い直してみたい。
  - 日本の課題と SDGs を結び付け自分ごとに結び付けさせるカードを使用したグループワーク。
  - 魅力発見（まず現場）から課題発見につなげる。
  - 課題の同時解決へのアプローチ
  - 遊び（探検）をまず大切にしたいと思った。「課題を見つけよう」といっても問題意識がない生徒が多くテーマが設定できない。探究プロセスがよくわかり生徒も明示することで進めやすくなると思う。
- 今後希望すること
  - PEC のスタンスは環境に立ち位置を持ちながら SDGs の同時解決を市民目線で取り組んでいることが最大の特徴であり魅力だと思っている。これからも自立的な運営を期待したいと思うとともにできることを協力したい。
  - セミナーに加え一般の皆さんも参加できるようなイベントの開催、協力ができればと思います。
  - とりあえず“PEC とやま”について知識を入れたい。
  - またこのようなセミナーを開いていただければ幸いです。
  - またメールなど頂けたらと思います。
  - 学校での生徒及び教員を対象としたセミナー
  - 学校との連携をとる活動も行ってもらいたい。

- 私立高校であり外部との交流がない。校内の生徒研修をお願いできるとありがたいです。
- さまざまな活動をもっと幅広く多くの人にアピールしてください。知らない人が多いので。
- その他
  - いろいろなアプローチのヒントがありよかったです。
  - オブザーバーでの参加だったが実際にグループに参加させていただき大変勉強になった。
  - お忙しい中でしたがありがとうございました。
  - とても有意義な講座だったと思います。
  - 大きな方向性をいただきました。
  - 大変参考になりました。ありがとうございました。
  - 本日はとてもためになる勉強会でした。

## (イ) フォーラム

### ① 実施概要

- タイトル：EPO 中部/PEC とやま主催 SDGs フォーラム 2020（オンライン開催）『SDGs 時代のパートナーシップ ～「学び」と「協働」のスパイラルで未来を拓く～』
- 主旨：気候変動、新型コロナウイルスの世界的感染拡大等、SDGs 時代の“複雑な問題”を解決するための、既存の枠組みや、従来の分野・領域を超えた、多様な主体のパートナーシップによる「学び」と「協働」の繰り返し（スパイラル）手法について、富山の各主体による事例をつなぎながら参加者と共に学び考える。
- 日時：2020年12月12日（土）13:30～17:20
  - ◇ 開催方法：オンライン（Youtube Live）、学会からの参加者：Zoom、一般：youtube
  - ◇ 登壇者及びスタッフ：サンシップとやま 604 室（発信基地）or Zoom
- 講師：佐藤真久氏（東京都市大学大学院環境情報学研究科教授）
- 共催：環境教育学会中部支部
- 後援：富山県教育委員会、富山県、富山市、北陸 ESD 推進コンソーシアム、北日本新聞社
- 備考：環境教育学会中部支部大会の一般公開特別シンポジウム枠にて開催
- 当日参加 URL：https://youtu.be/ntCcwpyTqY
- 当日プログラム
  - 13:30～13:40 オープニング
  - あいさつ：日本環境教育学会、環境省中部地方環境事務所
  - 特別シンポジウム概要：EPO 事業の振り返り（2018～2020：PEC とやま 場）
  - 13:40～14:40 基調講演
  - 14:50～15:50 富山の事例紹介（主体別）：
    - ◇ 富山市環境政策課 課長代理：東福光晴氏
    - ◇ 北酸株式会社 アグリ・バイオマスグループ グループリーダー 藤井晃氏
    - ◇ 黒部社会福祉協議会 経営戦略係長 小柴徳明氏
    - ◇ 富山県立砺波高等学校 教諭 齊藤左世子氏
  - 16:00～17:00 パネルトーク『垣根を越えた「学び」と「協働」のスパイラルの実際』  
パネラー：事例発表者 コメントーター：佐藤真久氏
  - 17:00～17:20 クロージング

● チラシ

EPO 中部 / PEC とやま主催

## SDGs フォーラム 2020

# SDGs時代の パートナーシップ

～「学び」と「協働」のスパイラルで未来を拓く～

気候変動、新型コロナウイルスの世界的感染拡大等、“複雑な問題”を抱える現代社会においては、既存の枠組みや、従来の分野・領域を超えた異なる主体との「学び」と「協働」の繰り返し（スパイラル）による統合的な課題解決が求められています。本フォーラムでは、具体的にどのように進めていけばよいのか、富山の各主体による事例をつなぎながら考えます。

日時	タイムテーブル
2020年 <b>12/12</b> ± 13:30~17:20	13:30 ~ 13:40 オープニング
	13:40 ~ 14:30 <b>基調講演</b> SDGs時代のパートナーシップ ～「学び」と「協働」のスパイラルで未来を拓く～ 講師：佐藤真久氏 (京都市大学大学院環境情報学研究所教授)
参加費 <b>無料</b>	14:40 ~ 15:40 <b>富山の事例紹介</b> ～変容を促す多様なチャレンジ～ 富山市環境政策課 主幹：東部光晴氏 北越株式会社 アグリバイオスグループ・グループリーダー：藤井 龍氏 富山市社会福祉協議会 総務課長 佐藤 健吾氏 富山県立新湊高等学校 教諭：齊藤左世子氏
	15:50 ~ 17:00 <b>パネルトーク</b> これまで/これからのパートナーシップ ～前提のシフトと多義的な見方～ パネラー：事例発表者/佐藤真久氏 モデレーター：PECとやま 副 副人
開催方式 <b>オンライン</b> (YouTube Live)	17:00 ~ 17:20 クロージング

当日はこちらからご参加ください

当日参加URL 下記URL、または上記二次元コードよりご参加ください。  
<https://youtu.be/ntCcwpyTqY>

講師：佐藤真久(さとうまひさ)氏  
京都市大学大学院環境情報学研究所教授。国際的な環境・教育協力のほか、協働がパナソニック、社会的学習、中間支援組織などの地域マネジメント、組織論、学習・教育論の展開に関する研究を進めている。著書『SDGsの実践 自治体・地域活性化編』（事業構想大学院出版部、2019年）、「ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ」（みくに出版、2018年）、「SDGs時代のパートナーシップ」（学文社、2020年）ほか多数。

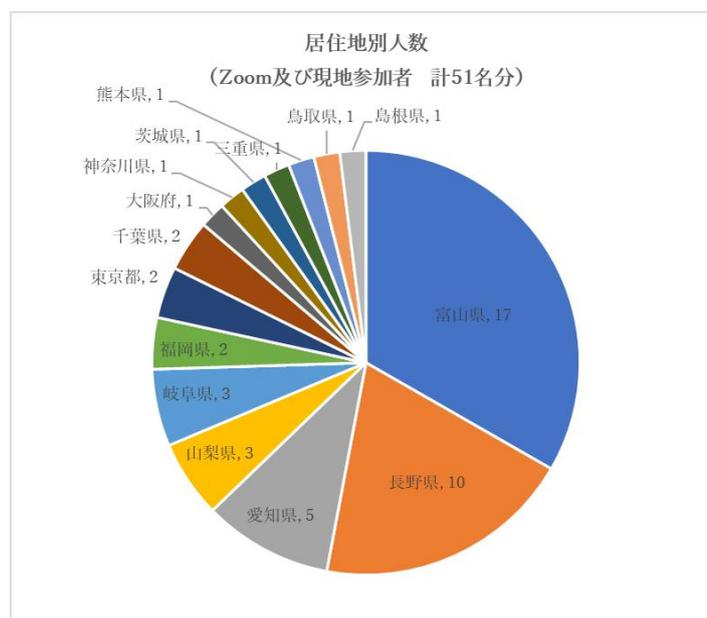
お問い合わせ  
一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま (PECとやま)  
〒939-2702 富山県富山市中町田島854-3 TEL:076-400-8305  
E-mail:info@pectoyama.org

主催：EPO中部/PECとやま  
共催：日本環境教育学会中部支部  
後援：富山県教育委員会、富山県、富山市、北陸ESD推進コンソーシアム、北日本新聞社

② 結果

i) 参加者

- リアルタイム参加者 82名：YouTube 31名、Zoom+会場 51名（スタッフ含む）



- 事後の動画再生回数 (YouTube) 419回 (2021.2.6 17:00 現在)

## ii) 実施内容

※YouTubeにて当日の動画公開中（期限付き）：<https://youtu.be/ntCcwpyTqY>

### ● オープニング

- 日本環境教育中部支部大会実行委員長挨拶：田開寛太郎（松本大学）
- 日本環境教育学会学会長挨拶：朝岡幸彦（東京農工大学）
- フォーラム開始挨拶：堺 勇人（PEC とやま）
- 環境省 EPO 中部挨拶：西田清紀（環境省中部地方環境事務所）
- 本会の位置づけ説明：堺 勇人（PEC とやま）



### ● 第1部：基調講演 『SDGs時代のパートナーシップ～「学び」と「協働」のスパイラルで未来を拓く～』 講師：佐藤真久氏（東京都市大学大学院環境情報学研究科教授）

【要旨】これからの時代と2050年のありうる日本社会は不確実性の高い状況となり、それらの解決には正解のない問いと共に生きるという「学び」の作戦変更と、求められる統合的問題解決と価値共創のための「協働」の作戦変更が求められる。そのためにはパートナーシップの多義性（手段、目的、権利として）を捉える必要がある。そのような実践例として、ローカルベンチャー推進協議会や環境省SDGsを活用した環境・社会課題同時解決支援事業などが挙げられる。VUCA時代・SDGs時代のサステナビリティを築くには、「学び」×「協働」の相乗効果を生み出す関係性が不可欠で、SDGsという同じ星を見ながら、実践共同体・学習共同体（協働して実践し、共に学び、共に愉しむ）、協同的探究（継続的で集合的な探究プロセス）、コミュニケーション的行為（対話、問いかける）といった点を重視して実装を進める必要がある。



### ● 第2部：富山の事例紹介「変容を促す多様なチャレンジ」

- 富山市環境政策課 主幹：東福光晴氏  
「SDGs未来都市が実践するパートナーシップ」



- 北酸株式会社 アグリ・バイオマスグループ グループリーダー：藤井晃氏  
「101年目の朝に向けた SDGs の取り組み」：ガス業界としての再生可能エネルギーへの変革プロセスと SDGs を標榜しつつも地域課題解決に根差した新たなビジネス創出について



- 黒部市社会福祉協議会 総務課長補佐 経営戦略係：小柴徳明氏  
「5 GOALS for 黒部」：地域課題解決目標を多様な住民同士で話し合い決め、SDGs にならって分かりやすいアイコンで表示し、住民主体で地域を良くしていこうとする実践事例について



- 富山県立砺波高等学校 教諭：齊藤左世子氏  
「総合的な探究の時間」を通じた SDGs への取組：地域関係者と協働して SDGs も絡めながらの探究活動を実践する中で得られた経験や生徒の変容について



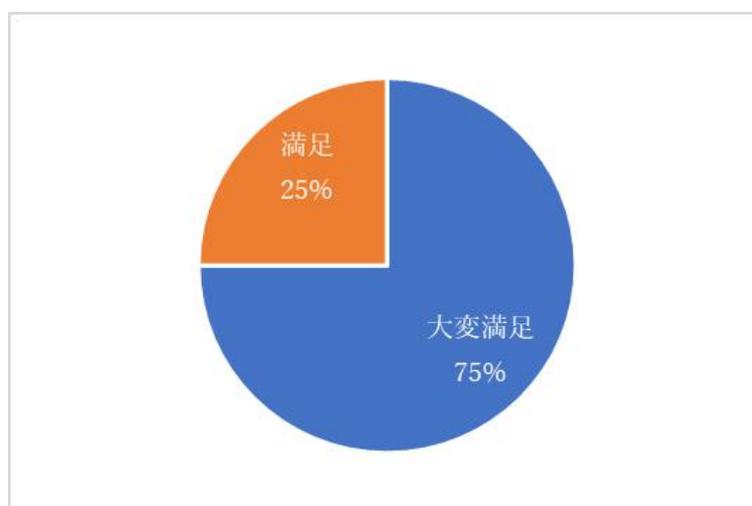
- 第3部：パネルトーク「これまで/これからのパートナーシップ～前提のシフトと多義的な見方～」
  - 要旨：
  - 佐藤氏の事例発表を受けた統括：皆さんがパートナーシップの場を作るチェンジエージェントの役割を果たしていることを実感した。
  - 問1：SDGs をツールとしての使い勝手は？異なる者同士の横の連携がとりやすい、持続不可能な社会が迫っていることを教えてくれる、アイコン化され見える化されていることで一緒に取り組める、学校では教材そのものとして使える。

- 問2：コロナ禍をどう捉えていますか？統合解決しなくてはいけないことに気付かされる。線形な取組では解決できない。コミュニケーション方法（オンライン活用等）は手探り、世界がつながっていることが自分ごとになった、福祉領域で触れ合わない・集まらないで支えなくてはという難しいなぞなぞを突き付けられている、地域の行事など来年どうするかを本質的に考えることになっている、自分ごとになる教材というプラス面も実感している
- 佐藤氏：SDGsは矛盾の産物、17ゴール個々でなく、矛盾そのものにSDGsの繋がりを捉えながら対応することの必要性、そして一人一人の在り方・向かい合い方が重要になっていることを実感した。SDGsは達成するものでなく意思。
- 問3：異なる動機を持つ主体と協働するメリットは？気づかなかったところに気付ける、自分にはないものが集まることで個では不可能だったことが可能になることを経験しつつある、集まるのが先でなく、一人でできなくなったときに必要な人を巻き込むのがいい、あとから加わるようにあえてスペースを開けて物事を始める、生徒が学ぶだけでなく教員も学び、地域も学ぶ相互学習体制ができる。
- 問4：これからのパートナーシップとは？SDGsを標榜した自治体間でのパートナーシップ、組むことで互いの存在意義に気付き組むメリットをお互いに実感することでパートナーシップも促進される、SDGsをキーワードにつながるステークホルダーを広く捉えたい、SDGsを通じた取組が結果的に1つ動くとか何かにつながる。
- 佐藤氏：前線で活躍されている方々だからこそそのコメントは力強く富山のファンになりました。同時解決型のアプローチをこれからも一緒に。



### iii) アンケート結果：回答数 12 名

- 満足度（大変満足・満足・やや不満・不満の4段階）



● 感想等

- 佐藤さんのわかりやすいお話、また事例紹介の方の具体的なお話、どれも素晴らしかったです。SDGs を知るにより、たくさんの素晴らしい方の活動を知ることにつながるの、何よりも自分のプラスになっていると感じています。学びを深め、少しでも役立つ活動ができるようになりたいと思います。ありがとうございました。
- SDGs の取組が何え参考になりました。今後の活動に繋げていきたいです。
- 基調講演から全体の流れがとても良かったです。
- 今回のシンポに参加させていただき、大変勉強になりました。私は中国からの留学生として、日本の学校、NPO、企業、行政などの事例を見ながら、母国の状況や社会背景など比較し、日本の方がものすごいSDGsの推進に力が入れ、top-down と bottom-up 双方向に連携しています。中国の方はやはり top-down 一方通行ですが、トップの意識はまだ届いてないそうです。その結果は民間事業がなかなかやる気もない気がします。SDGs は日本の方が世界で一番進んでいるのではないかと。もう一つ考えたのは、partnership は leadership と citizenship 合わせて考えなければならぬですね、SDGs の目標はやはり行動できる人と繋がり、地域の課題や社会問題でもリーダーたちが SDGs 意識を持たないとなかなか連携しづらい気がしました。また、それぞれの立場、目的が違い団体は如何やら cooperation と collaboration、重要な課題だと感じました。コロナ中はこういうような WEB シンポに参加して色々な角度から学習ができて、ありがとうございました。
- 佐藤先生が編纂された『SDGs とまちづくり』の執筆に参加させていただきました市川享子（東海大学）です。グローバルと現場（ローカル）を SDGs とパートナーシップでつなぐロジックがシャープかつ明確で、大変刺激を受けました。
- 私は黒部市社会福祉協議会（小柴氏がリーダー）5goals for kurobe に関わらせていただいているのですが、グローバル issues とローカル issues の連関のビジョン／モデルを、本日の佐藤先生がお示しく下さいました、パートナーシップ論でダイナミックに立ち上がっていましたこと、素晴らしかったです。
- 黒部の取組がどう SDGs につながっているか、可視化する機会になったと思います。
- 大変楽しい深い会合でした。すばらしかったです。
- 今回は非常に良い場でした。
- 富山の様々な取組をお伺いでき、大変勉強になりました。環境教育でも、持続可能な開発の議論に関連して、「教育」とは何かと問い直す議論がなされてきました。社会変革に向けた行動に繋げるための教育の役割を、引き続き、見つめていきたいと思っています。理論と実践の両輪を回す上でも、環境教育学会中部支部とのパートナーシップを、ぜひ、宜しく願いいたします！
- 本日は堺さんの司会進行が素晴らしかった、この一言に尽きると思います。
- 準備段階では正直不安もありましたが、始まってみるとその不安が消えました。
- 今後の学会大会のひとつの形として定着させたいですね。
- とても良かったです！
- 本日はありがとうございました。環境教育における ICT 活用を専門として研究している立場としても、考えを深めるヒントをたくさんいただいたと感じています。
- 社会課題の時空間スケールが拡大するにあたり、デジタル技術・情報通信技術の活用はますます重要になると思います。ただ、これらの技術は身体性の欠如により「自分ごと化」に対してはネガティブに作用する可能性も考えられます。デジタル・情報通信技術の活用における自分ごと化への配慮も重要になってくると思いました。
- また、「見える化」のインパクトは非常に大きい一方で、往々にして何かを削ぎ落とすことで単純化する「見えない化」の側面もあります。佐藤さんの「安全と安心」のお話にもあったように、客観的に「見える化」されたものに対する、削ぎ落とされがちな個々の感情を置き去りにしない配慮が重要になるのかと思いました。

## (ウ) 事後調査

### ① セミナーの事後調査の実施

#### i) 調査概要

- 調査対象：富山県立砺波高等学校 教諭 齊藤 左世子 氏
- 調査日時：2020年11月20日（金）15:00～16:00
- 調査方法：高校へ訪問

#### ii) 調査結果：

校長先生と共にご対応いただいた。本セミナーが契機となり下記のような変容につながったとお答えいただいた。

- 当校から3名参加したことで、研修内容を広く共有することができ、実際の現場に取り入れることにおいては、生徒の主体性を重視する点や地域との協働関係を築くこと等が特に参考になった。
- セミナーのご縁から、富山県立大学の清水先生からSDGsに関するレクチャーを1コマしていただくことにもつながった。
- （後述のセミナーへの事例発表を引き受けていただくことを受けて）当日午前中に当校の探究学習成果発表会があり、その発表を経て午後のフォーラムへ登壇します。生徒たちが実施してきたことのSDGs意識づけを強化する意味でがんばって発表したい。

### ② フォーラムの事後調査の実施

#### i) 調査概要

- 対象者：北酸株式会社 藤井晃氏
- 調査日時：2021年1月21日（木）14:30～15:00 他
- 調査方法：訪問等

#### ii) 調査結果：

藤井氏と事後複数回お会いする中で、次のような変容が認められた。

フォーラムを経て手段にとどまらないスループット（目的）としてのパートナーシップの重要性についても認識し、事後はその認識を社内にも共有しながら、意識的なパートナーシップによる事業開発を行うようになった。また、本フォーラムの1か月後に行われた富山県主催のSDGsフォーラムに藤井氏が事例発表者として登壇した際には（下方写真）、発表内容がパートナーシップの重要性を強調するものであったため、社内のみならず社外にも広く伝搬する役割を担うに至っていることを確認した。

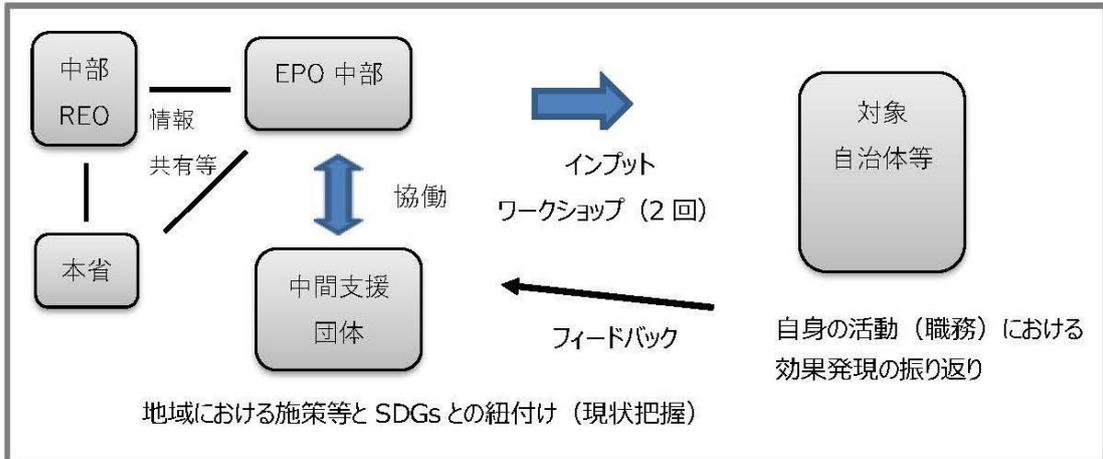


## ウ 情報の共有

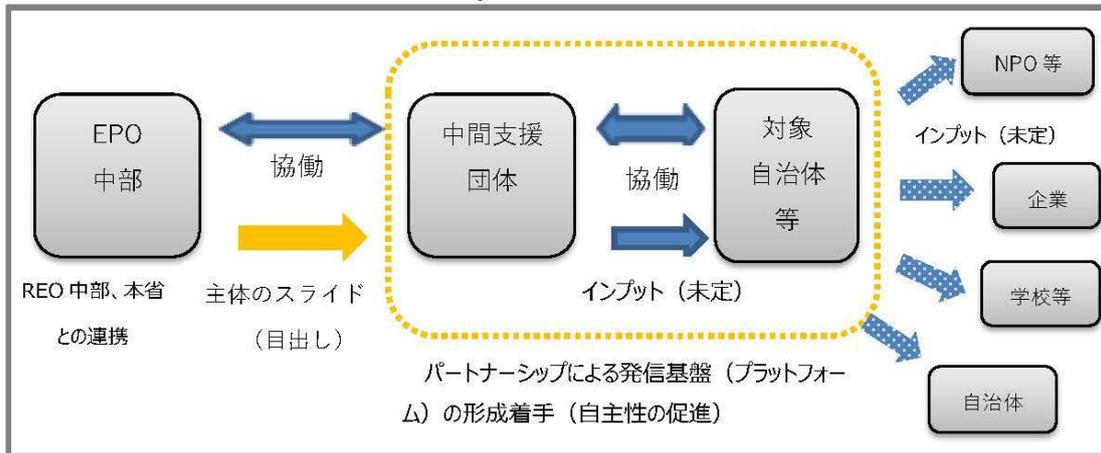
### (ア) 3カ年のまとめ

- 本事業は、富山県内を中心とする北陸・信州地域における第5次環境基本計画に沿った環境教育支援業務として下記のようなスキームにて実施してきた。

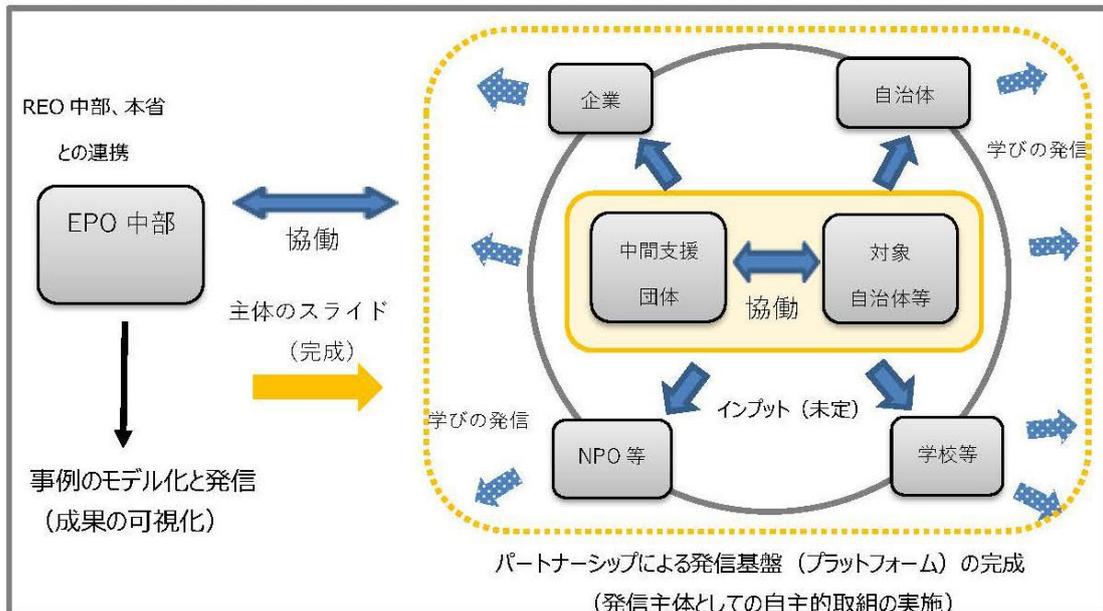
#### 1年目 自治体等へのSDGsマインドのインプット



#### 2年目 地域 (自治体・地域企業・NPO/NGO 等) における啓発活動・学びあいの場の醸成

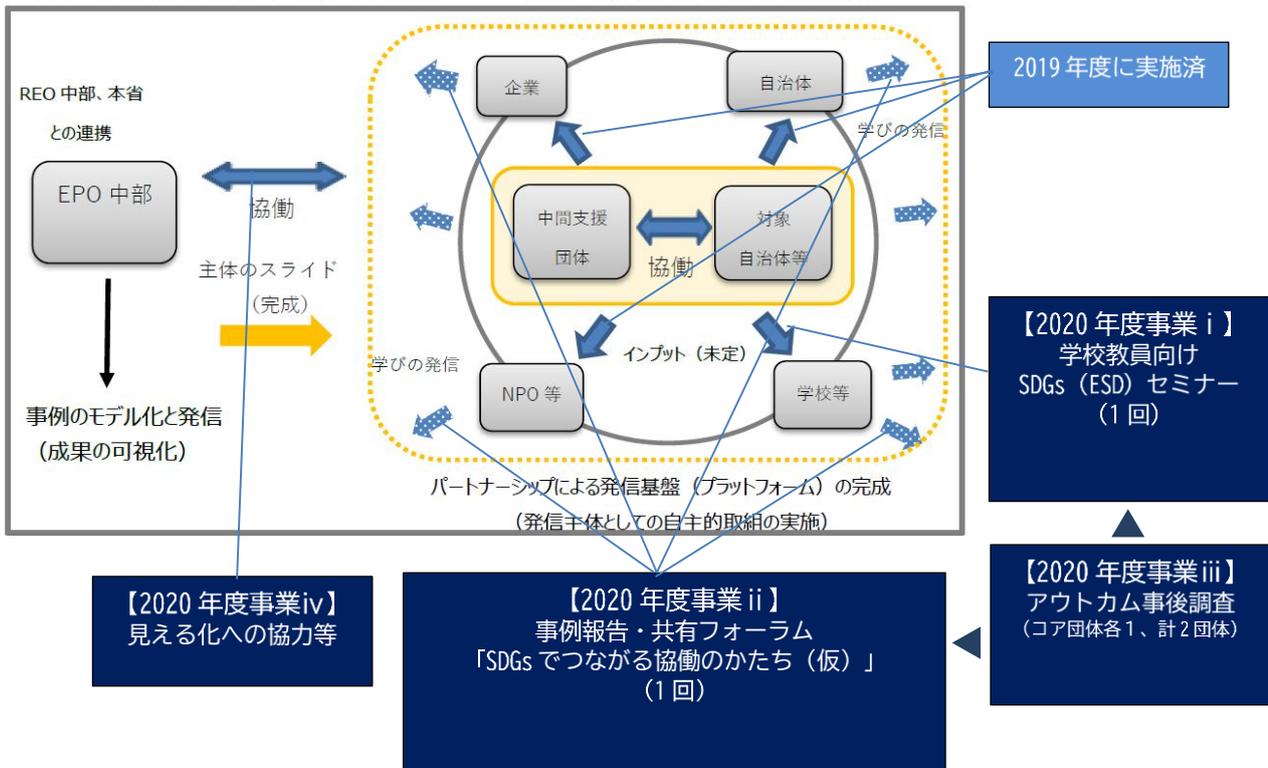


#### 3年目 地域発による自主的な学びの発信/EPO 中部における事例のモデル化と発信



- 2年目までスキーム通りの事業を行うことができ、3年目となる本年度は、具体的には下記紺色の注釈にある事業を展開し、既述のような成果を得ることができた。

### 3年目 地域発による自主的な学びの発信/EPO 中部における事例のモデル化と発信



#### (イ) 「活動見える化プログラム」を活用した情報共有

- 本業務での取組内容を「持続可能で包摂的な社会実現に向けた中間支援的アクション」として、PEC とやまと EPO 中部による活動見える化プログラムのチャート図を作成した。(作成したチャート図は、次項「(4) 活動の見える化」に掲載。)

### (3) 協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【福井地域】

#### ア 多様な主体との協働

##### 地域循環共生圏と食のまちづくりを掛け合わせた協働推進

##### (ア) 「食のまちづくり」の現状と課題

###### ① 小浜市のこれまでの取組

小浜市では平成14年から「食のまちづくり条例」が施行されている。「御食国（みけつくに）」としての歴史風土や海山川に恵まれた豊かな自然環境に基づき、“食”を核に環境・社会・経済の地域循環を市民協働で目指した、正に地域循環共生圏に相当する内容である。主に行政的取組としては幼児期からの食育の義務化、地場産の全校自校式給食、食文化の掘り起こしやアーカイブなどの社会教育事業を強く推進してきた経緯がある。

###### ② 地域の課題と食のまちづくりの現状

約20年近くに及ぶ市を挙げた取組によってでも、地域循環が達成されているとは言い難い現状にある。依然として過疎化が深刻で地域は衰退傾向にあり、学校給食の調理師の成り手不足といった食のまちづくりの基幹事業まで揺らぐ形として影響が広がってきている。地場産業においては放棄地や獣害が増え、食を育む自然環境そのものも荒廃が進んでいる。

##### (イ) 協働による食のまちづくりの見直し：地域循環共生圏の観点から図りなおす

地域循環共生圏の概念からすれば、小浜市はそれを先駆けて取り組んできた自治体とも言えるが、(ア)①で述べたような現状がある。これまでは小浜市独自の取組として差別化戦略的位置づけや内部評価に依っていたが、現在においてその理念や概念は、SDGs や地域循環共生圏という形で一般化されてきている時代にある。そのため、そのような世界的な指標及び国の指標に基づいて現在の行政取組や市民活動との整合性や適性を分析し、食のまちづくりの見直しを図った。

#### イ フォーラム又はワークショップの実施

##### (ア) 地域循環共生圏 in 小浜市～食のまちづくり 2.0～における SDGs・地域循環共生圏活動見える化ワークショップ

###### ① ワークショップの実施

2020年9月12日（土）に実施し、計12名が参加した。EPO中部が開発したSDGsの「活動見える化シート」を活用して、事前に行政や市民活動（企業含む）の取組を記入して集め、食のまちづくり条例の内容をSDGsの指標に分類し、取組を当てはめる分析を行った。食のまちづくりと地域循環共生圏の相性は良く、取組との整合性や関係性に大きな逸脱はなかったが、社会面における条例と一部の市民活動との関係性の弱さが少し目立った。



## ② ワークショップの感想

ワークショップによって小浜市の食のまちづくりは地域循環共生圏に当てはまり、あらゆる取組がそれに準じていることが分かったと同時に、20年近くに及ぶ小浜市の取組によってでも地域循環共生圏を達成できていないという現実も浮き彫りとなり、問題提起の根本的な修正の必要性を感じた。また、一部の市民活動との関係性の弱さでは、過疎地区における自主的なコミュニティタクシーの運営といった「衰退上にある地域ニーズ」の取組に対して拾い上げられるような条文が見受けられなかったことから、現在の地域が求めているものと小浜市が求める地域の姿との間にギャップを感じた。

## ③ ワークショップ後に直面した事態

同年10月に小浜市の上根来集落が居住ゼロにより行政区から消滅するという市にとって初の事態が起きた。上根来集落は元住民やNPOや地元高校などが協働して、深刻な過疎地における地域やコミュニティの持続可能な在り方を探りながら地域活動を支えてきた集落である。ワークショップで浮かび上がってきた課題とこの事例が後押しとなり、活性化の文脈だけではなく、地域の持続可能性について止まらない人口減少を前提とした“縮小していく地域社会に適応する地域づくり”の重要性を再認識し、その観点から食のまちづくりと地域循環共生圏を掘り下げることにした。

## (イ) 小浜市地域循環共生圏フォーラム

### ① フォーラムの実施

「人口減少社会における地域の課題と食のまちづくり」をテーマに2020年12月20日(日)に実施し、計50名が参加した。基調講演に「撤退の農村計画」著者で金沢大学准教授の林直樹氏による講演を行い、講演内容に沿った事例として上根来集落の経緯や取組をNPO法人WACおばまから事例紹介を行った。その後、上根来の元住民団体やEPO中部を含めてパネルディスカッションや会場との意見交換を行った。フォーラムの参加対象として小浜市市民協働課の協力を仰ぎ、小浜市各地区の「まちづくり推進協議会」のメンバーから動員をかけた。

### ② フォーラムの感想

“縮小していく地域社会に適応する地域づくり”は、ともすれば地域の切り捨て議論になりかねず不安要素が大きかったが、現実起こった上根来の事態と林直樹氏による丁寧な学術的な観点からの補強により、大きな混乱もなく地域の方々と共有できたことは大変意義深く、参加者も肯定的に捉えた意見が多かったのも印象的であった。地域づくりは1つの方向性に依りかかるのではなく、幾つもの選択肢を想定して選び判断を下すところに地域の自主性が生まれ、持続可能な地域社会を築く土台になっていくものと感じた。



## (ウ) 事後調査の実施

### ① ワークショップに関する事後調査

小浜市市議会議員 K・H 氏

SDGs の重要性の理解がより深まった。またワークショップによって俯瞰的に見て小浜市の「食のまちづくり条例」がローカル SDGs とよばれる地域循環共生圏との相性が良いことも分かった。ただ、食のまちづくりも現実には様々な課題があるため、具体的にどうやって地域循環共生圏を実現していくのかはこのワークショップではまだ見え難いと感じた。

### ② フォーラムに関する事後調査

まちづくり協議会 O・T 氏

地域づくりにおいてこれからのキーワードは“持続可能性”や“地域循環”であると思った。また、地域の“撤退論”はおそらく 10 年くらい前の自分では受け入れられなかったと思うが、実際に地域の現場においては人口減少であらゆる役務が少数の個人に集中してきているし、地区もイベント地獄のようになっていて活性化どころか疲弊してきている現実があるため、今の自分にはその必要性が共感できてよく理解できる内容であった。

## ウ 協議会の運営

### (ア) 小浜市地域循環共生圏協議会

#### ① 行政との協議（縦割り行政の課題）

まず昨今のコロナ禍においての対応で協議会の調整が困難を極めた。そのため、前半においては主に NPO 法人 WAC おばまと行政間のみの最小体制でワークショップの前後に細かく時間を設けて協議を行った。小浜市人口増未来創造課（企画課）・環境衛生課・市民協働課・食のまちづくり課と小浜市における地域循環共生圏について意見を擦り合わせた。課題としては SDGs や地域循環共生圏、そして食のまちづくりのような幅広く横断的な概念を主体的に受け持ち率先して進めるような部署がどこも当てはまらず、また元より部署間の連携の希薄さもあり、テーマの焦点を絞り込む必要性を感じた。

#### ② 上根来集落との協議（フォーラムに向けての聞き取り調査）

フォーラムに向けてテーマを絞り込むきっかけとなった上根来集落では近い将来に廃村になる場合に備えて、今年度に元住民たちと「地域版エンディングノート」の制作ワークショップを行う予定だったが、コロナの影響と 10 月に行政区から消滅した理由である最後の住民の上根来区長が 7 月に逝去されるという不幸が重なり実施は叶わなかった。そのため、フォーラムで事例紹介する形で、元住民団体（百里会）に上根来の過去から現在に至るまでの経緯について聞き取り調査を行い、地域の了承を得た。

#### ③ まちづくり推進協議会との協議（コミュニティセンター化事業と地域循環共生圏）

今事業で見えてきた“縮小していく地域社会に適応する地域づくり”に対する課題として、小浜市の中で深く関わってくる事業と想定されるのが「地区公民館廃止からのコミュニティセンター化」であったため、1 月 26 日（火）に NPO 法人 WAC おばま・小浜市市民協働課・3 地区のまちづくり推進協議会代表者による 9 名で協議会を行った。上根来のように集落単位の維持が難しくなってきた現代において、地区単位まで範囲を広げて地域の運用を考えるコミュニティセンターの動きは必然と言えるが、地域の理解が難しくコミュニティセンター化は停滞している現状にある。地区側の意見としては、今の地域が求めているのは活性化のコンテンツよりも、人材が減っている中でも地域活動の数は増え続けて重荷になっている状況についての訴えが大きく、組織体制のスリム化や地域活動の整理や統合を求める声が目立った。また、そのような議論を内部から起こ

すのは難しいため、きっかけづくりや緩衝材になる中間組織の必要性も挙がり、地域循環共生圏のプラットフォーム構築との合致点も見られた。



## エ 情報共有

### (ア) 本事業における『地域版エンディングノートの作成』の検討

#### ① 地域版エンディングノートの経緯について

地域版エンディングノートは小浜市で最も過疎化が深刻な山間地域の上根来地区（集落）で実施する予定であった。上根来地区は当法人（NPO 法人 WAC おばま）が 10 年に渡り地域活動を支援してきた地域である。実質的な居住者はいないが地域から離れても元住民によるコミュニティ（元住民団体「百里会」）が存続し、外から通う形で地域の保全や維持が今もなされている特異な地域性に注目してきた。

地域住民と外部の NPO や地元高校との協働連携による様々な取組活動で地域を支えてきたが、誰もが近い将来に廃村になり得ることは感じていたため、保険的な取組として「地域の何を諦め、何を残すか」を整理する地域版エンディングノートを当法人から提案し、2019 年度から上根来区長及び百里会と検討を重ね、本事業のフォーラムで基調講演を頂いた金沢大学准教授の林直樹氏を招いてワークショップを行う計画を進めていた。

コロナによる 4 月からの緊急事態宣言を受け、事業の性質上密を避けられないため日程を延期した。その後 7 月に上根来区長の突然の訃報が届き、住民感情的にも事業を行える状況ではなくなった。そして、上根来区長が最後の住民票を持っていたため、10 月をもって上根来は行政区から消失する事態となった。

#### ② 聞き取り調査

報告書で述べたように上根来のような現実を踏まえて本事業の主軸を「縮小していく地域社会に適応するまちづくり」に移行し、林直樹氏が提唱する「撤退の農村計画」に着目した。撤退の議論は非常にデリケートでセンシティブな内容を含むが、現実起きた上根来の実例が訴求力になることが判った。

11 月には上根来では“これから”のことを考えられる状態にはまだなかったため、改めて歴史的な経緯を含む“これまで”のことを百里会中心に聞き取り調査を行ったところ、今も上根来が維持されている大きな要因として、百里会の現役世代の親世代が戦略的に描いた結果にあることが分かった。経済発展や外材の輸入によってあらゆる地場産業が衰退してしまった上根来において、地域の生き残りをかけた最後の産業が大規模畜産業であったが、それと同時に保険的にコミュニティを維持したまま麓への集落移転を画策していた。結果的に平成初期の食肉輸入自由化が致命傷となり廃業に至ったが、コミュニティは生き残って今の通う形で地域が保全される状況を生み出すことに成功していた。

#### ③ 小浜市地域循環共生圏フォーラムに向けて

12 月 3 日には金沢大学に向いて林直樹氏とフォーラムに向けて情報共有と意見交換を行い、上根来の経緯や状況は「撤退の農村計画」においても理想に近い形で進んでいることが理解できた。

#### ④ 今後について

行政区から消えても上根来の取組は続く。しかし依然として、現在の中心となっている世代から次の担い手となると厳しい現状にあるため、「地域の何を諦め、何を残すか」の問いは今後も必要であるが、このような問題は一つの地域といった“点”による視点だけでは解決し得ないものであると考えられることから、本事業によって小浜市全体で共有できた事実は希望に思う。

### (イ) 本事業を終えての感想：地域づくりには複数のシナリオを

#### ① 苦慮した点

今回の事業において一番苦慮したのは、仕様書に「食のまちづくり」と「地域版エンディングノート」というキーワードが同時に並べられていたことである。どちらも方向性が違うため、これまで住み分けて取り組んできていたことを一緒に混ぜて考えるというのに当初は混乱したが、最終的にはその混乱にあたる理由の部分がヒントになり前進したとも思える。

ワークショップで分かったのは、「小浜市の食のまちづくりは SDGs や地域循環共生圏に当てはまる」という“ただそれだけ”の事実であったが、“だから良い”ではなく、深刻なのはそれに 20 年近く取り組んできて尚衰退傾向にある地域の現実の方にあると思われた。

当初は自分自身“住み分けて考えていた”というように、食のまちづくりを活性化の観点から捉えていたため、足りないところを補強するようなイメージでいた。しかし担い手不足で喘いでいる地域の現状から考えれば、それを“誰が”やるのか他力本願的な期待にしか思えず、根本的なところから考えを改め直す必要に迫られた。

#### ② 地域循環共生圏に求めること

地域づくりにおいては、活性化の文脈を用いたコンテンツが持つ囃される風潮が感じられる。食のまちづくり然り、地域循環共生圏も地方創生を引っ張っているため活性化の文脈が目立つように見受けられる。確かにそのような活性化による上向きのベクトルの地域づくりも大切ではあるが、一方で地方の現実としては人口減少という間違いなく右肩下がりが続く要素を特に考慮しなければならないと思う。そこには本事業で見出した“縮小していく地域社会に適応する地域づくり”のように地域の撤退シナリオを含めた保険的な地域づくりの必要性を大いに感じた。また、そのようにシナリオを複数用意して戦略的に同時進行させることは、地域づくりに柔軟性と多様性が生まれるようになると思われる。

本事業ではそのような地域に潜在していたニーズを顕在化できたことに大変意義があるように思えた。おそらくまだこのような観点は一般化されていないと想像できるが、これからの時代ではより顕著に現れてくるのは確かだと思われる。可能であれば環境省の地域循環共生圏の中にも共有して頂きたい事柄であり、またこの小浜市でそれを示すことができるように努力していきたいと思う。

## (4) 活動の見える化

### (ア) 「活動見える化プログラム」のチャート図作成

- 2018 年度から構築に取り組んできた「活動見える化プログラム」のチャート図を、前項・富山地域業務、福井地域業務や、地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択団体である PF 尾鷲（おわせ SEA モデル協議会）、PF 小布施（北信スマート・テロワール協会）の事例において作成した。
- また、ESD 業務（次項で詳述）において実施した「ESD ネットワーク地方フォーラム」のイベントで SDGs 未来都市としての取組発表を行った富山県富山市、石川県金沢市、愛知県名古屋市について、取組内容を「活動見える化プログラム」のチャート図に整理した資料を作成、提示し、イベント内で学生とのディスカッションを実施した。

#### 【2020 年度作成チャート】

	事例名	活動団体／活動エリア	備考
①	持続可能で包摂的な社会実現に向けた中間支援的アクション	PEC とやま／富山県	協働コーディネーター連携業務（ワークショップでの検討材料資料等として作成）
②	福井県小浜市『食のまちづくり』条例第 5 章が求める活動	福井県小浜市	
③	おわせ SEA モデル	おわせ SEA モデル協議会／三重県尾鷲市	地域循環共生圏 PF 事業への支援（意見交換会への提示資料として作成）
④	種の図書館プロジェクト	OBUSE 食と農の未来会議、一般社団法人スマート・テロワール協会／長野県小布施町	
⑤	コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現	富山県富山市	ESD ネットワーク地方フォーラムで SDGs 未来都市の取組を発表（ディスカッション資料としてチャート作成）
⑥	IMAGINE KANAZAWA 2030	石川県金沢市	
⑦	なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ	愛知県名古屋市	

- ※ ①：前項「(2)協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【富山地域】」で開催したセミナー、フォーラムにおいて協議、フィードバックを行ったうえで、コアとなる事業についての「活動見える化プログラム」チャートを作成した。
- ※ ②：前項「(3)協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進【福井地域】」で実施したワークショップ、フォーラム、協議会において協議、フィードバックを行ったうえで、コアとなる事業についての「活動見える化プログラム」チャートを作成した。
- ※ ①～⑦の実際に作成したチャート図については、次頁以降を参照。

# ① 持続可能で包摂的な社会実現に向けた中間支援的アクション (PEC とやま/富山県)

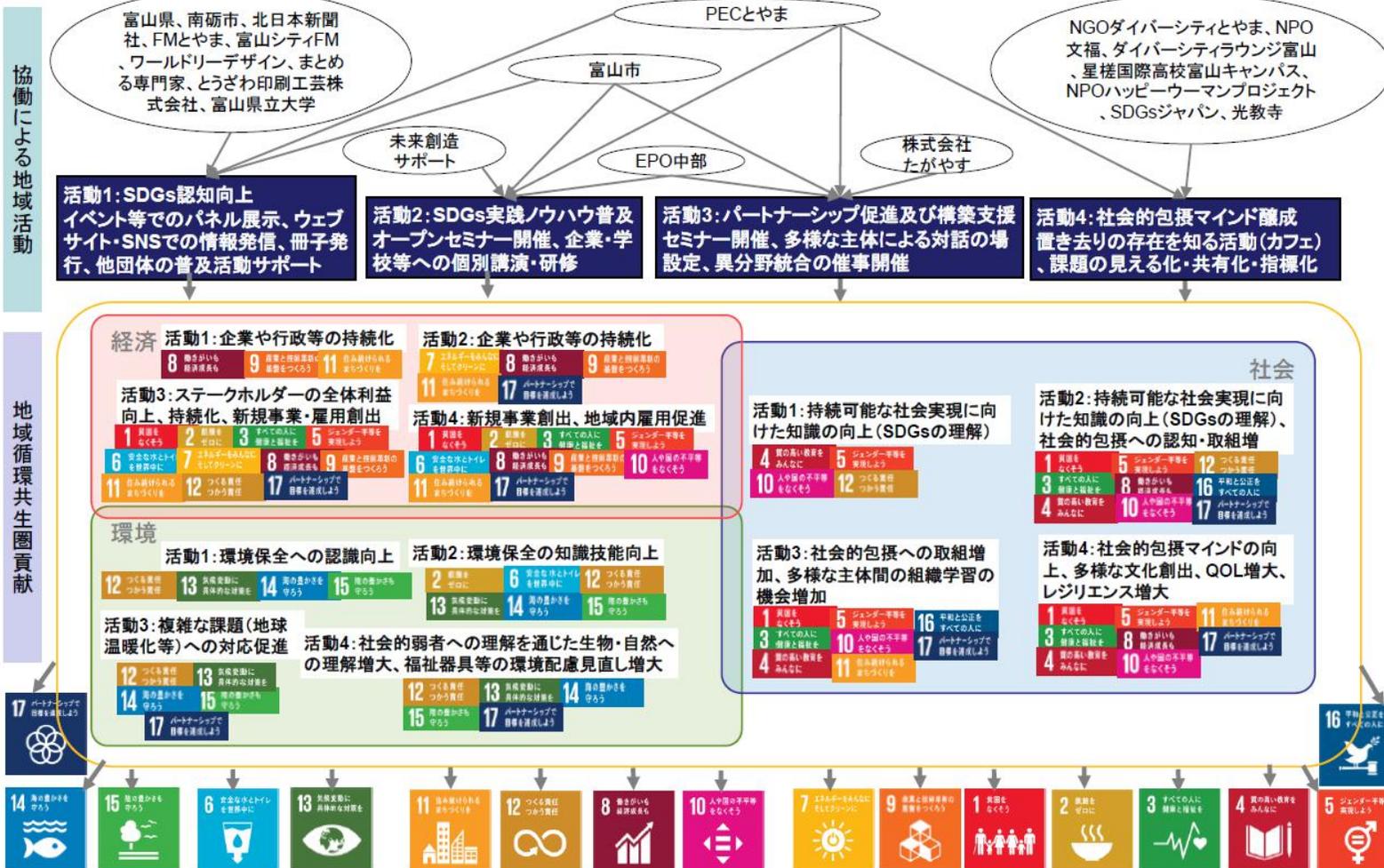
活動の意義(評価)  
分析チャート210224分析

## 持続可能で包摂的な社会実現に向けた中間支援的アクション

PECとやま

2021年1月

2016年5月、G7環境大臣会合に合わせて開催した「環境市民フォーラム」において参加者と採択した「環境市民宣言」にて持続可能な社会実現へむけたアクションの一般化、日常化を目指したプラットフォーム団体の設立が謳われ、その後中心人物の本田恭子氏の働きかけで主要メンバーが集められ、1年の準備期間を経てSDGsを標榜する団体設立を実現。2018年3月に地球環境基金の助成が決まったことにより、具体的なSDGs普及促進活動が可能となった。



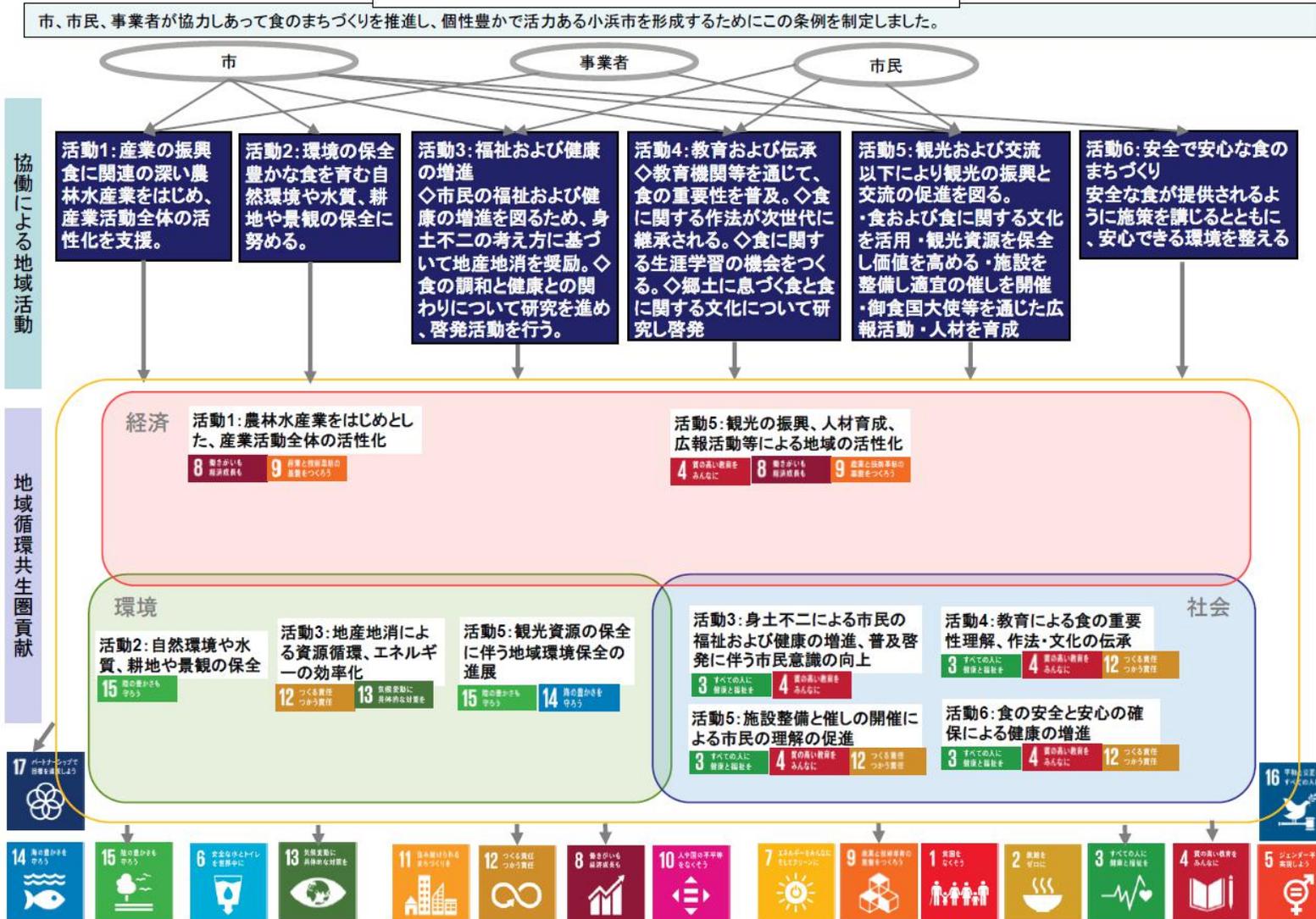
EPO中部: 原(2020)

## ② 福井県小浜市『食のまちづくり』条例第5章が求める活動（福井県小浜市）

活動の意義(評価)  
分析チャート200910分析

小浜市『食のまちづくり』条例第5章が求める活動

2002年4月～



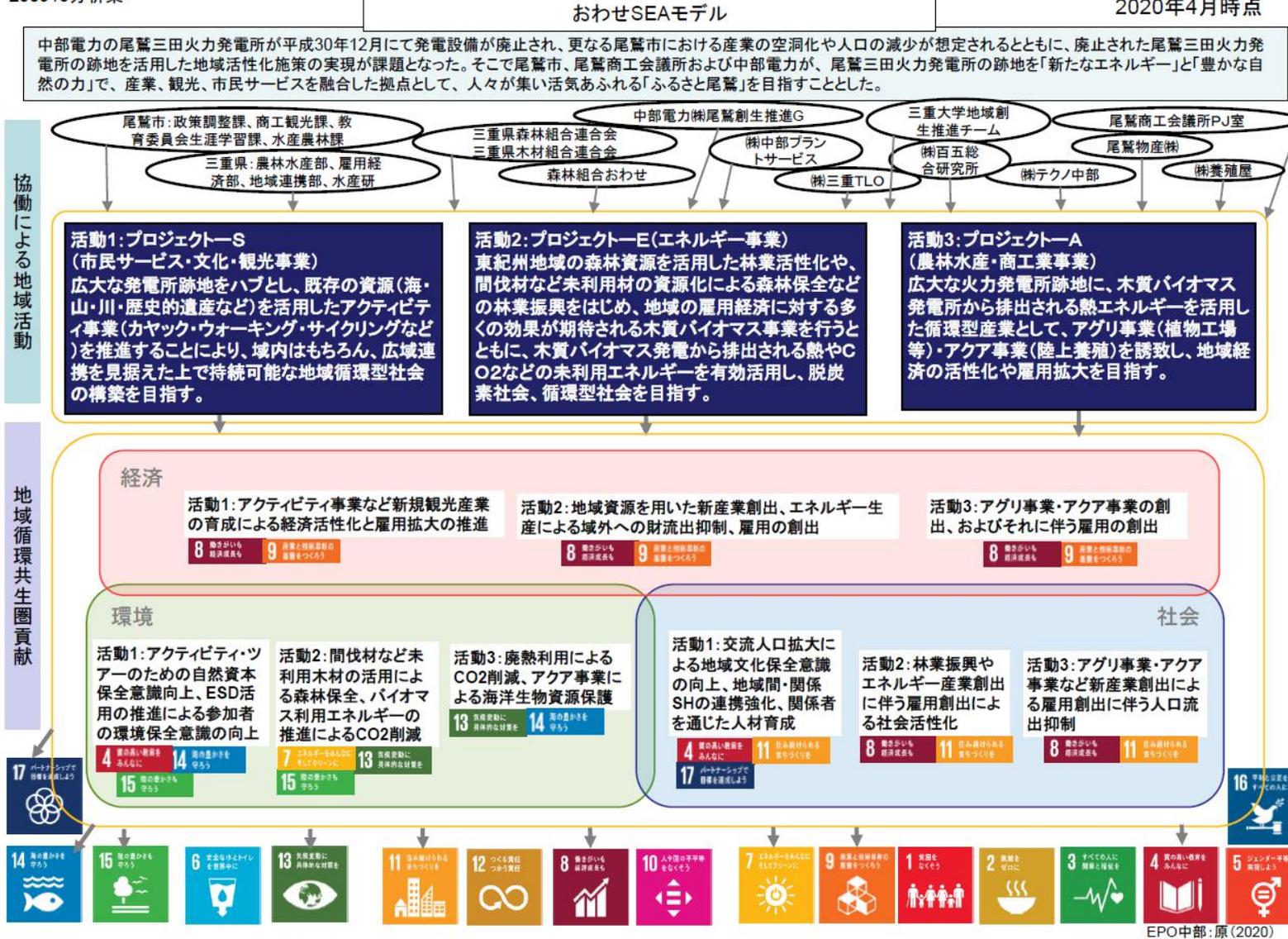
EPO中部:原(2020)

### ③ おわせ SEA モデル (おわせ SEA モデル協議会/三重県尾鷲市)

活動の意義(評価)分析チャート  
200915分析案

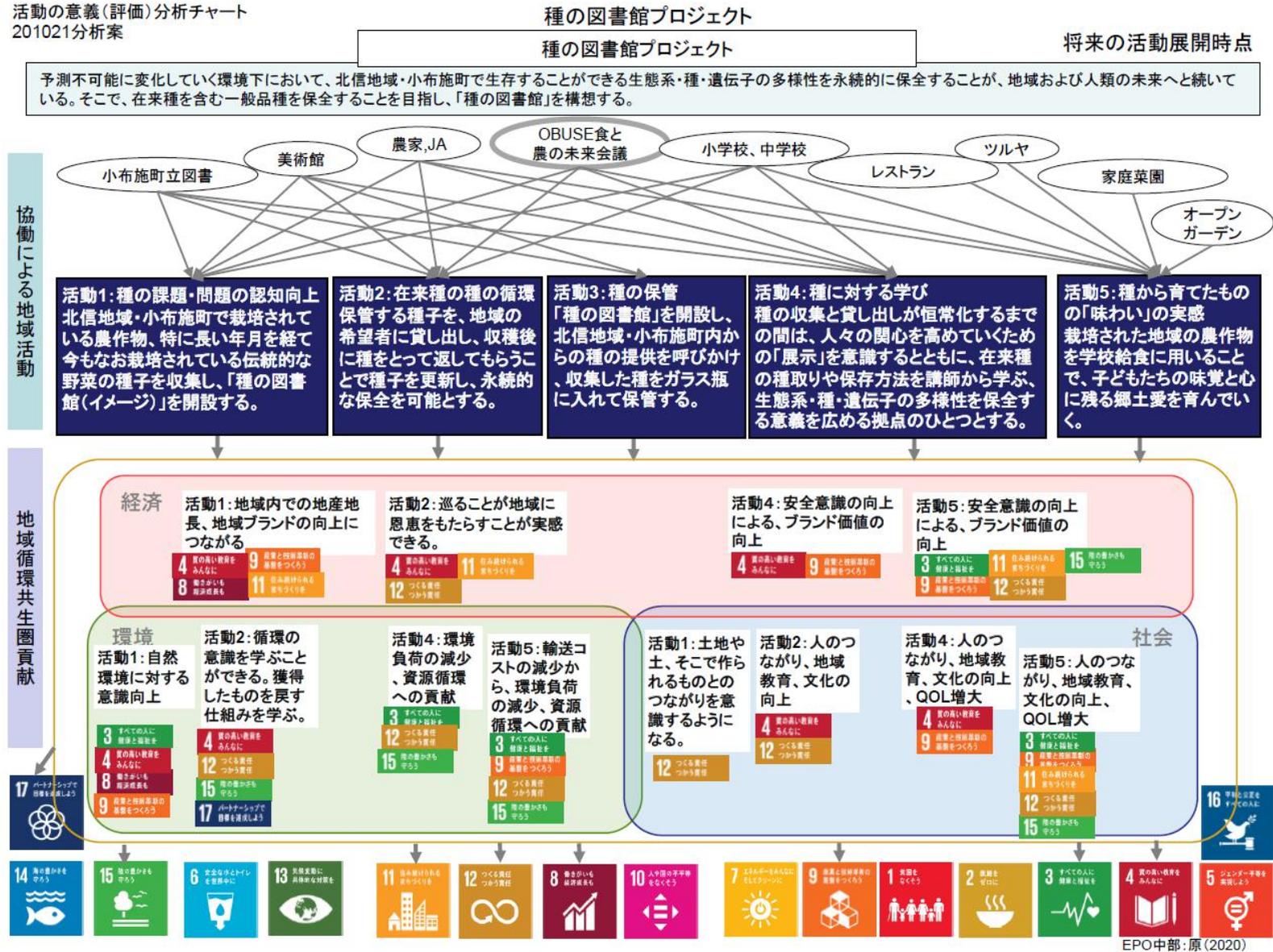
おわせSEAモデル

2020年4月時点



④ 種の図書館プロジェクト (OBUSE 食と農の未来会議、一般社団法人スマート・テロワール協会/長野県小布施町)

活動の意義(評価)分析チャート  
201021分析案



# ⑤ コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現（富山県富山市）

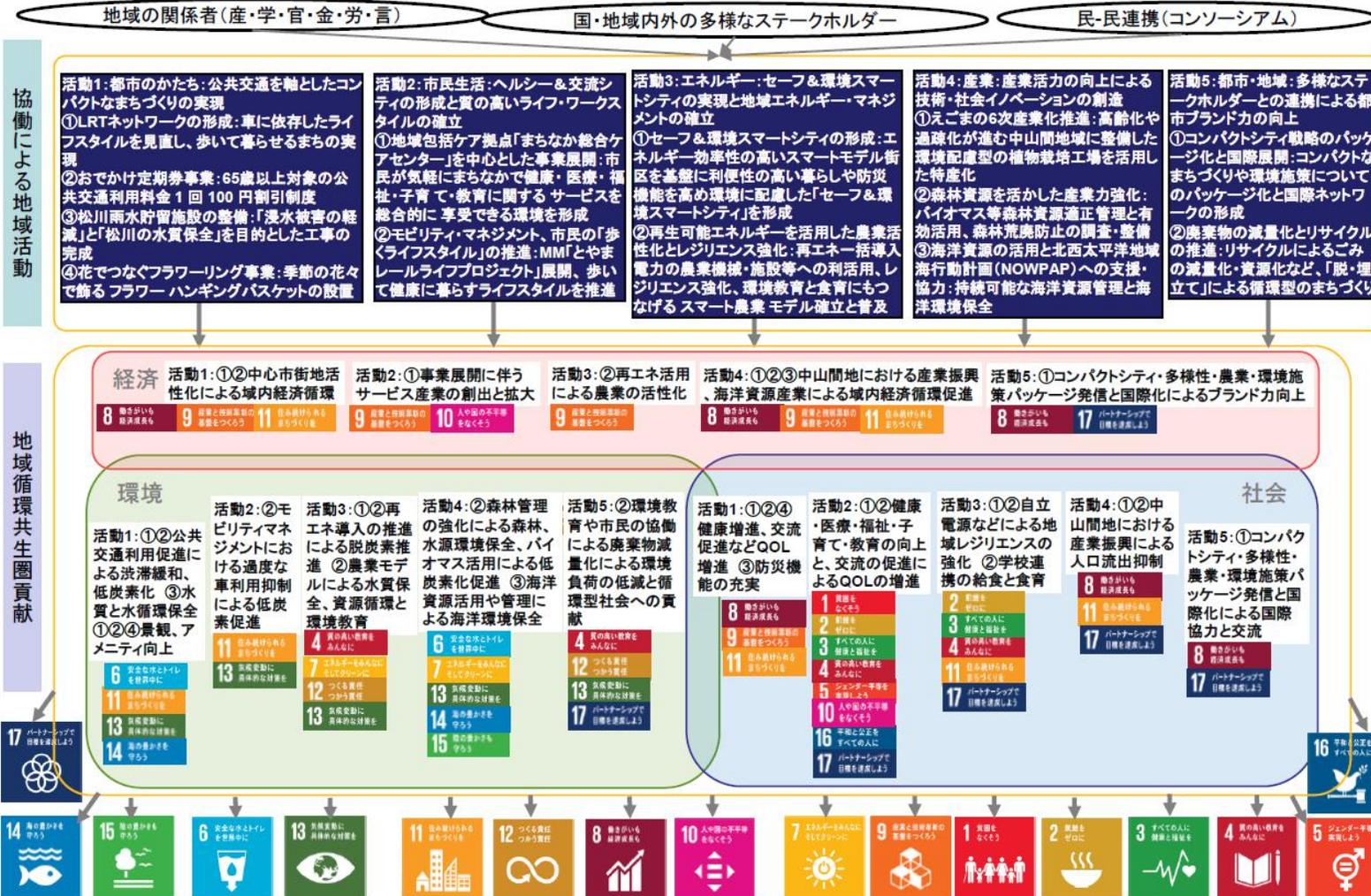
活動の意義(評価)分析チャート  
分析案

富山市SDGs未来都市計画

2017年3月計画策定～  
2020年12月現在

## コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市の実現

これまでの環境モデル都市、環境未来都市の取組を経済価値、社会価値、環境価値の統合による都市創造のスパイラルアップの視点から発展させ、SDGs未来都市「コンパクトシティ戦略による持続可能な付加価値創造都市」の実現を目指します。



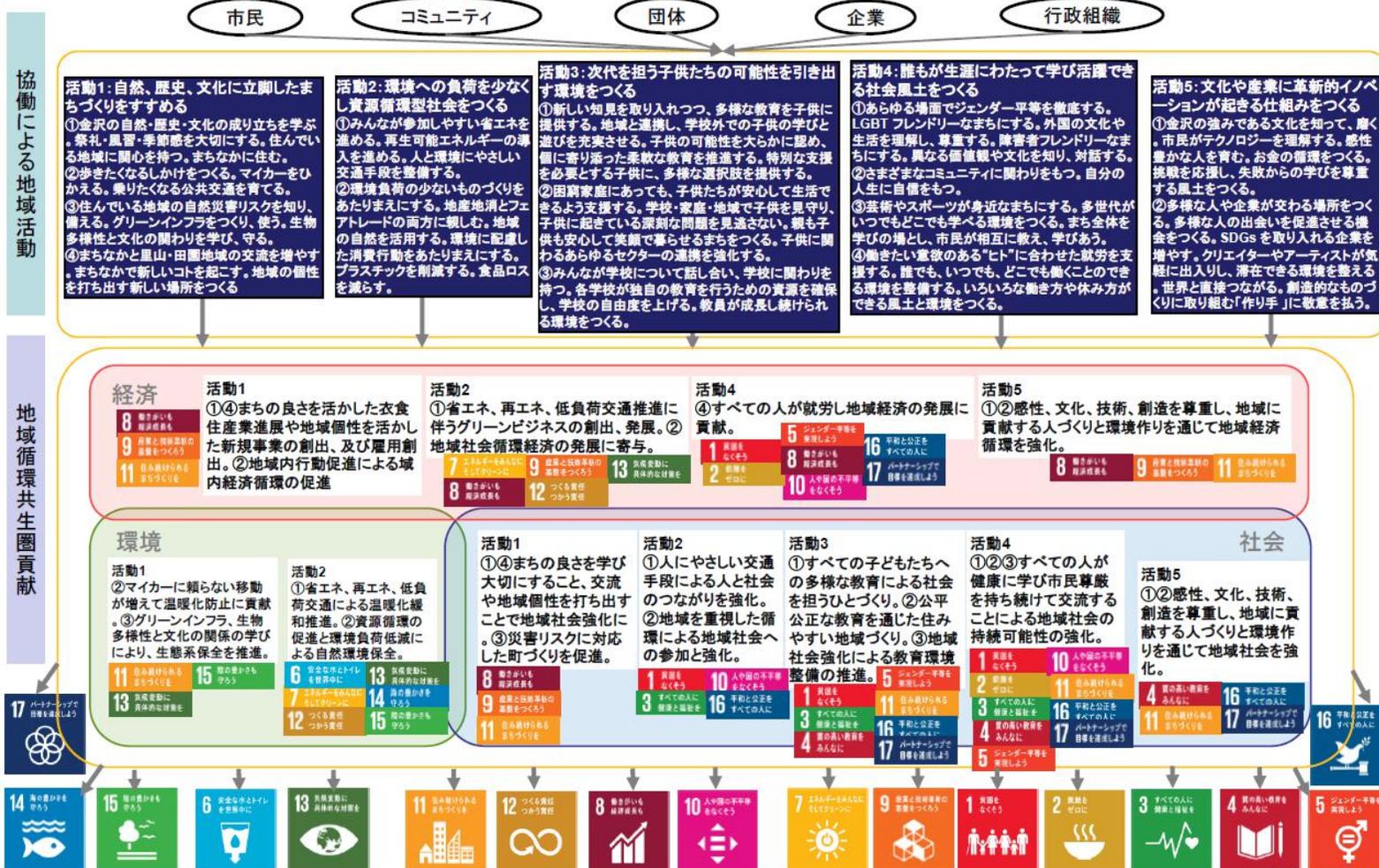
⑥ IMAGINE KANAZAWA 2030 (石川県金沢市)

活動の意義(評価)分析チャート  
210113分析表

IMAGINEKANAZAWA2030  
IMAGINEKANAZAWA2030

2018年7月～ 2020年6月の活動により策定したビジョンによる未来予想

持続可能な金沢をパートナーシップで実現するプロジェクトです。SDGsを達成するためには、多様な主体が立場や世代を超えてつながり、未来のありたい姿を考えること、そしてそのために今からできるアクションを起こしていくことが重要です。IMAGINE KANAZAWA 2030では、市民、地域、NPO、企業、行政など様々な主体が集まり、今、金沢が抱えている問題を一緒に考え、解決に向けて対話を重ねていく場を提供します。そして、多様な主体がつながることで大きな力を生み出し、みなさんと一緒に金沢のミライをつくります。



EPO中部:原(2021)

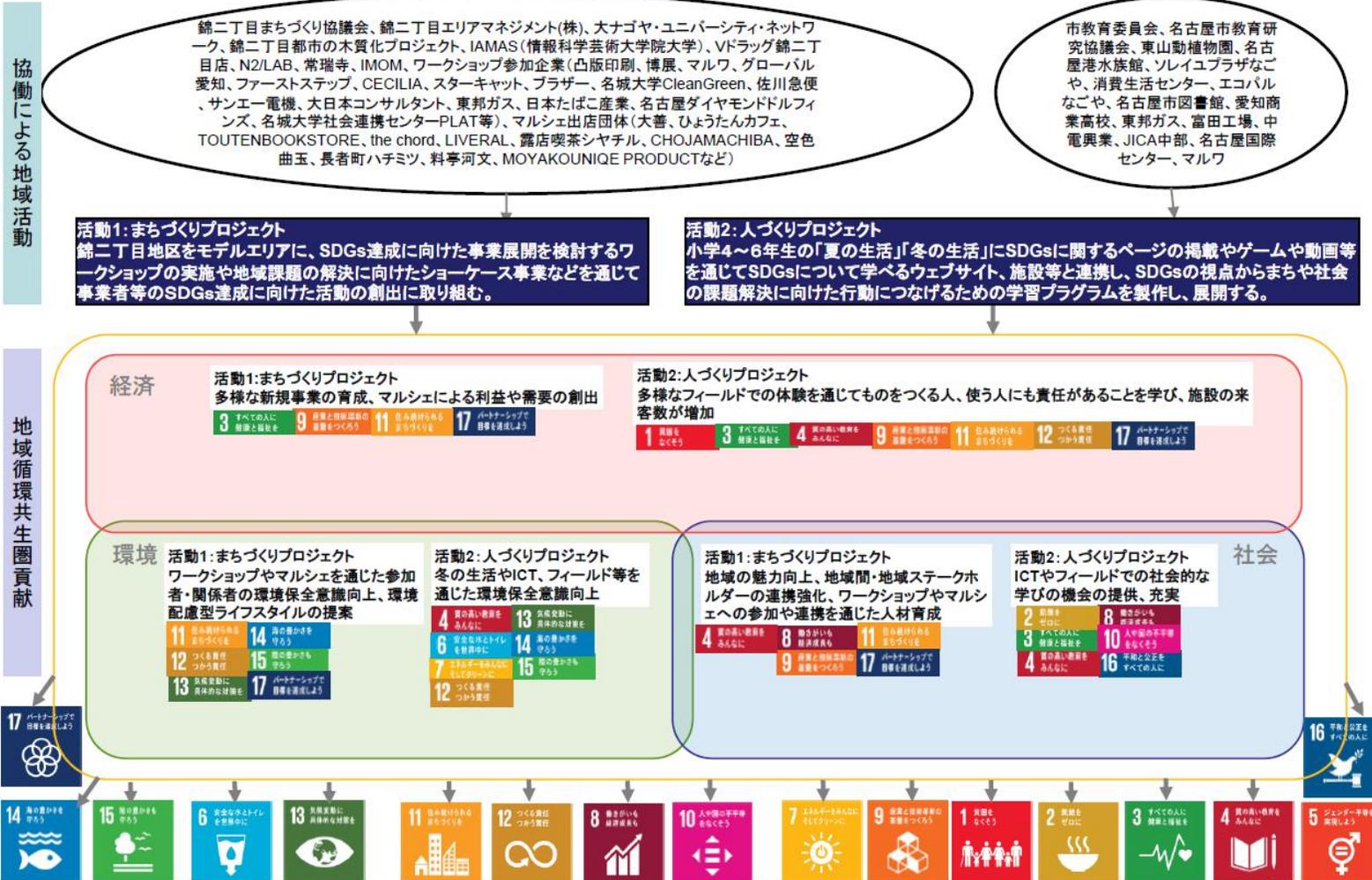
⑦ なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ (愛知名古屋市)

活動の意義(評価)分析チャート  
210120分析案

なごや環境大学SDGs未来創造クラブ  
なごや環境大学SDGs未来創造クラブ

2020年12月時点

名古屋市は、令和元年7月に内閣府より時速可能な開発目標の達成に優れた取組を提案する「SDGs未来都市」に選定された。本市の持続可能な都市の実現をはかるため、令和2年4月になごや環境大学にSDGs未来創造クラブを設置し、まちづくりと人づくりの2つのプロジェクトを推進し、市民や企業によるSDGs達成に向けた活動や行動の創出に取り組む。



EPO中部:原(2021)

## (イ)「活動見える化プログラム」の活用

### ① 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業での活用

- 作成した活動見える化プログラムのチャート図については、作成過程で各団体による確認工程を経て、作成後は各団体で活用いただけるようフィードバックを行った。
- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の PF 尾鷲、PF 小布施については、チャート図を事業の一環として実施した「意見交換会」で活用した（「6. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務」参照）。

### ② Web サイトでの公開

- 「活動見える化プログラム」の概説及びチャート図を、EPO 中部 Web サイト（リニューアル公開後）に掲載し、2019年度作成の3つのケーススタディの事例チャートと共に、2020年度作成チャートを公開した。
- また、Webサイトでの公開については、EPO 中部による協働プロジェクト、地域循環共生圏関連事業の事例として、チャートの形に整理して継続的に事例蓄積を行うこととした。

### 【EPO 中部ウェブサイトの「活動見える化プログラム」コーナー】

<https://www.epo-chubu.jp/tool/mieruka-program>

## 活動見える化プログラム

**活動見える化プログラムとは**

EPO中部では協働取組の支援のため、「活動見える化プログラム」を構築しています。これは多面的な地域の活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法です。

このプログラムによる分析を通じて、対象となる活動がどのような経緯で行われてきたか、現在どのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているかなど「可視化」することで活動当事者は内容を改めて認識することができます。その結果として、協働の取組を発展させ、関係者の今後の取組に活かしていただければと考えています。

「活動見える化プログラム」に関心のある方、自分たちの活動で実施してみたい方はEPO中部へご連絡ください。

**環境保全活動等の取組**

現状

地域環境課題の認識

↓

現状の取組・活動

↓

取組・活動の成果

↓

課題の洗い出し

↓

新しい活動ビジョンとプラン

↓

将来の取組・活動

↓

取組・活動の成果

↓

SDGs貢献(将来)

**様々な関係主体の連携**

現状

関係者の集合・連携

↓

現状の連携・協力

↓

将来の連携・協力

見える化プログラムで可視化!

**複雑な協働取組の現場を「見える化」します**

### カテゴリ

- 活動見える化プログラム →
- 2019年度作成：活動見える化プログラムの分析チャート →
- 2020年度作成：活動見える化プログラムの分析チャート →
- SDGs →
- EPO中部・協働コーディネーターのリスト →
- 中部の環境イベントリスト →
- EPO中部関連業務報告書アーカイブ →
- その他 →

EPO中部：原(2019)

## 「活動見える化プログラム」の分析チャート事例集

実際に作成した、自治体やNPO等による活動・事業等の分析チャート図の事例もご覧ください。

### 2020年度に作成したチャート図

- ▶ 福井県小浜市「食のまちづくり」条例第5章が求める活動（福井県小浜市）
- ▶ おわせSEAモデル（おわせSEAモデル協議会／三重県尾鷲市）
- ▶ 種の図書館プロジェクト（OBUSE食と農の未来会議、一般社団法人スマート・テロワール協会／長野県小布施町）

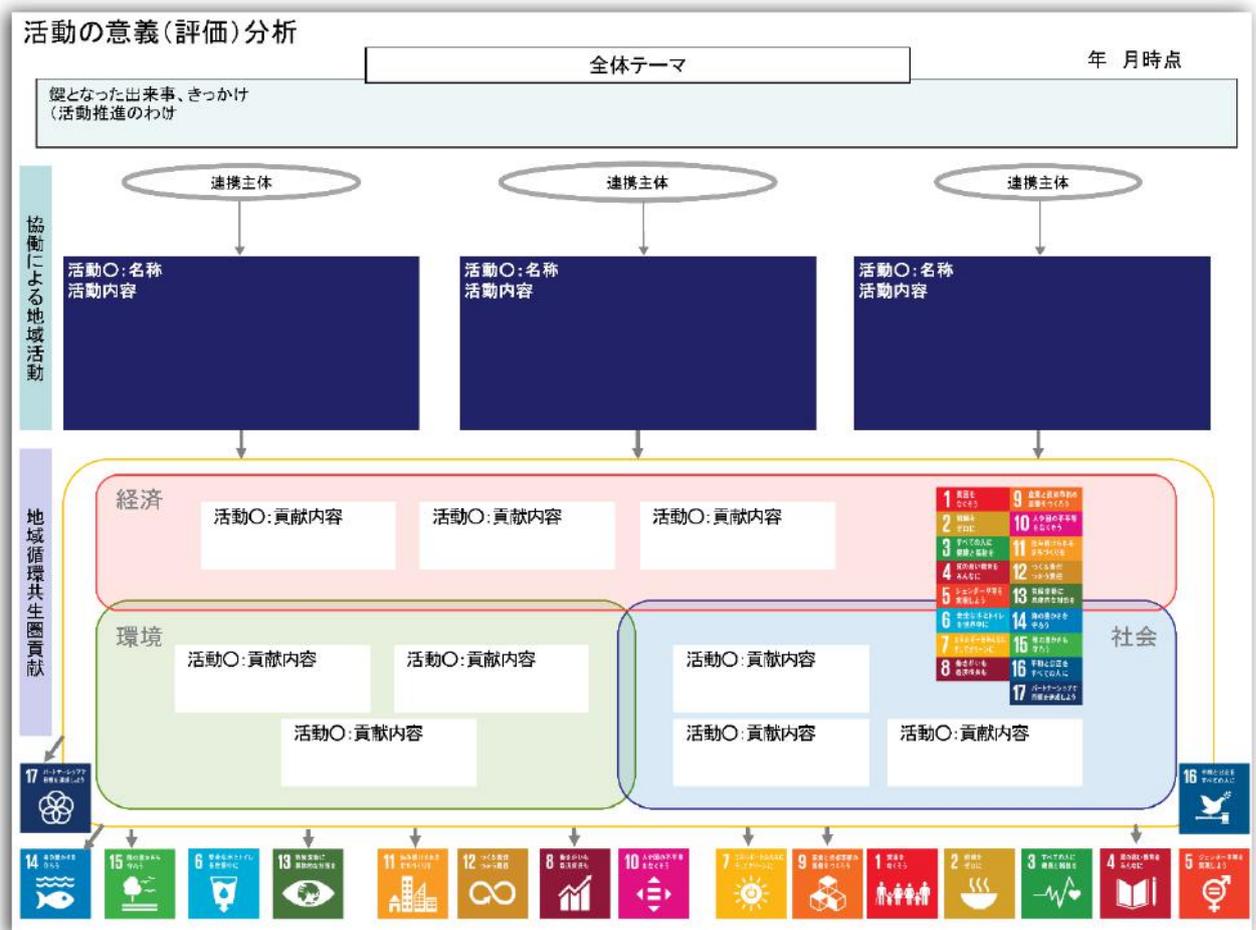
### 2019年度に作成したチャート図

- ▶ 同時解決事業・里山保全体験を通じた障がい者雇用促進（里山ウェルネス研究会／長野県飯山市）
- ▶ 高校と連携したアブラギリ（桐油）資源化活動（NPO法人WACおばま、NPO法人若狭くらしに水舎／福井県小浜市）
- ▶ 「南砺市版エコレレッジ事業」の深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～（富山県南砺市）

### ③ 作成フロー・基本モデルの提示

- 「活動見える化プログラム」のチャート図は、これまでのプログラム構築のためのケーススタディ等において、事例の取組団体へのヒアリング、分析表への記入等の過程を経て、次チャートを現時点の基本モデルの完成形としている。

#### 【活動見える化チャートの基本モデル】



- チャート図の作成方法（チャート作成事例の取組団体へのヒアリング事項、作成過程で記入する分析表等）について整理し、次スライドにとりまとめて解説資料として公開、活用している。

## 活動見える化プログラムとは

地域循環共生圏やSDGsを念頭に置いた取組は、実践している協働取組がどのように貢献しているかを認識することが重要

活動見える化プログラム 多面的な地域の活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化するための分析手法

目的  
対象となる活動がどのように連携して行われているか、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているか、など「可視化」することで活動当事者が内容を認識する。

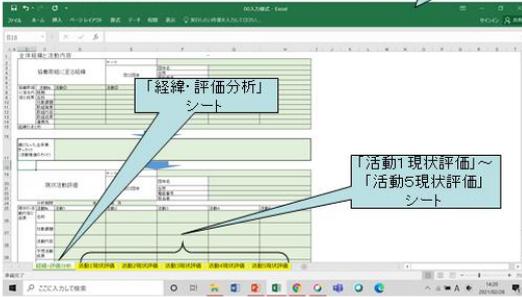
- ・様々な活動に対して誰が協働しているのか
  - ・その活動が環境、経済、社会にどう貢献しているのか
  - ・その活動がどのSDGsに貢献するのか
- 複数の活動をまとめて表示

## 活動見える化プログラム分析

分析表の入力1: 00入力様式

- ・分析表に活動内容を入力します。
- ・EXCELファイル「00入力様式」を使います。
- ・「経緯・評価分析」シート、「活動1現状評価」～「活動5現状評価」シートから構成されています。
- ・最初に取組内容を「5つ以内の活動に分けてください(一つだけでも構いません)。

EXCELファイル「00入力様式」



2

## 活動見える化プログラム分析

分析表の入力2: 「経緯・評価分析」シート

- ・最初に「経緯・評価分析」シートの「緑の網掛けセル」に入力します。
- ・2行目から15行目「協働取組に至る経緯」は過去を振り返るためのものですので、現状や将来の分析には必要ありません。入力しなくても分析は進められます。
- ・「現状活動評価」の活動1～活動5の欄に入力します(空欄があっても構いません)。

「経緯・評価分析」シート

現在の取組に至った経緯やきっかけ、概要を入力します。

きっかけの前にどんな活動を行っていたかを入力する欄です。分析チャートそのものには関係ありません。入力しなくても結構です。

分けた活動それぞれについて、「名称」、「対象課題」、「活動内容」、「予想活動成果」、「連携先」、「活動に対する現状の評価と課題」を入力します。

緑色の欄のみ入力してください。(他の部分を変更すると分析ができなくなります)

3

分析表入力例

「経緯・評価分析」シート

分析チャートそのものには関係ありません。この例では入力していません。

この例では活動を3つに分けて記入しています。

記入しやすいように連行の高さは変更してください。

出力すると、活動経緯から現在の活動内容を一目で眺めることができます。

4

## 活動見える化プログラム分析

分析表の入力: 「活動〇現状評価」シート

- ・「経緯・評価分析」シートに入力した内容は「活動〇現状評価」シートに反映されます。
- ・「活動〇現状評価」シートのそれぞれの「緑の網掛けセル」に入力します。
- ・それぞれの「活動〇」の内容を振り返り、「環境」、「社会」、「経済」ごとにどんな形で貢献しているかを入力します(具体的に)。これが地域循環共生圏への貢献と考えられます。
- ・「環境」、「社会」、「経済」の記載内容を参考に、SDGsで関連していると思われるゴールに●を付けます。これらが活動が貢献するSDGsの各ゴールと考えられます。

「経緯・評価分析」シートへの入力反映されます。

活動内容から「環境」、「社会」、「経済」への貢献を入力します。

関連するSDGsに●を付けます。

分析表入力例

「活動〇現状評価」シート

見やすいように連行の高さは変更してください。

分けた活動それぞれについて、内容から地域循環共生圏への「環境」、「社会」、「経済」への貢献とSDGsの関わりを一目で眺めることができます。

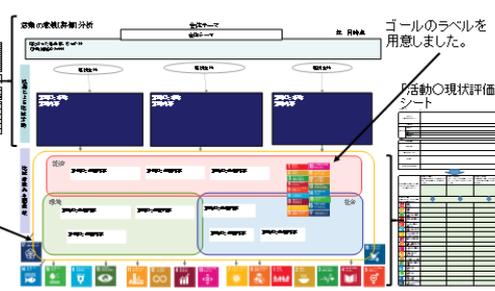
6

## 活動見える化プログラム分析

分析チャートの作成

- ・パワーポイントファイル「00分析チャート様式」を使います。
- ・チャートの上半分、「全体テーマ」、「親となった出来事、きっかけ」、「連携主体」、「活動〇:名称、活動内容」については、「経緯・評価分析」シートから転記します。
- ・チャートの下半分、「活動〇:貢献内容」については、「活動〇現状評価」シートから転記します。SDGsとの関連についてはそれぞれ貢献内容にゴールのラベルをコピーし、関係しているゴールに矢印を付けるなどで表現します(ゴールのラベルを添付しています)。

「経緯・評価分析」シート



ゴールのラベルを用意しました。

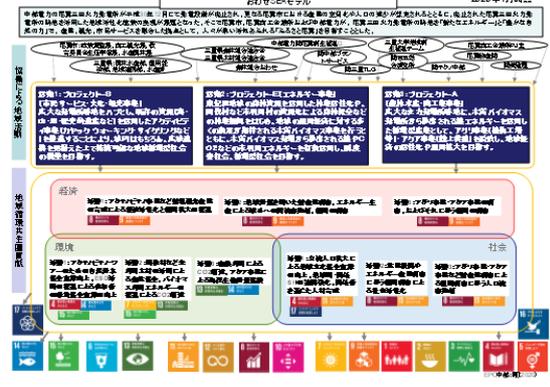
「活動〇現状評価」シート

関連するSDGsに対して矢印を付けます。

- ・作成例を参考に見やすいように工夫して表現してください。特に決まりはないので、使いやすいように作っていただければ構いません。

分析チャート作成例

活動の連携(経緯)分析チャート



8

## 5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務

### (1) ESD 活動を支援するための情報共有等

#### ア ESD のための SDGs チェックリストの活用及びパッケージ化

##### (ア) SDGs チェックリスト活用セミナーの開催

###### ① 日時

- 2020年6月29日(月) 13:30~16:00

###### ② 開催方法

- オンライン開催 (YouTube ライブ配信、後日公開)

###### ③ 参加者 (及び視聴者)

- 計 49 名
- ライブ参加…31 名 (コア参加: 4 名/聴講 (YouTube 視聴): 27 名※ユニーク視聴者数)
- 開催後の録画配信…視聴者 18 名 (※6月29日~7月8日公開期間中のユニーク視聴者数)
- その後も YouTube で公開中 (<https://youtu.be/etIuTlXFz3Q>)



###### ④ プログラム

開会/挨拶とご案内 (オリエンテーション) / コア参加者紹介

【第1部】体験しよう! 実は身近な SDGs

「SDGs ってなんだ?」SDGs 内容に関する話題提供、クイズ、質疑

「身近な SDGs を考えてみよう!」SDGs チェックリスト、ワークシートの記入体験、コア参加者の発表

【第2部】SDGs チェックリスト活用ファシリテーター講座

「ツールパッケージについて」各ツールの内容と想定する使用場面の説明、質疑

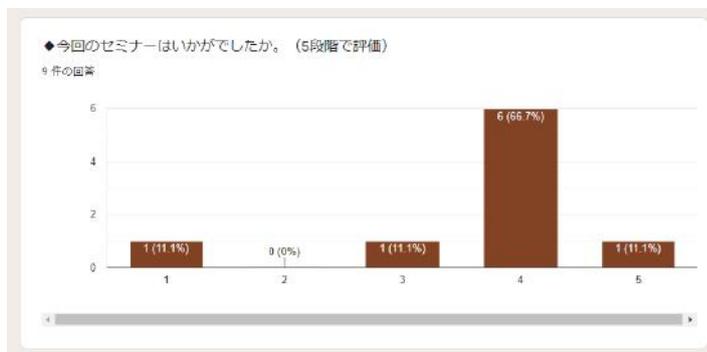
「コア参加者ワークショップ」SDGs チェックリスト活用企画ワークショップ、ディスカッション、まとめ

終了挨拶

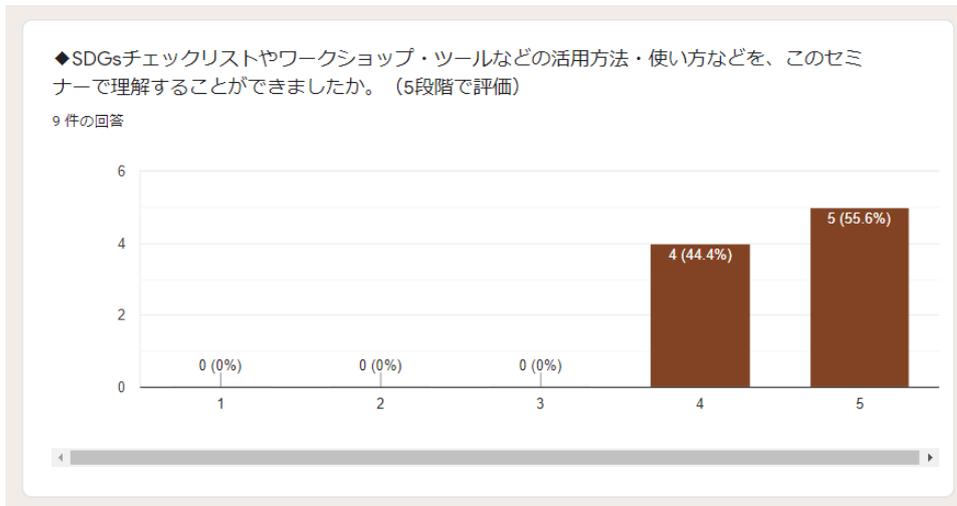
〔進行〕原 理史 (中部地方 ESD 活動支援センター)

###### ⑤ 参加者アンケート結果

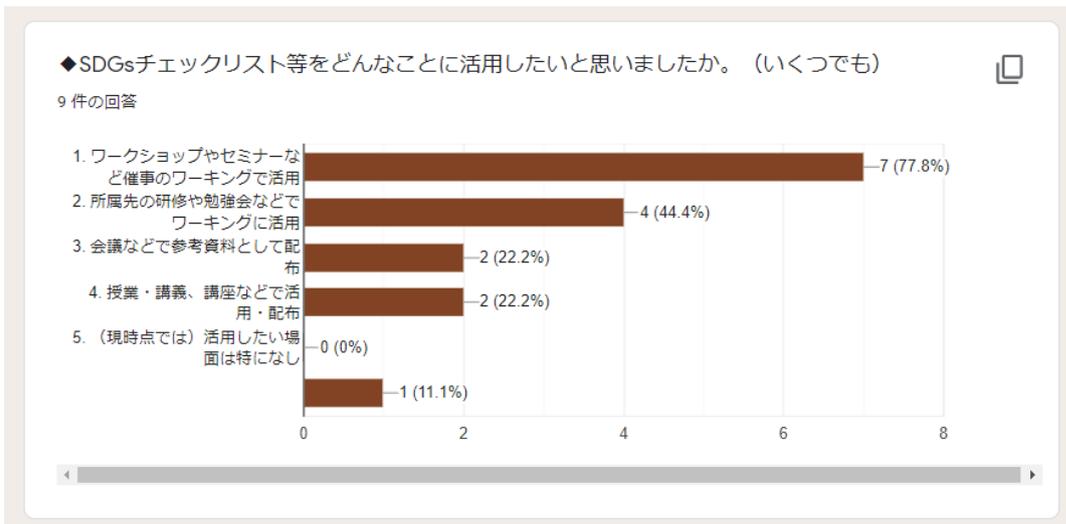
- 今回のセミナーに対し、アンケートに回答した9名のうち、5段階評価【5=たいへん良かった/1=良くなかった】において、[5] または [4] を選択した方が7名、[1] を選択した方が1名となっている。



- セミナーの内容理解について、アンケートに回答した9名のうち、5段階評価【5=たいへんよく理解できた/1=全くわからなかった】において、[5]を選択した方が5名、[4]を選択した方が4名で、[1]・[2]・[3]を選択した回答者はいない。



- SDGs チェックリストの活用方法について、アンケートに回答した9名のうち、「ワークショップやセミナーなど催事のワーキングで活用」を選択した方が7名で最も多く、続いて「所属先の研修や勉強会などでワーキングに活用」を選択した方が4名いる。「会議などで参考資料として配布」および「授業・講義、講座などで活用・配布」はそれぞれ2名いる。



- SDGs や ESD (持続可能な開発のための教育・人づくり) についてのセミナー、フォーラム等で、参加してみたい、開催してほしい催事等については、「オン・オフラインを混ぜたワークショップのノウハウについて」「企業と市民団体が参加して、協働して学ぶセミナーがあれば参加したい」「今回は環境に詳しい方が多かったが、いろんな分野の方がいるセミナーに参加してみたい」といった記述がある。

- SDGs チェックリストに対する意見、セミナーの感想などについては、7名が回答しており、その他1名がメールで感想を送付している。

◆SDGsチェックリストに対するご意見、本日の感想などを自由に記入してください。

7件の回答

チェックリストの形式はオーソドックスと思います。「あなたはすでにSDGsに貢献している」のフレーズは同感で納得です。

自分たちの活動に合うよう修正を少しさせていただいて、活用させていただきます。

普段自分の行っていることをSDGs目線で多面的に認識するのにとても役立つと感じました。学校教育での導入にも向いていると思いました。

SDGsのみではなく、環境や温暖化に関して時々小学生などに話す機会があります。その中にSDGsを入れて話をしますが、今回はとても参考になり利用したいと思いました。

オンラインセミナーは、移動しなくてよく、画面上の人に話すので、気楽になる。一方で、集中していないと聞き逃すので疲れます。  
チェックリストは、自分がどんなSDGsに貢献しているかがよくわかるいいチェックツールだと思います。導入（つかみ）は講師役がそれぞれ工夫すること、落としどころ（次の一步）は、今回のような機会をつくり、深められるといいなと思います。

チェックリストの取り組み内容の記入が難しかったです。（細かいことを書いたほうがいいのか、会社の事業を書いたほうがいいのか等）ゴール・ワーキングシートは結び付けがしやすく、わかりやすかったです。

多言語バージョンまたは優しい日本語バージョンがあれば、留学生だけではなく、日本に在留している外国人にもSDGsの教育を提供できるでしょう

#### ▼その他メールで寄せられた感想

——研修会に、聴講参加させていただきました。途中中抜けを余儀なくされましたが、それでも大変勉強になりました。中でも、お風呂のくだりで、日本の価値観とバクさんの香港の価値観の違いに大いに気づきがありました。日本から湯舟をはった入浴をとることは不可能だと思いますので、互いの文化を理解するということの大切さ、そうすると自国のために経済を優先させようとする国々の動きとも重なり、大いに議論の余地があると感じました。海外から見ると日本の入浴文化は不経済に感じるように、当該国の立場に立った視点が大切かと。また、本日はチェックシートの使い方とのことで、このチェックシートは、小中学校でも大いに参考になると個人的に関心を持たせていただいていたので、SDGsにかかわっているかという視点で、2種類のワークシートは有効だと思いましたし、子どもたちにも分かりやすい文章に変換したうえで実施させたいと思いました。また、平和な日本の学校の子どもたちや、日本の事業所にはあてはまらない項目がいくつもあると思います。そのうえで、16の目標について、その環境にあったものをいくつでもいいので、自ら作成、共有し、実践していくスタイルもありかと感じました。(所属/行政機関)

### (イ) セミナー参加者による自主企画ワークショップ

- 上記のSDGsチェックリスト活用セミナーに参加した地域ESD拠点等による自主企画のSDGsチェックリスト活用ワークショップが開催されており、それぞれ開催報告が提出された。

#### 【自主企画ワークショップの実施状況】

セミナー参加・自主企画実施団体	実施日	備考
一般社団法人 グローバル愛知	7月29日	SDGsチェックリストについての問合せをきっかけにセミナー参加、その後に地域ESD拠点にも登録
一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま	10月5日	地域ESD拠点登録団体 ※EPO中部・協働コーディネーター所属団体
一般社団法人 ネクストステップ研究会	10月28日	地域ESD拠点登録団体 ※EPO中部・協働コーディネーター所属団体

## 【第2回中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会資料より】

### ESD拠点自主企画展開

#### ②会場(株)テクノプラスト(名古屋市)

ESD拠点(一社)グローバル愛知の自主企画により、チェックリストを活用して社員研修にてSDGsワークショップを実施。

(一社)グローバル愛知  
2020年7月29日  
講座32人、オンライン参加8人



#### ③PECとやま

「SDGsチェックリスト」を体験し、活用法を考える

PECとやま

2020年10月5日

参加者：4名



#### ④ネクストステップ

4人のゲストスピーカーをZoomでつないで、ESD拠点スタッフがファシリテーターを務めながら実施する講座を、YouTubeで視聴するように設定。「SDGs17ゴール・ワーキング用シート」を基に、パワーポイント上で動かせるようにして使用。

ネクストステップ

2020年10月5日  
視聴参加者：34人



12

### (ウ) パッケージ化したツールの公開

- SDGs チェックリストをワークショップ等で活用するためのツール一式をパッケージ化し、中部地方 ESD 活動支援センターWeb サイトにおいて、セミナーの様子を録画した YouTube 動画と共に公開した。
- リニューアル後の EPO 中部 Web サイトでも SDGs ツールとして紹介・掲載した。
- これまでに、自治体、企業等から活用したい、使用許可を得たいなどの問合せが入っている。

### 【公開したパッケージツール（中部地方 ESD 活動支援センターWeb サイト）】

2020.03.31 SDGsチェックリスト

新バージョンの「SDGsチェックリスト」をご活用ください！

SDGsチェックリストとは、中部地方ESD活動支援センターが作成した、事業や活動を17のゴールに関連付ける、気づきのためのチェックリスト型ツールです。

この度、新バージョンが完成しました。ぜひご活用ください！

#### ●SDGsチェックリスト（基本段階版）

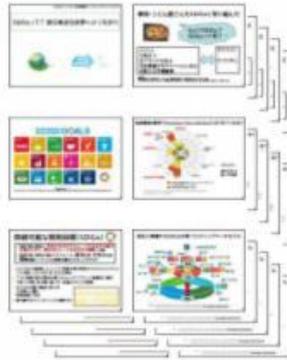
事業や活動をリスト化してチェックし、SDGsとの関連を考えます。

▶SDGsチェックリスト（基本段階版）のダウンロードは[こちら](#) [PDF/295KB]



●SDGsチェックリスト（基本段階版）ワークショップパッケージスライド

▶パッケージスライドのダウンロードはこちら[PDF/2545KB]



●SDGsチェックリスト（事業所活用版）

さらなるSDGs取組のため「SDGsチェックリスト（事業所活用版）」を用意しました。

▶SDGsチェックリスト（事業所活用版）のダウンロードはこちら[PDF/303KB]

～参考資料～

●SDGsチェックリスト活用ガイド

参考までに、チェックリストの活用方法等について紹介している資料です。

▶SDGsチェックリスト活用ガイドのダウンロードはこちら[PDF/2210KB]



**SDGsチェックリストとは…**

私たちのすべての事業や活動は、地域や世界などを通じて社会に、世界に広がっています。そして、あらゆる企業、サービス、その他の事業はその活動を通して多くの人の生活や社会から影響を与えています。その影響が持続可能な社会のために好影響（プラス）であることが望まれます。SDGsは2030年に達成を目指す、世界で最も重要な目標です。今、世界が抱える課題としてSDGsが世界に知られ、世界中で注目されています。自分たちの事業や活動がSDGsの目標に対してどのように関わっているかを考えることが重要です。

SDGsチェックリストとは、中部地方ESD活動支援センターが作成した、事業や活動を17のゴールに分類できる、先づきのためのチェックリストツールです。



**事業や活動をリスト化してチェックし、SDGsとの関連を考えます**



事業や活動をリスト化して記入する

該当が考えできるところにチェックを入れる

関係しているSDG目標には○を、関係が薄いSDG目標には△をつける

●記入したシート例（ワークショップでの活用例）は[コチラ](#)

《SDGsツール作成ワーキンググループ（2019年度）》

チェックリストの作成にあたっては、SDGsツール作成ワーキンググループ（2019年度）の委員の方々に監修いただきました。

古澤 礼太 氏 （中部大学国際ESDセンター准教授）  
 曾我 幸代 氏 （名古屋市立大学人文社会学部准教授）  
 伊藤 佳世 氏 （中部大学経営情報学部准教授）  
 原 理史 氏 （中部地方ESD活動支援センター責任者）

●2020年6月に開催したSDGsチェックリスト活用セミナー（YouTube動画）



## (エ) SDGs チェックリスト等公開ツールへの反応

- SDGs チェックリスト等のパッケージツールについては、公開後、研修やワークショップで使用したいといった問合せが、自治体や企業等から寄せられている。

### 【中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議への報告資料】

SDGsチェックリストの活用実績	
● <b>主催業務／相談対応等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日進市職員ESD基礎研修で動画収録配信（5/25）、大府市職員への環境講座で活用（12/21,24）</li> <li>・ SDGsチェックリスト活用セミナー（6/29）を開催。</li> <li>・ 上記セミナー参加者3名によるESD拠点自主企画のSDGsチェックリスト活用ワークショップの開催（①7/29、②10/5、③10/28）。</li> <li>・ （EPO業務）名古屋市緑区の片平学区50周年記念「環境学習会」（11/14）でSDGsワークショップで活用。</li> <li>・ （EPO業務）伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会・情報交換会（12/7）で「SDGs我がごと化ワークショップ」で活用。</li> </ul>
● <b>外部からの問合せ等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ （一社）グローバル愛知から活用方法について問合せ⇒SDGsチェックリスト活用セミナー（6/29）に参加⇒自主企画ワークショップ（7/29開催）、その後「地域ESD拠点」にも登録。</li> <li>・ 滋賀県総合企画部企画調整課からSDGsワークショップで活用するため使用許可の問合せ。</li> <li>・ トヨタテクニカルディベロップメント(株)から社内研修での活用の可否についての問合せ。</li> </ul>
● <b>その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本環境教育学会第1回 中部支部大会にて成果を発表（12/13）</li> </ul>

## イ 学生等を対象としたコンテンツ等の開発

- 岐阜県の委託でエコツアーを行っている旅行会社と協働し、体験ツアー対象地の自然や、人々とSDGsとの関わりについて理解するためのガイドシートを作成した。

### 【中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議への報告資料】

#### 学生等を対象としたコンテンツ等の開発（旅行会社との協働）

##### (1) 概要

岐阜県の委託で親子対象にエコツアーを行っている㈱日本旅行と協働し、体験ツアー対象地で注目する自然と人々との関連やSDGsとのかかわりについての理解のための、4種類の基本ガイドシート（補足情報を追加できるデザインを含む）を作成。作成したガイドシート事例を現地の体験ツアーで活用して検証する。

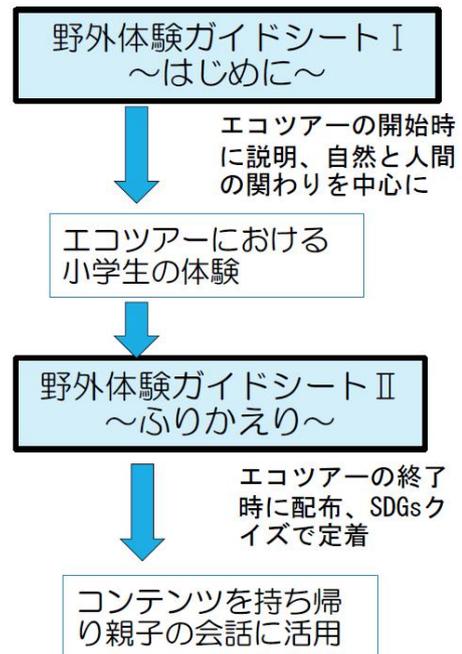
##### (2) コンテンツ

- タイトル：野外体験SDGsガイドシート～見つめる自然が地球につながる
- 装丁：A4両面カラーコピー三つ折り
- 2場面×2種類（ツアーの前後）の基本ガイドシート  
注目する自然と人々との関連やSDGsとのかかわりについての紹介。ツアー名などが追加できるデザインとする。
- ・清流を見つめて編
- ・森のやくわり編

##### (3) 開発手順

- 基本ガイドシートのプロトタイプ作成
- ガイドシート事例対象ツアーの選定（2か所）
- 対象ツアーの現地説明者へのヒヤリング
- 補足情報を追加したガイドシート事例の作成
- 対象ツアーでのガイドシート活用とアンケート
- ガイドシートのとりまとめ、及び使い方手引きの作成（未）

##### コンテンツの使用方法



16

### 【作成したコンテンツ】

- A) 清流を見つめて編 ガイドシートⅠ ~はじめに~
- B) 清流を見つめて編 ガイドシートⅡ ~ふりかえり~
- C) 森のやくわり編 ガイドシートⅠ ~はじめに~
- D) 森のやくわり編 ガイドシートⅡ ~ふりかえり~

※ 作成したコンテンツ4種の原稿を次頁に掲載。

【清流を見つめて編 ガイドシートⅠ ～はじめに～】

わたしたち自身と地球とのつながり

飲み水はどこから来るんだろう

毎日飲んでいるおいしい水。雨や雪がゆたかな森にはぐくまれておいしい水に育ち里に流れてきます。よごさないように、むだにしないように、上手に使わなければいけません。世界にはよごれた水さえない場所もあるのであります。



ゆたかな森や里だからいろいろな生き物がいる

森や里は植物や動物などたくさんの生き物からつくられています。いろんな種類の生き物があついでにささあうことでゆたかな緑がつくれ、すてきな景色に変わります。そしてこうした生き物からわたしたちの食べ物も育ちます。



きれいな水は川や海の生き物をはぐくむ

森から里を通って流れる水はやがて海に出ています。きれいな水だから川や海の生き物も安心してくまえます。わたしたちはこうした水に住む生き物を守っていかねばいけません。



美しくゆたかな森里川海をよごさないために

ごみはちゃんと決められた通りに分けてすてていますか?きちんとすてないとごみが大切な森里川海をよごすかもしれません。ごみを少なくするには、使わないむだものを買わないようにすることも大切です。

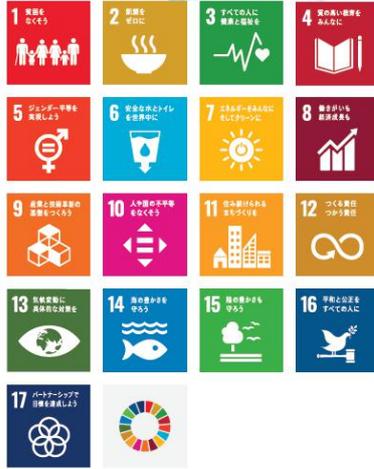


森里川海に危機がせまる! 気候を変えるわたしたち

美しい森里川海が大雨や厳冬、きびしい暑さなど気候変動による危険にさらされています。わたしたちが使う石油・石炭・天然ガスから出る二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が原因です。むだに電気やガスを使わないようにして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が少ないクリーンエネルギーを選ぶことが大切です。



SDGs・世界で交わした17の約束



未来の子どもたちが安心してくまらせる世界を守り育てるのは、今を生きるわたしたちの役目です。そのために国際連合で合意した17の目標があります。世界で交わした17の約束と言っていいでしょう。すべての人がかかわる約束です。身近なところからできることを考えましょう。

中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606  
Email: office@chubuesdcenter.jp  
Web: http://chubu.esdcenter.jp/

見つめる自然が地球につながる  
＜清流を見つめて編＞

野外体験ガイドシートⅠ～はじめに～

みまもと  
森は水の源、水は命の源、  
川は命のつながり。

つながりあっている森里川海を  
考えることは地球を見つめること。

森里川海にふれることで  
いろいろな関係が見えてきます。

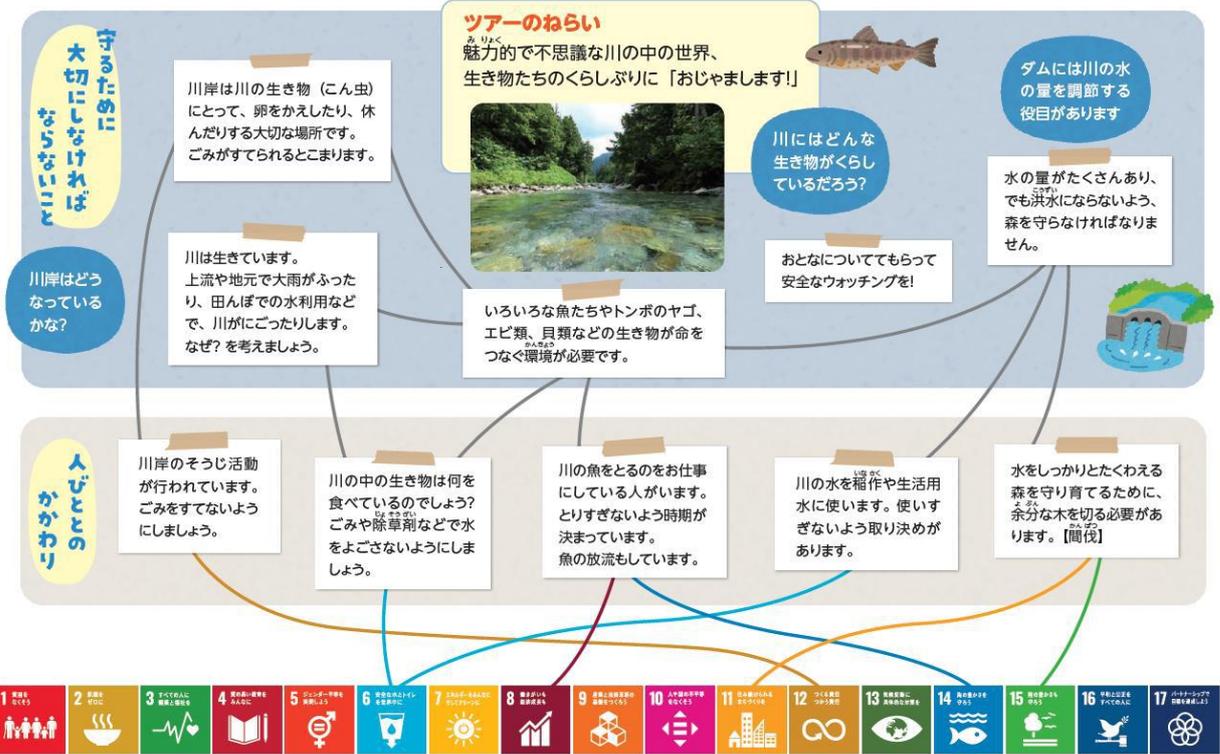
身近なことも地球につながっています。



森里川海中部ESDC親子体験ツアー 2030年〇月〇日  
X博士(はかせ)と観察しよう  
「川の生き物ときれいなみず」

見つめる自然が地球につながる～清流を見つめて編～

自然と人びと、そして地球(SDGs)の主なかかわりをしめています。他にもかかわりを見つけて線(——)を引いてみましょう!



見つめる自然が地球につながる～清流を見つめて編～野外体験ガイドシートⅠ～はじめに～ 中部地方ESD活動支援センター提供(作成:原(2020))

【清流を見つめて編 ガイドシートⅡ ～ふりかえり～】

わたしたち自身と地球とのつながり

飲み水はどこから来るんだろう

毎日飲んでいるおいしい水。雨や雪がゆたかな森にはぐくまれておいしい水に育ち里に流れてきます。よごさないように、むだにしないように、上手に使わなければいけません。世界にはよごれた水さえない場所もあるのですから。



ゆたかな森や里からいろいろな生き物がいる

森や里は植物や動物などたくさんの生き物からつくられています。いろいろな種類の生き物がおたがいにささえあうことでゆたかな緑がつけられ、すてきな景色に変わります。そしてこうした生き物からわたしたちの食べ物も育ちます。

きれいな水は川や海の生き物をはぐくむ

森から里を通って流れる水はやがて海に出ていきます。きれいな水だから川や海の生き物も安心してくらせます。わたしたちはこうした水に住む生き物を守っていかねばいけません。



美しくゆたかな森里川海をよごさないために

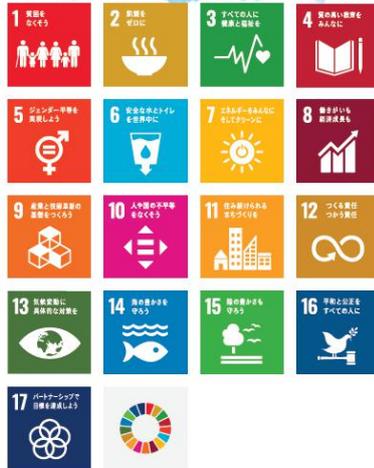
ごみはちゃんと決められた通りに分けてすてていきますか?きちんとすてないとごみが大切な森里川海をよごすかもしれません。ごみを少なくするには、使わないむだなものを買わないようにすることも大切です。

森里川海に危機がせまる! 気候を変えるわたしたち

美しい森里川海が大雨や酷暑、きびしい暑さなど気候変動による危険にさらされています。わたしたちが使う石油・石炭・天然ガスから出る二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が原因です。むだに電気やガスを使わないようにして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が少ないグリーンエネルギーを選ぶことが大切です。



SDGs・世界で交わした17の約束



未来の子どもたちが安心してくらせる世界を守り育てるのは、今を生きるわたしたちの役目です。そのために国際連合で合意した17の目標があります。世界で交わした17の約束と言っていいでしょう。すべての人がかかわる約束です。身近なところからできることを考えましょう。

中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development  
TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606  
Email: office@chubuesdcenter.jp  
Web: http://chubu.esdcenter.jp/

見つける自然が地球につながる  
＜清流を見つめて編＞

野外体験ガイドシートⅡ～ふりかえり～

森里川海を考えると地球を見つめること。  
森里川海にふれることでいろいろな関係が見えてきます。  
身近なことも地球につながっています。  
清流の美しさでふれて自然の大切さを考えてみましょう。



森里川海中部ESDC親子体験ツアー 2030年〇月〇日  
X博士(はかせ)と観察しよう  
「川の生き物ときれいなみず」

身近な行い、ふりかえりクイズ!

**問題!** かっていたミドリガメが大きくなって水槽がせまく、かわいそうなので近くの池にはなした。

これは環境に...

- やさしい?
- △ 関係ない?
- ✕ やさしくない?

**問題!** コンビニで買い食したパンのビニールぶくろをどこかに置いてきた。

これは環境に...

- やさしい?
- △ 関係ない?
- ✕ やさしくない?

**問題!** 「早くお風呂に入りなさい」と言われたけど「宿題の後で」と答えた。

これは環境に...

- やさしい?
- △ 関係ない?
- ✕ やさしくない?

環境にとって実はこんな問題が...

**こたえは ✕ やさしくない** ミドリガメは日本の侵略的外来種ワースト100の1つ

ではどうすればよいのかな? こたえはさまざま。いろいろな場合について考えよう。

**こたえは ✕ やさしくない** ビニールぶくろはどこへ?!

ビニールは使わなかったらどうなる?

**こたえは ✕ やさしくない** 追いだし、たし湯は、電気やガスのムダ! 地球温暖化の原因

石油や石炭、天然ガスが問題

他に方法はあるのか!

森里川海を考えると地球を見つめること

森里川海は水でつながる生態系です。  
本名: ミシシippiaアカミミガメ  
もともとペット用にアメリカから輸入。かききれなくてすてられたミドリガメは、大きくなると敵がいません。大量に数が増えていきます。いろいろなものを食べるため、レンコンなどの野菜の新芽を食べる被害が広がっています。  
在来種のニホンイシガメが生きる場所をうばわれています。

いいかげんにすてたごみ、流したくない水は森里川海に広がります。  
ビニールぶくろは風によって川に落ちた。川に流れ海に行った。海ではクラゲのようにただよった。ウミガメがまちがえて食べてしまった。栄養はないのにウミガメはおなかいっぱい。その後、食べることができなくて死んでしまった...

地球温暖化・気候変動は森里川海を危険にさらしています。  
特に冬は時間を空けてお風呂に入ると、お湯が冷めてしまい、たし湯をしたり、わかしなおしたりして、ガスがむだになります。しかもよぶんに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を出すことで、地球温暖化の原因にもなります。

【森のやくわり編 ガイドシート I ～はじめに～】

わたしたち自身と地球とのつながり

飲み水はどこから来るんだろう

毎日飲んでいるおいしい水。雨や雪がゆたかな森にはぐくまれておいしい水に育ち里に流れてきます。よごさないように、むだにしないように、上手に使わなければいけません。世界にはよごれた水さえない場所もあるのでです。



ゆたかな森や里だからいろいろな生き物がいる

森や里は植物や動物などたくさんの生き物からつくられています。いろんな種類の生き物があつがいにささえあうことでゆたかな緑がつくれ、すてきな景色に変わります。そしてこうした生き物からわたしたちの食べ物も育ちます。

きれいな水は川や海の生き物をはぐくむ  
森から里を通って流れる水はやがて海に出ています。きれいな水だから川や海の生き物も安心してくまえます。わたしたちはこうした水に住む生き物を守っていかねばいけません。



美しくゆたかな森里川海をよごさないために

ごみはちゃんと決められた通りに分けてすてていますか?きちんとすてないとごみが大切な森里川海をよごすかもしれません。ごみを少なくするには、使わないむだものを買わないようにすることも大切です。

森里川海に危機がせまる! 気候を変えるわたしたち  
美しい森里川海が大雨や厳冬、きびしい暑さなど気候変動による危険にさらされています。わたしたちが使う石油・石炭・天然ガスから出る二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が原因です。むだに電気やガスを使わないようにして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が少ないクリーンエネルギーを選ぶことが大切です。



SDGs・世界で交わした17の約束



未来のこどもたちが安心してらせる世界を守り育てるのは、今を生きるわたしたちの役目です。そのために国際連合で合意した17の目標があります。世界で交わした17の約束と言っていいでしょう。すべての人がかかわる約束です。身近なところからできることを考えましょう。

中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606  
Email: office@chubuesdcenter.jp  
Web: http://chubu.esdcenter.jp/

見つめる自然が地球につながる  
～森のやくわり編～

野外体験ガイドシートI～はじめに～

みたと  
森は水の源、水は命の源、  
川は命のつながり。

つながりあっている森里川海を  
考えることは地球を見つめること。

森里川海にふれることで  
いろいろな関係が見えてきます。

身近なことも地球につながっています。



里川海中部ESDC親子体験ツアー 2030年〇月〇日  
X博士(はかせ)と観察しよう  
「森のみどり人とのかかわり」

見つめる自然が地球につながる～森のやくわり編～

自然と人びと、そして地球(SDGs)の主なかかわりをしめています。他にもかかわりを見つけて線(——)を引いてみましょう!



見つめる自然が地球につながる～清流を見つめる編～野外体験ガイドシートI～はじめに～ 中部地方ESD活動支援センター提供 (作成: 原 (2020))

【森のやくわり編 ガイドシートⅡ ～ふりかえり～】

わたしたち自身と地球とのつながり

飲み水はどこから来るんだろう

毎日飲んでいるおいしい水。雨や雪がゆたかな森にはぐくまれておいしい水に育ち里に流れてきます。よごさないように、むだにしないように、上手に使わなければいけません。世界にはよごれた水さえない場所もあるのですから。



ゆたかな森や里からいろいろな生き物がいる

森や里は植物や動物などたくさんの生き物からつくられています。いろいろな種類の生き物がおたがいによごさないでゆたかな森が保たれ、すてきな景色に変わります。そしてこうした生き物からわたしたちの食べ物も育ちます。

きれいな水は川や海の生き物をはぐくむ

森から里を通って流れる水はやがて海に出ていきます。きれいな水だから川や海の生き物も安心してくらせます。わたしたちはこうした水に住む生き物を守っていかねばいけません。



美しくゆたかな森里川海をよごさないために

ごみはちゃんと決められた通りに分けてしていますか?きちんとすてないごみが大切な森里川海をよごすかもしれません。ごみを少なくするには、使わないむだなものを買わないようにすることも大切です。

森里川海に危機がせまる! 気候を変えるわたしたち

美しい森里川海が大雨や酷暑、きびしい暑さなど気候変動による危険にさらされています。わたしたちが使う石油・石炭・天然ガスから出る二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が原因です。むだに電気やガスを使わないようにして、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)が少ないグリーンエネルギーを選ぶことが大切です。



SDGs・世界で交わした17の約束



未来の子どもたちが安心してくらせる世界を守り育てるのは、今を生きるわたしたちの役目です。そのために国際連合で合意した17の目標があります。世界で交わした17の約束と言っているでしょう。すべての人がかかわる約束です。身近なところからできることを考えましょう。

中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development  
TEL: 052-218-9073 FAX: 052-218-8606  
Email: office@chubuesdcenter.jp  
Web: http://chubu.esdcenter.jp/

見つめる自然が地球につながる  
＜森のやくわり編＞

野外体験ガイドシートⅡ～ふりかえり～

森里川海を考えると地球を見つめること。

森里川海にふれることでいろいろな関係が見えてきます。

身近なことも地球につながっています。

森のやくわりを学んで自然の大切さを考えてみましょう。



森里川海中部ESDC親子体験ツアー 2030年〇月〇日  
X博士(はかせ)と観察しよう  
「森のみどり人とのかかわり」

身近な行い、ふりかえりクイズ!

**問題!** かっていたミドリガメが大きくなって水槽がせまく、かわいそうなので近くの池にはなした。

これは環境に...

○ やさしい?  
△ 関係ない?  
× やさしくない?

**問題!** コンビニで買ったパンのビニールぶくろをどこかに置いてきた。

これは環境に...

○ やさしい?  
△ 関係ない?  
× やさしくない?

**問題!** 「早くお風呂に入りなさい」と言われたけど「宿題の後で」と答えた。

これは環境に...

○ やさしい?  
△ 関係ない?  
× やさしくない?

環境にとって実はこんな問題が...

**こたえは** × **やさしくない** ミドリガメは日本の侵略的外来種ワースト100の1つ

ではどうすればよいのかな? こたえはさまざま。いろいろな場合について考えよう。

**こたえは** × **やさしくない** ビニールぶくろはどこへ?!

ビニールは使わなかったらどうなる?

**こたえは** × **やさしくない** 追いだき、たし湯は、電気やガスのムダ! 地球温暖化の原因

石油や石炭、天然ガスが問題

他に方法はあるのか!

森里川海を考えると地球を見つめること

森里川海は水でつながる生態系です。

本名: ミシシippiaアカミミガメ

もともとペット用にアメリカから輸入。かききれなくてすてられたミドリガメは、大きくなると敵がいません。大量に数が増えています。いろいろなものを食べるため、レンコンなどの野菜の新芽を食べる被害が起きます。在来種のニホンイシガメが生きる場所をうばわれています。

いいかげんにすてたごみ、流したくない水は森里川海に広がります。

ビニールぶくろは風によって川に落ちた。川に流れ海に行った。海ではクラゲのようにただよった。ウミガメがまちがえて食べてしまった。栄養はないのにウミガメはおなかいっぱい。その後、食べることができなくて死んでしまった...

地球温暖化・気候変動は森里川海を危険にさらしています。

特に冬は時間を空けてお風呂に入ると、お湯が冷めてしまい、たし湯をしたり、わかしなおしたりして、ガスがむだになります。しかもよぶんに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を出すことで、地球温暖化の原因にもなります。

## (2) ESD 活動の支援等

- 前項「2 運営会議の設置・開催」の章を参照。

## (3) ESD 活動のネットワーク形成に係る業務

### ア 全国 ESD センターが開催する会議・イベントへの出席

- 全国 ESD センターが主催する全ての会合等に出席等した。
- 12 月 19 日開催の全国フォーラムでは、分科会にてコーディネーターとして登壇した。

区分	回/開催日	対応状況
企画運営委員会	第 1 回 2020 年 7 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Web 会議に出席。</li> <li>● ESD 活動支援センター2020 年度事業計画等について協議。</li> </ul>
	第 2 回 2021 年 3 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Web 会議に出席。</li> <li>● 各センターの 2020 年度の取組状況等を紹介。</li> </ul>
連絡会	第 1 回 2020 年 6 月 2 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン会議に出席。</li> <li>● 活動方針案(企画運営委員会資料のたたき台)まとめについて協議。</li> </ul>
	第 2 回 2020 年 8 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン会議に出席。</li> <li>● 2020 年度の活動方針の確認、2021 年度以降の ESD 推進ネットワークの方向性について協議。</li> </ul>
	第 3 回 2021 年 2 月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オンライン会議に出席。</li> <li>● 2020 年度の活動状況の報告、地域 ESD 拠点登録団体対象の年次アンケートの内容、実施方法等について協議。</li> </ul>
全国フォーラム	2020 年 12 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分科会の企画進行として参画、参加。</li> <li>● 当日も登壇、及びオンライン開催に視聴参加。</li> </ul>
その他	全国センターヒアリング 2020 年 6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全国センターによる各地方センター個別ヒアリング(オンライン)に対応。</li> <li>● 中部センターの取組状況、特色などを説明した。</li> </ul>

### 【オンライン開催された全国フォーラム】(全国センターWeb サイトの開催報告より)

センター事業

**【開催報告】 ESD推進ネットワーク全国フォーラム2020**

ESD推進ネットワーク全国フォーラム(以下「全国フォーラム」)は、原則、毎年1回、ESD推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESDに関する最新の国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会として開催しています。

2020年は、8つの地方ESD活動支援センター(地方センター)が4つのテーマのもと、地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)と連携し、各地域で展開してきた活動の成果を共有する場となりました。

新型コロナウイルス感染防止のため、完全にオンラインで1日だけの開催となりましたが、全国各地から延べ445名の方がご参加くださいました。誠にありがとうございました。

**【開催目的】**

1. ESD推進ネットワークのこれまでの成果を確認する。
2. ESDに関する国内外の状況を共有する。
3. 各地方センターをハブとした地域内の連携、地域を越えた連携強化の機会とする。

**【開催の概要】**

- 主 催：ESD活動支援センター、文部科学省、環境省
- 協 力：地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)、全国規模のESD推進組織・団体、地方ESD活動支援センター(地方センター)
- 参加者：延べ445名(40の都道府県と海外1地域)
- 登壇者資料：[ここをクリック](#)

【中部地方 ESD 活動支援センターが企画進行を担当した分科会①-2】  
(全国センターWeb サイトの開催報告より)

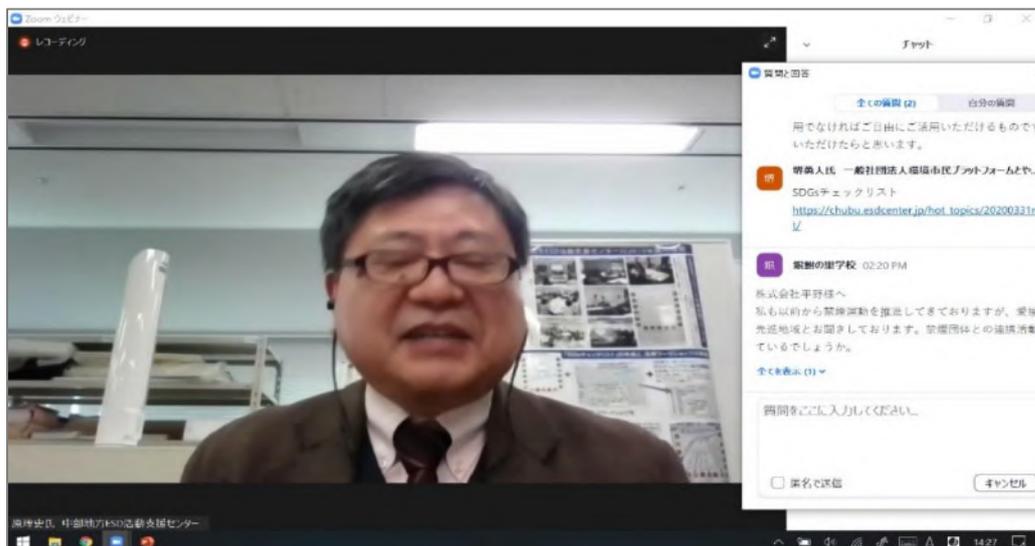
①-2 SDGsの取組を社会実装するためのESD ～どんな人材が望まれるのか、育成するのか～

社会人を対象としたSDGsチェックリストを用いたワークショップ、企業におけるSDGsの取組実践と社員教育の事例紹介とディスカッションを通じ、社会のプレーヤーを構成する人材育成の観点からESDのあり方を考えました。

- ファシリテーター：  
古澤 礼太さん（中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授）  
原 理史さん(中部地方ESD活動支援センター)
- 話題提供者：  
堺 勇人さん（一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長）  
平野 啓三さん（株式会社平野 取締役会長）

【動画視聴】

1. 話題提供 (1) 堺 勇人さん（一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長）  
社会人を対象としたESD実践の展開～SDGsチェックリストを用いたワークショップ
2. 話題提供 (2) 平野 啓三さん（株式会社平野 取締役会長）  
本業でSDGsの達成に貢献する社員共育をめざして
3. パネルディスカッション (1)
4. パネルディスカッション (2)



## イ ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催

### ① 日時

- 2020年11月15日（日）13:30～16:30

### ② 方法

- オンライン開催（Web会議システム使用）、開催後YouTubeで録画を公開

### ③ 出席者

- 当日参加29名（zoom接続数）、YouTubeの視聴者40名（2021年2月現在）

### ④ プログラム

第1部 白山ユネスコエコパークからESDの取組を考える

<話題提供>

①ユネスコエコパークとESD/SDGs

信州ESDコンソーシアム（信州大学）水谷 瑞希 氏

②白山ユネスコエコパークについて

白山ユネスコエコパーク協議会事務局（白山市）和田 巖 氏

③白山国立公園について

環境省白山自然保護官事務所 自然保護官 迫 裕樹 氏

第2部 ユネスコエコパークを活用したESDの実践

<事例報告>

①白山ユネスコエコパーク 高山市立荘川中学校 奥原 陽子 氏

②志賀高原ユネスコエコパーク 山ノ内町立南小学校 菅原 勇介 氏

③南アルプスユネスコエコパーク 飯田市立上村小学校 松崎 和美 氏

ディスカッション

コメンテーター：

ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 小金澤 孝昭 氏（宮城教育大学 名誉教授）

北陸ESD推進コンソーシアム 加藤 隆弘 氏（金沢大学）

コーディネーター：信州ESDコンソーシアム 水谷 瑞希 氏（信州大学）



## ⑤ 開催案内チラシ

中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)主催・信州ESDコンソーシアム共催

**ESDダイアログ**

# 白山から発信！ ユネスコエコパークを活かした ESD/SDGsの実践を考える

**開催日時** 2020年11月15日(日)  
13:30～16:30

**オンライン  
開催  
事前申込要**

申込締切  
**11/10  
(火)**

ダナ高原から眺める白山(核心地域)



平泉寺の清掃活動(緩衝地域)



紅葉の刈込池(緩衝地域)



豪雪の中での自然体験活動(移行地域)

写真提供：白山ユネスコエコパーク協議会

### 第1部 白山ユネスコエコパークからESDの取組を考える

**話題提供**

- ① ユネスコエコパークとESD/SDGs  
水谷 瑞希氏 信州ESDコンソーシアム(信州大学)
- ② 白山ユネスコエコパークについて  
和田 巖氏 白山ユネスコエコパーク協議会事務局(白山市)
- ③ 白山国立公園について  
迫 裕樹氏 環境省白山自然保護官事務所 自然保護官

### 第2部 ユネスコエコパークを活用したESDの実践

**事例報告**

- ① 白山ユネスコエコパーク  
奥原 陽子氏 高山市立荘川中学校
- ② 志賀高原ユネスコエコパーク  
菅原 勇介氏 山ノ内町立南小学校
- ③ 南アルプスユネスコエコパーク  
松崎 和美氏 飯田市立上村小学校

**ディスカッション**

**コメンテーター**  
小金澤 孝昭氏 ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム(宮城教育大学名誉教授)

**加藤 隆弘氏** 北陸ESD推進コンソーシアム(金沢大学)

**コーディネーター**  
水谷 瑞希氏 信州ESDコンソーシアム(信州大学)

申し込みは… **中部地方ESD活動支援センター**

▼Webサイト  
<https://chubu.esdcenter.jp/>  
(参加申込フォームあり)

▼E-mail  
[office@epo-chubu.jp](mailto:office@epo-chubu.jp)  
お名前・ご所属先・連絡先(TEL・メールアドレス)を添えてお申し込みください。

申し込まれた方には  
**11月12日(木)**に  
参加URLを  
お送りします。



**中部地方ESD活動支援センター**  
Education for Sustainable Development

## ⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった(8名のみ)のため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて/エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## ウ ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

### ① 日時

- 2021年2月14日（日）13:00～16:30

### ② 方法

- オンライン開催（Web会議システム使用）、開催後YouTubeで録画公開

### ③ 出席者

- コア参加者・事務局（zoom接続数）35名、YouTube視聴者32名

### ④ プログラム

挨拶・趣旨説明

第1部 話題提供：地域と若者、SDGsへのアプローチ

SDGs未来都市の取組～自治体のSDGsの施策や取組について～

○SDGs未来都市なごやの取り組み

尾上 圭氏（名古屋市環境局環境企画部環境企画課）

○持続可能な付加価値創造都市を目指して～SDGs未来都市とやまの取組～

東福 光晴氏（富山市環境部環境政策課）

○世界の交流拠点都市金沢の実現～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～

東 正彰氏（金沢市都市政策局企画調整課）

若者にとってのSDGs～学習活動等の取組紹介や展望など～

○地域をテーマにした課題解決演習を受講して

富山大学 学生グループ

○道の駅めぐみ白山 SDGsプロモート活動

金沢星稜大学 新広昭先生ゼミグループ

○SDGsフォーラム

名古屋市立大学 三浦哲司先生ゼミグループ

○学生主体の標準化教育

中部大学 伊藤佳世先生ゼミグループ

第2部 ディスカッション「ローカルSDGs達成のために。すべきこと、できること！」

ファシリテーター：原 理史（中部地方ESD活動支援センター責任者）

総括：伊藤 恭彦氏（中部地方ESD活動支援センター企画運営会議 座長）



## ⑤ 開催案内チラシ

### 中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム

# ローカルSDGsを目指した地域づくり！ 若い力を結集しよう！

## オンライン 開催

開催日時

## 2021年2月14日(日)

### 13:00～16:30

中部地方ESD活動支援センターは、中部大学中部高等学術研究所デジタルアースルームをハブとしたオンラインネットワークによるSDGsに向けた地域課題解決のためのディスカッションを開催します。

一般参加

YouTubeライブ配信をご自由にご視聴いただけます(申込不要)



<https://youtu.be/sHijK0IMyDA>

### プログラム

**13:00** 挨拶・趣旨説明

**第1部** 話題提供：地域と若者、SDGsへのアプローチ

**13:15** SDGs未来都市の取組～自治体のSDGsの施策や取組について～

自治体

- ① 名古屋市環境局環境企画部環境企画課
- ② 富山市環境部環境政策課
- ③ 金沢市都市政策局企画調整課

若者にとってのSDGs～学習活動等の取組紹介や展望など～

ユース(学生)

- ① 富山大学 学生グループ
- ② 金沢星稜大学 新広昭先生ゼミグループ
- ③ 名古屋市立大学 三浦哲司先生ゼミグループ
- ④ 中部大学 伊藤佳世先生ゼミグループ

**第2部** ディスカッション：ローカルSDGs達成のために。すべきこと、できること！

**15:15** 「活動分析チャート」・「地域SDGsデータセット」を見ながら、ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できることをディスカッションします。

ファシリテーター：原理史（中部地方ESD活動支援センター 責任者）  
総 括：伊藤恭彦氏（中部地方ESD活動支援センター企画運営会議 座長）

主催

中部地方ESD活動支援センター（EPO中部内）

協力

中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点



**中部地方ESD活動支援センター**  
Education for Sustainable Development



中部大学中部高等学術研究所  
デジタルアースルーム

## ⑥ 参加者アンケート結果

- YouTube 視聴者からのアンケートへの回答はゼロであった。

104

## エ SDGs へ向けた ESD 推進のための教育現場の実態把握と連携強化

- SDGs を推進する教育関係者等にヒアリングを実施し、今後の事業展開に向けた実施手法、連携の可能性について検討を行った。

### 【調査結果：ケース1】

分類	高校教育現場：富山県高校教員向け ESD セミナー
取材、ヒアリング調査概要	日時：2020年8月20日 13:30～16:30 場所：富山県富山市富山県民共生センターサンフォルテ 方法：高校教職員向け ESD セミナーにおける取材、ヒアリング 対象：「高等学校教員向け SDGs 教育セミナー・『総合的な 探究の時間』における SDGs 教育」参加の教職員
取材、ヒアリング調査結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ワークショップで同席した高校の教職員との対話の結果</li> <li>・ 対象教員は普通科高校で「総合的な探究の授業」を担当。</li> <li>・ 対象を設定して探究を十分に行うには1年間の中では時間が十分でない。</li> <li>・ SDGs の導入を模索しているが教職員自身の理解が十分ではない。</li> <li>・ こうしたセミナーがあると参加者にとっては非常に有用。</li> <li>・ 他の教職員にも ESD と SDGs を浸透させることが必要。</li> </ul>
課題と現状評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続可能性の概念理解と ESD の「はぐくみたい力」を伸ばすには高校教育における「総合的な探究の授業」が大きな役割を果たす。</li> <li>・ ただし、ESD との連携や実施手法が十分確立されているとは言えない。</li> <li>・ また実施時間数を確保することが非常に困難であり、現場は苦勞している。</li> <li>・ こうした中で志ある教職員は個別に ESD の実現として「総合的な探究の授業」の実践と研究を進めている。</li> </ul>
今後の連携方向に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESD の実現として「総合的な探究の授業」の実践と研究の推進における情報提供や連携</li> <li>・ 教職員を含む学習現場の関係者に ESD の概念を伝える講座、研修の充実における人材紹介や情報提供等の支援</li> </ul>

### 【調査結果：ケース2】

分類	学校行政・教育現場：愛知県ユネスコスクール交流会
取材、ヒアリング調査概要	日時：2020年10月17日 12:00～15:00 場所：愛知県名古屋市ウィルあいち 方法：休憩中のヒアリング 対象：愛知県教育委員会生涯学習課 担当課長
取材、ヒアリング調査結果	愛知県教育行政で ESD を担当する教職員・行政担当者に ESD の現状をヒアリングした結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESD は持続可能性のための人づくりと言う意味で最重要であるにも関わらず、教職員自身の認知が足りないのが最大の問題。例えば講習会などで聞くと 100 人が 100 人 ESD や SDGs の言葉は知っているにも関わらず、説明できるものはほとんどいない。</li> <li>・ ○○学習、○○学習と名付けて各分野で学校教育現場に下ろしているのは 380 種もあり（ガン教育など）、ESD はその一つと捉えられて埋没してしまう。このため校長先生が注目しないと現場の先生に展開しにくい。</li> <li>・ 社会や企業から SDGs と生の横文字で入ってくることもあり、学校現場に言葉として入りにくい。学べば理解は難しくないのに学ばないから難しいと感じてしまう現状がある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD は SDGs を目指しエリアマネジメント教育ということ言えば、分野すべてを包含しており、イコール社会教育と言える。自分の担当課はESD 課と云っていい。</li> <li>問題の一つは教職員研修の中に「社会教育=ESD」の研修が非常に少ないことにある。</li> </ul>
課題と現状評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD が社会全体を包含しているという概念の教職員に対して周知が十分でないことが教育現場における最大の課題と考えられる。</li> <li>学校現場は多忙を極め優先順位の中で具体性が理解しづらい横文字のESD、SDGs は後回しにされる懸念がある。</li> <li>ESD が社会（地球）教育全体の包含概念であることを学校現場に伝える必要があるが、社会教育の研修機会自体が十分でない。</li> </ul>
今後の連携方向に関する検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD が社会（地球）教育全体の包含概念であることを示すキャッチコピーの作成やツールの開発</li> <li>教職員を含む学習現場の関係者にESDの概念を伝える講座、研修の充実における人材紹介や情報提供等の支援</li> <li>学校教育活動の地域社会活動連携の SDGs 上の位置づけの習慣化促進における支援や連携</li> </ul>

## (4) 全国 ESD センター等との連携、地域 ESD 拠点登録支援等

### ア 全国 ESD センター及び地方 ESD 活動支援センターとの連携

#### (ア) センターとの連携取組

- 全国センターが地方センターを対象に個別ヒアリング（オンライン）を実施し、中部地方 ESD 活動支援センターは6月11日に実施されたヒアリングに対応し、センターの取組内容や特色等を説明・紹介した。
- 全国センターによる、地域 ESD 拠点を対象にした年次アンケートがオンライン上で2021年3月に実施され（回答期日：3月12日）、各地方センターはアンケートの設問内容等についてメール協議を行ったほか、必要に応じて地域 ESD 拠点登録団体へのフォローを行った。

#### (イ) 後援申請手続

- 中部地方 ESD 活動支援センターの後援名義使用に関する届出が、下記の団体・イベントから全国センターに申請されており、照会対応等を行った。

申請主体	申請日	申請行事		
		名称	開催日	開催場所
名古屋市	7月14日	なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ SDGs まちづくりプロジェクト	8月19日 8月26日	オンライン、名古屋市中区錦二丁目内
名古屋市	7月14日	なごや環境大学 SDGs 未来創造クラブ まちづくりプロジェクト SDGs セミナー	9月2日	オンライン
NPO 法人エコネット近畿	8月11日	NPO の資金調達まるわかりセミナー	10月4日	オンライン
中部 ESD 社会教育研究所	10月28日	ESD 社会教育講座	10月3日～ 2月27日	名古屋市緑区緑生涯学習センター
北陸 ESD 推進コンソーシアム	11月20日	2020年度北陸ユネスコスクール交流会	12月13日	オンライン
信州 ESD コンソーシアム	12月9日	信州 ESD コンソーシアム成果発表 & 交流会	2月6日	オンライン
株式会社朝日新聞社総合プロデュース本部 ※	12月23日	大学 SDGs ACTION! AWARDS 2021	3月5日	東京国際フォーラム
北陸 ESD 推進コンソーシアム	1月25日	2020年度北陸 ESD 推進コンソーシアム 成果報告会	2月7日	オンライン

※：全ての地方センターに後援申請

## イ 地域 ESD 拠点登録支援等

- 今年度に新たに登録申請があった地域 ESD 拠点は 1 団体であり、中部エリアは計 18 団体が地域 ESD 拠点となっている。
- 団体による登録申請手続きが行われた際には、団体からの問合せや全国 ESD センターからの登録照会などに対し、該当資料の送付、回答を行うなどの対応を行った。
- また、地域 ESD 拠点の主催イベント、発行資料等については、中部地方 ESD 活動支援センター Web サイトに「中部の地域 ESD 拠点」コーナーを設置し、掲載・紹介を行っている。

### 【2020 年度に新規登録された中部エリアの地域 ESD 拠点】

一般社団法人グローバル愛知

2020 年 6 月登録

※ グローバル愛知は、SDGs チェックリストについての問合せをきっかけに、SDGs チェックリスト活用セミナーに参加のうえ、自主企画ワークショップを実施した団体である。

### 【中部地方 ESD 活動支援センター Web サイト掲載による地域 ESD 拠点の PR 協力】

中部の地域 ESD 拠点	
<p>2021.03.09 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>ウェブサイト「なごやSDGs街（マーチ）」について</b> 子どもたちがSDGsについて、ゲームや動画などを通じて楽しく学べるウェブサイトです。</p>	<p>2021.01.13 中部の地域 ESD 拠点 <b>信州ESDコンソーシアム『信州ESD通信』が届きました</b></p>
<p>2021.03.04 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>なごや環境大学：2021年度前期の共有講座 開講</b> 『なごや環境大学ガイドブック』（2021・前期）は当センター（EPO 中部内）で配架中です。</p>	<p>2020.12.10 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>「高山市 SDGsシンポジウム～高山の未来を築くこれからのパートナーシップ」を開催（12/12）</b> 開催日時：2020年12月12日（土）14：00～16:30 開催場所：飛騨・世界生活文化センター+Zoomによるオンライン開催</p>
<p>2021.03.04 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>「池上先生と学ぶSDGsの現在 in なごや」を開催</b> 開催日時：2021年3月14日（日）13：00～16：00</p>	<p>2020.12.07 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>「ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト（第8回）」をオンライン開催（12/10）</b> 開催日時：2020年12月10日（木）19：00～21：00 開催場所：イーブルなごやでの開催+Zoomによるオンライン開催</p>
<p>2021.02.08 中部の地域 ESD 拠点 取材レポート <b>「中部ESD拠点2021 SDGsフォーラム」と「信州ESDコンソーシアム成果発表&amp;交流会」に参加しました</b></p>	<p>2020.12.03 中部の地域 ESD 拠点 <b>グローバル愛知さんから「SDGs REPORT 2020」と『活動報告書 ACTIVITIES REPORT 2020』が届きました</b></p>
<p>2021.01.29 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>SDGsオンラインフォーラム「地域SDGsの見える化を考える～地域指標づくり～」を開催</b> 開催日時：2021年2月7日（日）14：00～16：30 開催方法：オンライン・YouTube Live</p>	<p>2020.10.08 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>「ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト（第5回）」をオンライン開催（10/15）</b> 開催日時：2020年10月15日（木）19：00～21：00 開催場所：ウインクあいち+オンライン</p>
<p>2021.01.15 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>信州ESDコンソーシアム 成果発表&amp;交流会を開催</b> 開催日時：2021年2月6日（土）10：00～16：00 開催方法：オンライン・事前申込必要《申込締切：2月4日（木）》</p>	<p>2020.09.14 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>「ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト（第4回）」をオンライン開催（9/17）</b> 日時：2020年9月17日（木）19：00～21：00 講師：武田 裕希子先生（ウータン・森と生活を考える会）</p>
<p>2021.01.15 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>SDGsまちづくりプロジェクト【報告会】を開催</b> 開催日時：2021年1月20日（水）18：30～20：15 開催方法：オンライン（zoom）</p>	<p>2020.09.01 イベント&amp;ニュース 中部の地域 ESD 拠点 <b>NPO法人3団体主催による「NPOの資金調達まるわかりセミナー」をオンライン開催（10/4）</b> ▶2020年10月4日（日）10：00～16：30オンライン開催（zoom） ▶全国どこからでもご参加いただけます！</p>



2020.08.06 SDGsワークショップ中部の地域ESD拠点  
**「SDGsチェックリスト活用セミナー」参加者による自主企画ワークショップが開催されました**  
 一般社団法人グローバル愛知（地域ESD拠点）が、当センターの「SDGsチェックリスト」を活用したワークショップを開催しました。



2020.08.04 中部の地域ESD拠点 取材レポート  
**中部ESD拠点協議会のセミナー・ワークショップに参加しました**  
 「中部サステナ政策塾（第5期）第1回講座／中部SDGsデザイン会議（準備会）併催」として開催されたイベントに参加しました（オンライン併用）。



2020.07.17 イベント&ニュース 中部の地域ESD拠点  
**ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト（第1回）を開催（7/31）**  
 開催日時：2020年7月31日（金）18：30～21：00  
 開催場所：ウインクあいち 1007会議室（名古屋市中村区）



2020.07.10 中部の地域ESD拠点  
**中部エリアの「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」について**  
 中部で新たに「一般社団法人グローバル愛知」が地域ESD拠点に登録されました。



2020.07.06 イベント&ニュース 中部の地域ESD拠点  
**【なごや環境大学】環境白書から実践へ2020～SDGs17の目標 その先へ！～を7/10オンライン開催**  
 開催日時：2020年7月10日（金）15：00～17：30【オンライン開催】  
 第1部「環境白書から実践へ」  
 第2部「みんなで考えるSDGs17の目標その先へ！」



2020.07.03 イベント&ニュース 中部の地域ESD拠点  
**第5期 中部サステナ政策塾 新規塾生を募集（締切：7/20）**  
 <2020年度の開催テーマ>  
 ポストコロナ時代の持続可能な社会づくりプロジェクト  
 SDGs（持続可能な開発目標）を「学び」、社会課題解決のためのプロジェクトを「実践」する！



2020.07.02 イベント&ニュース 中部の地域ESD拠点  
**富山県の高等学校教員向けSDGs教育セミナー『総合的な探究の時間』におけるSDGs教育（8/20開催）**  
 開催日時：2020年8月20日（木）13：30～16：30  
 開催場所：富山県民共生センターサンフォルテ307室（富山県富山市）



2020.04.20 中部の地域ESD拠点 取材レポート  
**（一社）日本体験学習研究所（JIEL）オンラインワークショップに話題提供しました**



2020.04.13 イベント&ニュース 中部の地域ESD拠点  
**JIEL主催ワークショップ「気候変動とSDGs」がオンライン開催されます！**  
 開催日時：2020年4月18日（土）13：30～16：30  
 開催場所：ZOOMを活用してのオンライン開催です。【参加無料】



2020.04.01 中部の地域ESD拠点  
**中部エリアの「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」について**  
 「富山ユネスコ協会」が中部エリア17カ所目の地域ESD拠点に登録されました。

## 6 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### (1) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業

#### ア 地域プラットフォーム支援等業務

- 中部エリアのプラットフォーム構築事業（PF 事業）に採択された 5 団体に対し、次表の通り、支援等を行った。（以下、PF 事業、PF 団体等と表記。）

#### 【PF 5 団体への主な支援等実施状況】

実施日等	支援内容	協議・実施事項等
5月18日～22日 (初会合ヒアリングに併せて実施)	第1回事務局打合せ(Web) 対象:PF5 団体それぞれ	事務局打合せ ● 中部地方環境事務所挨拶（今年度のPF 事業について等） ● PF のこれまでの取組や現状、今後の展開についての概略報告 ● 事務局確認（役割分担、事業のスケジュール、成果物など） 事業展開ヒアリング
6月22日～6月24日	第2回事務局打合せ（各現地） 対象:PF5 団体それぞれ	● 事業展開スケジュール（近日の予定など）について ● 成果品4点セット作成の見直しについて ➢ マンダラの作成方法とEPOの意見交換会のタイミング ● 前回提示したEPOのお願い事項について ➢ 【小布施】【根羽】：自治体職員向け地域循環共生圏セミナーを長野県北部（長野市・佐久市周辺エリア）で開催予定。PF 事業採択事例としての取組発表の依頼。 ➢ 【共通】「活動見える化プログラム」への協力（作成と公開の可否）・活用方法についての確認 ● 意見交換、環境省からの情報提供など
7月28日～7月29日	新規2団体との事務局打合せ（越前、郡上の各現地）	● 意見交換会の開催方法と定期会合の展開について ➢ 越前：事業アイデアを抽出する意見交換会に決定 ➢ 郡上：地域の未来像を共有する意見交換会に決定 ● そのほか意見交換、環境省からの情報提供など
8月中旬～9月初旬	5 団体に電話連絡等	● 意見交換会の実施日・内容についてのPF 内部での検討状況について確認 ● 新規2団体については、年度内の全ての定期会合の開催スケジュールを設定していただくよう依頼
8月28日	PF 郡上の第1回研究会の運営支援（現地）	● 会合全体の流れ等のタイムスケジュール等を作成し、事務局で共有 ● 研究会の様子の録画、及び録画動画のオンライン共有ファイル化（不参加ステークホルダーに視聴してもらうツールとして活用） ● 研究会後半のディスカッションのファシリテーター：EPO が担う
	研究会終了後の事務局打合せ（現地）	● 10月28日意見交換会の実施内容について確認 ● 11月25日基盤強化ミーティングのプログラム案を紹介
9月14日	PF 小布施との打合せ(Web)	● 意見交換会の開催日時、実施内容等について協議 ● 意見交換会を定例ミーティングにおけるプロジェクトの我がごと化とミーティング実施結果のアウトプットの作成を行う場とすることを確認
9月16日	PF 尾鷲との打合せ（現地）	● 意見交換会の開催日時、参加企業、実施内容等について協議 ● 登壇者、及び東海財務局への協力依頼についても確認
9月29日	PF 郡上の第2回研究会の運営支援（現地）	● 研究会の様子の録画、及び録画動画のオンライン共有ファイル化
	PF 郡上・研究会終了後の事務局打合せ（現地）	● 10月28日意見交換会の実施内容について確認 ● 11月25日基盤強化ミーティングのプログラム・トークセッションの地元経済主体等の登壇について協議
10月6日	PF 越前・第1回研究会に参加	● PF による初回会合に出席し、今後の進め方等について意見提示
10月12日	PF 根羽・意見交換会の事前	● 意見交換会の実施内容等について協議、確認

実施日等	支援内容	協議・実施事項等
	打合せ(Web)	
10月14日	PF 根羽・意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会で「フォレストガーデン構想」と各参加者の活動・取組との関連性を認識するワークショップを企画運営</li> </ul>
10月16日	PF 越前・意見交換会の事前打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会でディスカッションを行う内容について協議</li> </ul>
10月21日	PF 小布施・意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会で対象テーマとなるプロジェクトの「活動見える化プログラム」チャート図を作成</li> <li>ワークショップに必要な模造紙等を準備</li> <li>意見交換会のファシリテーターとして進行</li> </ul>
10月27日	PF 越前・意見交換会(第2回研究会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会のファシリテーターとして進行</li> <li>ワークショップ形式で実施するにあたり、必要な模造紙、記入用シート等必要なツールを作成、準備</li> </ul>
10月28日	PF 郡上・意見交換会(第3回勉強会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会のファシリテーターとして進行</li> <li>ワークショップ形式で実施するにあたり、必要な模造紙、記入用シート等必要なツールを作成、準備</li> </ul>
11月5日	PF 尾鷲・意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会のファシリテーターとして進行</li> <li>時間管理の関係により、質問記入票を作成・準備(参加者配布用)</li> </ul>
11月18日	PF 越前・第3回研究会の事前打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回研究会で議論する事項について協議</li> </ul>
11月25日	PF 郡上で基盤強化ミーティング開催 ※	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化ミーティング(郡上エリア会合)をフォーラム形式で開催</li> <li>PF 勉強会メンバーも参加するワークショップの部で地域ビジネスをテーマにしたアイデア抽出ワーキングを企画運営(及び進行)</li> </ul>
11月27日	PF 越前・第3回研究会に参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF による会合に出席し、活動対象エリアにおける取組のあり方等について意見提示</li> </ul>
	PF 越前との今後の方向性等についての事務局打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会での指摘事項等を鑑み、今後、PF がどのように事業展開を行うか、方向性の調整等は可能かなどを協議、確認</li> </ul>
12月16日	PF 郡上との今後の方向性等についての事務局打合せ	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間報告の内容をもとに、今後、PF がどのように事業展開を行うか、方向性の調整等は可能かなどを協議、確認</li> </ul>
12月17日	PF 越前・第4回研究会に参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF による会合に出席し、活動対象エリアにおける取組のあり方等について意見提示</li> </ul>
1月～2月	PF 郡上、PF 越前から次年度事業継続に関する問合せ・連絡等	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 郡上から次年度継続希望申請と成果品提出物について問合せがあり、回答対等</li> <li>PF 越前から関係者等との協議の結果、次年度はPF 事業への継続申請は行わないことについて連絡あり</li> </ul>

### 【前年度 PF 採択団体への協力等の実施】

実施日等	催事	登壇依頼した PF	実施内容等
11月10日	信州の地域循環共生圏セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 小布施</li> <li>PF 根羽</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域循環共生圏づくりの事例紹介において、登壇して取組内容等について発表</li> </ul>
12月7日	伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会意見交換会(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 尾鷲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域循環共生圏づくりの事例として関連プロジェクト等を登壇して紹介</li> </ul>
2月14日	ESD ネットワーク地域フォーラムユースと自治体による SDGs オンラインフォーラム「ローカル SDGs を目指した地域づくり！若い力を結集しよう！」	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 富山大学(前年度採択団体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 未来都市の所在大学、過年度採択 PF として登壇、学生が SDGs 関連の取組を発表</li> </ul>

# イ 地域循環共生圏プラットフォーム意見交換会等の支援業務

## (ア) 採択時ヒアリングの実施

### ① 実施概要（いずれもオンラインで実施）

- 事業着手にあたってのヒアリングを PF 5 団体個別に実施し、所定の項目についてのヒアリングを実施したほか、事務局打合せを実施し、団体・活動の現状、事業の進め方等について確認を行った。

活動団体名	実施日時	ヒアリング項目
【新規】PF郡上 郡上市地域共生圏協議会	5月21日 10:00～12:00	Q.0: 事業内容の概要の整理と共有 Q.1: 本事業によって将来目指すこと／今年度目指すこととは
【新規】PF越前 越前市イノベーション研究会	5月21日 14:00～16:00	Q.2: ビジョンの実現に向けて今年度何をどこまで取り組むか
【継続】PF根羽 長野県根羽村	5月18日 14:00～16:00	Q.3: 事業を進める上での資源や強み
【継続】PF小布施 (一社)スマート・テロワール協会	5月20日 10:00～12:00	Q.4: 事業を進める上での課題やそれを解決するための方策
【継続】PF尾鷲 おわせSEAモデル協議会	5月22日 14:00～16:00	Q.5: 事業を進める上での懸念点や定義を明確にした い用語・概念等 Q.6: 今後の進め方、スケジュールに関する要望

### ② ヒアリングシート、支援計画シートの作成

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート及び支援計画シート（いずれも GEOC 提示のフォーマット）に聴取内容を整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した（6月25日開催・第1回全国 EPO 連絡会で各地方 EPO が報告）。

### 【作成・提出したヒアリングシート】

<p>令和2年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 ＜ヒアリングシート＞</p> <p>●ヒアリングシート</p> <table border="1"> <tr> <td>地方</td> <td>中部</td> <td>事業年度</td> <td colspan="3">令和2年度（新規）</td> </tr> <tr> <td>活動地域</td> <td colspan="5">岐阜県郡上市</td> </tr> <tr> <td>活動団体名</td> <td colspan="5">郡上市地域共生圏協議会</td> </tr> <tr> <td>活動テーマ</td> <td colspan="5">地域外に出ているお金を地域で回す仕組みの構築</td> </tr> <tr> <td>調査相手</td> <td>中濃地域内循環イニシアチブ・小森氏、アール・エ北陸・高澤、岡・近岡氏</td> <td>記入者</td> <td>EPO 中部 富田</td> <td>記入日</td> <td>5月21日ヒアリング実施</td> </tr> </table> <p>Q.1 本事業をどのように活かしたいのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● これまでに前年度から3回の勉強会を開催しているが、今後はステークホルダーのみではなく、郡上市民も参加する勉強会や（コロナの影響がまだあれば屋外での）環境イベントなどを開催し、地域循環共生圏づくりの理念や再エネ等を地域に普及していきたいと考えている。プラットフォームと自治体の取組を両輪にして、地域で地域循環共生圏や再エネ事業展開する世界観を共有していく必要がある。</li> <li>● しかし、プラットフォームの世界観をステークホルダーになり得そうな人たちに説明しても理解していただくことは中々難しいため、共有すべきゴールについて、ステークホルダーと顔を合わせながら話し合っていく必要がある。</li> <li>● 市民有志による「ONE GUJO」という自主的に地域経済活性化に取り組む動きなどもあり、そういった市民活動者や行政とも連携し、皆で共通認識をもち、地域のために一緒に汗をかき、ということにコミットしていきたいと考えている。</li> </ul> <p>Q.2 ビジョンの実現に向けて、今年度何をどこまでやるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 市が現在、再エネ活用も含めた防災計画の策定を進めているため、太陽光発電の蓄電池をどのようにしていくかといったことも皆で考えていけるとよい。</li> <li>● 再エネ事業化における資金調達計画づくりや、市側が今年度実施する関連調査・計画を地域に普及させる取組も今年度中に実施したいと考えている。</li> </ul> <p>Q.3 事業を進める上での資源や強み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 郡上市には、様々な素晴らしい地域活動を展開している市民が既に多々いる。彼らと新しいネットワークを構築することは、この事業の強みになっていくものと期待をしている。環境分野、発電事業など様々な活動者がいるため、彼らと行政を巻き込み、一つのネットワークとなり、事業の資源や強みにしていきたい。</li> <li>● 郡上市は、15年前に郡上郡7町村が合併しており、旧町村色が強い地域性を有する地域である。そのため「地域が分断している」「隣の地域の動きがわからない」といったこともよく聞かれる。地域の中の動きを把握することができれば、そのデータと基にした様々な施策の立案もできる。地域のデータを資源にして、オール郡上で取り組むことができれば、この地域の価値を向上できると考えている。</li> </ul>	地方	中部	事業年度	令和2年度（新規）			活動地域	岐阜県郡上市					活動団体名	郡上市地域共生圏協議会					活動テーマ	地域外に出ているお金を地域で回す仕組みの構築					調査相手	中濃地域内循環イニシアチブ・小森氏、アール・エ北陸・高澤、岡・近岡氏	記入者	EPO 中部 富田	記入日	5月21日ヒアリング実施	<p>Q.4 事業を進める上での課題やそれを解決するための方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業を進めていこうとしていた矢先に、新型コロナウイルスの影響でステークホルダーと話ができなくなった。今は十分に活動しきれない状況になっており、懸念している。</li> <li>● 市民とは、これまでもあまり接触の機会がなかったことから、今年度に環境・再エネなどをテーマにした大きなイベントを開催する予定だが、市民の中には太陽光発電等に良い印象を持っていない人もいるため、その対応・対策も課題と考えている。</li> <li>● これまでの地域活動の経験上、このような勉強会に参加してくれる市民の片よきを感じる。如何に老若男女に知ってもらえることができるのかが重要考える。</li> </ul> <p>Q.5 その他事業を進める上での懸念点や定義を明確にしたい用語・概念等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現時点では特になし。</li> </ul> <p>Q.6 今後の進め方、スケジュールに関する要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域への情報発信・共有などを行っていく際に、環境者・EPO が同行していることで地域が安心すると思われるため、協力をお願いしたい。郡上市は地域循環共生圏が成り立つ地域であり、その理念・概念などが行政、市民に理解されることにより、郡上市の地域循環共生圏づくりを促進させられると考えている。</li> <li>● また、市の担当者は様々な業務を受け持っており、地域循環共生圏について触れる機会を持つことも難しい状況にあるため、行政への情報提供や啓発等についてもぜひ協力をお願いしたい。</li> </ul> <p>付、事業の要素について（PFによる事業概要の紹介）</p> <table border="1"> <tr> <td>①取組の概要</td> <td>10年以上前から問題視していたことだが、郡上で生産された大量の本質バイオマスは地域内でエネルギーとして活用されていない。3年前、まずは電気の小売り利益を地域に残そうと、地域電力会社（小森氏が代表取締役を務める郡上エネルギー（株））を立ち上げ、「電気代を地域で循環させませんか」と地域に呼びかけてきた。しかし、一民間企業の呼びかけではなかなか理解してもらえず、郡上全体を巻き込み、多くのステークホルダーと連携して取り組む必要があると考えた。そんな折に本事業のことを知り、まさに自分たちが取り組もうとしていることにマッチしていると思い、応募した。</td> </tr> <tr> <td>(1)取組・活動・事業の概要</td> <td>現在、ステークホルダーとなる自治体や企業・団体等を訪ね、地域循環共生圏について説明しているところである。まずは勉強会等を開催し、ステークホルダーと共通認識を持つための下地づくりを進めている。自治体側が進める再エネ事業の取組と、本協議会が取り組む地域づくりの取組の両輪で展開していきたいと考えている。</td> </tr> <tr> <td>(2)取組事例の地域</td> <td>郡上市全体。</td> </tr> <tr> <td>(3)主な関係主体等</td> <td>郡上市役所とは、これまで副市長のほか、企画課等と話し合いを行ってきた。このほか市内の建設業組合や金融機関、商工会議所とも連携予定であり、各々からはおおよそ理解をいただいている。</td> </tr> </table>	①取組の概要	10年以上前から問題視していたことだが、郡上で生産された大量の本質バイオマスは地域内でエネルギーとして活用されていない。3年前、まずは電気の小売り利益を地域に残そうと、地域電力会社（小森氏が代表取締役を務める郡上エネルギー（株））を立ち上げ、「電気代を地域で循環させませんか」と地域に呼びかけてきた。しかし、一民間企業の呼びかけではなかなか理解してもらえず、郡上全体を巻き込み、多くのステークホルダーと連携して取り組む必要があると考えた。そんな折に本事業のことを知り、まさに自分たちが取り組もうとしていることにマッチしていると思い、応募した。	(1)取組・活動・事業の概要	現在、ステークホルダーとなる自治体や企業・団体等を訪ね、地域循環共生圏について説明しているところである。まずは勉強会等を開催し、ステークホルダーと共通認識を持つための下地づくりを進めている。自治体側が進める再エネ事業の取組と、本協議会が取り組む地域づくりの取組の両輪で展開していきたいと考えている。	(2)取組事例の地域	郡上市全体。	(3)主な関係主体等	郡上市役所とは、これまで副市長のほか、企画課等と話し合いを行ってきた。このほか市内の建設業組合や金融機関、商工会議所とも連携予定であり、各々からはおおよそ理解をいただいている。
地方	中部	事業年度	令和2年度（新規）																																				
活動地域	岐阜県郡上市																																						
活動団体名	郡上市地域共生圏協議会																																						
活動テーマ	地域外に出ているお金を地域で回す仕組みの構築																																						
調査相手	中濃地域内循環イニシアチブ・小森氏、アール・エ北陸・高澤、岡・近岡氏	記入者	EPO 中部 富田	記入日	5月21日ヒアリング実施																																		
①取組の概要	10年以上前から問題視していたことだが、郡上で生産された大量の本質バイオマスは地域内でエネルギーとして活用されていない。3年前、まずは電気の小売り利益を地域に残そうと、地域電力会社（小森氏が代表取締役を務める郡上エネルギー（株））を立ち上げ、「電気代を地域で循環させませんか」と地域に呼びかけてきた。しかし、一民間企業の呼びかけではなかなか理解してもらえず、郡上全体を巻き込み、多くのステークホルダーと連携して取り組む必要があると考えた。そんな折に本事業のことを知り、まさに自分たちが取り組もうとしていることにマッチしていると思い、応募した。																																						
(1)取組・活動・事業の概要	現在、ステークホルダーとなる自治体や企業・団体等を訪ね、地域循環共生圏について説明しているところである。まずは勉強会等を開催し、ステークホルダーと共通認識を持つための下地づくりを進めている。自治体側が進める再エネ事業の取組と、本協議会が取り組む地域づくりの取組の両輪で展開していきたいと考えている。																																						
(2)取組事例の地域	郡上市全体。																																						
(3)主な関係主体等	郡上市役所とは、これまで副市長のほか、企画課等と話し合いを行ってきた。このほか市内の建設業組合や金融機関、商工会議所とも連携予定であり、各々からはおおよそ理解をいただいている。																																						

① 地域内に循環するもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>郡上市は元々、域内利益がプラスとなっており、利益が地域外から流入している地域であるが、エネルギー費用のみが域外へ流出している。その点を地域課題として捉えた検討が足りない。そのため、商店街などと連携しつつ、地域で得た利益が地域で循環する仕組みづくりの検討が必要とされている。その一つが金融機関との連携による地域通貨の導入である。</li> <li>地域経済循環のベースとなるものが地域通貨であり、既にその実装に向けて、金融機関と話し合いを行っており、現在は採用するシステムについての検討を行っているところである。</li> <li>地域通貨の導入により、市民の購買行動や移動に関するビッグデータも得られる。それらを解析して地域の公共交通の再編などに活用できれば、結果的に社会コスト全体の削減にも結び付けることができるであろう。また、地域には再エネ導入によって利益を得られるというポテンシャルがあり、その利益で従来税金が投入されていた社会コストの補完ができれば、人口が大きく減少すると予測されている郡上市において、持続可能な地域像を描くことができるのではと考えている。</li> <li>一方、当地の主要産業は観光であり、今回の新型コロナウイルスの影響によって、観光業が打撃を受けると地域経済が完全に停滞することを地域が痛感している。市民には観光従事者が圧倒的に多く、観光分野にも取り組まなければ、郡上の持続可能性は確保できないであろう。</li> </ul>
② 対象となる主な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>郡上市は大阪市の半分の面積で、現在の人口は約 40,000 人である。2050 年の人口推計では 26,000 人にまで減少すると予測されている。広い市域の中で人口は減少し、財政は逼迫すると予測されている。今後、そのような地域でどのように社会資本を維持し得るかは大きな地域課題である。</li> <li>郡上は、太陽光発電事業の進出がまだ少ない地域である。今後、地域の中で増えていくのであれば、パネル調達、工事の受託などを域外に出さない仕組みも必要と考えている。</li> </ul>
③ 対象となる主な地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>郡上市は大阪市の半分の面積で、現在の人口は約 40,000 人である。2050 年の人口推計では 26,000 人にまで減少すると予測されている。広い市域の中で人口は減少し、財政は逼迫すると予測されている。今後、そのような地域でどのように社会資本を維持し得るかは大きな地域課題である。</li> <li>郡上は、太陽光発電事業の進出がまだ少ない地域である。今後、地域の中で増えていくのであれば、パネル調達、工事の受託などを域外に出さない仕組みも必要と考えている。</li> </ul>
④ 地域の自立促進のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及に取り組む上で資金が必要になるため、地銀など、地域のステークホルダーと今後どのように取り組むべきか、既に検討をはじめている。</li> </ul>
⑤ 企業、金融機関等の巻き込み	
⑥ プラットフォームの現状、見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>実現には時間がかかるかもしれないが、将来的には第三セクターの設立なども考えられている。エネルギーのみならず、社会課題解決も含めた事業内容を展開するための組織づくりが必要と考えている。</li> </ul>
⑦ ステークホルダーとの関係性、プラットフォーム参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>郡上版のシュタットパルケの設立を目指したい。地域サービスの提供において、利益を生む部門と生まない部門の両方を一つの会社、或いは組合が運営することによって、総合的な地域貢献を可能とする組織を地域の中で醸成していきたいと考えている。</li> </ul>

令和 2 年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 <ヒアリングシート>

●ヒアリングシート

地方	中部	事業年度	令和 2 年度（新規）
活動地域	越前市		
活動団体名	越前市イノベーション研究会		
活動テーマ	新たなイノベーションによる新たな地域資源の創出と地域課題の解決へ		
調査相手	高田浩二氏、皆川藤一郎氏、高澤敏之氏、近岡 里紗氏	記入者 EPO 中部 富田	記入日 5 月 21 日ヒアリング実施

Q.1 本事業をどのように活かしたいのか？

- このエリアでは経済分野において、若者との分断がみられるため、彼らとの新しい共生を創り出していきたい。そのため関係性づくりに力を入れ、同時に、地域循環共生圏についても勉強していく必要があると考えている。
- 更に関係性づくりを展開していくためには、地域に発信力を持たせることも重要である。福井県内には色々な活動に取り組む若者が多くいるが、越前市内には少ない。環境系のイベントを開催するなどして、まずは情報発信を行い、関心を持ってもらうことが重要と考えている。
- 特に若者となりがりづくりが必要とされており、これから新しく街をつくっていく人たちがどのように巻き込んでいくかが鍵となる。40 代の地域の顔役の立場にある人への打診を行うなどしており、その人とは今後、情報を共有していくと話し合った。
- 研究会の具体的な取組について、ポイントを絞った整理を行った上で、声をかけていくべき人たちの抽出を行う必要がある。
- 市の担当者との間では、新規開発エリアにおいて、再エネ展開や、企業誘致も絡めた RE100 エリアづくりに取り組もうといった話も出ている。今後、何ができれば内部で議論しているところであり、研究会としても何か提案していくことができればと考えている。また、進出予定の企業（具体的に把握）に対しても新しい提案ができるようになっていきたい。

Q.2 ビジョンの実現に向けて、今年度何をどこまでやるか

- イノベーション技術を職開発エリアでどのように活用できるか、地域循環共生圏づくりにつながる地域経済の循環の仕組みをどのように構築していくことができるかなどを地域で共有し、具体的な事業を提示しつつ、意見交換を行ってきたい。
- 意見交換会の具体的な内容については現在詰めているところであり、市側とも何度か検討の場を設けている。また、市の様々な部署から参加者のあった勉強会（事業の説明や事例の紹介など）をこれまでに 2 回開催している。

Q.3 事業を進める上での資源や強み

- キーマンである福井県立大学の南保先生が取組の中心となっていることは、様々な地域の調整等が進めやすいという点で強みとなっている。
- 高速道路の IC、国道 8 号などの幹線に加えて、新幹線の駅も整備されるこの地域は、交通結節点となっている。今後、駅整備に伴う開発で、新しい地域づくりも実施されようとしている点が地域の資源、強みと考えている。（市は駅周辺部の再開発で雇用創出を期待している。観光業の活性化はあまり期待していない。）

Q.4 事業を進める上での課題やそれを解決するための方策

- 新規周辺開発の利害関係（農地等の地権者）の調整が課題になっている。
- 全体的な地域性といえるが、新しいことにあまり積極的に取り組もうとしない土地柄であるため、本事業によって先取的な取組を展開し、それを色々な媒体を活用して市民に向けて発信し、地域全体に波及させられるようにしていきたい。
- 研究会では、社会課題をビジネスにするというテーマの検討が多くなると予想される。しかし、ステークホルダー等にソーシャルビジネスを理解してもらうことが難しく、どうすると儲かるのかといった話に偏りがちとなる。
- そういった地域性等を踏まえ、環境省・EPO には、地域循環共生圏の理念・認識を地域に発信する際の協力をお願いしたい。（例えば今後開催する勉強会やイベント等で講演するなど。）

Q.5 その他事業を進める上での懸念点や定義を明確にしたい用語・概念等

- 現時点で特になし。今後、資料の読み込みを進めていく中で、都度、不明点を確認させていただきたい。
- プラットフォーム事業で行う普及啓蒙の取組とは別途に、RE100 に関する調査等は「脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業」に申請して進めることが考えられており、実際に事業への申請を進めているところである。（⇒両事業に重複して申請することの可否等については後日、要確認。脱炭素イノベの申請ができなかったとしても、本事業において RE100 を盛り込んだ展開を期待したい。そのあたりの進め方は環境省と共に要検討としたい。）

Q.6 今後の進め方、スケジュールに関する要望

- 新型コロナウイルスの影響で、ここ 2 カ月ほどは研究会の会合が中止になるなど停滞しており、立て直しが必要となっている。特に企業が新型コロナ対策で忙かされているが、来週あたりから改めて事業への理解が得られるよう説明に何うなど行動していきたい。
- 近々の予定として、まずは勉強会の開催を目指したいと考えている。

付. 事業の要素についての整理（PF による事業概要の紹介）

① 取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>元々、キーマンである福井県立大学の南保先生を中心に、福井県内で環境ビジネスに取り組もうとする動きがあった。その南保先生が越前市のまちづくり委員会の委員長を務めていた縁で、先生も参画した本「越前市イノベーション研究会」を立ち上げることになった。その後、具体的な取組内容等を研究会で議論する中で、本事業に応募することになった。</li> <li>その後、地元 CATV も研究会に参画したいと言ってきている。</li> <li>新メンバーにも参画してもらいながら、研究会で何か新しいビジネスを立ち上げたいと考えている。</li> </ul>
② 取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会では、越前市全体を対象エリアと捉えているが、力を入れた地域として 3 年後に開業予定の新幹線駅・南越前（仮称）一帯エリアがある。</li> <li>昨年、スマートシティ、フォレストシティなどの整備方針が出されたが、具体的にどのように取り組んでいくかについては、今年度から議論がはじまったばかりである。市と連携しながら本研究会も何か方針等の提案ができればと考えている。</li> </ul>
③ 主な関係主体 / ステ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業申請時までに本研究会への参画の了解を得ているメンバーとして、市</li> </ul>

ワークホ ルダ ー 等	<p>の都市計画課のほか、福井県立大学、福井銀行、福井県中小企業団体中央会、ふくいエネルギーマネジメント協会がある。その後、丹南ケーブルテレビが参画いただけになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後はさらに、地元の若い人達を巻き込んでいきたい。</li> </ul>
② 地域循環共生圏づくりの循環要素	<p>(1) 地域内に循環するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の経済分野の関係者とクリエイティブ分野の関係者が分断している。クリエイティブ分野の方にも再エネに関心を持っている人がいる。そのため、今後、イベント開催などを通して新しい関わり方を地域に創出していきたいと考えている。</li> </ul> <p>(2) 対象となる主な地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新駅開発予定エリアは、元々が水田、森林エリアの広がる自然資源の豊かな地域である。そうした自然資源も活かしつつ、再エネを展開するための検討を行っていきたく考えている。</li> </ul> <p>(3) 対象となる主な地域課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新駅整備により新たな開発がはじまろうとしているが、イノベーション的な発案が全くなされていないことが課題と考えている。5Gやブロックチェーンなど新技術についていけない。今後、インフラ整備等が進められていくに際し、そういった新技術、イノベーションに関わる分野の学びを行った上で、地域づくりのあり方を検討していく必要がある。</li> <li>・ また、世代間ギャップがあることも課題となっている。</li> </ul> <p>(4) 地域の自立促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市との意見交換で、新しいイノベーションを地域に起こして、地域経済がまわっていく仕組みをつくる必要があると話していた。例えば地方と都市部とのマッチングや情報交流などを展開しつつ、新しい産業づくりに取り組むための試みを実施することができればと考えている。(都市部との情報交流では、特に関東エリアを念頭においている。)</li> </ul> <p>(5) 経済性の確保(企業、金融機関等の巻き込み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究会の動きとは別に、オープンイノベーション拠点づくりに取り組む動きがあり、そこに色々なステークホルダーが参加する構想となっている。</li> <li>・ 福井銀行にも何らかの役割を担っていただきたいと思っているが、まだ具体的なことなどは決まっておらず、これから検討されていくものと考えている。</li> </ul>
③ プラットフォームの現状、見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラットフォームは本研究会である。会の中に分科会なども設置している。</li> <li>・ 研究会のメンバー(＝プラットフォームのメンバーやステークホルダー)を増やしていきたいと考えている。</li> <li>・ オープンイノベーション拠点づくりに取り組んでいる団体も、本研究会に参加してもらい予定である。</li> </ul>
④ ステークホルダーとの関係性、プラットフォーム参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いずれのステークホルダーも元々知り合いの方ばかりで、ほかの様々なテーマ・分野において、既にながりのあった方ばかりである。</li> <li>・ そのほか、県内には面白い活動者がいるため、市内外に関わらず、そういった活動者にも声をかけていきたいと考えている。</li> </ul>

令和2年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 <ヒアリングシート>

●ヒアリングシート

地方	中部	事業年度	令和2年度(継続)
活動地域	長野県下伊那郡根羽村		
活動団体名	長野県下伊那郡根羽村		
活動テーマ	流域に住む人々の豊かさを保つための、持続する源流の山村づくり		
調査相手	根羽村総務課・鈴木氏	記入者	吉田 記入日 5月19日

Q.1 本事業をどのように活かしたいのか?

- ・ 根羽村は矢作川の源流に位置し、流域エリアの水を預かっている地域であると自負している。安城市など下流に位置する地域からは、根羽村の現在の環境を守ることが期待されている。流域の水、環境を守ることがビジネスとすることで、人が住みつけられる村になることを期待し、本事業に応募した。
- ・ 昨年度は、本事業の中で、そうした環境ビジネスの展開を担う新たな中間支援組織を設立することが検討された。今年度では、その中間支援組織のあり方、方向性などを検討していく予定である。

Q.2 ビジョンの実現に向けて、今年度何をどこまでやるか

- ・ 中間支援組織のあり方として、具体的にはNPOか一般社団のどちらかを設立することが検討されている。おそらく、一般社団の方が展開しやすいと思われるが、NPO設立についても、既存のNPOの改組などで可能と考えている。どちらが根羽村の環境ビジネス展開において有効かを検討し、今年度中に組織の立ち上げ、従事するメンバー、実施する事業内容などを決定したいと考えている。(中間発表または成果発表会では、設立組織の方向性について発表できるようにしたい。)
- ・ 設立に係る資金については、村による支援の予定もある。
- ・ 基となる組織としては、村の森林組合に属する既存NPOがある。
- ・ 設立後の組織の自走をどのように確保するかについては検討課題となっている。昨年度から本事業に参画しているソーシャルビジネスの専門家(長野県立大学の先生)にアドバイスをいただきつつ、今年度はその点についての掘り下げも行っていく予定である。

Q.3 事業を進める上での資源や強み

- ・ 抽象的ではあるが、根羽村の強みは「人」であることを、昨年度の事業を通じて実感した。特に年配者は、酷暑対策など、様々な地域課題に対し、自身で対処できる昔ながらの技能を有しており、自分で生きていく力を持っている。それは本事業の資源ともなり得る。
- ・ 今後、流域地域を対象にした環境ビジネスや根羽村へ人を呼ぶためのプログラムを考えていくことになるが、その際にはこの「人」を活かしたプログラムも考えていきたい。

Q.4 事業を進める上での課題やそれを解決するための方策

- ・ 課題として、村の人口が少ないことも背景にあるが、本事業に取り組む人材が不足している点が見えなければならない。
- ・ リターン・1ターンの若者などが本事業に参画しているが、彼らも仕事を持っているため、注力するにも限界がある。そのため、ミーティングの方法を工夫するなど、より効率的に取り組む

むための方策を講じていく必要がある。

- ・ また、ステークホルダーには高齢者も多いため、年配者の理解を得ることも充分留意が必要である。
- ・ 村に暮らす人々は、自分たちが日頃の暮らしの中で行っていることが当たり前になっており、それが環境ビジネスのプログラムとして活かされるとの認識を中々持てない。そのため、環境者・EP0に期待する役割として、外部の目として、村の暮らしの中にある価値を評価し、それを彼らに伝えることを期待したい。

Q.5 その他事業を進める上での懸念点や定義を明確にしたい用語・概念等

- ・ 現時点では特に懸念点等ないが、事業の進捗、関連資料の読み込みを進めていく中で、逐次不明な点等は確認していきたい。

Q.6 今後の進め方、スケジュールに関する要望

- ・ 「わかりやすい成果」を中間報告、最終報告までに提示できるよう進めていくことは重要であり、スケジュールの当初から意識して進めていきたい。

付. 事業の要素について (PFによる事業概要の紹介)

① 取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県根羽村は矢作川の源流にあり、下流の愛知県安城市などの地域とは、昔から住民間交流があった。その交流は行政中心、もしくはボランティアに近い交流のまま現在に至っている。森林組合等による交流活動なども展開されているが、中々、それが仕事にはつながらないという現実がある。そこで、従来の交流活動等を、「地域循環共生圏」と捉え得る「矢作川流域圏」において、経済性を確保した活動にシフトさせたいという思いで、村は本事業に応募した。</li> <li>・ 昨年度は本事業によって、これまであまり意見を交わすことなかった村内の様々なステークホルダーと議論を積み重ねることができた。特に若者の村に対する期待、考えなどを聞くことができ、大変有意義な意見交換となった。今年度はそうした村民、若者から出てきた意見を具体化し、これまで実施してきた環境活動に経済性を付加することで、若者の住みつけられることのできる仕組みづくりを実現できればと考えている。</li> </ul>
② 取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期の対象エリアは、根羽村と安城市になる。将来的には対象エリアを流域圏全体へ広げ、根羽村から太平洋までの矢作川 118 kmでの圏域づくりにつなげたい。</li> </ul>
③ 主な関係主体/ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局は根羽村総務課である。ほか、中心メンバーには、東京の地域づくり会社の社員でありながら地域おこし起業家として根羽村へ移住してきた若者、ソーシャルビジネスの専門家である長野県立大学の先生がいる。</li> <li>・ そのほか根羽村森林組合やNPO職員、農業に取り組むリターン者など、20代後半の若者が中心メンバーとなっている。</li> <li>・ 安城市の協力も得られている。</li> </ul>

②地域循環共生圏づくりの資源集約	<p>(1)地域内に循環するもの・こと</p> <p>(2)対象となる主な地域資源</p> <p>(3)対象となる主な地域課題</p> <p>(4)地域の自立促進のための取組</p> <p>(5)経済性の確保(企業、金融機関等の巻き込み)</p>	<p>昔から根羽村は森林組合を中心に「木育」を展開してきた。安城市や西尾市などへ行き、木工体験を提供しているほか、反対に、安城市民等が根羽村へ来て山遊び・川遊びなどを行うプログラムも展開してきている。こうした木育、環境学習プログラムが事業の資源になると捉えている。</p> <p>これまでは、ボランティアに近い形で実施してきたが、今後は、これらの活動に付加価値をつけ、環境ビジネス、環境学習の提供によって対価が得られる地域循環共生圏の仕組みづくりに取り組みしていきたいと考えている。</p> <p>地域の人口減少、後継者不足が第一の課題として挙げられる。農業、林業にしても、人の手が入らなくなること地域が荒れることにつながる。これを防ぎたい。</p> <p>まずは環境学習の提供などを組織的に展開できるようにしていく必要がある。その取りまとめ主体となる中間支援組織を立ち上げる。その上で、現在既に展開しているプログラムを対価の得られるものにしていく。そこがこの事業の本当のスタートになるものと考えている。</p> <p>また将来的には、環境学習などで、矢作川流域に関わらず広い地域から個人等を受け入れることができるようになればと考えている。</p> <p>ステークホルダーリストに信金が記載されているが、信金による具体的な取組は予定されていない。しかし、信金もSDGsに積極的に取り組んでおり、今後、事業を具体的に展開していくことで、信金からも具体的な連携協力が得られるものと期待をしている。</p>
③プラットフォームの現状、見直し		<p>昨年度、本事業により、若者の本音に触れることができた。現在、年度の終わり目と、新型コロナウイルス感染拡大防止等によって、一時的に空白期間ができてしまっているが、これから若者たちと一緒に中間支援組織の立ち上げ、外部とのつながりの窓口づくりを行っていききたい。それに具体的に着手するのみの段階となっている。</p>
④ステークホルダーとの関係性、プラットフォームの参画		<p>現状ではまだ具体的な事業展開の段階に入っていないため、これからステークホルダーの裾がり等も得られていくものと考えている。</p>

令和2年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業 <ヒアリングシート>

●ヒアリングシート

地方	中部	事業年度	令和2年度(継続)		
活動地域	長野県・北信地域				
活動団体名	一般社団法人スマート・テロワール協会				
活動テーマ	北信スマートテロワール 農業を核とした自立(自陣)分散型農村による共(鏡)創ネットワーク				
調査相手	川村氏、並木氏、藤赤氏	記入者	EFO 中部・富田	記入日	5月20日ヒアリング実施

Q.1 本事業をどのように活かしたいのか?

- これまでも環境事業に取り組んできたが、その後につながる取組が生まれることはなかった。そのため、地域の10年後のビジョンをもう一度しっかりと創るところからはじめたい。具体的なビジョンを描き、それを周りに伝え、共感してもらうことにより、プロジェクトも進めていくことができる。10年では達成が難しいとしても、本事業の目標年は2050年となっていることから、バックキャストで地域のビジョンを具体化し、その達成に向けてしっかりと取り組むことを本事業で目指していきたい。
- 小布施には牧場、小水力発電所があるなど、地域資源が豊かであり、観光地としての質資にも恵まれ、若い人が定住するなど人口も増加している。そうした地域性をベースに、またそれら個別の資源をつなぎ合わせながら、城内の循環、地域のバランスを確保していく必要がある。そのプロセスとして、自分たち自身で事業に取り組むしながら、同時に外部の人の意見も得られるよう、発表会やオープンなシンポジウムなどを開催していくことができればと考えている。

Q.2 ビジョンの実現に向けて、今年度何をどこまでやるか

- 今年度はまず、数値把握を行う必要があると考えている。具体的には例えば、町内に改修の可能な住宅が何軒あり、何軒を改修すると二酸化炭素、或いはエネルギー消費をどれほど減らせるかといった数値の把握である。昨年度に取り組む予定であったが、台風被害により実施できなかった。それぞれのプロジェクトを進めつつ、数値把握のためのリサーチも実施し、ビジョンの実現、ビジョンの明確化のためのベースとなるデータ整理をしっかりと行っていききたい。
- 農業に関する具体的なビジョンづくりにも取り組む必要がある。地域循環の取組では農業者が核になる。農業者の理解促進や農業者による具体的なアクションにつなげられる取組を構築していく必要がある。できればスマートテロワールの先進地視察などを行った上で、実際の現地・現場、現実と数値を見ながらビジョンの明確化に取り組んでいく予定である。
- 土づくりでは、地域木材を使った国交省の健康推進住宅づくりや、小布施版ソーラーシェアリングによる農業モデルづくり、牧場の堆肥の転用活用、小水力発電を活用したeCOMS(低炭素電動=メディアビークル)などのプロジェクトがある。ものづくりでは、六次産業化の取組や新作放棄地を活用した酒米づくりなどのプロジェクトがあり、人づくりでは、新しい農業、新しい地域での働き方を提示する突願プロジェクトなどがある。今年度、これら11件ほどあるプロジェクトがスタートアップの予定である。

Q.3 事業を進める上での資源や強み

- 元々地域にあるものが、本事業のひもとづくり、ものづくり、土づくりのプロジェクトの資源になっている。
- 加えて、スマート・テロワール協会の方々の存在が強みとなっている。協会のメンバーは先進的な農業の取組で日本全国にネットワークを持っている。この強みを活かし、地域の方とも密に連携して取り組んでいきたい。
- 小さな一店舗の取組をきっかけにして、地元のある企業がつながり、商品開発に成功した事例もある。この事例のように、人を資源の中心として捉え、活動群というこの形をプラットフォームの強みとして活かしていきたい。
- 地域の中に既に生まれている様々な自立的な動きをうまくネットワーク化し、外部ともつなげていくことが、このプラットフォームにとって一番重要なことと考えている。

Q.4 事業を進める上での課題やそれを解決するための方策

- 評価手法について、既存のノウハウでもよいが、環境の評価、或いは人材の評価、地域の評価などのノウハウのインプットが必要と考えている。例えば地域の二酸化炭素量の測定方法などを地域の方で使えるデータとして把握できるよう、そうしたノウハウに詳しい方を本事業の「支援チーム派遣」で紹介していただければと考えている。
- データとして今、何を把握する必要があり、どんな情報を集める必要があるかわかれば、自治体や企業等に対してデータ提供等の協力依頼も着すすることもできる。事業を進めるための根拠となり得る、基礎的なデータの把握を具体的に進めていきたいと考えている。
- 小布施町には一般社団法人イノベーションHUBという中間支援組織がある。その中に数人、プロジェクトを担っている人材もいる。現在のプロジェクト・マネージャーの体制や、プロジェクト・リーダーの事務局管理などをそうした組織の業務の中で担うことができるとよいのではと考えている。実際にイノベーションHUBが担うことにはなるかわからないが、事業を進める上で、地域の中にそうした取りまとめ機能を担う組織やマネージャー拠点が必要である。将来的にはそうした組織、体制づくりも課題となるであろう。

Q.5 その他事業を進める上での懸念点や定義を明確にしたい用語・概念等

- 新型コロナウイルスの影響による状況下で、会合の開催が難しくなっている。その上で、どのようにして地域循環共生圏を創造できるか、環境省の考えなどを聞いてみたい。また、この状況下での事業の進め方に関するアドバイスなどもいただきたい。
- 新型コロナウイルスの影響で、物の移動、人の移動などが劇的に変化し、人の認識変化、暮らし方の転換などが起こっている。事業に取り組む上での前提として捉えていた事項で変化している部分もあり、その再設定が必要なのではと感じている部分もある。他の地域の取組でもそういった影響がみられるのか、情報共有をお願いしたい。

Q.6 今後の進め方、スケジュールに関する要望

- 行政はコロナ対策に追われている。特に小布施町は小さな自治体で、職員の数も限られている。そのため対応がスローペースにならざるを得ない場合もあることを共有いただけたらありがたい。

付、事業の要素について（PFによる事業概要の紹介）

① 取組の概要	<p>小布施町は従前から環境に対する取組を進めてきており、FS調査（新事業展開実現可能性調査）等を経て、環境省・県の支援も得ながら、2016年に小規模小水力発電所を設けた。その際、バイオマス、風力発電等の導入の可能性についても調査し、エネルギー分野の取組のみでは限界があることがわかってきた。もっと大きなビジョンで、小布施町を含め周辺地域のビジョンもつながら、自立した地域づくりに取り組む必要があると考えられるようになった。</p> <p>また、小布施町は農業が主要産業になっており、クリ、リンゴなどの商品加工用の果樹が多く生産されてきた。面積の小さなまちであり、農産物に限られた生産量となるこの地域で、今後も持続的な農業を展開していくため、スマート・デワール協会と共に、スマートデワールの理念を实践しようという取組がはじまった。</p> <p>環境に関わる取組や、ものづくりや土づくりを進めていくためには、地域でビジョンを共有する必要がある。また、小布施のみでなく周辺市町村との連携も必要と考え、北信エリア（9自治体）とのネットワークを構築し、各地域の資源を活用しながら小布施、北信で展開できることを検討する目的で、本事業への応募を行った。</p> <p>地域の暮らしをベースに、どのように地域循環をつくっていくべきか、海外の事例なども参考にしながら、北信濃の土地・地域に合う独自の暮らし方づくりを本事業の中で考えていきたい。</p> <p>昨年度はネットワークづくり、ステークホルダーとのつながりづくりに重点を置き、取り組んできた。具体的には勉強会などを開催しながら、各地域の中で取り組みたいことがある人たちに集ってもらい、議論を重ねた。</p> <p>具体的には、環境省の中島氏による「地域循環共生圏とは」をテーマにした講演や、住民組織であるまちづくり委員会が中心となって、農村・里山におけるビジネスをテーマにした勉強会やワークショップなどを開催した。また、農業関係では、農家の若者グループ「おぶせファーマーズ」によるスマートデワールの勉強会を開催している。そのほか環境ジャーナリストの枝廣氏を招聘した先進事例、レジリエンス等について学ぶ勉強会も開催した。</p> <p>勉強会の参加者の中で関心を持続した人達を集め、それぞれが取り組みたいことを整理して、人づくり・ものづくり・土づくりの3つのプロジェクトとそれに関わる9つの個別事業の抽出を行った。9つの事業には、エネルギー、地域の食、災害復興等の有志の組織づくり・人材づくり、林業と連携した人づくりなどのテーマがあり、これらの取組を並行して展開してきたところである。</p>
(1) 取組・活動・事業の概要	<p>拠点の小布施町であるが、周辺地域を巻き込みながら小布施を中心に活動している。</p> <p>諸調整が必要となるため、北信エリア全体で行政レベルのつながりを持つ形にはなっていないが、長野市とは環境に関わる協定を結び、連携する動きもある。</p>
(2) 取組事例の地域	<p>各プロジェクトには主担当となるプロジェクト・リーダーがいる。事務局は、プロジェクト・マネージャー的な立場で、プロジェクトとプロジェクトをつなぐ役割を担っている。</p> <p>各プロジェクトの責任者を明確にした上で、共に話し合いながら取組を進めている。</p>
(3) 主な関係主体／ステークホルダー等	<p>各プロジェクトには主担当となるプロジェクト・リーダーがいる。事務局は、プロジェクト・マネージャー的な立場で、プロジェクトとプロジェクトをつなぐ役割を担っている。</p> <p>各プロジェクトの責任者を明確にした上で、共に話し合いながら取組を進めている。</p>

く、事業連携を生み出すことを目的としていた。オンラインでの開催を模索しているが、関心をもった市民の巻き込みを目的とした企画が難しくなるため、懸念しているところである。

② 地域循環共生圏づくりの推進事業	<p>(1) 地域内に循環するもの・こと</p> <p>各々のプロジェクトの中で循環させたい資源の創造に取り組んでいる。エネルギーであれば、町内で消費されている石油燃料は約18億円であるが、それは町外へ流出するお金である。地域の中で代わエネルギーができれば、18億円を地域の中で使い、地域の中にお金を循環していくこともつながる。農業であれば、例えば、町内にある牧場から出る堆肥を農家の土づくりに活用できると堆肥を資源として循環させることにつながり、それに係るお金も地域の中で循環させられる。</p>
(2) 対象となる主な地域資源	<p>各プロジェクトの中で、人・もの・情報の流れを持続的に循環させることを目指し、取り組んでいる。</p>
(3) 対象となる主な地域課題	<p>3つのプロジェクトそれぞれに課題はあり、例えば人づくりでは、災害時に対応できる人の配置が課題になっており、ものづくりでは、これまで環境を意識して取り組んできたようであるが実際には取り組んでいなかったことが課題となっている。そのほか、農業の後継者不足、遊休農地の増加など多岐課題はあるが、一つ解決しても別の課題が出てくるため、地域課題全体を見据えて取り組んでいく必要がある。特にエネルギーについては、RE100へ至る方策づくりが3つのプロジェクトにとって、ベースとなる課題であると考えている。</p>
(4) 地域の自立促進のための取組	<p>地域の自立促進については、地域の関係者を巻き込みながら、3つの個別のプロジェクトをどのように事業化していくかが鍵となっている。プロジェクトを自分たちで運営し、利益を得て、その利益が地域のために使われるよう、資金の循環を目指す必要がある。</p> <p>地域の複数のプロジェクトを同時並行で進めていくことにより、うまくいった事業の利益を別のプロジェクトのバージョンアップに活用するなど、複層的かつ確かなプロジェクト間のつながりを機能させることにより、地域の本当の自立へとつなげていくことができるものと考えている。</p> <p>これまでの事例では、行政主導の取組や、一部の事業者が一部のエリアでコアな取組を行うものが多かったが、地域の自立のためにはそれらの取組の横展開や、事業を地域に波及させていく必要がある。いずれは北信の他市町村に対し、「こういう取組をやっているが、どうか？」と紹介できるようにしていきたい。事業における自立とお金における自立の両方を考えていく必要がある。</p>
(5) 企業、金融機関等の巻き込み	<p>食の三次加工のプロジェクトでは、長野市の小さなお店 Natural Recipes Kitchen がクラウドファンディングに挑戦（達成）し、コロナ情勢下で地域を応援するテイクアウト用のパッケージ商品の販売を行った事業が実施されている。商品開発に際しては、地元の商品生産事業者から商品を提供していただき、企業等から資金的な支援のほか、ノウハウ提供なども得て商品化に漕ぎ着け、既に実際に販売している。小さな事例ではあるが、商品開発のために企業の枠を超え、横断的に取り組んだ事例であり、経済的な自立にもつながった事例となっている。</p>
③ プラットフォームの現状、見直し	<p>プロジェクト・リーダー等が一堂に会する機会を年に何回かつくりたいと考えている。12月頃にプラットフォームの中間報告会を開催し、各プロジェクトによる約半年間の取組を報告してもらう予定である。</p> <p>また、その中間報告会に向けて、5、6月頃に地域のキックオフを開催したいと考えていたが、新型コロナの影響で開催が難しくなった。キックオフでは前半にプロジェクト・リーダー会議、後半に一般公開による各プロジェクトの取組報告の実施を企画していた。このキックオフの開催は、人を集めることではな</p>
④ ステークホルダーとの関係性、プラットフォーム参画	<p>プロジェクト・リーダー等が一堂に会する機会を年に何回かつくりたいと考えている。12月頃にプラットフォームの中間報告会を開催し、各プロジェクトによる約半年間の取組を報告してもらう予定である。</p> <p>また、その中間報告会に向けて、5、6月頃に地域のキックオフを開催したいと考えていたが、新型コロナの影響で開催が難しくなった。キックオフでは前半にプロジェクト・リーダー会議、後半に一般公開による各プロジェクトの取組報告の実施を企画していた。このキックオフの開催は、人を集めることではな</p>

令和2年度 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業  
 <ヒアリングシート>

●ヒアリングシート

地方	中郡	事業年度	令和2年度(継続)
活動地域	三重県尾鷲市		
活動団体名	おわせS E Aモデル協議会		
活動テーマ	「新たなエネルギー」と「豊かな自然の力」を活用した「ふるさと尾鷲」の復活		
調査相手	尾鷲市政策調整課・瀬田一多朗氏ほか、中部電力、尾鷲商工会議所の担当者計5名	EPO 中部 富田	記入日 5月22日ヒアリング実施

Q.1 本事業をどのように活かしたいのか?

- 過疎・高齢化に悩む当地域で、火力発電所の廃止が地域経済に与える影響は大きい。この63万4千㎡の広大な跡地をどのように活用していくかは、地域活性化の根本に関わる大きな課題と認識している。ピンチをチャンスに変えていく組んでいく必要がある。
- S・E・Aの各プロジェクトにおいて企業誘致活動を進めると共に、本事業を活用した全国の取組事例の調査・研究を進める中で、尾鷲に関する調査・研究の掘り起こしとその活用を踏まえ活用し、持続可能な地域循環型社会の構築を目指す。
- いままで、何を、どのように具現化していくかが重要となっている。津波浸水域であること、大規模商業圏からの遠距離にあり、企業進出が中々見込めないなどの課題はありつつも、この地域に合った「おわせS E Aモデル」の実現、及び地域循環共生圏の構築として、地域経済を持続的に循環させる仕組みをつくり、指定管理にする、補填するといった考え方の事業展開は現実的ではない。地域に適した事業を展開し、外から集客し、それによって自立的に経済が循環する仕組みの構築が必要とされている。そのためにも本事業を活用したS E Aモデル実現に向けて取り組んでいきたい。
- 自立的なプロジェクト推進のために、管理運営組織の構築が急務となっている。来年12月中で中部電力の発電所撤去工事が完了予定となっているが、現在の協議会組織の体制のまま跡地活用の運営組織に移行することは現実的ではないとされている。市も進出企業への優遇施策の方針(税制優遇等)の検討を進めているが、市として進める措置とは別に、協議会としても管理運営組織を立ち上げ、進出企業への優遇策や、企業が持続的に立地できる環境を整える方針・施策を検討していく必要がある。
- 今年度の取組について、プロジェクトSでは、企業誘致のほか、9月に向けて基本計画策定も進めている。地域のアクティビティに関わる団体との連携についても庁内で議論されており、地域の団体を巻き込んだ事業展開も検討している。
- プロジェクトEでは、バイオマス発電事業の具現化に向け、燃料調達などを引き続き進めていく。また、FIT申請や事業体制の構築に向けた取組も進める。
- プロジェクトAについては、水産業など市内業者へのアプローチのほか、全国展開している関連事業者・企業への誘致活動を進める予定である。実際に進出を検討している企業があることから、現地での実証実験やマーケティング調査など事業確立に必要な調査を実施し、企業立地に至るまでのプロセスを積み上げていく予定である。

1

Q.2 ビジョンの実現に向けて、今年度何をどこまでやるか

- プロジェクトSは「サービス」という広い領域が対象となっており、Sで何をすべきかの関係部署が集まり議論を交わしている。現時点では、企業誘致が本当に実現できるか等も含め、前段の検討段階で留まっており、具体的な資金調達方法なども決まっていない。地域の活動者からもプロジェクトに対する提案をいただいている。そうした地域の声を活かしながらS E AモデルやプロジェクトSをどのように実現していくべきか、議論を重ねているところである。
- プロジェクトEについては、バイオマス発電事業の具現化に軸足を置いた活動を行っている。S E Aモデルでは、プロジェクトEでエネルギー施設を投資し、そこから得た未利用のエネルギーをプロジェクトAで活用することにより、新たなビジネスモデルを展開することを考えているため、エネルギー施設の具現化は急務である。バイオマス発電の事業費を左右するコストは燃料費であることから、燃料調達をどのように行うかは大きな課題である。今年度は、まずその目途をつける必要がある。また、FIT関係の申請作業も進めていく必要がある。最終的に事業体制を含め、今年度中に事業を実施するばかりの段階へと進めていく予定である。
- プロジェクトAでは、企業誘致・事業誘致を行ってきたが、現状では「イメージ」で話しているのが現状である。つまり、企業に伝えられる内容が「こういう土地があり、プロジェクトEのバイオマス発電所からの排熱を利用できると思います」といった内容に止らざるを得ない。しかし、既に興味を持ってきている企業もある。今年度はその企業に対し、進出に係る金額など、具体的な提示ができる段階まで進めたい。できれば1社、或いは1事業の成立を実現し、それによって事業が「見える化」する運びをしたい。1つの実現によって、それがモデルケースとなり、他の企業誘致も進めやすくなるのではと考えている。
- 提出資料「チャレンジしたいこと」で書かれていた「体験メニューの開発」について、アクティビティ団体からの具体的な提案事項が既に手元にある。その多くが地域住民向けのアクティビティの提案となっている。しかし、新型コロナウイルスの影響をうけて学校は授業ができず、夏休みが短縮されるなどの状況となっており、アクティビティのプログラムづくりにどこまで取り組むことができるか懸念されている。また、地域住民の新型コロナに対する忌避感が強く、これまで地域は積極的に観光客の集客拡大に取り組んできたが、今は、外からのお客さんに対し、恐怖感を抱いている住民も多い。アクティビティのメニューづくりでは、まず尾鷲にある港々の資源の掘り起こしを行い、その良さを体験していただくことで関係人口を増加させ、経済活動に結びつけて、地域経済を循環させるモデルにつなげたいと考えられてきたが、現状では今年度、どこまでできるかはわからない状況にあり、関係各課と何ができるか検討を行っているところである。

Q.3 事業を進める上で資源や強み

- この事業は発電所跡地の活用を前提にしており、資源としてはまず、広大な発電所跡地の活用ができるという点あげられる。
- 次に、森林・海洋資源、多種多様な魚介類とれる海、山、世界遺産にも選定された尾鷲ヒノキ、日本の雨量がありながら大きな被害には遭っていない地盤の強い土地柄、そして多くのお客さんが訪れる世界遺産・熊野古道があげられる。
- 新たなエネルギーとして、木質バイオマス発電から得られる熱エネルギーの活用が可能であることもあげられる。S E Aモデル事業の核となる新エネルギーを新たな事業に活用できることは強みといえる。
- 本事業は、市、中部電力、商工会議所の3者で設立した協議会に、オブザーバーとして三重県、三重大学も加わっており、産官学が連携している。そのため、ステークホルダーの巻き込み・

2

- 関連団体との連携や調整が行いやすいという点が事業を進める上で強みとなっている。
- 特に関心については、知事からも当事者意識をもって全面的にサポートしたいといわれており、具体的な方法についてはまだわからないが、全面的なバックアップを黒かもらいただけなものも期待している。
- 民間企業の方などは、名古屋・大阪といった都会にはない、喧騒を離れた大自然の中の癒しの空間となっていることが当地の良さであると言ってくれている。住んでいる者にはわからないが、土地・風景そのものが魅力的であるとのこと。そうした既に地域にあるものを活かした事業展開ができることも強みであると考えている。
- 今年度のアウトプットとして、「管理運営組織の構築」「進出企業への優遇施策の方針策定」「プロジェクトSの基本計画の策定」「一部実施事業の確定」に取り組む予定である。管理運営組織については、協議会の中に管理運営組織のWGを設置し、検討を進めている。進出企業への優遇策については、進出企業にメリット、地域の魅力を提示するための方針等を策定する予定である。基本計画の策定や一部実施事業の確定については、まず「何年頃にどこに何ができます」といった具体的な提示ができる計画が必要とされており、それがアウトプットにもつながるものと考えている。
- 昨年度提出した「目標および成果指標の設定シート」でも短期目標の設定を行っており、その個々の具体的な目標を一つひとつ積み重ね、長期目標の達成につなげたいと考えている。

Q.4 事業を進める上で課題やそれを解決するための方策

- 東日本大震災以降、当地が津波浸水域であることが企業の進出にとってネックになっているとよく言われるようになった。しかし、防災関連の取組も結びつける形で事業展開できないかといった検討も行っているところである。S E Aのゾーニング計画では、大規模災害が発生した際の自衛隊による海からの支援拠点としてヘリポート等も位置づけている。また、尾鷲は艦船が入りやすい入り江であるため、自衛隊の艦船が寄港することで、艦船見学の集客も見込めるようになれば期待もしている。また、当地は大規模商業圏から遠距離に位置しているが、豊かな自然など、この地域の魅力を活かした地域活性化を望む企業は多い。津波浸水域や大規模商業圏から遠いといったマイナスもプラスに転換して取り組んでいきたいと考えている。
- プロジェクトSは「サービス」がテーマであり、その領域は幅広く、市民からの要望も多岐に渡っている。全部の要望に応えることはできません。また一部の要望に応えるとしても、どの要望を採用するかなどは難しい検討となる。土地も広大であり、このプロジェクトSで何を具現化していくかは大きな課題である。
- 揚油機(釣り機)については、集客の場、起爆剤になるのではと、活用への期待が大きい。しかし将来負担が大きくなる施設であることも事実で、産・官の協力や、国を含めた支援が必要であり、小規模自治体が維持・活用していくことは難しい。
- プロジェクトEに関わる課題として、尾鷲周辺地域ではバイオマスが乱立しており、燃料となる材の調達も難しくなっていることがまずあげられる。また、山からの材の輸送、林業従事者の高齢化や人手不足なども課題となっており、小規模バイオマス発電の事業性が成り立たない状況にある。そのため、地元林業関係者との森林管理全般に関わる仕組みづくりが必要である。林業関係者のみの利益、発電事業者のみ利益ではなく、両者がWinWinとなる仕組みでなければ持続的な事業の成立は難しいであろう。
- プロジェクトAについて、当地には海洋資源を活かした地産産物が多いが、対して平地が少ないため農業生産は少ない。そのため、アグリ部分では、地域外の企業・人材との連携が重要になると考えている。
- 尾鷲市の事業者は殆どが小規模事業者であり、マンパワー・事業資金等新規事業者手へのハ-

3

Q.5 その他事業を進める上で懸念点や定義を明確にしたい用語・概念等

- 現状では特になし。

Q.6 今後の進め方、スケジュールに関する要望

- 協議会は3者の調整を必要とするため、時間に余裕を持った日程調整をお願いしたい。
- 作成資料の簡素化や、WEB会議の積極的な活用もお願いしたい。

付、事業の要素について (PFによる事業概要の紹介)

①取組の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中部電力の尾鷲三田火力発電所が54年の歴史の幕を閉じたことをうけて、2018年に尾鷲市と中部電力が63万4,000㎡の跡地の有効活用について、共存共栄の理念に基づき、地域活性化に取り組むことを目的に、2者協定を締結した。さらに地元の経済活性化に取り組む尾鷲商工会議所も加わり、「おわせS E Aモデル協議会」が発足した。</li> <li>● おわせS E Aモデル協議会は、S：サービス、E：エネルギー、A：アクア・アグリ、SEA：海といった地域にあるものを活かした地域活性化に取り組む主体である。新たなエネルギーと豊かな自然を活用した、ふるさと尾鷲の復活を掲げて、Sは尾鷲市、Eは中部電力、Aは商工会議所がリーダーとなり、それぞれの活動に取り組んできている。</li> </ul>
(1)取組・概観・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【プロジェクトS】</li> <li>● プロジェクトSでは、はじめに市民アンケートの結果や協議会の意見などを参考に、地域にどのようなニーズがあるかについての把握を行った。</li> <li>● 企業誘致を行う中では、S E Aが津波浸水域となっていること、名古屋・大阪などの大規模商業圏からは遠隔地にあることなどが企業の懸念材料となっていた。一方で、尾鷲にある豊かな自然は財産であり、大きな魅力であるとして、これを最大限に活用すべきとの意見も企業側からいただいている。</li> <li>● 企業側からは、当初描いていたゾーニング案ではわかりにくいとの指摘もあったことから、昨年度の本事業の分科会を活用した議論などを経て、さらに具体的なゾーニング案の検討を行い、この3月に協議会、市民へ提示したところである。</li> <li>● 今後は、そのゾーニング案をもとに、地域の人の力を借りながら、Sのサービスの事業、集客、市民の思いの場づくりなど一つひとつ取り組んでいくことになる。市の財政状況が厳しく、一気に投資して進めるといったことはできないが、地域の既存の資源を活かしつつ、自立的な事業展開を目指して取り組んでいる。</li> <li>● 【プロジェクトE】</li> <li>● Eでは、木質バイオマス発電を中心とした取組を展開することになっており、</li> </ul>

4

	<p>現在、主に燃料調達や事業者・関係団体との調整などに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当地域は山林が多くあるが、バイオマス発電事業が乱立しており、材料確保が難しい状況にある。その中で事業性としての評価、地域経済循環の確保が可能かなどの検討を進めているところである。</li> </ul> <p>【プロジェクトA】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクア・アグリでは、既存の尾鷲の産業を活かしつつ、新たな陸上養殖を含めた事業展開ができないか検討を進めている。</li> <li>・ 実証実験を実施しているほか、全国の陸上養殖事業者の企業誘致などに取り組みつつ、地域の既存資源なども活かされる事業の展開に向けて取り組んでいる。</li> </ul>
(2) 取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所としての対象エリアは発電所跡地となるため、尾鷲市である。</li> <li>・ 声掛けをしているステークホルダーは三重県内を含め全国に広がっている。</li> </ul>
(3) 主な関係主体／ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラットフォーム協議会（市、商工会議所、中部電力で構成）の位置づけである。</li> <li>・ 協議会 3 者以外のステークホルダーとして、昨年度「ステークホルダーリスト」に記載されている産官学の主体が協力・連携している。</li> </ul>
② 地域発展促進共生圏づくり推進事業	<p>(1) 地域内に着目するもの・こと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクトEのバイオマス発電でつくられた未利用エネルギーをプロジェクトAの水産・農業事業で活用、プロジェクトSを含めた新たなビジネスモデルを実現する。</li> </ul> <p>(2) 対象となる主な地域資源</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S・E・Aに関する既存の地域資源、豊かな自然資源。</li> <li>・ 中部電力の尾鷲三田火力発電所の跡地。</li> </ul> <p>(3) 対象となる主な地域課題</p> <p>(※Q4に、S・E・A個別の課題を整理。)</p> <p>(4) 地域の自立促進のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記のS・E・Aそれぞれのプロジェクトの実現。</li> </ul> <p>(5) 経済性の確保（企業、金融機関等の巻き込み）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業・事業の誘致。</li> </ul>
③ プラットフォーム現状、見通し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協議会を基にした新たな管理運営組織を設立予定。</li> </ul>
④ ステークホルダーとの関係性、プラットフォーム参画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三重県、三重大学が協議会にオブザーバー参加しており、産官学の協力・連携体制により各種調整等を進めやすい関係性を構築している。</li> </ul>

5

## (イ) 実施時ヒアリング（いずれも現地で面接）

- 事業着手ヒアリング（及び事務局打合せ）後に、PF 5 団体それぞれの拠点（活動地）を訪問し、2 回目となる事務局打合せを実施し、採択時ヒアリングを踏まえて、事業スケジュール等について確認、協議を行った。

活動団体名	実施日・場所	実施内容
【新規】PF郡上 郡上市地域共生圏協議会	6月16日 岐阜県郡上市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スケジュールや成果品作成の進め方等を確認</li> <li>・ 意見交換会の実施方法について協議</li> </ul>
【新規】PF越前 越前市イノベーション研究会	6月23日 福井県越前市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スケジュールや成果品作成の進め方等を確認</li> <li>・ 意見交換会の実施方法について協議</li> <li>・ 事業対象エリアや地域資源の視察</li> </ul>
【継続】PF根羽 長野県根羽村	6月22日 長野県根羽村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の前年度からの実施状況の確認</li> <li>・ スケジュールや意見交換会の実施方法について協議</li> </ul>
【継続】PF小布施 (一社)スマート・テロワール協会	6月17日 長野県小布施町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の前年度からの実施状況の確認</li> <li>・ スケジュールや意見交換会の実施方法について協議</li> </ul>
【継続】PF尾鷲 おわせSEAモデル協議会	6月24日 三重県尾鷲市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の前年度からの実施状況の確認</li> <li>・ スケジュールや意見交換会の実施方法について協議</li> </ul>

## (ウ) 意見交換会の実施

- プラットフォーム 5 団体の意見交換会を下記の通り実施した。
- いずれの実施結果も所定の「現地意見交換会開催結果報告」シートに整理し、中部地方環境事務所と共有・確認のうえ、11 月末に支援本部事務局へ提出した。

PF採択団体	実施日・場所	実施内容
【新規】PF郡上 郡上市地域共生圏協議会	10月28日 岐阜県郡上市	ローカルSDGs(地域の未来像)のアイデア出しワークショップ

PF採択団体	実施日・場所	実施内容
【新規】PF越前 越前市イノベーション研究会	10月27日 福井県福井市	スマートシティ実現に取り組む上での強み・弱みの整理、エリアマネジメントのあり方についてディスカッション
【継続】PF根羽 長野県根羽村	10月14日 長野県根羽村	矢作川下流地域（安城市）の自治体・企業による視察 「フォレストガーデン構想」我がごと化ディスカッション
【継続】PF小布施 (一社)スマート・テロワール協会	10月21日 長野県小布施・ 及びオンライン	「種の図書館」プロジェクトの今後の展開アイデア出しディスカッション (活動見える化プログラムを活用)
【継続】PF尾鷲 おわせSEAモデル協議会	11月5日 三重県尾鷲市	協議会と企業等による意見・情報交換会 (活動見える化プログラムを活用)

【作成・提出した現地意見交換会開催結果報告シート（「実施内容」項目の部分抜粋）】

PF 郡上	
開催日: 10月28日(水)	開催場所: 白鳥ふれあい創造館
参加者: ステークホルダー9名、郡上市職員2名、PF事務局3名、環境省2名、EPO中部3名	
意見交換会実施内容の概要	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>本日のワーキングの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>今回の「意見交換会」の背景・目的について</li> <li>ワーキング①           <ol style="list-style-type: none"> <li>個人シートで各自の考え・想い・アイデアを整理</li> <li>模造紙に上記①を付箋で貼り付けて、一人ずつ発表 【前提】なりたい地域の未来像とそのための要素; 必要な事業・取組、地域課題、地域資源等を関係性(ストーリー)を紹介する</li> </ol> </li> <li>「郡上みらい会議」で描かれた地域の未来像の紹介</li> <li>ワーキング②           <ol style="list-style-type: none"> <li>みんなのアイデア、「郡上みらい会議」のアイデアを見聞きして(追加したい要素・アイデアの提案)</li> <li>事業・取組の実現に必要なことは?</li> </ol> </li> <li>次回・第4回勉強会について</li> </ol> <p style="text-align: right;">2</p> </div>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● A0サイズ模造紙上のSDGsウェディングケーキの上で、それぞれの参加者が考えた「なりたい地域の未来像」「そのために必要な取組」「活用する地域資源」「解決すべき地域課題」を付箋に書いて、そのつながりをストーリー仕立てにした内容で、一人ひとり発表を行った。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域のSDGsストーリーを描いてみる：模造紙に貼り付け</p> <p>ワーキング①で発表 【ストーリー①】課題の解決、守りたい資源から考えた未来像とは? または【ストーリー②】未来像の実現によって守りたい・解決したいもの・ことは?</p> <p>ワーキング②で発表 【ストーリー①②または未来像の実現のために必要な取組とは?】 11/25MTGで深掘り</p> <p style="text-align: right;">7</p> </div>	

# PF 越前

開催日:10月27日(火)

開催場所:福井市地域交流プラザ AOSSA

参加者:  
研究会メンバー

## 意見交換会実施内容の概要

- 意見交換会では、A4 サイズ個人用シート(各自の考えを整理していただくための記入シート)と、個々に考えたこと・考えていたことを発表していただきながら、ファシリテーターが整理を行っていくための A0 サイズ模造紙シートなどを EPO で準備した。
- 各シートにより参加者から意見の「具体性」を引き出すと同時に、出てきた意見を「整理」するファシリテーションを目指した。

## 【議論のテーマ】

- 新駅周辺エリアの方向性について
- エリアマネジメントの必要性和役割について

### ① 個人シート(2題/A4・2枚)

「エリアの方向性」の議論での整理にご活用ください。			
南越駅周辺でどのような取組・事業の実現を期待しますか？	その取組・事業はどのような貢献性、効果・成果を生むと考えますか？		
	環境	社会	経済

「エリアマネジメントの必要性和役割」の議論での整理にご活用ください。	
エリアマネジメントに必要と考えられる総合プロデューサー機能	
【例】事務局コンセプトシートより	
● エリアの付加価値を創出する。	
● 様々な事業主体を繋げる(プラットフォーム)	
● 様々な事業主体の取組(領域ローカルビジネス)の文通整理(※コンセプトシートの再創イメージ)	
総合プロデューサー機能とはどのようなものと考えますか？	その機能を担う主体とはどのようなものと考えますか？
※今回の研究会では、エリアマネジメント組織の実現方法についても検討予定	
【例】事務局コンセプトシートより	
民間主導(PO/PM組合)、産出企業、近接のある事業者、学生・学生、公共との役割分担	

### ② 発表用シート(A0 サイズ模造紙上に付箋を貼り付け)

「エリアの方向性」について			
南越駅周辺でどのような取組・事業の実現を期待しますか？	取組・事業の貢献性、効果・成果とは？		
	環境	社会	経済

「エリアマネジメントの必要性和役割」について	
総合プロデューサー機能とは	その機能を担う主体とは

### ③ ファシリテーターによる模造紙上の付箋の整理



PF 越前	
開催日:10月14日(水)	開催場所:根羽村役場
<p>参加者:  前半の視察:安城市企画部企画政策課2名、株式会社スノーピークビジネスソリューションズ1名  後半の意見交換:PF事務局2名、KINOFプロジェクトチームのメンバー7名、中部地方環境事務所1名、EPO中部3名</p>	
<p>意見交換会実施内容の概要</p> <p>※ 前半に矢作川下流の安城市職員とPFによる視察を実施。後半にEPO運営による意見交換会を実施した。</p> <p>【前半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 村内3カ所の視察に同行しつつ、根羽村と安城市の矢作川上下流域の地域交流の今後のあり方について車中でPF側が意見交換を行い、その内容を後半の意見交換会で報告を行った。</li> <li>● 視察箇所 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 安城市茶臼山高原野外センター(根羽村内にある市の自然体験宿泊施設。老朽化による改築にあわせ、上下流域交流を意義づける施設名称の命名、宿泊する安城市の市民・児童たちと村民の交流を目指した自然体験プログラムの立案などが検討されている。)</li> <li>② 矢作川の源流</li> <li>③ 山地エリアにおける酪農と共にある森づくりの見学</li> </ul> </li> </ul> <p>【後半】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● PFの「木布(KINOFU)」プロジェクトのメンバーが集まり、EPO中部のファシリテーションによるワークショップ形式で意見交換を実施した。</li> <li>● 参加者それぞれが関わっている「フォレストガーデン構想」の取組や、森林資源に関わる取組や暮らし方を抽出し、それがどのような価値・効果につながるかを参加者一人ひとりが発表を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① PF事務局による「フォレストガーデン構想」の説明と、前半・視察の際の安城市の流域連携のあり方に対する意見・意向の報告。</li> <li>② 「フォレストガーデン構想」と自分たちの取組、暮らしとのつながりの抽出。</li> <li>③ 抽出した取組等がもたらす価値・効果等を「環境」「社会」「経済」別に整理。</li> <li>④ ワーキング結果のまとめ</li> </ul> </li> </ul>	

PF 小布施	
開催日:10月21日(水)	開催場所:小布施町役場及びオンライン
<p>参加者:  PF事務局2名、ステークホルダー(プロジェクトミーティング参加者)5名、小布施町役場職員2名、環境省環境計画課1名、中部地方環境事務所1名、支援事務局(パシフィックコンサルタンツ、MURC)2名、EPO中部3名</p>	
<p>意見交換会実施内容の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 日時調整等行った結果、10月の定例ミーティングを今回の意見交換会の場として実施することになり、10月ミーティングは「種の図書館プロジェクト」の報告会であったことから、同プロジェクトのリーダーとEPO中部で、事前に活動内容のチャート図作成を行った。</li> <li>● 当日のファシリテーションはEPO中部が務め、次の流れで進化した。</li> </ul> <p>【実施内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「種の図書館プロジェクト」とは  プロジェクトリーダー:竹内淳子さんによる内容紹介</li> <li>2. 「種の図書館プロジェクト」の「活動見える化」分析を検討する  ・EPO中部による分析結果の紹介と確認</li> </ol>	

・活動内容の整理に関わる意見交換 3. 「種の図書館プロジェクト」の推進に向けた意見交換
---

## PF 尾鷲

開催日:11月5日(木)	開催場所:尾鷲商工会議所
--------------	--------------

参加者:おわせ SEA モデル協議会、企業 30 社等

### 意見交換会実施内容の概要

- 当日は、尾鷲市長、三十三総研調査部(東海財務局津財務事務所紹介)、三重県庁(地域連携部)、三重大学(地域創生推進チーム)、環境本省(佐々木室長)、中部事務所が参画。企業を対象とした意見交換会を実施。
- 参加企業は、竹中工務店、イオンリテール等大企業、地域の企業計 30 社が参加した。
- 意見交換会に入る前に、地域循環共生圏についての概説(佐々木室長)、東紀州エリアの経済状況の概説(三十三総研)を行ったほか、尾鷲市による「おわせ SEA モデル構想」の説明と過去に行われたアンケート・ヒアリング結果による市民・企業等の構想への意向や声などの紹介、EPO 中部の「見える化プログラム」を活用した「おわせ SEA モデル構想」の SDGs、地域循環共生圏づくりへの具体の貢献性・関連性について紹介を行った。
- また、昨年度作成した地域版マンダラを今年度版にブラッシュアップしたものを手持ち資料として配布、及びA0サイズに拡大掲示し、「おわせ SEA モデル」の全体像や関連する地域要素(地域課題・地域資源等)の説明に活用した。
- ディスカッションでは参加企業に対し、事前に「質問票」へ記入していただき、そこに書かれていた疑問をもとに、企業と協議会との意見交換・情報交換を進行した。

### 【ディスカッションの進め方】

<p style="text-align: center;"><b>意見交換</b></p> <p>1. 企業側からの質問 2. 意見交換</p> <p>①おわせSEAモデル参画における企業にとっての課題・問題点 ②企業視点によるSEAモデルの課題・問題点の克服方法・アイデア出し ③SDGs等貢献性への企業側の意向、取組状況</p> <p style="text-align: right;">10</p>	<p style="text-align: center;">みなさんのビジネス・事業の豊富な経験と知見をお貸しください！</p> <p style="text-align: center;">おわせSEAモデルをきっかけとして 関係者ネットワークで地域の活力を！</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「おわせSEAモデル」は環境省に採択された最先端の試みです。いろいろな試行錯誤を積み重ねながら、この地域のSDGs時代の活性化を牽引する役割があります。そのために、きょうお集まりの皆さんの力をお貸しください。関係者全員で「おわせSEAモデル」を盛り上げましょう！</p> </div> <p style="text-align: right;">11</p>
--	--

**意見交換会**

おわせSEAモデルをきっかけとして  
関係者のネットワークで地域の活力を！

**チャンスのきっかけ**

○SDGs・パリ協定:17ゴールすべて意識、環境ベースに社会と経済の持続、ESG投資の進展

○総理の2050年カーボン0宣言:省エネ再エネへの追い風

○地域循環共生圏:地方創生の活性化

○ESD(持続可能な社会のための教育)促進、学習指導要領記載:持続可能性倫理観の醸成と人材の育成

○コロナ禍をきっかけとした「新しい生活様式」

・リモートワーク、ワーケーション、IT、IoT、新しい物流、レジャーや修学旅行の国内化・地域化、健康志向……

○そして、おわせSEAモデル！！

12

## ウ 意見交換会での「活動見える化プログラム」の活用

- 意見交換会の実施方法について各PF団体と事務局打合せを行う中で、「活動見える化プログラム」の活用についても確認を行ったところ、PF 尾鷲、PF 小布施が意見交換会で活動分析チャート図の活用を希望し、この2団体のチャート図を作成した。  
 ※ 残りのPF3団体は「活動見える化プログラム」の活用を希望しなかったことから、作成ニーズのあったSDGs 未来都市3自治体（ESD ネットワーク地域フォーラムに登壇）のSDGs 実践取組のチャート図を作成した。（実際に作成したチャートはすべて、前項「4. 協働取組の促進のための業務／(4)活動の見える化」に掲載。）
- 具体的には、PF 尾鷲の場合は、意見交換会の参加企業に対し、PF による取組「おわせ SEA プロジェクト」がSDGs・地域循環共生圏に対しどのような貢献性があるか説明する資料としてチャート図を活用した。
- PF 小布施は、意見交換会のディスカッション・テーマとした「種の図書館」プロジェクトの取組要素を明確化する資料としてチャート図を作成し、プロジェクトの今後の展開についてディスカッションするための検討材料として活用した。

### 【PF 尾鷲のプラットフォーム構築事業の全国中間報告会資料より】

PF事業の全国中間報告会（12/8開催）でPFが取組成果を紹介：PF尾鷲の場合

**おわせSEAモデル構想ステークホルダー・ミーティング**

（目的）おわせSEAモデル構想の取組紹介及びSDGs・地域循環共生圏への貢献性の解説  
 関係事業者からの意見を踏まえ、地域資源・価値の再発見に取り組み、プロジェクトの更なる推進とステージアップを目指す

（日時）令和2年11月5日（木）13:30～16:30  
 （参加者）35団体、76名

【意見交換会を開催したことにより得られた成果等】

- おわせSEAモデル構想の進捗状況の共有
  - ✓ 各PJにおける新たなエリアプランと今後の取組
  - ✓ 撤去工事の進捗状況
- 構想実現に対する意見・課題の共有
  - ✓ 津波浸水域
  - ✓ 大都市圏からの距離及び足元圏人口の少なさ
  - ✓ 中核となる事業主体・運営主体が見えない など
- 課題解決に向けたアイデアの共有
  - ✓ 地域資源の積極的な活用・PR（ex.海上釣り堀）
  - ✓ 近隣市町と連携したバイオマスの熱利用
  - ✓ エネルギーの地産地消を軸とした  
個々のアイデアの結び付け など
- 今後のステークホルダー巻き込みに係る機運の醸成
- 企業マッチングによる新たな事業の可能性



PF事業中間報告会でのPF尾鷲による発表資料より

PF 尾鷲の意見交換会では、SDGs・地域循環共生圏への貢献性の説明において、「活動見える化プログラム」のチャート図を用いた。

### 【PF 小布施のプラットフォーム構築事業の全国中間報告会資料より】

PF事業の全国中間報告会（12/8開催）でPFが取組成果を紹介：PF小布施の場合

「種の図書館プロジェクト」の「活動見える化」分析を検討する（10/16）  
 実践している協働取組が、地域循環共生圏やSDGsにどのように貢献しているかを認識するために、「活動見える化」分析を活用し、改めて実施する意義を定義する。

【意見交換会を開催したことにより得られた成果等】



活動3、「種の保管」の環境・社会、経済への効果が定まらず空白だった。

皆でのディスカッションの結果、これが一番大事で、北信地域で原種センターは1か所しかなく、昨年の水害の被害が影響していたら、伝統作物の種が失われるところであったことが共有された。

実は、活動3がこのプロジェクトの核となっており、自立分散の保管が重要であることが分かった。

PF 小布施は、意見交換会で「活動見える化プログラム」のチャート図を用いたことについて、議論の対象テーマであった「種の図書館プロジェクト」について、今後の展開のあり方等を具体的に掘り下げることができたとの成果を報告していた。

PF事業中間報告会でのPF小布施による発表資料より

## エ 環境省主催の情報交換会等への出席

- 環境省が主催した下記の地域循環共生圏づくり関連の行事・会議等に参加した。
- なお、会合はすべてオンライン参加（またはYouTube視聴）となっていた。

開催日	名称	実施内容等
4月23日	令和2年度地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業会議 (オンライン開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和2年度プラットフォーム事業における支援の目標について</li> <li>● 活動団体のヒアリングについて</li> <li>● 基盤強化ネットワーク事業について</li> <li>● その他</li> </ul>
6月30日	EPO 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域経済循環分析の内容の説明やツール活用や地域プラットフォーム事業への活用</li> <li>● 環境計画課で検討している自治体単位の指標について</li> </ul>
7月2日～7月3日	第1回情報交換会(キックオフミーティング) (オンライン開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業説明</li> <li>● 講演「地域循環共生圏の取組みについて」一般社団法人 INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏</li> <li>● 事務的な手続き等の説明</li> <li>● 各活動団体取組予定の発表</li> <li>● ネットワーキングイベント</li> </ul>
8月3日	第1回プラットフォームのあり方に関する検討ワーキンググループ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラットフォームの構成と機能(昨年度ふりかえり等)</li> <li>● 地域と企業、省庁とのマッチングについて(グループワーク) 等</li> </ul>
9月1日	PF 事業 情報共有会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動団体への成果物作成方法の説明の仕方について</li> <li>● 中間報告・最終報告に係る活動団体へのアナウンス内容について</li> <li>● 意見交換会の企画支援に係る情報共有</li> </ul>
9月9日	PF 相談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● WEB 相談会について</li> <li>● 経費精算について</li> <li>● 今後のスケジュールについて</li> <li>● 中間報告について</li> <li>● 全体質疑</li> </ul>
9月24日	シンポジウム ローカル SDGs のデザイン ～地域循環共生圏のつくり方～	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域循環共生圏ビジネスの先進事例とその成功要因について</li> <li>● 食と農林水産業のサステナビリティ</li> <li>● 話題提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>I. MONET Technologies における地域と連携した取り組み</li> <li>II. ぶどうの樹のこれまでとこれから</li> <li>III. 持続可能な社会づくりに挑む。小松マテーレの事例</li> <li>IV. 横濱が創発するウイズコロナ時代のサーキュラーエコノミー</li> </ul> </li> <li>● パネルディスカッション テーマ:「持続可能な地域循環共生圏ビジネスの創造に向けて、企業として果たせる役割、企業に期待すること」</li> </ul>
10月8日	パートナーシップ基盤強化事業の情報共有会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 財務省地方課(財務局の地域循環エコシステムの取組・状況等)より説明・質疑応答</li> <li>● 共有会</li> </ul>
10月26日	地域循環共生圏フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オープニングセッション「With コロナ、アフターコロナと地域循環共生圏」</li> <li>● 分科会</li> <li>● ネットワーキング</li> </ul>
11月17日	PF事業 アドバイザリー委員会(第2回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域循環共生圏 PF 事業環境整備支援における現状報告</li> <li>● 参加 EPO からの補足</li> <li>● 意見交換</li> </ul>
11月26日	ローカル SDGs セミナー(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講演会</li> </ul>
12月8日～12月9日	PF 事業中間報告会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラットフォーム事業採択団体・計 32 団体による中間報告の発表</li> </ul>
12月9日	PF 事業中間報告会振り返りミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間報告時点での振り返り</li> <li>● 支援チーム派遣の概要について</li> </ul>
12月14日	プラットフォームのあり方に関する検討ワーキンググループ 第3回ワーキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 議題1:第2回 WG(支援スキームに係る議論)の振り返り</li> <li>● 議題2:地域循環共生圏の実現に必要な「資金」について</li> <li>● 総括</li> </ul>
12月15日	ローカル SDGs セミナー(第2回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講演会</li> </ul>
12月21日	PF 事業 有識者会議②	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和2年度プラットフォーム構築の取組状況について</li> <li>● 地域循環共生圏創造の手引きについて</li> </ul>

開催日	名称	実施内容等
		<ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備の進捗に関する報告</li> <li>次年度の新規団体と継続団体の選定方針(案)について</li> </ul>
2月16日	シンポジウム「ポストコロナ社会を生き抜く地域の知恵と持続可能性-新たな地域循環共生圏(ローカルSDGs)の創造」	<ul style="list-style-type: none"> <li>鼎談「持続可能な地域づくり×DX(デジタルトランスフォーメーション)」</li> <li>事例発表</li> </ul>
2月19日	グリーンスローモビリティを活用した地域活性化の推進と脱炭素社会の実現に向けた情報連絡会(第1回)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化対策の現状について(環境省)</li> <li>グリーンスローモビリティの推進について(国土交通省)</li> <li>事例の紹介:①島根県松江市、②島根県大田市、③広島県福山市、④東京都豊島区</li> </ul>
3月2日	プラットフォームのあり方に関する検討ワーキンググループ 第3回ワーキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>議題1:第3回WG(共生圏の実現に必要な資金に関する議論)の振り返り</li> <li>議題2:地域循環共生圏づくりプラットフォームのあり方に関する今後の検討方針と検討内容について</li> </ul>
3月9日～3月10日	PF事業全国成果発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム事業採択団体による成果発表</li> </ul>

※ GEOC(及び全国ESDセンター)主催の会合等については「9 関係主体との連携及び協働に関する業務」に整理した。

## オ 地域循環共生圏の担い手主体(団体等)の把握及びネットワーク形成

- 地域循環共生圏プラットフォーム事業に応募を検討している団体に対し、情報交換及び応募の対象となる活動・取組についてのヒアリングを実施した。
- 2020年1月時点で令和3年度プラットフォーム事業への応募を検討していた2団体を対象にヒアリングを実施し、下記の通りとりまとめ、中部地方環境事務所と共有した。

### 【ヒアリング結果とりまとめ】

No.1	
対象	芋井地区住民自治協議会(長野県長野市芋井地区)
実施日	2021年2月4日

### 【ヒアリング結果】

① 取組の概要	(1)取組・活動・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意団体の住民組織(事務局:長野市芋井支所)による地域資源を活用した再エネとエリア内の移動手段確保の交通システムづくり、国立公園(戸隠・妙高)の自然資源を活用した学びのフィールドづくりとワーケーション事業等の展開を検討している。</li> </ul>
	(2)取組事例の地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県長野市芋井地区</li> </ul>
	(3)主な関係主体/ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は協議会、長野市芋井支所など。</li> <li>今後、再エネ先進地の新電力会社等から勉強していきたいと考えている。</li> </ul>
② 地域循環共生圏づくり事例としての「概要」(循環要素)	(1)地域内に循環するもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネで稼ぐ機能をもち、その資金、エネルギーを活用して地域内の交通の確保に取り組む。</li> <li>関係人口・移住者を増やし、ワーケーションその他の地域ビジネスの働く場の創出と、さらにそうした新たな人材により新しいビジネスアイデアを生み出す。</li> <li>豊かな自然資源を活かし、オリンピック開催地というブランドを活かしたビジネス・事業を展開する。</li> </ul>
	(2)対象となる主な地域資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>再エネの取組では、森林資源、既存のバイオマス発電所などが活用できると考えている。</li> <li>災害に強い地域づくりでは、2019年の台風19号による被災・復興の経験、その時に構築した支援ネットワーク、ノウハウを活用する仕組づくりに取り組みたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然資源のワイズユースでは、国立公園の麓地域にあるという立地、豊かな自然、地域性を活かした事業展開が可能である。</li> <li>・ 新たな交通システムづくりとして、既存の福祉輸送事業の発展的活用が考えられるうえ、担い手となる住民の協力が得られやすい。</li> <li>・ 応募団体が住民の自治組織であり、防災、福祉などで既に横連携できる体制がある。これまでもドローンを活用した防災マップづくりでワークショップ開催を積み重ねるなど、地域側には地域づくりの素地があり、地域の持続可能性に対する住民の問題意識も高い。</li> </ul>
(3) 対象となる主な地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化、人口減少に歯止めをかける必要がある。</li> <li>・ 地域づくりに取り組む素地はあるが、地域ビジョンを作成し、共有することまでには至っていない。</li> <li>・ 芋井地区で実施したい再エネ等の取組は、外部の専門家等の協力が必要となっている。</li> </ul>
(4) 地域の自立促進のための取組	<p>※PF 事業応募申請書「事業実施計画書」の【実現したい事業】の記載事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エネルギー自立</li> <li>・ 災害に強い地域強靱化</li> <li>・ 国立公園など豊かな自然環境との共存活用</li> <li>・ 地域主導の次世代交通システム</li> <li>・ 住民参加のまちづくり</li> </ul>
(5) 経済性の確保(企業、金融機関等の巻き込み)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金融機関では、八十二銀行と長野県 NPO センター(山室氏の所属先)が SDGs の取組で連携したことがあり、八十二銀行は SDGs に積極的であるため、協力を期待したい。</li> <li>・ 経済分野、特に中小企業との連携、関係構築を進めたいと考えている。</li> <li>・ Jクレジットやクラウドファンディングなどによる資金調達も活用していきたい。</li> </ul>
(6) その他の特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中山間地域の住民自治コミュニティ単位で取り組もうとしており、取組において規模感等が自分たちで認識しやすく、地に足の着いた事業展開が可能である。</li> <li>・ 国内に多くある中山間地域のコミュニティによる地域循環共生圏づくりのモデルになることができるのではないかと考えている。</li> </ul>
③ステークホルダーとの関係づくりの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県や市とのつながりは既にあり、今後も維持していきたい。また、行政に依存するのみでないつながり方も構築していければと考えている。</li> <li>・ 交通システムづくりでは、福祉輸送を既に社協の事業で実施しており、これを発展させる形になればと考えているため、社協の協力も得ていきたい。</li> <li>・ 企業等の経済分野の主体とは連携が少ないため、巻き込みを図っていきたい。特に再エネや交通システムづくりの取組では、新電力会社やグリーンモビリティに取り組む企業等から学ぶことから始めたい。</li> <li>・ バイオマス発電施設などの既存のものがエリア内にあり、そうした施設の協力も得ていきたい。</li> <li>・ エリア内で自然保育に長年取り組む教育法人の学校もあるため、自然資源を活用した地域づくりで連携していきたいと考えている。</li> </ul>
④プラットフォーム構築の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芋井地区住民自治協議会を核に、上記の関係する行政機関、事業者、そのほか既存の発電施設、教育施設・機関等の協力を得て構築していきたい。</li> </ul>
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ(連携イベント、勉強会等に対するニーズ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境省、EPO には先進的に取り組む地域・主体の事例を紹介してほしい。また、そうした事例をどのようにアレンジすると良いかなどのアドバイスもいただきたい。</li> <li>・ 関係する助成金、資金調達の方法などの情報提供も期待したい。</li> </ul>
⑥次年度プラットフォーム構築事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PF 事業に応募予定である。</li> </ul>

への応募の可能性(応募の障壁となるもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 芋井地区のコミュニティ単位であれば、地域が実施したいことなどの応募申請書に書くべきことが明確であるため、記入・作成がしやすかった。</li> <li>※ 自治体との協定について、支所と協議会の協力締結は過去に行っているが、本 PF 事業についての協定ではないため、有効になるかどうかは念のため、環境省側に確認いただく。</li> </ul>
----------------------	---

## No. 2

対象	WAC おばま (鳥居理事長、中島理事)
実施日	2021年2月6日

### 【ヒアリング結果】

① 取組の概要	(1) 取組・活動・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小浜市では平成14年から「食のまちづくり条例」が施行されている。</li> <li>・ ワークショップでの分析により、食を核にした環境・社会・経済の地域循環を謳う食のまちづくりは、現在のSDGsや地域循環共生圏に準じる内容であることが分かった。</li> <li>・ それによりある意味では地域循環共生圏を小浜市では既に20年近く取り組んできたとも捉えることができるようになったが、同時に依然として様々な課題があり、地域循環が達成されているとは言い難い現状にある。</li> <li>・ 現実としては持続可能性を支える人そのものが減少し疲弊しているため、地域の在り方を根本から見直し、従来の活性化による地域づくりとは別に「人口減少社会に適応する地域づくり」の可能性を探るフォーラムと協議会を開催した。</li> </ul>
	(2) 取組事例の地域	小浜市
	(3) 主な関係主体 / ステークホルダー等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 法人 WAC おばま</li> <li>・ 小浜市役所</li> <li>・ 小浜市12地区まちづくり推進協議会</li> </ul>
② 地域循環共生圏づくり事例としての「概要」(循環要素)	(1) 地域内に循環するもの・こと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての地域資源</li> <li>・ 地域循環に関与していく前提となる取組</li> </ul>
	(2) 対象となる主な地域資源	人材、農地や林地などの土地、自然環境
	(3) 対象となる主な地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化</li> <li>・ 人口流出</li> <li>・ 土地の放棄荒廃 (一次産業の不振や獣害)</li> </ul>
	(4) 地域の自立促進のための取組	地区単位での地域の自立運用を目指すコミュニティセンターが進められているが、停滞中である。
	(5) 経済性の確保(企業、金融機関等の巻き込み)	現状なし
	(6) その他の特徴など	従来型の一辺倒な上向きの活性化による地域づくりとは別の形の地域づくりの可能性を提示し、意識づけができたことで、今後の地域づくりにおいて選択肢が広がり柔軟性や多様性を確保できるようになった。
③ ステークホルダーとの関係づくりの状況	フォーラムや協議会では「人口減少社会に適応する地域づくり」を選択肢の1つとして持つことについて、現場レベルにおいて肯定的に捉える意見が多い。	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区活動の現場では、担い手が少なく特定の個人に役務が集中して疲弊している実情があり、事業や組織のスリム化を求める声もある。</li> <li>・ また、活性化に向けて活動的な地区であっても域内のマンパワーに限界を感じており、外部との繋がりを受け入れていきたいという要望も出てきている。</li> </ul>
④プラットフォーム構築の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラットフォーム構築の可能性はある。</li> <li>・ 特に地域の撤退的シナリオの方は非常にセンシティブな内容を含み、慎重且つ丁寧に議論を進める必要があるため、地区内で自発的に口火を切るのは困難と想定される。</li> <li>・ そのため、外部からのきっかけづくりや緩衝材になる組織が求められる。</li> <li>・ また、幅広く横断的・専門的な知見が必要とされるため、そのような知識や技術を蓄積して共有する器になる。</li> </ul>
⑤環境省・EPO 中部に対する支援ニーズ(連携イベント、勉強会等に対するニーズ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先進事例の紹介や講師派遣</li> <li>・ ワークショップのファシリテーターやコーディネーターの派遣</li> <li>・ ワークショップツールの開発など。</li> </ul>
⑥次年度プラットフォーム構築事業への応募の可能性(応募の障壁となるもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現段階において市内の全ての地区を見ることは難しいが、プラットフォーム構築事業を行う可能性として既に幾つかの地区(まちづくり推進協議会)が協力する旨を表明している。</li> <li>・ そのような地区からモデル的に始めることは可能であると考えられる。</li> <li>・ また行政としても地区のコミュニティセンターが停滞している現状を打破できる可能性がある事業のため関係部署の理解は得られている。</li> </ul>

## カ プラットフォーム事業採択団体のオンライン化のサポート

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の新規採択団体については、プラットフォームの会合等実施の際に、Web 会議システム等が使用できない(有料アカウントを取得していない)ため、EPO 中部側でオンライン開催・運営を行った。

### 【EPO 中部によるオンライン支援の実施】

団体	支援した会合	EPO 中部の支援
PF 郡上	8月28日・第1回勉強会 9月29日・第2回勉強会	後日 YouTube に限定公開し、欠席者、参画を呼びかけたい関係者と共有
PF 越前	7月28日・第1回研究会	後日 YouTube に限定公開し、欠席者、参画を呼びかけたい関係者と共有
<p>このほか事務局打合せにおいても、現地会合が不可となった場合、及び欠席者対応が必要となった場合などに、EPO 側で Web 会議を開設しオンライン打合せを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 7月28日 PF 越前の打合せ</li> <li>➤ 7月29日 PF 郡上の打合せ</li> <li>➤ 9月14日 PF 小布施の打合せ</li> <li>➤ 10月12日 PF 根羽の打合せ</li> </ul>		

## (2) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

### ア 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

#### (ア) 企画検討会合の実施

- 4月27日に中部地方環境事務所の伊勢志摩国立公園事務所担当者とのWeb会議を実施し、伊勢志摩国立公園における展開方法についての検討を行うとともに、伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会の事務局を紹介いただいた。
- 6月3日に伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会の実質事務局である三重県緑共生推進課を訪問し、業務についての説明と協力依頼を行った。
- 9月10日に、伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会と打合せを行い、地域側の意向確認を行った。また、次回打合せ（10月7日設定）にて、具体的内容について協議を行うことになった。

#### (イ) 第1回情報交換会の実施

##### ① 日時

- 2020年12月7日（月）14:00～17:00

##### ② 開催方法

- オンライン開催（Web会議システム使用）

##### ③ 参加者

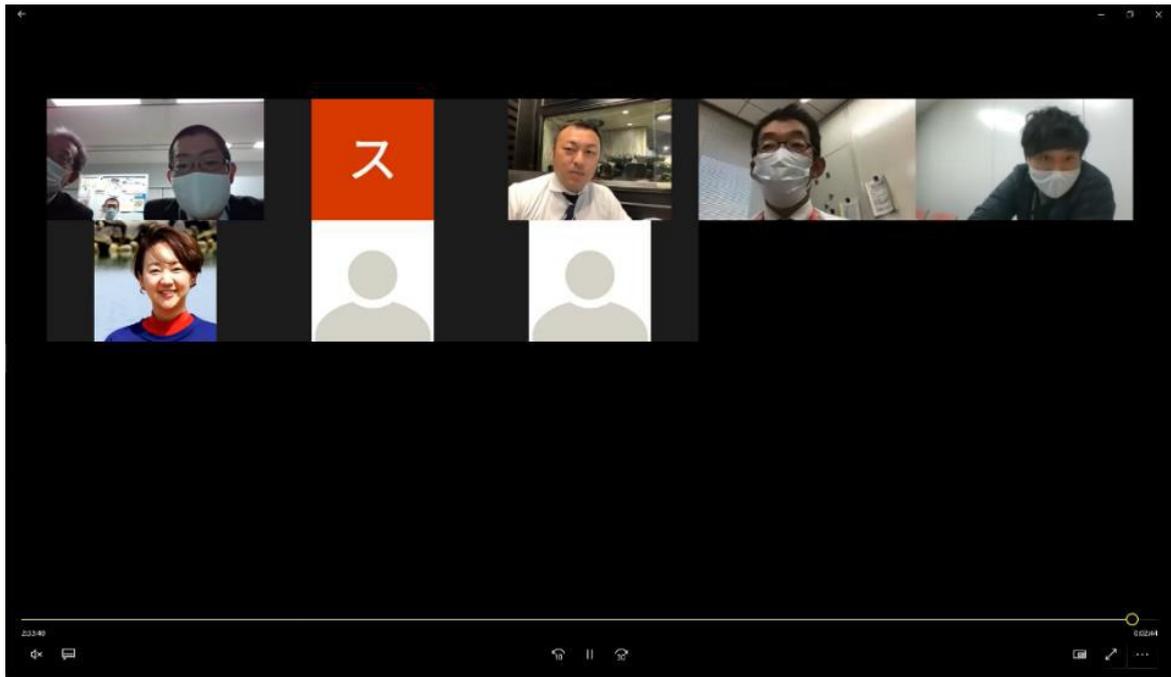
- 計30名
- 伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会の構成員などオンライン参加 計27名
- 財務省東海財務局によるオブザーバー参加 2名
- 中部地方環境事務所 1名

##### ④ プログラム

- 話題提供・情報提供
- 三重県におけるSDGsの推進について  
三重県戦略企画部企画課長 山本 秀典 氏
- 国立公園満喫プロジェクトとワーケーション  
環境省伊勢志摩国立公園管理事務所 国立公園保護管理企画官 内田 清隆 氏
- 地域循環共生圏プラットフォーム事業の採択事例の紹介  
おわせSEAモデル協議会 濱田 一多朗 氏  
(尾鷲市政策調整課 課長補佐兼企画調整係長)
- 伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会の取組紹介  
伊勢志摩国立公園エコツアーリズム推進協議会 東 友章 氏  
(志摩自然学校 代表理事)
- ワークショップ
  - ①「SDGs、実は身近な世界へのつながり」ワークショップ
  - ②「伊勢志摩へそして地球へ、地元活動のSDGsの芽を考える」ワークショップ  
ファシリテーター：EPO 中部 原 理史

## ⑤ 開催後

- 開催後、録画した動画を YouTube に限定公開し、欠席者及び関係者に案内した。



※上記画像では（カメラ OFF ではなく）ビデオなし接続者が非表示設定になっている。

## ⑥ 作成した開催案内（第1回・第2回を同時に作成・配布）

**伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会  
情報交換会**

第1回：2020年12月07日（月）14時～17時  
第2回：2021年01月18日（月）14時～17時

主催：  
環境省中部環境パートナーシップオフィス  
（EPO中部）  
<http://www.epo-shubu.jp>

テーマ

**伊勢志摩国立公園の  
エコツーリズムにおける  
ワイズユースとSDGs**

**第1回  
情報交換会**

日時：  
2020年12月7日（月）  
14:00～17:00

オンライン開催：  
ZOOM  
<https://us02zoom.us/j/85224466>  
ミーティングID: 852 244 666  
パスコード: 955217

**プログラム**  
話題提供・情報提供

- 三重県におけるSDGsの推進について  
三重県戦略企画部企画課長 山本 秀典 氏
- 国立公園高梁プロジェクトとワーケーション  
環境省伊勢志摩国立公園管理事務所  
国立公園保護管理企画官 内田 清隆 氏
- 地域循環共生圏プラットフォーム事業の採択事例の紹介（仮）  
おわせSEAモデル協議会 渡田 一多朗 氏  
（尾鷲市政策調整課 課長補佐兼企画調整係長）
- 伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会の取組紹介（仮）  
伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会  
東 友章 氏（志摩自然学校 代表理事）

**ワークショップ**  
①「SDGs、実は身近な世界へのつながり」ワークショップ  
②「伊勢志摩へもって地球へ、地元活動のSDGsの芽を考える」  
ワークショップ  
ファシリテーター：EPO中部 原瑞史

**第2回  
情報交換会**

日時：  
2021年1月18日（月）  
14:00～17:00

オンライン開催：  
ZOOM  
<https://us02zoom.us/j/81651791517>  
ミーティングID: 816 517 91517  
パスコード: 664777

**プログラム**  
話題提供

- 地方創生（笑いの力で地域を元気に！）とSDGs  
吉本興業HD・(株)よしもとエアアクション  
[https://www.yoshimoto.co.jp/air\\_action/0001.html](https://www.yoshimoto.co.jp/air_action/0001.html)

**講演**

- ファンドレイジングとは  
～共感を集める資金調達の可能性～  
日本ファンドレイジング協会 <https://fja.jp/>
- 地域におけるクラウドファンディング活用事例  
株式会社CAMPFIRE <https://campfire.jp/>

**ワークショップ（ケーススタディ・ワーキング）**

- 共感を集めるためのSDGsストーリーづくり（予定）  
ファシリテーター：EPO中部 原瑞史

## (ウ) 第2回情報交換会の実施

### ① 日時

- 2021年1月18日（月）14:00～17:00

### ② 開催方法

- オンライン開催（Web会議システム使用）

### ③ 出席者

- 42名（伊勢志摩国立公園エコツーリズム推進協議会、財務省東海財務局、三重県等 33名、YouTube録画視聴9名）

### ④ プログラム

- 話題提供
  - 地方創生（笑いの力で地域を元気に！）とSDGs  
吉本興業HD・（株）よしもとエリアアクション
- 講演
  - ファンドレイジングとは～共感を集める資金調達の可能性～  
日本ファンドレイジング協会 プログラム・オフィサー 久保 匠 氏
  - 地域におけるクラウドファンディング活用事例  
株式会社CAMPFIRE 高橋 あゆみ 氏
- ワークショップ
  - 自身の取組とSDGsの関わりについて共感をもって聞いてもらえる物語を考える  
ファシリテーター：EPO 中部 原理史

### ⑤ 開催後

- 開催後、録画した動画をYouTubeに限定公開し、欠席者及び関係者に案内した。



### ⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった（5名のみ）ため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて/エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## (エ) 今後の展開に向けたヒアリングの実施

- 森里川海推進ネットワーク形成会合、及び地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業の今後の展開（金融機関の関与の可能性）についての情報収集のため、日本政策投資銀行との情報交換を次の通り、実施した。

実施日	2月10日 13:00~15:00
実施方法	オンライン
参加者	株式会社日本政策投資銀行 北陸支店・企画調査課 2名 環境省環境計画課 2名、金融室 2名、中部地方環境事務所 2名 EPO 中部 3名
内容	【環境省側からの情報提供】 ・ 北陸地域の自治体関連の動きについて ・ 地域循環共生圏、中部地域の取組について 【情報・意見交換】 ・ 地域循環共生圏づくりにおける金融機関の巻き込み方について ・ 日本政策投資銀行全体の取組状況、自治体との連携状況 ・ 金融機関と自治体のマッチングの機会設置ニーズについて

## イ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

### (ア) 企画検討会合の実施

- 本業務への協力依頼等を行うために、財務省東海財務局と下記の通り、打合せを実施した。

9月8日	東海財務局 財務部総務課	・ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業への協力、登壇依頼 ・ PF 郡上の取組状況等についての情報共有 など
10月5日	東海財務局 津財務事務所	・ 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業への協力、登壇者等の照会依頼 ・ PF 尾鷲の取組状況等についての情報共有 など

### (イ) 郡上エリア会合の開催

#### ① 日時

- 2020年11月25日（水）13:30~16:00

#### ② 開催場所・開催方法

- 会場：白鳥ふれあい創造館 交流ホール（210号室）（岐阜県郡上市）
- オンライン視聴：一部をYouTubeでライブ配信



#### ③ 出席者

- 49名（現地参加者数37名、YouTube視聴者数12名）

#### ④ プログラム

○ごあいさつ

環境省中部地方環境事務所

○講演：縄文型SDGsの超絶まちづくり～自然と共存共生する1万年の奥義とは～

谷中 修吾 氏

（地方創生イノベータープラネットフォーム INSPIRE 代表理事/BBT 大学経営学部グローバル経営学科 学科長・教授）

○話題提供：岐阜県下における最近の経済情勢について

高橋 成守 氏

(財政省東海財務局岐阜財務事務所 財務課長)

○地域ビジネスのアイデア共有ワーキング：ローカル SDGs の共有と地域ビジネスの創発へ

(※会場現地での実施のみ)

## ⑤ 開催案内チラシ

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化ミーティング

# 郡上の未来づくり ビジネスを考える

日時：2020年11月25日(水) 13:30～16:00  
会場：白鳥ふれあい創造館 交流ホール (210号室)  
オンライン視聴：一部をYouTubeでライブ配信

- ・YouTubeのライブ配信は、下のプログラム1～3となります。
- ・来場参加は、郡上市の在住者や事業者・通勤者のみとさせていただきます。
- ・来場参加、オンライン視聴ともに事前の申込が必要です (参加無料)。
- ・参加・視聴の申込方法の詳細は、ウラ面を参照願います。

1. ごあいさつ 環境省中部地方環境事務所
2. 講演  
縄文型SDGsの超絶まちづくり  
～自然と共存共生する1万年の奥義とは～  
谷中 修吾 氏  
(地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE 代表理事/  
BBT大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授)

●谷中氏プロフィール● 静岡県出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。外資・戦略コンサルティングファームBooz Allen Hamiltonを経て、ビジネスプロデューサーとして活躍。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を創設。地方創生分野において、内閣府、総務省、環境省、農林水産省、文部科学省で有識者を務める。慶應義塾大学SFC研究所「地域デザイン・ラボ」総合プロデューサー。著書『最強の縄文型ビジネス』(日本経済新聞出版社)。

3. 話題提供  
岐阜県下における最近の経済情勢について  
高橋 成守 氏 (財政省東海財務局岐阜財務事務所 財務課長)
4. 地域ビジネスのアイデア共有ワーキング (※会場参加のみ)  
ローカルSDGsの共有と地域ビジネスの創発へ

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

## ⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった (18 名のみの) ため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて/エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## (ウ) 越前エリア会合の開催

### ① 日時

- 2021年1月26日(火) 13:00～16:30

### ② 開催方法

- オンライン開催 (YouTube でライブ配信／登壇者は Web 会議システムでオンライン登壇)

### ③ 出席者

- 56名 (登壇者6名、事務局3名、環境省1名、YouTube 視聴46名)

### ④ プログラム

○開会・ごあいさつ 越前市長 奈良 俊幸氏

○「地域環境共生圏」について

地域循環共生圏とは～気候危機・コロナ禍の地域づくり～

金井 信宏氏 (環境省中部地方環境事務所資源循環課長)

○テーマ① 福井県内の経済情勢等について

山岸 賢一氏 (北陸財務局福井財務事務所長)

○テーマ② 北陸新幹線敦賀開業による経済波及効果について

鈴木 英介氏 (株式会社日本政策投資銀行北陸支店企画調査課長)

○テーマ③ 越前市の「地域経済循環分析」をみる

山崎 清氏 (株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング  
第4事業部事業部長)

○トークセッション

地域循環共生圏づくりと新駅整備から越前エリアの未来を考えてみる

コーディネーター:

加藤 義人氏 (岐阜大学客員教授)

パネリスト:

山岸 賢一氏 (北陸財務局福井財務事務所長)

鈴木 英介氏 (株式会社日本政策投資銀行北陸支店企画調査課長)

山崎 清氏 (株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第4事業部事業部長)

山内 誠氏 (福井県銀行地域創生チームサブリーダー/越前イノベーション研究会)

平野 賢治氏 (越前市建設部理事)



## ⑤ 開催案内チラシ

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

地域循環共生圏フォーラム in 越前

# 地域循環共生圏づくりと 北陸新幹線・新駅の整備効果

日 時：2021年1月26日(火) 13:00～16:30(開場12:45)

会 場：越前市生涯学習センター eホール

オンライン視聴：YouTubeでライブ配信 <https://youtu.be/NcJALQzAzco>



- 来場参加は、事前の申込が必要です(参加無料/申込方法はウラ面参照)
- オンライン視聴(YouTubeライブ配信)は、自由に視聴できます
- 新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、開催方法やプログラムを変更する可能性があります

### プログラム

1. ごあいさつ \_\_\_\_\_ 越前市副市長 河瀬 信宏 氏
2. 「地域循環共生圏」について \_\_\_\_\_ 金井 信宏 氏 (環境省中部地方環境事務所 資源循環課長)
3. 福井県の経済情勢等について \_\_\_\_\_ 山岸 賢一 氏 (北陸財務局福井財務事務所長)
4. 北陸新幹線敦賀開業による福井県内への経済波及効果  
鈴木 英介 氏 (株式会社日本政策投資銀行北陸支店企画調査課長)
5. 越前市の「地域経済循環分析」をみる  
山崎 清 氏 (株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第4事業部 事業部長)
6. トークセッション 地域循環共生圏づくりと新駅整備から越前エリアの未来を考えてみる  
コーディネーター 加藤 義人 氏 (岐阜大学客員教授)  
パネリスト 山岸 賢一 氏 (北陸財務局福井財務事務所長)  
鈴木 英介 氏 (株式会社日本政策投資銀行北陸支店企画調査課長)  
山崎 清 氏 (株式会社価値総合研究所パブリックコンサルティング第4事業部 事業部長)  
山内 誠 氏 (福井銀行 地域創生チーム サブリーダー/越前市イノベーション研究会)  
平野 賢治 氏 (越前市建設部理事)

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)  
後援：越前市

## ⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった(4名のみ)のため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて/エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## 7 EPO 中部のこれまで集積したネットワーク及びノウハウの整理

- 第5期業務において作成した、中間支援に資する情報、及び EPO 中部のネットワーク、ノウハウ等に関わるツール、コンテンツを、中間支援組織、地域活動主体、行政等が活用できるよう、EPO 中部の Web サイトに公開した。
- 作成・公開したツール、コンテンツは、次表の通りであり、12 月に EPO 中部 Web サイトをリニューアル公開した際、協働取組や地域循環共生圏づくり、SDGs 推進に取り組むための「お役立ちツール」コーナーを新設した

### 【公開したツール、コンテンツ】

活動見える化プログラム	活動見える化プログラムの概説、チャート図による事例の紹介、チャート図作成過程で記入する分析表など
EPO 中部・協働コーディネーターのリスト	協働コーディネーターのリスト(名前、所属先、専門・得意分野)、コーディネーターの取組事例集(2019 年度作成パンフレット)
SDGs チェックリスト	SDGs チェックリスト、ワークショップで活用可能なパッケージツール一式、2020 年 6 月に実施したチェックリスト活用セミナーの動画
中部の環境イベントリスト	中部 7 県の自治体が主催する環境イベントで、NPO 等による出展が可能なイベントを活動PRの機会の場として情報提供
EPO 中部関連業務報告書アーカイブ	平成 17 年度(2005 年度)からこれまでに EPO 中部が作成・関連した業務・事業の報告書をリストと共に公開、順次最新報告書も掲載予定

### 【お役立ちツールのコーナー】 <https://www.epo-chubu.jp/tool>

EPO中部とは      EPO中部がお手伝い      お役立ちツール      EPO中部のお知らせ      皆さんのお知らせ

**活動見える化プログラムの概説と、作成したチャート図（協働取組、地域循環共生圏づくりの事例）を紹介**  
(具体的なコンテンツは前項「4. 協働取組の推進のための業務」参照)

**お役立ちツール**

**中部 ESD 活動支援センターWebサイトに公開した SDGs チェックリストのパッケージツールを EPO サイトでも紹介**

**2019 年度に作成した EPO 中部・協働コーディネーターのリストと、コーディネーターによる取組事例集（パンフレット）を公開**

**自治体主催の出展可能な環境イベントのリストを公開**

**過去の業務報告書のリスト及び各報告書ファイルを公開**

■ EPO中部・協働コーディネーターのリスト

協働コーディネーターとは

地域の協働取組の促進には、様々な活動や関係者の巻き込み、広報展開、資金調達などの裏め方をコーディネートする「協働コーディネーター」の存在が不可欠とされています。

EPO中部は、「第五次地域基本計画」で「地域新開発生圏」の構築が示されたことを受けて、協働やSDGs活用を促すための地域協働活動を支援・促進するとともに、地域の人材である協働コーディネーターの活用も進めています。

EPO中部には中部エリア（高山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県）の各県に、EPO中部の取組に協力していただいている「協働コーディネーター」がいます。

各協働コーディネーターに相談したいことなどがございましたら、EPO中部へご連絡ください。

■ EPO中部・協働コーディネーターの皆さん

(各リストをクリックするとPDFで閲覧できます。)

地域	氏名	所属先	コーディネーターからひとこと「各自の活動内容や取組が可能な分野など」
高山県	鈴木 謙	株式会社ティーツリー・フューリー・コミュニティ・ソリューションズの代表	地域の持つ魅力を見える化し、これからの協働・協業の機会が生まれる活動や取組を地域づくりのためのプラットフォーム構築に取り組みしています。
	野 貴人	環境共生プラットフォームと共生推進事務局	SDGsを標榜し、「ローカル(里山)」であるゆえに「ターゲティング」が課題であり、地方創生(ひいては一人一人の)の可能性を最大化し、具体的な活動や支援の必要性を、日々様々な取組・調整を行っています。
石川県	中野 浩	環境共生プラットフォーム	協働での事業を進めるうえで課題となる一つが資金調達の問題であり、一次産業関係等における協働関係の基盤と信頼は重要であることから、経路や経費を減らすことで協働関係との協働取組の軌道についてコーディネートしています。
	三田村 信雄	水辺と生き物を守る運動の推進委員	地域、行政、市民協力が連携した水辺環境改善や水辺活動のコーディネート、里山資源の保全や再生を協働連携により進めているための企画・企画の推進及び情報連携の推進支援を行っています。
長野県	中野 真知	NPO法人NACの代表理事、NPO法人暮らしに未来を託す理事	「仲間を繋ぎたい」「協業型」の学びの場を運営、主に里山の再生をテーマとして、地域の課題意識が活動員やコミュニティの成長、自治体・学校・行政などとの協働連携を行っています。
	山岡 勇徳	特定非営利活動法人里山再生コーディネーター事務局 信濃市地域創造センターセンター長	「100年先も広めたい、残したい里山」をテーマに、行政・NPOなどの多様な主体と協働で取り組んでいます。SDGs、ESD推進の人口の増加に対応しています。個人テーマからでもまずは気軽に声をかけてください。
岐阜県	山根 真	特定非営利活動法人ふんふん、特定非営利活動法人おん	常に子どもを対象とした地域活動の企画運営、特に障害者や高齢者による社会参加活動が専門です。また、ガレージのように民間で行われる各種「おん(おん)プロジェクト」は、地域協働の取組を推進しています。
	池 寛史	「なごや大学」実行委員会 事務局長	市民・市民団体、企業、教育機関、行政が協働で運営する地域活動のプラットフォームなどの運営の他、関係活動・情報の発信、ネットワークを築き、民間企業などの活動支援もしています。
愛知県	坂本 竜児	NPO法人ユダヤン・デザイン・センター	協働活動の支援と運営を行っています。且つ、日本列島中世や産業革命のネットワークの構築、デザイン・デザイナーの育成、企業と協働による持続可能な活動に取り組んでいます。また、イノベーションを推進し、東海地域の活性化への貢献や社会課題の解決に取り組んでいます。
	野村 尚博	特定非営利活動法人ふんふん(社) 代表理事	子どもや若年層の多様な活動の場づくりや、障害者や高齢者による社会参加活動の促進や、多様な地域活動の推進に取り組んでいます。また、地域協働の取組を推進しています。
岐阜県	河合 昌太	NPO法人暮らしに未来を託す、NPO法人暮らしに未来を託す、NPO法人暮らしに未来を託す、NPO法人暮らしに未来を託す	(2020年4月に移住者へ転居、上記の住所から2023年3月まで転居)
三重県	寺田 謙二	一般財団法人エポストップ推進委員会	持続可能な地域づくりの推進、スリイ、つなごを推進しています。SDGsと地域協働の推進を軸に、EPOやSDGs推進する人を育てたい、そんな思いを大切にしています。

協働コーディネーターのリスト

■ 参考資料：協働コーディネーターによる取組・活動の事例集

冊子「協働による地域新開発生圏づくり～EPO中部・協働コーディネーターの紹介～」(PDF/3MB)



協働コーディネーターによる取組事例集(パンフレット)

【EPO 中部ウェブサイトの「SDGs チェックリスト」ページ】

<https://www.epo-chubu.jp/help/sdgs>

まずはご利用ください！「SDGsチェックリスト」

SDGsチェックリストとは、中部地方SDG活動推進センター（EPO中部）が作成した、事業が活動の目的・業に該当する、ぜひあかたのSDGsツールキットです。  
 開業チェックリストと併用して取りまかせ、業種にダウンロードして、研修・ワークショップ等に活用いただけます。

ツール内容

■各ツールのダウンロードは [こちら](#) から（※中部地方SDG活動推進センター・Webページよりリンク先）

SDGsチェックリスト 基本情報欄	事業や活動が実施されているSDGsを把握するためのツールです。
目標とSDGsの関係性を考える 「チェックシート」	チェックリストを参照して、ご自身の事業のSDGsを把握するためのツールです。（使い方は別添付資料）
様々な目標とSDGsの関係性を考える 「SDGsワークシート」	資料「SDGsワークシート」を、業種別のワークショップ用に活用するためのツールです。
SDGsチェックリスト（基本情報欄）の ワークショップアプリケーションガイド	SDGsの観点からSDGsチェックリスト、ワークショップの活用方法を解説する資料です。
SDGsチェックリスト 事業別活用欄	「SDGsチェックリスト（基本情報欄）」の活用方法を解説するためのツールキットです。
【参考資料】 SDGsチェックリスト活用ガイド	チェックリストの活用方法について詳しく解説する資料です。

SDGsチェックリスト（基本情報欄）（PDF, 204KB）



SDGsワークシート（学習シート）（PDF, 231KB）



■その他のSDGsツールのダウンロードは [こちら](#) から（※中部地方SDG活動推進センター・Webページよりリンク先）

どのツールも研修、社員研修、ワークショップ等に自由に活用いただけます。  
 よろしければ、ツールをダウンロードした際の署名の捺印をお願いします。開業チェックリストと併用して取りまかせ、Webサイトで紹介させていただきます。

SDGsチェックリストの活用例

SDGsチェックリストを参照して開業チェックリストの活用方法を解説するワークショップの参加者向けに、ワークショップの事例集にリンクしています。

■SDGsチェックリストを活用したワークショップ事例集（※中部地方SDG活動推進センター・Webページよりリンク先）

公開中の SDGs チェックリストのパッケージツールの資料リスト

SDGs チェックリスト

パッケージツールの一つであるグループワーク用シート

SDGs チェックリスト、パッケージツールを活用したセミナー、ワークショップの事例集にリンク

# 中部の環境イベントリスト

中部7県（富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県）の地域活動団体等（主催者以外の団体）による出展が可能な環境関連イベントのリストを作成しました。

地域活動や環境取組などをPRする場をお探しの際にぜひご利用ください。

- ▶ 富山県内のイベント [PDF/90KB]
- ▶ 石川県内のイベント [PDF/87KB]
- ▶ 福井県内のイベント [PDF/268KB]
- ▶ 長野県内のイベント [PDF/139KB]
- ▶ 愛知県内のイベント [PDF/374KB]
- ▶ 岐阜県内のイベント [PDF/136KB]
- ▶ 三重県内のイベント [PDF/115KB]

環境イベントリストを県別に掲載

環境イベントリストの長野県の例

## ▼ リストのサンプル例（長野県のリスト）

NPO等が出展できる環境イベント等【長野県】(2019年12月時点調査)

No.	自治体	名称	申込	申込期間	主催(共催)	開催の日程について		開催期間	問合せ先	イベント詳細の参考URL
						開催形態	開催場所			
1	長野県	環境と学びの連携推進プロジェクト2019	●	有	環境推進フェア運営の委員会(長野県、長野県教育委員会、長野県庁)	有	https://shinshu-kenkyu-fair.com/event.html	2019年7月27日(土)～28日(日)	環境と学びの連携推進委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161	https://shinshu-kenkyu-fair.com/
2	長野県	環境推進フェア2019(1) 環境と学びの連携推進プロジェクト2019	●	有	環境推進フェア運営の委員会(長野県、長野県教育委員会、長野県庁)	有		2019年7月27日(土)	環境推進フェア運営の委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161	https://environmental-connection.com/2019/
3	長野県	環境と学びの連携推進プロジェクト2019(2)	●	有	環境と学びの連携推進委員会	有		2019年11月27日(土)	環境と学びの連携推進委員会 TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
4	長野県	2019年10月19日(日)環境と学びの連携推進フェア	●	有	環境推進フェア運営の委員会	有		2019年10月19日(日)	環境推進フェア運営の委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
5	長野県	環境推進フェア2019	●	有	環境推進フェア運営委員会	—		2019年10月20日(日)	環境推進フェア運営委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
6	長野県	第14回長野県環境フェア2019	●	有	長野県環境フェア実行委員会	有		2019年11月27日(土)	長野県環境フェア実行委員会 TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
7	長野県	環境推進フェア2019	●	有	長野県環境推進委員会	—		2019年11月30日(日)	長野県環境推進委員会 TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
8	長野県	環境推進フェア2019(1) 環境と学びの連携推進プロジェクト	●	有	環境推進フェア運営の委員会	有		2019年12月12日(土)～14日(日) 3日連続の開催	環境推進フェア運営の委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
9	長野県	第14回長野県環境フェア(2) 環境と学びの連携推進フェア	●	有	環境推進フェア実行委員会	有	https://www.environmental-connection.com/2019/	2019年12月19日(土) 1日開催の開催	環境推進フェア実行委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
10	長野県	環境推進フェア2019(2)	●	有	環境推進フェア運営の委員会	有		2019年11月27日(土)	環境推進フェア運営委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
11	長野県	環境推進フェア	●	有	環境推進フェア実行委員会	—		2019年7月14日(日)	環境推進フェア実行委員会 TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
12	長野県	環境推進フェア	●	有	環境推進	有	https://www.environmental-connection.com/2019/	2019年11月16日(日)	環境推進フェア実行委員会 TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
13	長野県	伊勢丹環境フェア2019	●	有	伊勢丹環境フェア実行委員会	有		2019年12月14日(日)	伊勢丹環境フェア実行委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
14	長野県	環境推進フェア2019(1) 環境と学びの連携推進プロジェクト	●	有	環境推進フェア運営の委員会	有		2019年11月27日(土)	環境推進フェア運営委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/
15	長野県	環境推進フェア2019(2)	●	有	環境推進	有		2019年11月30日(日)	環境推進フェア運営委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161	https://www.environmental-connection.com/2019/
16	長野県	環境推進フェア2019	●	有	環境推進	有		2019年11月30日(日)	環境推進フェア運営委員会(長野県教育委員会(長野県庁)) TEL: 026-224-2161 FAX: 026-224-2161 Eメール: kenkyu-fair@shinshu-kenkyu-fair.com	https://www.environmental-connection.com/2019/

### 【リストに掲載したイベントについてのご注意】

リストは、2019年12月時点にEPO中部が検索を行い、下記3項目に該当しているイベントを抽出・整理したものです。

- 中部7県の県市町村等の自治体が発行者、または主催団体等に関係している。
- イベントのテーマが環境に関連している・含まれている（環境関連のコーナーなどがある）。
- 過去の開催で、NPO・NGO等の主催者以外の地域団体によるブース出展コーナーが設けられていたことがある。

※リスト掲載のURLは、検索時点に閲覧可能だったウェブサイト・ページです。

※各イベントの詳細は、リストに掲載のそれぞれの「問合せ先」におたずねください。

※リスト掲載のイベントの追加、訂正・削除については、EPO中部へお知らせいただけます。

## EPO中部関連業務報告書アーカイブ

EPO中部運営業務、ESD関連業務、協働推進事業・協働加速化事業等における過去の報告書を掲載しています。

### EPO中部運営業務【平成17年度～】

- 📄 平成30年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 報告書
- 📄 平成29年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 報告書
- 📄 平成28年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 報告書
- 📄 平成27年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 報告書
- 📄 平成26年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 四半期報告書及び年間報告書
- 📄 平成25年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 四半期報告書及び年間報告書
- 📄 平成24年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務 四半期報告書及び年間報告書
- 📄 平成23年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書
- 📄 平成23年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務ESD関係事業報告書 ESDフォーラム2011
- 📄 平成22年度中部環境パートナーシップオフィス1～4半期、年間 業務実施報告書
- 📄 平成21年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務年間報告書
- 📄 平成20年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（第1四半期分）
- 📄 平成20年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（第2四半期分）
- 📄 平成20年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（第3四半期分）
- 📄 平成20年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（第4四半期分）
- 📄 平成19年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（4-6月期）
- 📄 平成19年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（7-9月期）
- 📄 平成19年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（10-12月期）
- 📄 平成19年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（1-3月期）
- 📄 平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（9月期）
- 📄 平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（10-12月期）  
・オープン記念フォーラム報告書・ESD-Tキックオフミーティング報告書
- 📄 平成17年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務報告書（1-3月期）

平成17年度(2005年度)からのEPO中部運営業務関連の報告書ファイル

ESD業務や、環境省事業(同時解決事業、協働加速化事業)の過去報告書もタブを開くとリスト展開し閲覧可能

### ESD関連業務【平成18年度～平成29年度】

### 協働推進事業・協働加速化事業等【平成23年度～平成31年度】

### 参考) 過去に主催したイベントのリスト

- ▶ [EPO関連業務イベント](#)
- ▶ [ESD関連業務イベント](#)
- ▶ [協働推進・協働加速化事業関連のイベント](#)

上記の報告書の中から、イベントを抽出し、登壇者と登壇タイトル等をリスト化したものを参考資料として公開



## 8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務

### (1) 地域住民・市民等向けのワークショップ開催

#### ① 日時

- 2020年11月14日(土) 13:30~16:30

#### ② 開催場所

- 片平ふれあいセンター(名古屋市緑区鳴海町天白90)

#### ③ 出席者

- 62名



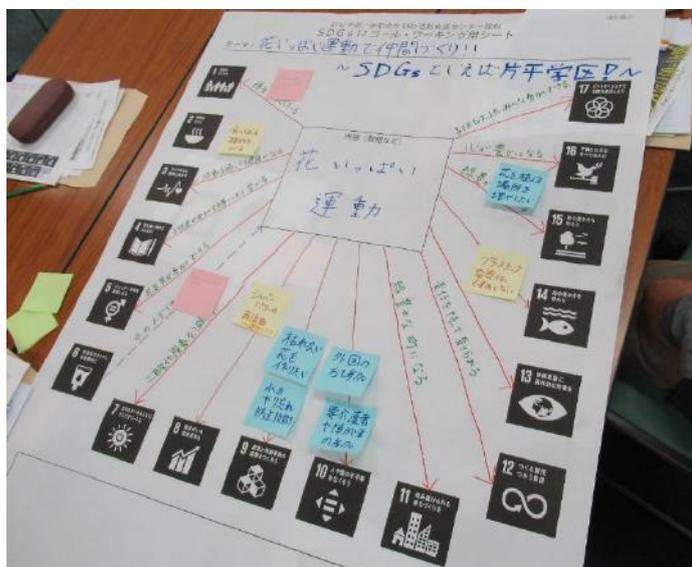
#### ④ プログラム

##### 第一部 おとなも子どもも、いっしょに学ぼう! 「SDGs ってなんだ?」

- オープニング X 博士のクイズゲーム「あなたは地球にやさしい?」実施
- 紹介 みんなの地元、片平学区の環境活動: 杉野 友昭氏 (片平学区連絡協議会長)
- 解説 未来の地元を考えるために: 千頭 聡氏 (日本福祉大学教授)

##### 第二部 今から始まる明日への取組

- ワークインプット「ローカルSDGsとは」: 西田 清紀氏 (環境省中部地方環境事務所)
- ワークショップ「SDGs 地元から世界へ」実施
- まとめ、講評: 千頭 聡氏 (日本福祉大学教授)



⑤ 開催案内チラシ

環境省EPO中部・地域SDGsワークショップ

# みんなあつまれSDGs! 「今」から始まる明日への取組

片平学区50周年記念「環境学習会」によせて

**日時** ▶ 2020年**11月14日(土)**  
13:30~16:30

**場所** ▶ 片平ふれあいセンター  
愛知県名古屋市緑区鳴海町天白90

**定員** ▶ 50名※小学生以下は保護者同伴

**申込先** ▶ 片平学区連絡協議会  
✉ [t\\_0313su@yahoo.co.jp](mailto:t_0313su@yahoo.co.jp)  
(会長：杉野友昭まで)

参加費  
無料

名古屋市は2019年SDGs未来都市となりました。来るべき世代に向けて、地球と調和したまちづくりをするという宣言です。みなさんはご存知でしたか？大人も子どももいっしょになって、この機会に未来の地元を考えてみませんか。地元地域の未来創造を目指して、私たちに何ができるか、何をすべきかを、50周年を迎えた名古屋市片平学区から学び、対話をする会を開催します。地元を愛する人大歓迎！是非みなさんご参加ください。

**プログラム** ※演題はすべて仮題

.....

**第1部 おとなも子どもも、いっしょに学ぼう！「SDGsってなんだ？」**

1. オープニング：X博士のクイズゲーム「あなたは地球にやさしい？」
2. 紹介：みんなの地元、片平学区の環境活動 杉野友昭氏（片平学区連絡協議会長）
3. 解説：未来の地元を考えるために 千頭 聡氏（日本福祉大学教授）

**第2部 今から始まる明日への取組**

**おとな活動** 対話して、考える！  
「地元から発信！未来の名古屋市」  
コーディネーター：原 理史（EPO中部）

1. ワークインプット「ローカルSDGsとは」  
西田 清紀氏（環境省中部地方環境事務所）
2. ワークショップ「SDGs 地元から世界へ」  
SDGsチェックリストを使って今後の環境活動を考えます。
3. まとめ、講評  
千頭 聡氏（日本福祉大学教授）

**子ども活動** 作って、考える！  
「竹を知ろう！竹で遊ぼう！」  
指導：なごや竹和会（ちくわかい）

名古屋市の竹林について、クイズや紙芝居で学んだら、竹を使って「竹ぼっくり」や「けん玉」作りを楽しみます。自分の作品ができたら遊んでみよう！

▶▶▶ 新型コロナウイルスの状況によっては、感染拡大防止のために現地でのイベントを中止し、講師の登壇のみのYouTubeオンライン配信とする場合があります。あらかじめご了承ください。◀◀◀

主催：環境省 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 共催：名古屋市片平学区連絡協議会

⑥ 参加者アンケート結果

- 回答者数が少なかった（16名のみ）のため、他のイベントの参加者アンケートとあわせて集計した結果を「11. 今後に向けて/エ. イベント参加者アンケート結果より」に整理した。

## 9 関係主体との連携及び協働に関する業務

### (1) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

#### ア 定期打合せと日々の業務報告の提出

##### (ア) 定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月1回以上実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4月10日	1. 業務実施計画について 2. 個別のイベント展開案について 3. 運営会議の日程設定とウェブ会議の設営について 4. ウェブサイトのリニューアルについて（ドメインの件など） 5. その他 (1) 次回打合せ (2) ビル管理会社からの「現況調査票」 (3) その他
第2回	5月11日	・ 第1回 EPO 中部運営会議の進行と会議資料について ・ 第1回中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議の進行と会議資料について
第3回	6月19日	1. PF事業・採択団体との第2回打合せについて 2. イベント関係の業務状況について（報告） ・ 信州での協働フォーラム開催 ・ ESD ネットワークフォーラム SDGs 学生サミット（仮）の段取り ・ ESD ダイアログ白山開催の段取り ・ 森里川海（伊勢志摩）、基盤強化（3PF 支援） ・ 名古屋市の2 ワークショップ ・ 6月29日開催・SDGs チェックリスト活用セミナー（ライブ配信テストの実施） 3. その他 (1) 次回打合せ／第1 四半期報告書の提出 (2) その他
第4回	7月13日	1. PF事業・採択団体との第3回打合せについて 2. イベント関係の業務状況について（報告） 3. ウェブのリニューアル案（既存サイトの整理）について 4. 第1 四半期報告書について 5. その他 (1) 次回打合せ／第1 四半期報告書の提出 (2) その他
第5回	8月26日	1. PF事業5 団体の進捗状況、今後の進め方について 2. イベント関係の業務状況について 3. Web サイトのリニューアル後の必要経費について 4. 変更契約に向けた作業について 5. その他 (1) 次回打合せ (2) その他
第6回	9月18日	1. PF事業5 団体の進捗状況、今後の進め方について 2. そのほかイベント関係の業務状況について 3. 行政レビューの GEOC 提示共有化資料について 4. 第5期3 カ年度中間報告書について 5. その他 (1) 次回打合せ／第2 四半期報告書の提出 (2) その他
第7回	10月13日	1. PF事業5 団体の進捗状況、今後の進め方について 2. そのほかイベント関係の業務状況について 3. 第2 四半期報告書とその納品 4. 協働コーディネーターの EPO 事業ニーズ（回答状況） 5. その他

	実施日	主な打合せ協議事項
第8回	11月18日	1. PF事業5団体の進捗状況、今後の進め方について 2. そのほかイベント関係の業務状況について 3. 第5期中間報告について 4. Webリニューアルについて 5. そのほか業務全体の実施状況、要提出物等について 6. 運営会議について 7. その他
第9回	12月22日	1. PF事業5団体の進捗状況、今後の進め方について 2. そのほかイベント関係の業務状況について 3. Webリニューアルについて 4. 運営会議の資料について 5. その他
第10回	1月15日	1. 地域循環共生圏事業について 2. そのほかのイベント関係の準備について 3. 運営会議の資料等について 4. 第3四半期報告書について 5. その他
第11回	2月17日	1. 地域循環共生圏事業について ・PF事業についての共有 ・応募予定2団体のヒアリング結果 2. そのほかの今年度業務の実施状況の確認 3. 年間報告書・概要版の提出スケジュールについて 4. その他
第12回	3月12日	・年間報告書、概要版の原稿確認 ・その他要提出資料等について

## (イ) 日々の業務報告提出

- 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。

## イ 中部地方環境事務所が主催する外部評価委員ヒアリングへの対応等

### (ア) 外部評価委員ヒアリングへの出席

- 中部地方環境事務所が実施した外部評価委員へのヒアリングに下記の通り出席した。

行事等	実施日	EPO 中部による対応
外部評価委員ヒアリング	2月10日 オンライン	● EPO 中部スタッフ3名が同席し、第5期中間報告書の説明、質疑応答などを行った。

### (イ) 第5期中間報告書（2020年12月時点作成）の作成・提出

- 外部評価委員ヒアリングの実施にあたり、EPO 中部運營業務の「第5期中間報告書」を作成し、12月初旬に中部地方環境事務所へ提出した。（提出した報告書は中部地方環境事務所のWebサイトに公開されている：[http://chubu.env.go.jp/earth/mat/m\\_2\\_2.html](http://chubu.env.go.jp/earth/mat/m_2_2.html)）

※ 定量的な目標設定、達成結果については、「1. 業務実施計画の作成及び公表／(2) 定量的な達成目標の設定」参照。

# 環境省中部環境パートナーシップオフィス運営業務 第5期(2018～2020年度)中間報告書

2020年12月  
一般社団法人 環境創造研究センター

## 目次

環境省中部環境パートナーシップオフィス運営業務  
第5期(2018～2020年度)中間報告書

1. 第5期EPO中部の目標と方針
2. 第5期における主な取組
  - 【方針①】「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
  - 【方針②】「活動見える化プログラム」の構築・検証
  - 【方針③】「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
  - 【方針④】「SDGsチェックリスト」の作成・活用その他の取組
3. 第5期の取組についての総括
  - ① 3カ年取り組んだことによる成果
  - ② 課題
  - ③ 今後に向けて

## 1. 第5期EPO中部の目標と方針

3

### 第5期運営着手にあたり設定した3カ年の「目標」と「方針」

#### ■目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムを構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

#### ■方針

- ESD/SDGsの意義とビジョン及びEPO中部の役割等、協働促進のための情報発信を継続的に行います。
  - EPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムとなる
    - ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
    - ② 「活動評価システム(活動効果やSDGs要素を可視化するシステム)」の構築・検証(※着手後に名称を「活動見える化プログラム」としており、本書でも以後はこの名称を用いた。)
    - ③ 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
    - ④ 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用(※着手後に名称を「ESDのためのSDGsポイントチェックリスト」としており、本書では通称の「SDGsチェックリスト」の名称を用いた。)
- に「動機付け」と「見える化」を視点として取り組みます。
- 地域づくり活動に対する活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりを行い、ニーズ・課題等をEPO中部の業務へフィードバックします。

4

## 2. 第5期における主な取組

5

### 【方針①】 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

#### (1) 出展可能な環境イベントのリストの作成・公開

- 中部7県の自治体が主催する(実行委員会方式含む)環境イベントで、NPO等民間団体が出展可能なイベントの抽出作業を2018年度に行い、その開催時期、出展応募要領、問合せ先などの整理を行った。
- データの精査・確認作業を経て、中部の自治体主催イベントリストを作成した。
- リストには計178件のイベントを掲載した。

#### 【実施結果】

- このイベント・リストは2020年3月に、EPO中部Webサイトで公開している。
- また、EPO中部が中間支援、伴走支援を行ってきた事業や主体に対し、事業・活動の普及啓発を展開する際には、本リストを提供し、活用してもらっている。

(例：2019年度同時解決事業の採択団体が長野県イベントでログファイヤーの展示を行った。)

#### 掲載イベント数

調査時点→	2019年12月
富山県	11
石川県	8
福井県	12
長野県	26
愛知県	69
岐阜県	32
三重県	20
計	178

中部エリアの《NPO等の出展可能なイベントリスト》をご活用ください

中部7県(富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県)の地域活動団体等(主催者以外の団体)による募集が可能な環境関連イベントリストを作成しましたので紹介いたします。  
地域活動や環境取組などをPRする場などをあわせてご活用ください。

- 富山県内のイベント [[PDF/509KB]]
- 石川県内のイベント [[PDF/787KB]]
- 福井県内のイベント [[PDF/558KB]]
- 長野県内のイベント [[PDF/138KB]]
- 愛知県内のイベント [[PDF/374KB]]
- 岐阜県内のイベント [[PDF/135KB]]
- 三重県内のイベント [[PDF/118KB]]

#### ▼リストのサンプル例(長野県内リスト)

#### 【リストに掲載したイベントについてのご注意】

- リストは、2019年12月時点でEPO中部が検索を行い、下記3項目に該当しているイベントを抽出・監査したものです。
- 中部7県の県庁所在地の案件が中心で、または主催団体が県庁所在地にある。
- イベントの開催時期は掲載している、含まれていない(開催期間のローテーションがある)。
- 過去の開催で、NPO・NGO等の主催者以外の地域団体によるブース出展コーナーが設けられていたことがある。

※リスト掲載のURLは、検索時に掲載可能だったウェブページです。  
※各イベントの詳細は、リストに掲載のそれぞれの「問合せ先」に当たってください。  
※イベントの追加・訂正・削除については、office@epo-shubu.jp へお知らせいただけます。

EPO中部Webサイトの掲載ページ→

6

【方針①】 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

(2) 過去報告書のアーカイブ化

- EPO中部が過去に作成してきた業務報告書をリスト化、データ化し、この活用方法についての検討を行った。
- 運営会議やEPO中部・協働コーディネーターからの提案をうけ、EPO中部Webサイトでアーカイブ公開を行うことになった。

【実施予定】

- 2020年12月のEPO中部Webサイトのリニューアルと併せて公開予定である。

公開する報告書の数

報告書の種類	数
EPO中部運営業務報告書	22
ESD関連業務報告書	24
協働推進事業・協働加速化事業等報告書	29
計	75

EPO中部関連の業務報告書のリスト

環対課所有 CD-DVD一覧表

年度	区分	種別	名称	制作者
EPO-01	4	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-02	1	CD	環境報告書(第1号) (4巻) (4巻)	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-03	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム(10-11巻)	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-04	2	CD	環境報告書(第1号) (4巻) (4巻)	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-05	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-06	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-07	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-08	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-09	1	CD	環境報告書(第1号) (4巻) (4巻)	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-10	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-11	1	CD	環境報告書(第1号) (4巻) (4巻)	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-12	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-13	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-14	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-15	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-16	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-17	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-18	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-19	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-20	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-21	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
EPO-22	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-01	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-02	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-03	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-04	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-05	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-06	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-07	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-08	4	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-09	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-10	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-11	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-12	4	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-13	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-14	2	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-15	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-16	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方
ESD-17	1	CD	平成17年度中部圏環境・エネルギーフォーラム	WPO&EPO中部/中部地方

【方針①】 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

(3) SNS活用による情報発信

- 2019年5月に、EPO中部／中部地方ESD活動支援センターのFacebookページを開設した。
- 2020年11月時点の「いいね」が54人、「フォロー中」が61人となっている。

【実施結果】

- 「いいね」「フォローする」といったリアクションの数は少ないが、Facebookページの開設以降、特にEPO中部Webサイトのアクセス数が開設前の2018年度以前に比べて大きく増加した。

EPO中部／中部地方ESD活動支援センターのFacebookページ  
 (https://www.facebook.com/EPOchubu)→



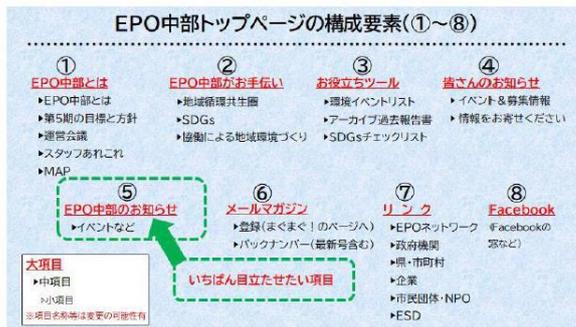
【方針①】「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

(4) Webサイトのリニューアル

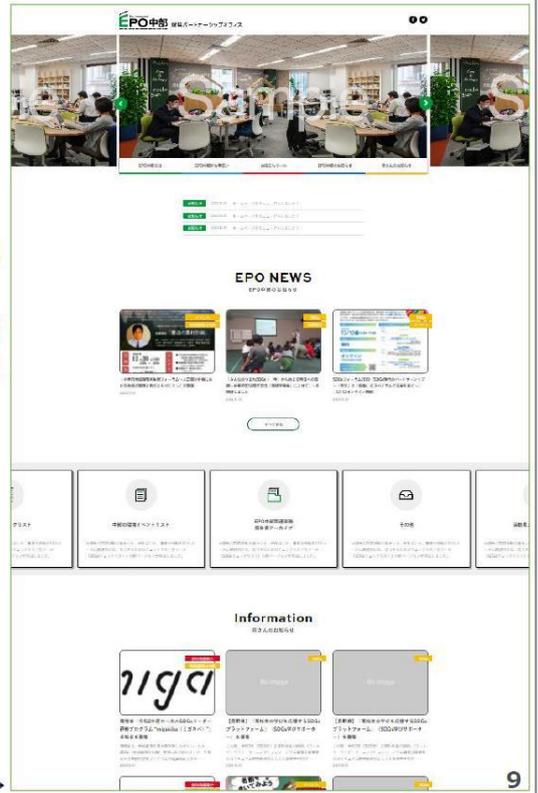
- 2020年12月にEPO中部Webサイトをリニューアル公開する予定である。(※URLは変更なし。)

【実施予定】

- 「地域循環共生圏」「SDGs」を明示するコーナーや、今期5期に作成したイベントリストや過去報告書アーカイブなど各種ツールの公開ページを新たに設置する。
- また、「見える化プログラム」の分析チャート等を活用した地域循環共生圏、SDGs事例を紹介し、サイト内で事例蓄積を行うことも目指している。



リニューアルサイトのデザイン検討案(2020年11月時点)→



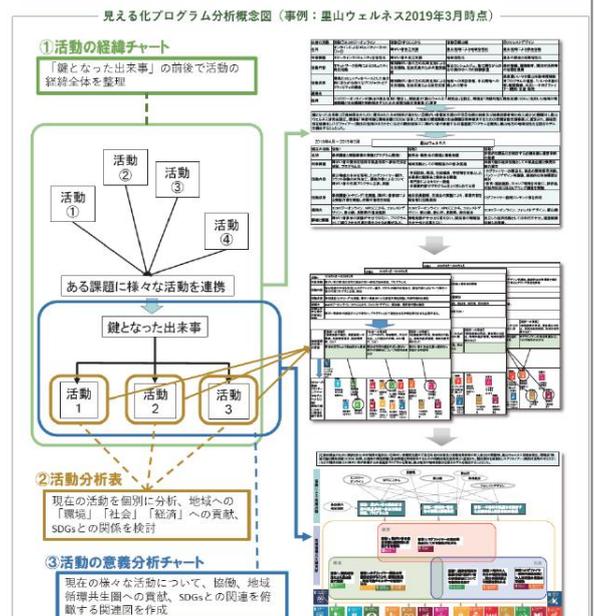
【方針②】「活動見える化プログラム」の構築・検証

(1) 「活動見える化プログラム」の構築

- 2018年度から、協働取組の事業・活動や取組主体を対象に、取組内容・経緯・関連ステークホルダーをチャート図に整理する「活動見える化プログラム」の構築に取り組んだ。
- 2018年度・2019年度に計7事例のケーススタディを実施し、改良を重ねながら2020年度に構築した分析結果チャート図を一つの完成形とした。

【実施結果】

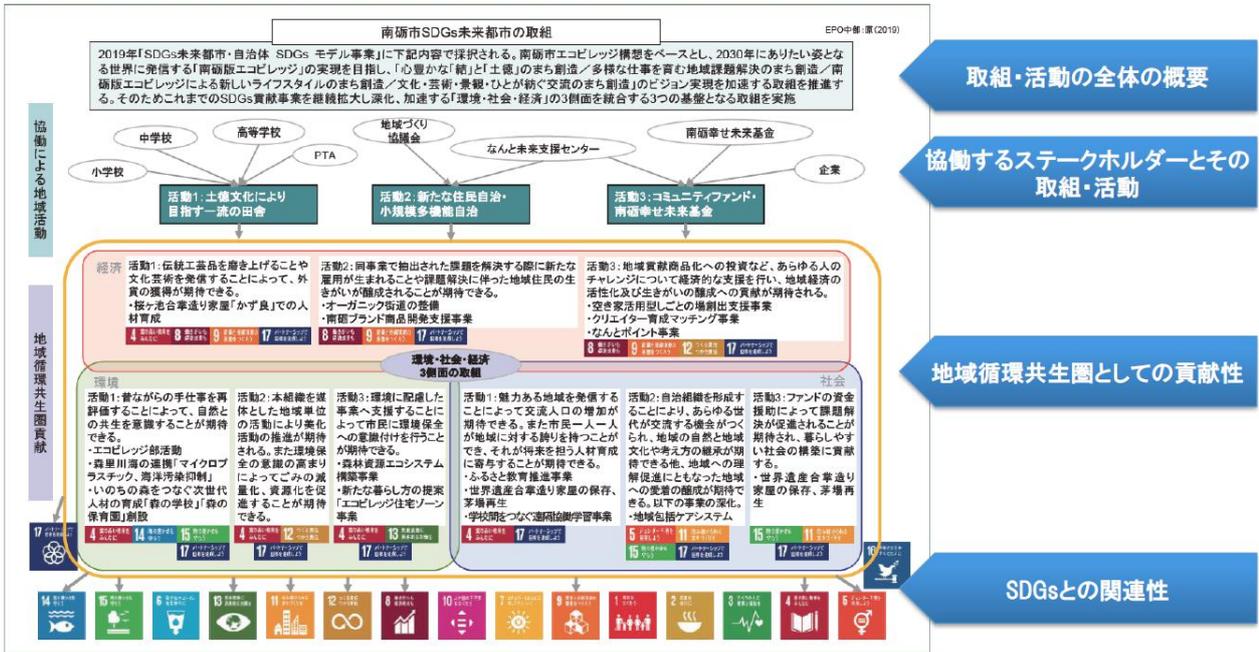
- 2020年度は「活動見える化プログラム」を地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業の採択団体においても作成し、意見交換会で取組内容の説明・紹介、地域循環共生圏やSDGsとの関連要素の説明などに活用した。
- EPO中部Webサイトのリニューアルに際し、「活動見える化プログラム」を活用した地域循環共生圏の事例を紹介し、またサイト内での事例蓄積に活用していく予定である。



「協働による地域循環共生圏づくり」パンフレットより

# 活動見える化プログラムのチャート図：富山県南砺市

▼事例3「南砺市版エコビレッジ事業の更なる深化～域内外へのブランディング強化と南砺版地域循環共生圏の実装～」の分析チャート



↑ 2019年度に作成した南砺市エコビレッジ事業のチャート図

- ・ 事業主体である南砺市から、住民説明用に活用したいとの依頼を受けて作成した。
- ・ このチャート図では、「これまでの取組結果」ではなく、「これからの取組による構想」を整理した図となっている。

## 【方針②】「活動見える化プログラム」の構築・検証

### (2) 同時解決事業における活用

- 2018～2019年度に実施した環境省の「SDGsを活用した地域の環境・社会・経済課題の同時解決事業」(以下、同時解決事業)に採択された里山ウェルネス研究会による「飯山林福連携事業」においても「活動見える化プログラム」を作成、活用した。

#### 【実施結果】

- 同時解決事業では活動見える化プログラムの分析チャートを一年目、二年目にそれぞれ作成し、活動とステークホルダーの拡がりなどの変化を明示することができた。
- 2020年2月に開催された同時解決事業の全国成果発表会においても、チャート図をパネル、配布資料にして、飯山林福連携事業の説明に活用した。また、チャート図を見た別の採択団体から、「活動見える化プログラムの作成アプリはないのか、あったら使いたい」と質問された。
- 飯山林福連携事業のステークホルダーとして参画していた飯山市の林務、福祉等関係部署にチャート図を提示し、資料として配布したところ、「庁内で事業について説明する際に困っていたが、このチャート図があれば説明しやすくなるため助かる」とコメントされていた。



同時解決事業・全国成果発表会  
の中部ブースで「活動見える化  
プログラム」を掲示・配布

# 活動見える化プログラムの活用：同時解決・飯山林福連携事業

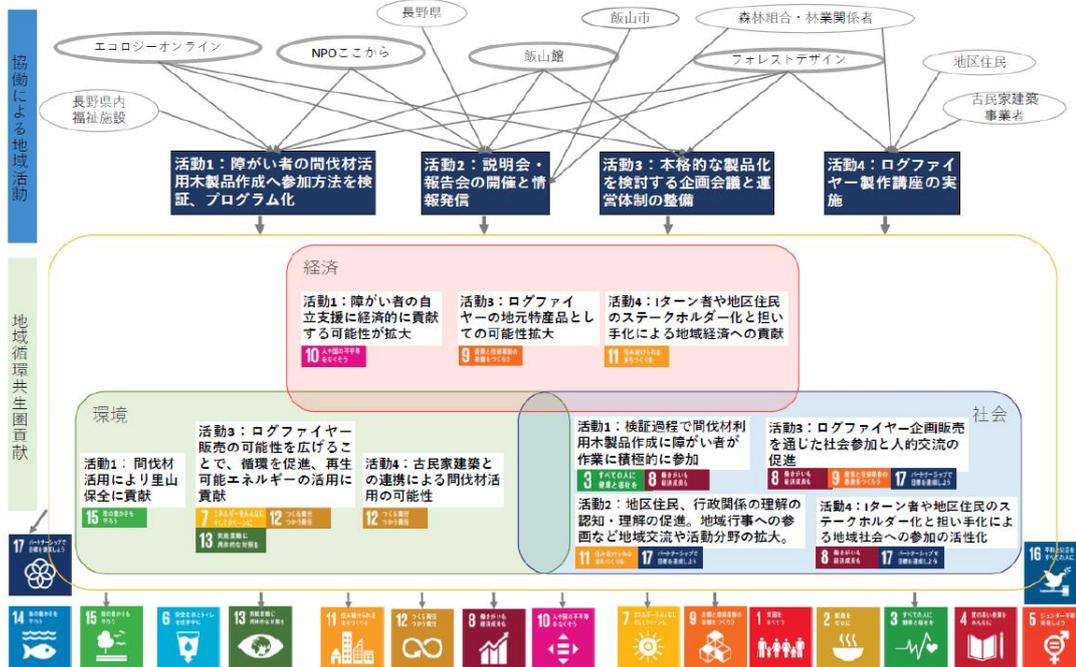
活動の意義（評価）  
分析チャート

里山保全体験を通じた障がい者雇用促進を目指すプログラム事業

2018年4月～2019年12月

EPO中部：原（2019）

①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少の課題に対し里山ウェルネス研究会を設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイヤー（間伐材活用のおもろく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



13

## 【方針②】「活動見える化プログラム」の構築・検証

### (3) 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業における活用

- 2020年度に、環境省の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業への支援がEPO業務となったことから、希望する中部の採択団体（2020年度の中部採択団体は5団体）の活動見える化プログラムのチャート図を作成することとした。
- どの時点の取組・事業をチャート図にし、どのように活用するかなどの団体の意向を聴取した上で作成することになった。

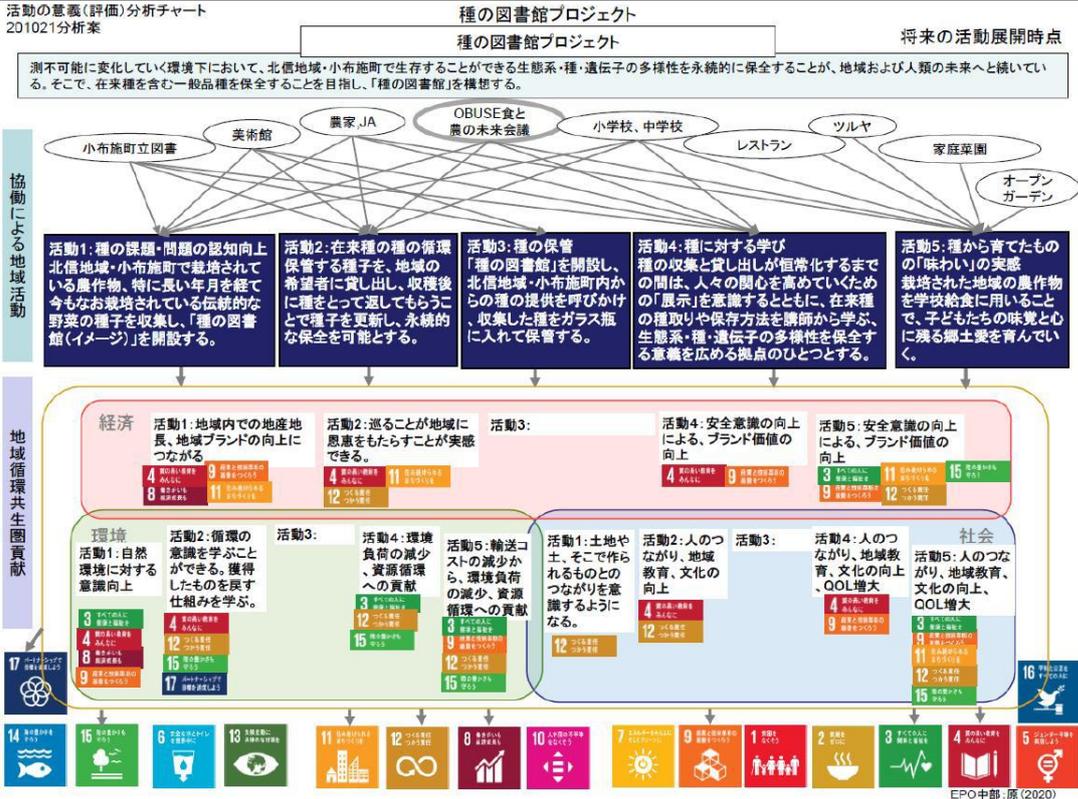
#### 【実施結果】

- PF事業の5採択団体のうち、2020年12月時点で2団体のチャート図を作成した。年度内に、5団体すべてのチャート図を作成する予定である。
- 既にチャート図が完成している2団体は、PF小布施（北信スマートテロワール協会）、PF尾鷲（おわせSEAモデル協議会）で、どちらもプラットフォーム事業の一環で実施することになっている「意見交換会」において活用した。
- PF小布施は、PFの関連11プロジェクトを順に報告する会合で活用した。活動状況をチャート図で一覧できることから、参加者のみでなく、プロジェクト推進者自身やPF事務局も取組状況を確認し、事業の持続化や採算性についての議論・情報交換を行うことができた。
- PF尾鷲は、事業への参画・進出が考えられる企業とPFとの意見交換会において、同事業が地域循環共生圏づくり、SDGsにどのような関連性・貢献性を有しているか説明する資料として活用し、SDGsに関心の高い企業への事業参画を促す呼びかけを行った。

14

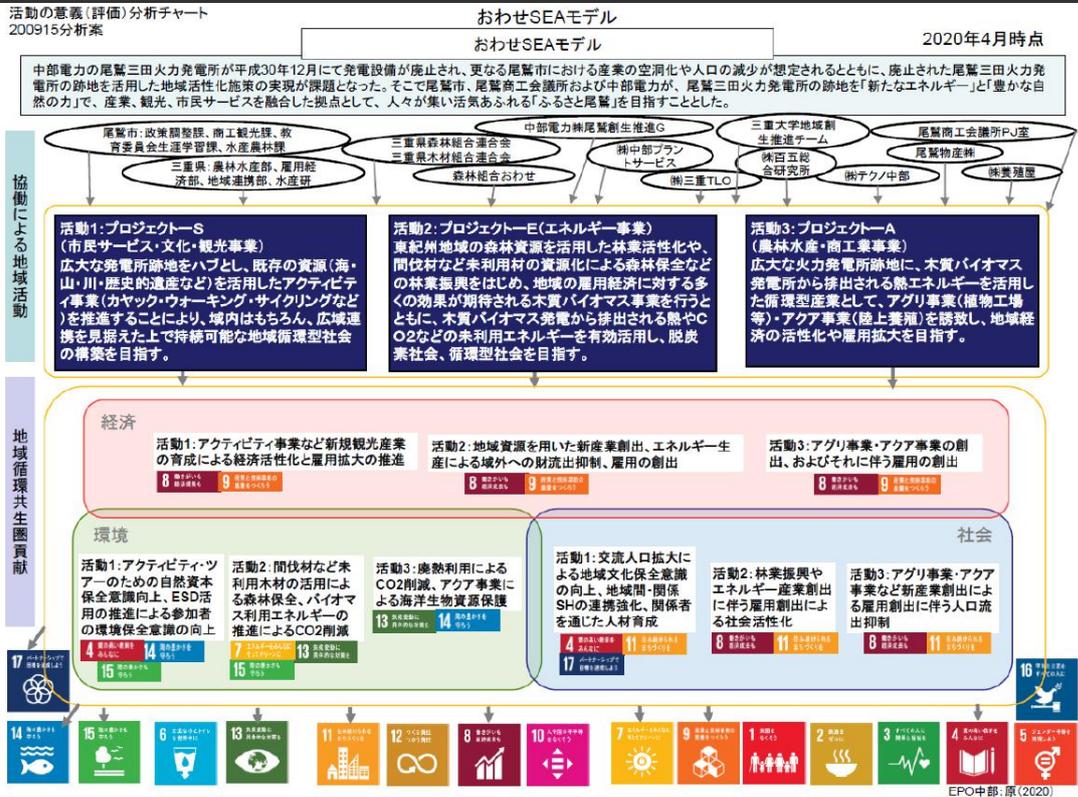
# 「活動見える化プログラム」の活用：PF事業・北信スマートテロワール

活動の意義(評価)分析チャート  
201021分析案



# 「活動見える化プログラム」の活用：PF事業・おわせSEAモデル

活動の意義(評価)分析チャート  
200915分析案



## 【方針②】「活動見える化プログラム」の構築・検証

### (4) 事例の蓄積ツールとしての活用・公開

- 2020年度に全面リニューアルを行うEPO中部webサイトに、「活動見える化プログラム」及び「地域循環共生圏」のページを新設する。
- 新サイトで「活動見える化プログラム」を活用した様々な支援方法の提案を行う。
- 同時に、作成したチャート図を公開することにより、(EPO中部が支援に関わった)地域循環共生圏やSDGsの中部における具体の事例を掲載・紹介し、その事例をサイト内に蓄積していく予定である。

#### 【実施予定】

- 「活動見える化プログラム」や「SDGsチェックリスト」を公開することにより、リニューアル後のウェブサイトを経由してEPO中部による地域活動支援のためのポータルサイトとし、将来的には蓄積した事例のデータベース化も目指した展開も可能になるよう、サイトの整備を図る。



## 【方針③】「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開

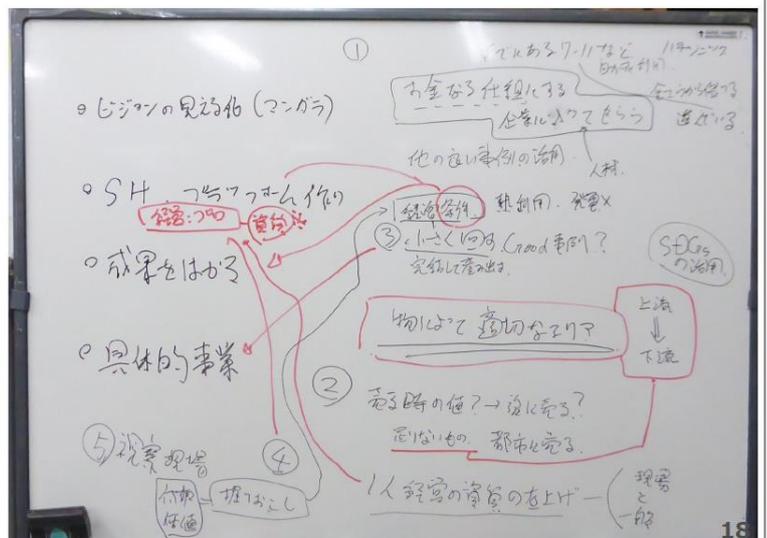
### (1) 協働コーディネーター会議・会合の開催

- 第4期にEPO中部に協力・連携していた協働コーディネーターのうち、第5期以降も協力可能なコーディネーター16名によるネットワーク会議を開催した。
- 2018年度は地域環境活動における協働促進を目的に、協働コーディネーターのあり方について検討を行う連絡会を3回開催し、2019年度は地域循環共生圏づくりの促進を目的とした研究会を3回開催した。

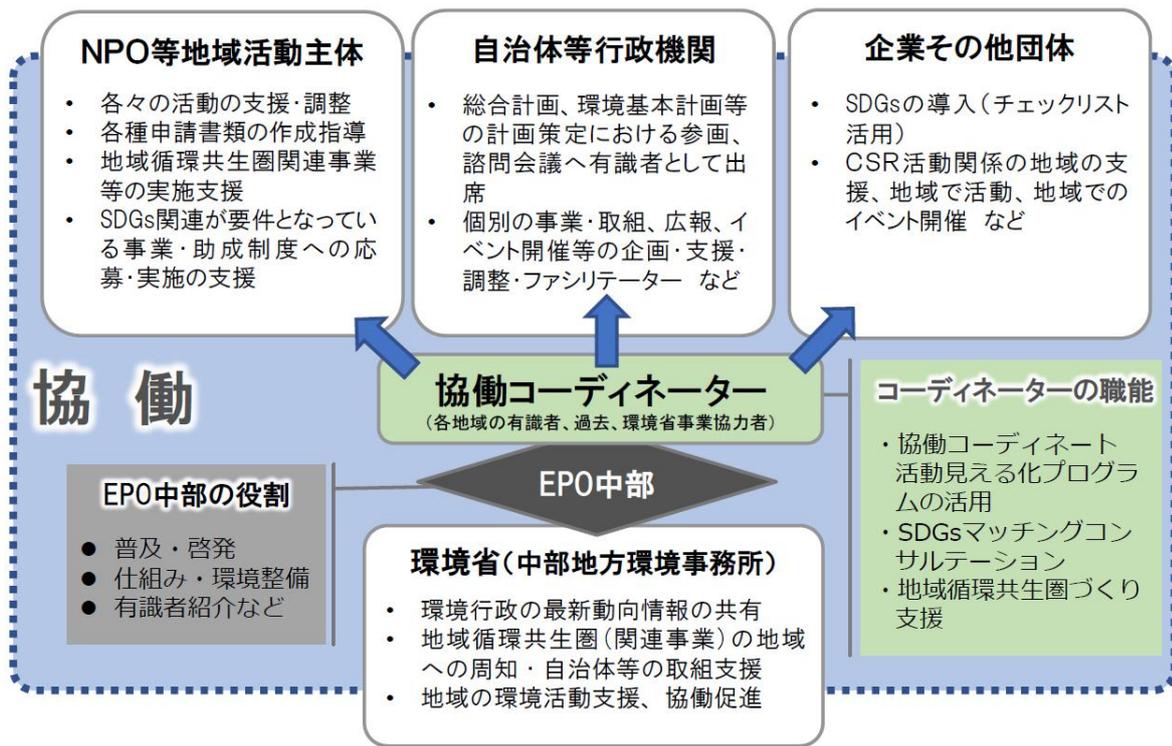
#### 【実施結果】

- 2年間の検討結果をうけて、2020年度はEPO中部・協働コーディネーターを、「活動者」と位置づけ、そのネットワークを各コーディネーターの本業に活かせる範囲でEPO中部による地域循環共生圏づくり支援に連携・協力することになった。

2019年度第2回研究会の地域循環共生圏づくりディスカッションのホワイトボード; 取組地域・主体側の課題を抽出・整理 →



# 【検討結果】協働コーディネーター活用展開イメージ



19

## 【方針③】「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開

### (2) 協働コーディネーター紹介ツールの作成・公開

- 2018年度にEPO中部・協働コーディネーターと活動見える化プログラムを紹介する冊子を作成し、2019年度にその改訂版を作成・発行した。
- 冊子はEPO中部webサイトで公開しているほか、コーディネーターには配布した。

#### 【実施結果】

- 協働コーディネーターが自治体等と協働・連携する際、本冊子を提示し、EPO中部・協働コーディネーターとしての自己紹介に活用している。



20

【方針③】 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開

(3) 協働コーディネーター連携事業の展開

- EPO 中部・協働コーディネーターについては、EPO主催イベントでの登壇・ファシリテーター、活動見える化プログラム構築のケーススタディ実施、SDGsチェックリストの検証ワークショップでのファシリテーターなど、第5期のEPO業務において多々の協力・連携取組を展開している。

【実施結果】

- 富山県…2018年度から協働コーディネーターの堺氏が所属する環境市民プラットフォーム(PECとやま)と連携し、SDGsの普及・啓発事業を展開しており、3年目となる2020年度はその集大成となるSDGs実践セミナー、3年間の成果報告会を開催した。
- 福井県小浜市…2020年度に、協働コーディネーターの中嶋氏の協力により、小浜市で先進的に展開されてきた「食のまちづくり」をテーマにした地域循環共生圏づくりを目指し、EPO中部との連携事業を実施している。



参考) 2019年度における協働コーディネーターとの連携取組

EPOの取組への協力内容		協力した協働コーディネーター
1	8月・11月に富山県内で「SDGs実践セミナー」の開催(2回開催)の共催協力(テーマ:地域循環共生圏/同時解決)	□ 堺勇人氏(環境市民プラットフォームとやま)
2	8月に石川県金沢市で開催したEPO主催フォーラムに登壇して協働取組の事例紹介	□ 中嶋阿児氏(NPO法人 WACおばま) □ 茶木勝氏(株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ)
3	11月に長野県飯山市で開催したEPO主催フォーラムで里山活用プロジェクト「森カフェ」開催協力	□ 山田勇氏(NPOわおん) →ほかのコーディネーターによる里山をテーマにした活動で「森カフェ」連携展開などあり
4	「地域循環共生圏づくり取組事例ヒアリング」業務で対象事例の活動者としてヒアリングに協力	□ 茶木勝氏(株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ) □ 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)
5	1月開催「地域循環共生圏づくりセミナー」でファシリテーター協力	□ 坂本竜児氏(NPOエコデザイン市民社会フォーラム) □ 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター) □ 三田村佳政氏(水辺と生き物を守る農家と市民の会事務局) □ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター)
6	(※ESDセンター業務)	□ 坂本竜児氏(NPOエコデザイン市民社会フォーラム) □ 蒲和宏氏(「なごや環境大学」実行委員会)
	「SDGsチェックリスト」活用ワークショップにファシリテーター協力	□ 坂本竜児氏(NPOエコデザイン市民社会フォーラム) □ 蒲和宏氏(「なごや環境大学」実行委員会) □ 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)
	西濃環境NPOネットワーク・ワークショップ	□ 坂本竜児氏(NPOエコデザイン市民社会フォーラム) □ 中嶋阿児氏(NPO法人 WACおばま) □ 河合良太氏(泉京・垂井、地域の未来・志援センター)

【方針④】 「SDGsチェックリスト」の作成・活用

(1) 「SDGsチェックリスト」の作成

- 地域の活動団体等が自らの活動を振り返り、チェックして、SDGsに対する立ち位置を確認できるツールとして「SDGsチェックリスト(ESDのためのSDGsポイントチェックリスト)」を2018年度に作成した。
- 作成に際しては、ESDとSDGsの研究に携わる研究機関の専門家による「作成ワーキンググループ」を設置し、実用性の高いツールとシステムの構築を目指した議論を行った。
- 2019年度には主催イベントのワークショップ等で作成したチェックリストを活用して検証を重ね、必要な改訂を行った。また、チェックリストの活用に有用なワークショップ用の周辺ツール資料も作成した。
- 2020年度には、チェックリストとワークショップ用パッケージ一式を、中部地方ESD活動支援センターwebサイトに公開した。また、チェックリストを活用するファシリテーター養成を目的としたセミナーを開催した。

【実施結果】

- 完成したチェックリストは、「SDGsチェックリスト(基本段階版)」「SDGsチェックリスト(事業所活用版)」の2種類となっている。
- EPO業務、ESD業務の主催イベントで活用している。
- また、webサイト公開後は、自治体、企業などから職員・社員研修で活用したいとの問い合わせが複数入っているほか、セミナーで参考資料として配布したとの報告・連絡をいただくこともあった。

完成したSDGsチェックリスト (基本段階版)

SDGsチェックリスト(基本段階版) ver.1.20

監修：SDGsツール作成ワーキンググループ(2019年度) 発行：環境省中部地方環境事務所・中部地方ESD活動支援センター

〇社会の一員として、すでに行っていることを、振り返ってみる  
すでに行っている取組内容を記入し、真鍮しているSDGs目標には〇を、  
足を引っ張っているSDGs目標には△をつける。

分類と例示	すでに行っている取組内容	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	SDGs目標との相互関連性チェック!	SDGs目標を選んだ理由
1. 飲食の提供や管理	食料、キッチン等の運営管理												✓
2. 省-脱炭素エネルギー利用	省エネの実践、再生エネルギー利用												✓
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫												✓
4. 通勤(通学)、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコドライブ、エコドライブ												✓
5. 調達(購入)と廃棄物処理	効率的調達、グリーン購入、3R												✓
6. 施設と設備	環境配慮型建築、持続可能性や多様性に配慮した施設や設備												✓
7. 公正な働き方	教育の推進、役割の公平性、多様な関係者の人権の尊重												✓
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの貢献												✓
9. 安心・安全	地域防災、地域防犯												✓
10. その他の仕事(事業)などを通じた貢献													✓
〇/△の合計		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

※タテ項目の例示的な分類：  
イギリス政府による教育政策に関する文献『新たな時代のESD サステナブルな学校を創ろうー世界のホールスクールから学ぶ』〔明石書店/永田佳之(著、監修、編集、翻訳)、曾我幸代(著、編集、翻訳)〕を参考にして設定。



【方針④】 「SDGsチェックリスト」の作成・活用

(3) 「SDGsチェックリスト」の活用ワークショップの展開

- 2018年度に作成した「SDGsチェックリスト」を用いて、2019年度に様々な事業所職員や一般市民を対象として活用ワークショップを行い、参加者アンケート等を実施してチェックリストの使用感や効果について検証を行った。
- 検証ワークショップのほか、2019～2020年度にかけて、主催イベント、相談・依頼対応の一環などでチェックリストを活用したワークショップを展開した。

【実施結果】

- ワorkshop参加者の反応は好評で、また、ワークショップで記入されたワーキング用シートをFacebookページに掲載すると、リーチ数・リアクション数等が他投稿に比べて大幅に増加した。

基本段階版

STEP 1

- パッケージツールのWeb公開 (Webアンケートフィードバック)
- 使用ガイドの作成 (Web掲載)
- 使用方法の体験説明会の開催

STEP 2 (その先)

- WS実践者育成支援
- 子ども版パッケージの開発
- 関係者による実践研究会支援

事業所活用版

STEP 1

- チェックリスト使用による検証
- 使用ガイドの作成

STEP 2 (その先)

- 実践ワークショップの開催
- ターゲットに合わせた評価法開発



27

参考) 2019年度のSDGsチェックリスト活用ワークショップの開催

様々な事業所職員や一般市民を対象として「SDGsチェックリスト(基本段階版)」等を用いた体験ワークショップを行い、アンケートにより使用感や効果について検証を行った。

第1回	5月28日	日進市役所職員向けESD基礎研修にて実施 (10:00~12:00日進市役所第5会議室)
番外	6月15日	岐阜県温暖化防止活動推進センターが主催する地球温暖化防止活動推進員向け研修会として実施(12:45~15:45JR岐阜駅ハートフルスクエアG中研修室)
第2回	8月29日	名古屋青年会議所SDGs実践委員、山本屋:青木氏と連携して実施(大久手山本屋15:00~16:30 90分) (対象はうどん店の店主、業界関係者、一般市民)
番外	8月31日	日本体験学習研究所(JIEL)★講演に合わせて実施 (名古屋市内13:15~14:15 60分)
番外	11月25日	日進市役所職員向けESD基礎研修にて実施 (日進市役所第5会議室10:00~12:00 120分) (第1回とは別メンバー)
第3回	12月14日	西濃環境NPOネットワーク★ (大垣市内16:00~18:00 120分)

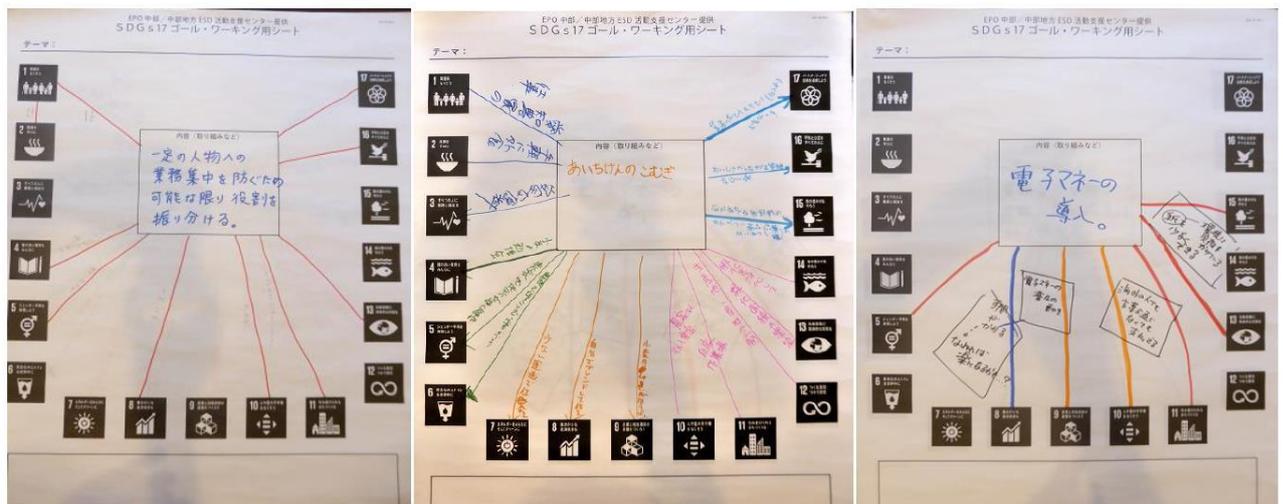
★:地域ESD拠点または拠点を含む団体

そのほかのチェックリスト、ワークシートの活用実績

- 三菱UFJリサーチ&コンサルティングの方から…SDGsのセミナー登壇の際に配布した(事後報告)
- 11/4ネットワークフォーラム…後半グループワーキングでワーキング用シートを活用
- 11/4フォーラム登壇の高校生の引率教師から…授業でのワーキング用シートの使用要望があり提供
- ほかチェックリストをセミナーで配布して良いかの問合せあり

28

## 2019年度ワークショップ（大久手山本屋）のグループワーク結果



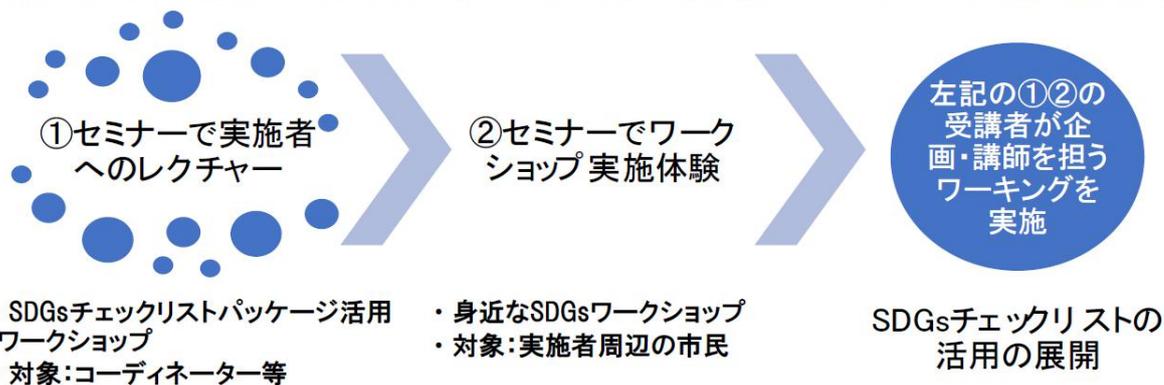
- 2019年8月に、味噌煮込みうどん屋「大久手山本屋」(愛知県名古屋市中区)において、うどん職人、店員、一般参加者等交えた参加者21名で、3グループにわかれてワークショップを実施した(EPO中部・協働コーディネーターもファシリテーター参加)。
- 「SDGsチェックリスト」を用いた個人ワークで取組例を共有し、上画像のワーキング用シートで他にSDGsに貢献できていることがないかグループで話し合った。

29

### 【方針④】 「SDGsチェックリスト」の作成・活用

#### (4) SDGsチェックリスト活用ファシリテーターの養成

- 「SDGsチェックリスト」の活用方法を理解するファシリテーターの養成と、活用ワーキングの実施者・主宰者を増やすことを目的に、SDGsチェックリスト活用セミナーを2020年6月に開催した。



#### 【実施結果】

- 活用セミナーをオンライン開催し、協働コーディネーター3名と地域ESD拠点登録団体の職員1名の計4名が「実施者レクチャー」を受講した(計49名がオンライン参加・視聴)。
- その後、実施レク参加者3名が所属先やイベント等で、チェックリストを活用した自主企画ワークショップを開催した。

30

## その他の取組

### (1) 運営会議の実施

- EPO中部運営会議、中部地方ESD活動支援センター企画運営会議を次の通り開催した。

	2018年度			2019年度		2020年度	
	第1回	第2回	第3回	第1回	第2回	第1回	第2回
EPO中部運営会議	5月29日 会議	10月9日 会議	1月29日 会議	6月19日 会議	3月上旬 書面会議	6月1日 オンライン	1月22日 オンライン予定
中部地方ESD活動支援 センター企画運営会議	5月15日 会議	10月2日 会議	2月12日 会議	6月25日 会議	2月27日 会議	6月5日 オンライン	1月20日 オンライン予定

#### 【実施結果】

- 各年度はじめの会議では、年間計画・業務展開の事務局案を諮問し、各委員からいただいた意見についてはできるだけ業務に反映して取り組んでいる。
- また、各年度終わりの会議では、取り組んだ結果報告を行い、次年度に向けた意見・示唆をいただき、それを年間業務報告書などに明記している。
- 主催イベントでは、各委員から協力・連携を得て実施・開催したものが多々ある。

オンライン開催となった  
2020年度第1回EPO中部運営会議→



31

## その他の取組

### (2) 情報収集・情報発信(アクセス数等)

- EPO中部、中部地方ESD活動支援センターのWebサイトの第5期におけるアクセス数(ページビュー数)は次の通りである。

※2020年11月末時点

	URL	第5期			第4期
		2018年度	2019年度	2020年度※	2017年度
EPO中部Webサイト	http://www.epo-chubu.jp	279,316 件	810,836 件	406,170 件	335,028 件
中部地方ESD活動支援センターWebサイト	https://chubu.esdcenter.jp	10,612 件	11,521 件	8,350 件	4,857 件

#### 【実施結果(2020年11月末時点)】

- 第5期の1年目(2018年度)は、EPOサイトのアクセス数が第4期に比べて減少したが、Facebookページを開設し、Webサイトとの連動展開を図ったところ、2019年度以降は大幅にアクセス数が増加した。
- ESDサイト(2017年7月開設)のアクセス数は、EPOサイトに比べて少ないが、開設以来、増加傾向が継続している。
- ESDサイトでは、2020年4月以降に公開した「SDGsチェックリスト」及びパッケージツール式へのアクセス数が特に目立っている。



32

## その他の取組

### (3) 3カ年の主催イベント

- 第5期に主催した主なイベントは次の通りである。

★: 協働コーディネーターと協力・連携  
 ＊: 運営委員と協力連携  
 (PF): プラットフォーム事業採択団体と連携

区分	協働	地域循環共生圏・基盤強化	SDGsチェックリスト活用	ESDダイアログ	ESDネットワークフォーラム
2018年度	＊ ★ 協働フォーラム ×3回開催(うち1回は同時解決事業採択団体と連携) [①23人、②23人、③31人] ★ 協働セミナー [25人]	—	(※相談対応の依頼に応じて、試行的にワークショップの実施あり)	＊ ユネスコスクール交流会 [60人] ＊ ユネスコエコパーク活用 [55人] ・その他: 企業によるSDGs [28人]	＊ ★ 企業、ESD拠点、中間支援組織によるESD [48人]
2019年度	＊ ★ (PF) 協働フォーラム ×2回開催(うち1回は同時解決事業採択団体と連携) [①30人、②29人]	★ 地域循環共生圏セミナー [33人]	★ チェックリスト活用ワークショップ ×3回開催 [①41人、②21人、③23人]	＊ ユネスコスクール交流会 [54人] ＊ ユネスコエコパーク活用 [36人] ・その他: 企業によるSDGs [24人]	＊ ★ 多世代交流(企業と高校生)のSDGs [52人]
2020年度	★ (PF) 協働コーディネーター連携セミナー [49人]	＊ (PF) 基盤強化 ×2回開催(予定) [①49人②未] (PF) 森里川海 ×2回開催(予定) [①②未]	★ チェックリスト活用セミナー [49人] ★ セミナー参加者自主企画 ×3回開催 [①40人、②4人、③34人]	＊ ユネスコエコパーク活用 [43人]	＊ SDGs未来都市の学生交流(予定) [未]

[ ]の人数: 参加者・オンライン視聴者の数(2020年11月末時点把握)

33

## その他の取組

### (3) 3カ年の主催イベント

#### 【実施結果】

- ほとんどの主催イベントにおいて、EPO中部運営会議委員、中部地方ESD活動支援センター企画運営会議委員、EPO中部・協働コーディネーターとの連携・協力を得て開催している。
- 各運営会議では、関係した委員からの報告や所感等の発言があったことで、より実情に即した委員からの提案・提言があり、それを次回(次年度)開催時の企画等に活かすことができた。
- また、2018-2019年度の同時解決事業採択団体や、2019-2020年度のプラットフォーム事業採択団体にも、関係エリアでの開催時に取組発表等を行うプログラムを盛り込み、EPO主催イベントを各事業採択団体のPRの場づくりというEPOによる支援につなげることができた。
- 全てのイベントで参加者アンケートを実施しており、いずれのイベントにおいても参加者の評価は高く、催事内容が協働・SDGs・地域循環共生圏づくり、ESD等に取り組むモチベーション向上につながっていると結果を得ている。

	●今回の催事はいかがでしたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
190807協働フォーラム金沢 (n=21)	11	10	0	0	0
191123協働フォーラム富山 (n=18)	15	3	0	0	0
200131地域循環共生圏セミナー (n=20)	12	4	2	0	2

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答
190807協働フォーラム金沢 (n=21)	9	1	10	1
191123協働フォーラム富山 (n=18)	17	0	1	0
200131地域循環共生圏セミナー (n=20)	17	0	2	1

	●今回の催事はいかがでしたか				
	良かった	まあまあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
190613ESDダイアログ福井 (n=9)	5	4	0	0	0
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	22	13	0	0	0
191116ESDダイアログ富田 (n=17)	11	6	0	0	0
191104ESDプラットフォーム名古屋 (n=42)	31	11	0	0	0

	●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
	あった	なかった	どちらともいえない	無回答
190613ESDダイアログ福井 (n=9)	7	0	1	1
190808ESDダイアログ金沢 (n=35)	33	0	2	0
191116ESDダイアログ富田 (n=17)	4	1	2	0
191104ESDプラットフォーム名古屋 (n=42)	31	2	9	0

2019年度EPO業務イベントの参加者アンケート結果

2019年度ESD業務イベントの参加者アンケート結果

34

# EPO業務イベントの開催案内チラシ

上段：2018年度開催／下段：2019年度開催

## 地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム (第1回/北陸)

日時：2018年8月4日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- こあいさつ
- 開会 協働のパートナーシップは地域環境活動推進の鍵  
 ① コアトピクをシミュレートした協働推進計画における  
 農地山の保全再生の協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 地域課題に対する金融機関との協働取組の創出  
 協働センター 代表 高橋 真
- SDGsでつなぐローカルパートナーシップ  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- 意見交換
- 活動評価分科ワークショップ  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- まとめ

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム (第2回/東海)

日時：2018年10月5日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- こあいさつ
- 開会 協働のパートナーシップは地域環境活動推進の鍵  
 ① ドローンがもたらした自治体とNPO  
 ～地域資源の発見と災害に強いまちづくり  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 子どもたちがもたらした地域を元気に  
 協働推進センター 代表 高橋 真
- 活動評価分科ワークショップ  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- 意見交換
- まとめ

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム (第3回/東海)

日時：2018年11月15日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**協働の可視化と課題**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**協働の可視化と課題**  
 ① 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 異分野へのウイングを広げる(自治体からの実践から)  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ③ とよたエコライフセンターの取り組み  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**活動評価分科ワークショップ**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 地域環境活動の協働における連携強化のための「協働」戦略を考える

日時：2018年11月22日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**協働の可視化と課題**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**協働の可視化と課題**  
 ① 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 異分野へのウイングを広げる(自治体からの実践から)  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ③ とよたエコライフセンターの取り組み  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**活動評価分科ワークショップ**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム in 近畿

日時：2018年7月7日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**協働の可視化と課題**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**協働の可視化と課題**  
 ① 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 異分野へのウイングを広げる(自治体からの実践から)  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ③ とよたエコライフセンターの取り組み  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**活動評価分科ワークショップ**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 信州の地域環境共生づくりと協働取組

日時：2018年11月13日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**協働の可視化と課題**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**協働の可視化と課題**  
 ① 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 異分野へのウイングを広げる(自治体からの実践から)  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ③ とよたエコライフセンターの取り組み  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**活動評価分科ワークショップ**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## 地域環境活動の協働における連携強化のためのフォーラム (第4回/東海)

日時：2018年11月13日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**協働の可視化と課題**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**協働の可視化と課題**  
 ① 地域課題の解決に向けた多様な主体による協働取組  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ② 異分野へのウイングを広げる(自治体からの実践から)  
 協働推進センター 代表 高橋 真  
 ③ とよたエコライフセンターの取り組み  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

**活動評価分科ワークショップ**  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真

「協働のエクセスを“見える化”するためのワークショップ」の取り組みについて、その取組を共有するフォーラムを開催いたします。

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

# ESD業務イベントの開催案内チラシ

上段：2018年度開催／下段：2019年度開催

## ESD推進のためのダイアログ

### 北信越ユネスコスクール交流会 2018

日時：2018年8月6日(月) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### ユネスコエコパークにおける交流と協働によるESDの推進

日時：2018年10月10日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### SDGs時代における企業地域の人材育成

日時：2018年11月13日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### SDGs社会のためのESDネットワークを考える

日時：2018年11月25日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### 企業や団体のSDGs推進のためのESD～職員意識が組織・地域を変える～

日時：2018年6月13日(水) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### 北信越ユネスコスクール交流会 in 金沢-2019

日時：2019年6月8日(土) 13:30～16:30  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### ユネスコエコパークを活かしたESDによる地域創生

日時：2018年11月13日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

## ESD推進のためのダイアログ

### 世代間交流によるSDGs貢献のための入り口

日時：2018年11月4日(土) 13:30～16:30 (開催12:00)  
 会場：金沢労働者プラザ 101研修室  
 (石川県金沢市三ツ又2-2-1)

**プログラム**

- 開会
- 報告 ESD:ユネスコスクールを巡る最新の動向  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 2030年を見据えたSDGs 未来都市の実現に向けて  
 ESD推進センター 代表 高橋 真
- 小学校の取組  
 5年総合学習大好きわらわら  
 37名+1プロモーションビデオを作る3つの実践から  
 協働推進センターアドバイザー 高橋 真
- スモールグループによる実践発表
- スモールグループの発表
- 閉会

主催：協働推進センター(トータルオフィス、EPO)等

### 3. 第5期の取組についての総括

37

#### ①3カ年取り組んだことによる成果 1/2

##### ■ 活動見える化プログラムについて

- 2018年度は協働を重視したチャートを作成したが、第五次環境基本計画の閣議決定を受けて、2019年度からは「地域循環共生圏」「SDGs」の要素を明示する活動分析チャート図に改訂した。
- さらに、2020年度ではプラットフォーム事業にも活用するなど、環境省の施策に適時対応するツールを構築することができた。

##### ■ SDGsチェックリストについて

- 1年目に専門家との検討を重ねて作成した「SDGsチェックリスト」を、2年目には実際にワークショップ等で活用・検証を経て改良し、3年目にはチェックリストの活用ファシリテーター養成講座の開催と、チェックリストWebサイトでの公開を行い、5期3年間で完成度の高い独自ツールの完成と普及・公開までの取組を展開することができた。
- 2年目のワークショップでの活用・検証により、チェックリストと併せてワークショップに有用なパッケージ・ツールが必要とわかり、実際に作成し、その有用性をさらに高めることができた。
- 3年目の一般公開以後は、研修等でチェックリスト及びパッケージツールを活用したいという企業・自治体から問合せが寄せられるようになっている。

38

## ①3カ年取り組んだことによる成果 2/2

### ■ 主催イベントの開催について

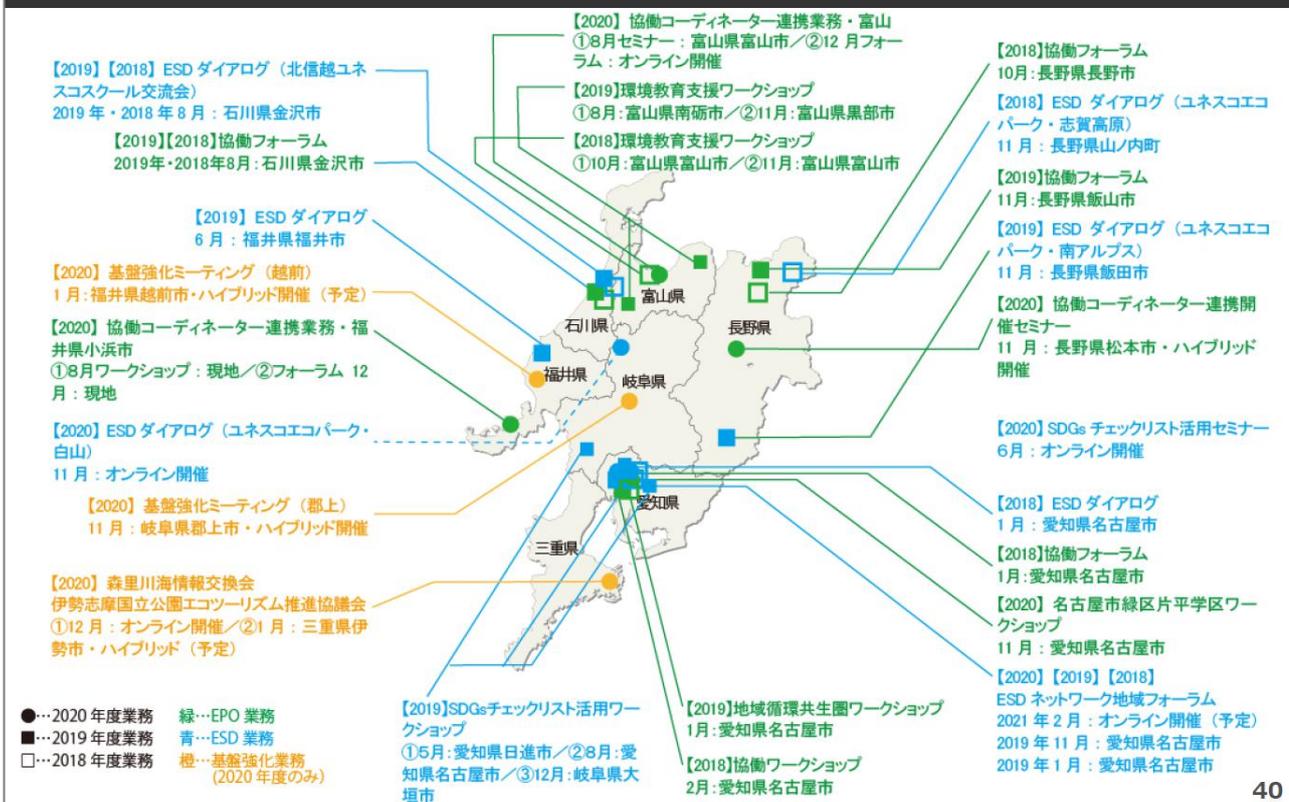
- 第5期3カ年の中で、ユネスコエコパークを活用したESDダイアログを毎年開催し、ユネスコエコパーク認定エリアが多数ある中部の特性を活かしたイベント開催に取り組んだ。
- また、中部7県の広範な管轄エリアの中で、3カ年の時間軸の中で地域のニーズを組み入れながら、開催地(開催県)に偏りのない地域バランスに留意したイベント開催が可能となった。

### ■ そのほか情報発信について

- 第5期では、2018-2019年度にかけて「活動見える化プログラム」や「SDGsチェックリスト」、「活動支援に資するデータ集」や協働コーディネーターとの連携など、新たなツール・コンテンツの作成を進め、さらに2019・2020年度にかけて、これらのツール・コンテンツが広く活用されるよう、EPO中部webサイトのあり方検討、SNS活用(Facebookページ開設)、webサイトの全面リニューアルなど実施した。
- 3カ年かけて、EPO中部独自ツール・コンテンツの作成・充実化を進めると同時に、EPO中部webサイトをこれらのツール・コンテンツ、及びEPOの支援メニュー等にアクセスできるポータルサイト化し、さらにはSDGs活用、地域循環共生圏づくりの事例を発信、蓄積する機能をもったサイトとして、戦略的、段階的に充実化を図ることができた。

39

## 第5期の3年間に主催したイベント



40

## ②課題 1/2

### ■ イベント開催について

- 2020年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から、急遽、オンライン開催となったイベントが多いが、運営方法等に慣れず、手間取る場面なども多々あった。
- 第5期3カ年かけて、中部7県のいずれにおいても主催イベントを実施することができたが、岐阜県、三重県は他県に比べて開催回数が少ない。

### ■ 協働コーディネーターとの連携について

- 第5期開始時に16名の協働コーディネーターによる協力が得られていたが、その後、コーディネーター側の諸事情等により第5期終盤時点でEPO中部に協力可能な協働コーディネーターの数は13名となり、県によってコーディネーターの数にばらつきが見られるようになっている。
- 第5期に開催した多くの主催イベントで協働コーディネーターとの連携を得て、地域ニーズに即したイベントが実施できていたが、協働コーディネーターの数やEPOとの接触度合い等によっては、協働コーディネーターとの連携イベントの開催が難しくなっている県もある。

### ■ 「活動見える化プログラム」「SDGsチェックリスト」について

- 2020年度までに完成したこれらのツールは、公開から日が浅く、まだ十分にEPO支援ツールとしての活用方法が提示できていないといえない。

41

## ②課題 2/2

### ■ 情報発信について

- EPO中部webサイトは2020年12月に全面リニューアルを行ったところであり、コンテンツの充実化、ポータルサイトとしての機能性の確保は、次年度以降の維持管理に委ねられる。
- 旧(現)・EPO中部webサイトには、アクセス解析ツールが組み入れられておらず、アクセス分析などができない状態となっている。(2019年度のアクセス数増加の要因も実質把握できていないに等しい。)

### ■ そのほか

- 新型コロナ問題に直面した2020年度以前の2018・2019年度では、EPOの来館者数の少なさが課題となっていた。そのため、2020年度に、EPOを会場にした小規模イベントを開催し、EPOがどのような場所か来てもらい、知ってもらおう企画を立案していたが、新型コロナの影響により、実施不可となった。
- 新型コロナ問題が沈静化した場合には来館者の増加を促す取組が必要であり、またそうでなかった場合においても、「withコロナ」によるEPO利用促進のあり方を検討・対応していく必要がある。

42

### ③今後に向けて 1/2

#### ■ イベント開催と協働コーディネーターとの連携について

- 協働コーディネーターによって、EPOとの接触が多い・少ないの偏りがみられ、また、県によってはコーディネーターが1名のみとなっている県もある。
- そのため、主催イベントの企画等では、協働コーディネーターに加えて、環境省事業の採択団体との連携や、新たな人材・団体・自治体とのつながりを活用するなど、多様な形で積極的に地域と連携し、地域ニーズに即したイベント等の業務立案を行っていく必要がある。
- 特に協働コーディネーターとの連携イベントが少ない石川県、岐阜県、三重県（及び愛知県）は、地域ニーズの拾い上げを意識的・積極的に行う必要がある。

#### ■ 「活動見える化プログラム」「SDGsチェックリスト」の活用について

- これらのツールは、EPO中部独自ツールとして業務の中で活用することが可能であり、SDGs活用・地域循環共生圏づくりの事例の蓄積と体系的な整理、新たな事例の掘り起こしに向けた活用が可能となっている。
- 一方で、環境省事業等におけるSDGs・地域循環共生圏関連のフェーズの進化に伴い、これらのツールも適宜対応して改良・改訂していく必要があり、活用と同時に検証にも留意していく必要がある。

43

### ③今後に向けて 2/2

#### ■ 情報発信について

- 2020年度のEPO中部webサイトのリニューアルにあわせて、アクセス解析ツールを組み入れる予定であり、サイト内でのユーザー動向等をデータとして把握することが可能になる。
- このデータをもとに、webサイトの維持管理や小規模リニューアルを積み重ねるなどして、サイトの機能性向上やコンテンツの充実化、SNSを含めたネット活用を図っていくことが求められる。

#### ■ そのほか

- EPO施設の利用促進のため、「withコロナ」も念頭においた今後のEPO利用のあり方を検討し、自ら提示・発信していく必要がある。
- 来館を伴う・伴わない相談対応、イベント（特にワークショップ等ワーキングを伴うプログラム）の開催方法などにおいて、2020年度は試行錯誤を繰り返してきた。オンライン配信など新たなツールやシステムの活用の可能性、他所での対応方法などに常にアンテナをはり、新型コロナ問題に関わらずEPOへの「コンタクト」のしやすさを工夫し、確保していく必要がある。

44

## ウ 中部地方環境事務所主催行事等への参加

- 中部地方環境事務所の主催行事である「白書を読む会」「中部カンファレンス（2回）」に参加（オンライン視聴）した。
- 全国ユース環境活動発表大会・中部大会の審査委員として、EPO 中部運営会議委員であり、EPO 中部・協働コーディネーターの山室秀俊氏（長野県 NPO センター事務局長）を中部地方環境事務所、大会事務局（環境保全機構）に推薦した。

行事等	実施日	EPO 中部による対応
白書を読む会	7月10日 オンライン	● EPO 中部スタッフ2名が視聴参加した。
中部カンファレンス	12月9日 オンライン	● EPO 中部スタッフ1名が視聴参加した。
全国ユース環境活動発表大会（中部大会）	（12月19日オンライン開催）	● 審査委員として長野県 NPO センター事務局長・山室秀俊氏を中部地方環境事務所に推薦した。
中部カンファレンス	2月27日 オンライン	● EPO 中部スタッフ2名が視聴参加した。

## エ 報道対応等

- 今年度を実施した主催2イベントで報道機関による取材があり、記者対応を行った。
- 8月20日に富山県富山市で開催した、高等学校教員向けSDGs教育セミナー『総合的な探究の時間』におけるSDGs教育は、地元テレビ局（富山テレビ）の取材があり、ニュース番組で放映された。
- 11月14日に名古屋市緑区の片平学区で開催した「みんなあつまれSDGs！「今」から始まる明日への取組～片平学区50周年記念「環境学習会」によせて」も新聞取材があり、中日新聞市民版に記事が掲載された。

### 【富山テレビのWebサイトより】

高校でSDGs教育 教員がセミナー  
8/20(木) 18:55 配信 1

富山テレビ



富山テレビ放送

国連の「持続可能な開発目標SDGs」が教育分野でも今年度から順次採用され、SDGs教育導入のセミナーが富山市で開かれました。

SDGs教育は、高校の授業で取り入れることになっていて、20日のセミナーには県内の13の高校からSDGs教育に関心のある教員24人が参加しました。セミナーでは、SDGs教育の第一人者、東京都市大学大学院の環境情報学研究所の佐藤真久教授が講師となり、新型コロナウイルスの感染拡大を例に、グローバル規模で取り組まなければならない問題が増えるという見解を示していました。また参加した教員がグループごとに分かれ、それぞれが思う日本の社会課題のカードを選び、それについて発表していました。グループワークに取り組んだ参加者は、ゲーム感覚で現代の複雑な社会について学ぶことの大切さを体感しているようでした。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標SDGsは、今年度から順次、新学習指導要領の「持続可能な社会の作り手」の育成の題材として取り上げられることになっていて、県内の高岡高校や富山南高校などですでに導入されています。

富山テレビ放送

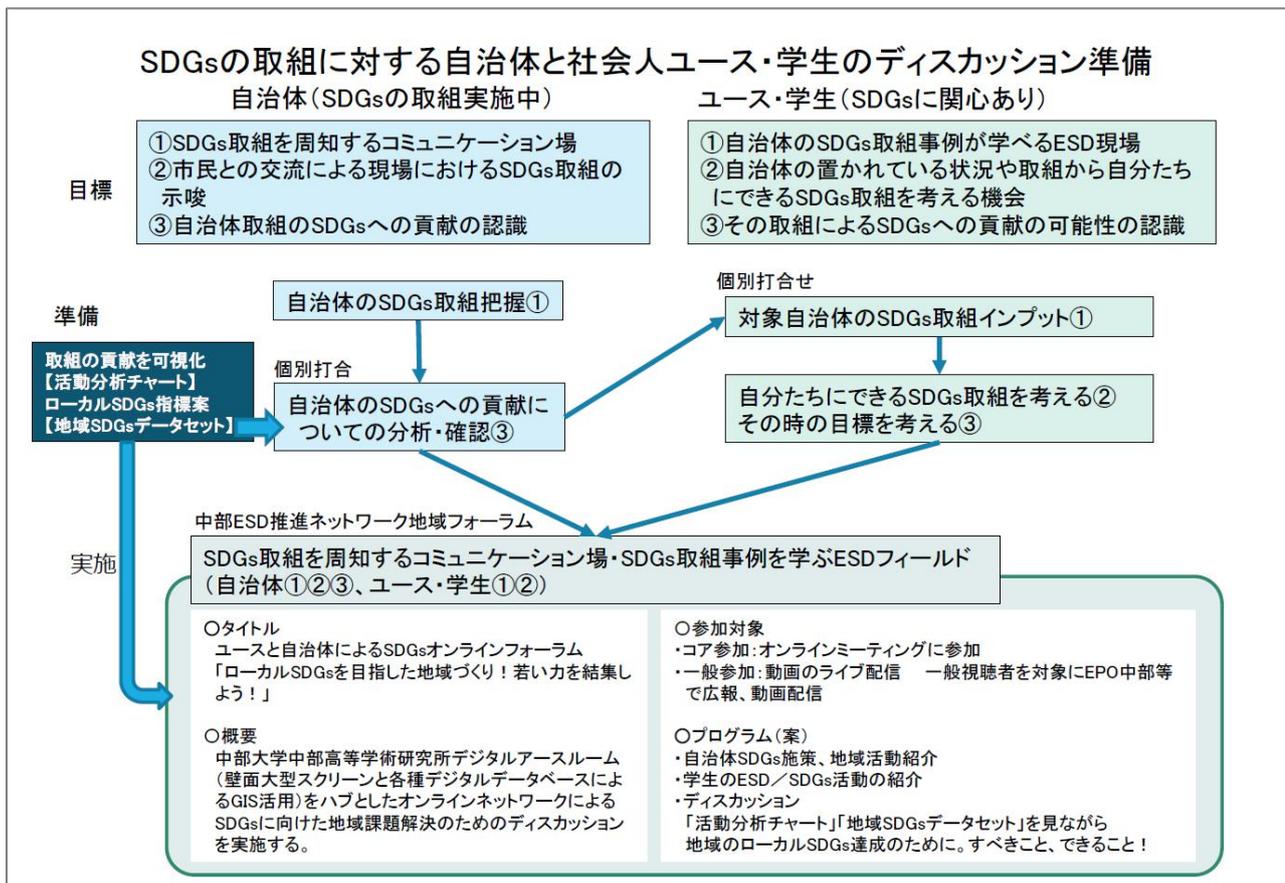
最終更新: 8/20(木) 19:51  
富山テレビ



## オ 学生参画における関連校の登壇への考慮

- EPO/ESD 行事への学生参加の企画について、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から学生を集めたイベント企画が難しく、2月14日開催・中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムに大学生と自治体がオンライン登壇する企画を行った。
- 登壇学生は、SDGs 未来都市に選定された自治体に所在する大学の学生であり、EPO 中部運営委員、中部地方 ESD 活動支援センター企画運営委員の協力を得て、登壇に向けた調整を実施した。

### 【ESD ネットワーク地域フォーラムの企画資料より】



## オンラインフォーラム開催イメージ

【】はオンラインコード番号

ハブ会場：中部大学中部高等学術研究  
デジタルアースルーム

コア参加者 1  
SDGs施策紹介：自治体職員  
名古屋市環境局環境企画課【11】  
富山市環境部環境政策課【12】  
金沢市都市政策局企画調整課【13】

名古屋市立大学 伊藤泰彦先生【01】  
中部地方ESD活動支援センター企画運営会議座長

事務局  
環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター【00】

協力：中部大学 中部高等学術研究所、国際GISセンター  
問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点



コア参加者 2  
サテライト：個人デバイスでオンライン会議室に入室  
各大学参加学生デバイス  
コメンテーター：学生指導教官

富山大学【21】  
都市デザイン学部 受講生グループ

金沢星稜大学経済学部【22】  
新先生ゼミグループ

名古屋市立大学【23】  
三浦先生ゼミグループ

中部大学【24】  
伊藤佳世先生ゼミグループ



YouTube配信

オンライン会議室 (ZOOM)  
トピック: ESD/SDGs推進ネットワークフォーラム  
時間: 2021年2月14日 12:30 PM 大阪、札幌、東京  
<https://us02web.zoom.us/j/86542662518?pwd=bEVEL3ZINVZ0WktZZ3dLQlU5S5XNXQT09>  
ミーティングID: 865 4266 2518  
パスコード: 206553

## (2) 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センターのネットワークの活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった下記の会議・イベント等に出席した。

会議名	開催日	場所/方法	概要
EPO 情報共有会議	4月14日	オンライン	地域循環共生圏 PF 事業支援を含む EPO ネットワーク事業の全体的なスケジュールの確認や直近の予定など
EPO ネットワーク発信・発掘 WG	6月2日	オンライン	行政事業レビュー向上について
全国 ESD センター会議	6月2日	オンライン	活動方針案まとめ
EPO ネットワーク PF 支援 WG	6月3日	オンライン	EPO ネットワークのあり方検討 プラットフォーム支援・地域力強化 WG
全国 ESD センターによる各地方センター個別ヒアリング	6月11日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで力を入れて取り組んで来られたこと</li> <li>・今後の目標(1年後～5年後)</li> <li>・現在抱えている問題点・課題</li> <li>・全国センター、ESD 推進ネットワークに期待すること</li> <li>・前回提示した「2020 年度の取組について(案)」へのご意見</li> </ul>
全国 EPO 連絡会 (第1回)	6月25日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各 EPO の特徴や今年度重点の紹介(地方ごとに 5 分程度)</li> <li>・Green Gift 地球元気プログラム</li> <li>・地球環境基金</li> <li>・セブンイレブン記念財団</li> <li>・共生圏 PF 事業支援</li> <li>・基盤強化(地域経済エコシステム)</li> <li>・森里川海 など</li> </ul>

会議名	開催日	場所/方法	概要
EPO ネットワーク発信・発掘 WG	6月26日	オンライン	セッション①発信・発掘 WG どうしましょ!? セッション②行政評価、ピンチをチャンスに!! セッション③その他
EPO 受託者会議	6月30日	オンライン	・今後のスケジュール ・地球環境基金、グリーンギフト、セブンイレブン等外部資金業務について ・森里川海業務、PF 事業など業務の取組状況に関わる情報共有
地域循環共生圏PF構築事業キックオフミーティング振り返りミーティング	7月3日	オンライン	・振り返りグループワーク・ディスカッション
EPO スタッフ会議	7月22日	オンライン	・EPO 事業評価指標についてのセッション報告 ・共生圏 PF 事業について ・パートナーシップ基盤強化事業について ・森里川海について ・その他 8月5日の仙台会議について確認
全国 ESD センター企画運営委員会	7月27日	東京都港区	・ESD 活動支援センター2019 年度事業報告について ・ESD 活動支援センター2020 年度事業計画について ・その他
全国 EPO 会議 (第1回の補足会議)	8月5日	宮城県仙台市	【議題1】EPO 事業の全体像とこれまでに獲得してきた強みについて ・これまでの EPO 業務の全体像と獲得してきた強みを確認 ①これからの EPO の基盤業務 (※ESD センター業務含む) ②これからの外部連携事業(グリーンギフト、地球環境基金、セブン・イレブン記念財団) 【議題2】EPO 事業評価について ・今後どのように EPO 業務を評価していくか ・定性的評価について ・定量的評価について 【議題3】本年度の各事業に基づいて認識すり合わせと協議 ・地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 ・パートナーシップ基盤強化事業 ・森里川海
地球環境基金連絡会	8月27日	神奈川県川崎市	(1)新型コロナウイルス感染症による助成事業への影響と対応状況について (2)2020年度助成金募集及び結果について (3)2021年度助成金募集にかかるスケジュールについて (4)今年度の助成金説明会について (5)全国及び地方ユース環境活動発表大会について (6)コロナ禍における環境市民活動の現状について(GEOC)
グリーンギフト打合せ	8月27日	神奈川県川崎市	グリーンギフトイベントの開催方法についての確認
全国 ESD 連絡会 (第1回)	8月28日	オンライン	(1)開会 (2)2020 年度方針の確認 (3)2021 年度以降の ESD 推進ネットワークの方向性について (4)全国・地方センターが連携して行う 2020 年度の具体的なアクションについて
PF事業 アドバイザリー委員会	9月4日	オンライン	・地域循環共生圏を目指すプロセスとしての“環境整備”について -“環境整備”とは何か -事業の成果物 4 点について -“環境整備で目指す地域循環共生圏”像について(GEOC 整理) ・本日の主な論点 -地域循環共生圏へのプロセスとして、“環境整備”をどの様に捉えるべきか -環境整備のプロセスを可視化するものとしての“環境整備プロセスチェックシート”について
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業に係る講演	9月15日	オンライン	講演① ・地域での起業、創業までの流れ、ビジネス的メリットと社会的意義 ・起業家が求める支援、ネットワークに欲しい人材 ・「にっぽんの宝物」、地域における観光と環境 講演②(30分) ・地方創生における公庫の役割と支援制度

会議名	開催日	場所/方法	概要
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ビジネスプラン見える化 BOOK」の活用事例</li> <li>・「ソーシャルビジネス支援ネットワーク」と活動</li> </ul> 全体ディスカッション
全国検討会(日本ファンドレイジング協会)	9月30日	オンライン	地域循環共生圏づくりにおける GEOC の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・EPO ネットワークについて</li> <li>・「地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業」における環境整備支援</li> <li>・その他共生圏関連事業の取組</li> </ul> 日本ファンドレイジング協会より <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンドレイジングとは</li> <li>・地域循環共生圏づくりにおけるファンドレイジングの可能性</li> <li>・日本ファンドレイジング協会について</li> </ul> 各相談事項に基づいて協議 <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域循環共生圏づくりに資するファンドレイジングの考え方をどう整理するか</li> <li>②地域循環共生圏づくりのプロセスにファンドレイジングの考え方を活用する具体的な方法やツールについて</li> <li>③地域循環共生圏づくりのプロセスにファンドレイジングの考え方を活用する上での、恒常的な仕組みについて</li> </ol> まとめ
PF事業 作業部会(第1回)	10月23日	オンライン	環境整備支援を通じて EPO 全体として目指す価値について 各地方 EPO による環境整備支援の進捗共有 <ol style="list-style-type: none"> <li>①各活動団体の状況をどの様に捉えていたかという仮説(見立て)</li> <li>②その仮説を基にどの様に関与したか(打ち手)</li> </ol> 各 EPO、アドバイザー委員からフィードバック 意見交換 アドバイザー委員からフィードバック
EPO カタログ合宿	11月9日～11日	岡山県岡山市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EPO ネットワークの紹介ブック制作</li> </ul> ※主催イベントが 11 月 10 日にあったため、11 月 11 日のみ出席。
PF事業 作業部会(第2回)	12月1日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・環境整備支援を通じて EPO 全体として目指す価値について</li> <li>各地方 EPO による環境整備支援の進捗共有</li> <li>①各活動団体の状況をどの様に捉えていたかという仮説(見立て)</li> <li>②その仮説を基にどの様に関与したか(打ち手)</li> <li>・各 EPO、アドバイザー委員からフィードバック</li> <li>・意見交換</li> <li>各地域で生じたエラーと PF 事業全体へのフィードバック</li> <li>・アドバイザー委員からフィードバック</li> <li>・今後の予定やその他確認事項</li> </ul>
PF事業中間報告会振り返りミーティング	12月9日	オンライン	中間報告時点での振り返り <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点であがっている課題等の確認</li> <li>・中間報告を聞いてのコメント</li> </ul> 支援チーム派遣の概要について <ul style="list-style-type: none"> <li>・請負業者からの説明・質疑応答</li> </ul>
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業に係る共有会	12月16日	オンライン	講演「よろず支援拠点とその活用状況等について」 講演「クラウドファンディング活用と地域での留意点」
ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2020	12月19日	オンライン	基調講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な社会の創り手の育成に向けて</li> <li>・SDGs 実現社会に期待される人材育成の取組</li> <li>・SDGs が創る世界と作り手を育む ESD</li> <li>・ESD を通じた授業づくりと地域連携</li> <li>・ESD for 2030 のさらなる推進に向けた市民社会からの期待</li> </ul> ・分科会① <ol style="list-style-type: none"> <li>①-1 次世代を対象とした SDGs 人材育成活動の探究と実践</li> <li>①-2 SDGs の取り組みを社会実装するための ESD</li> </ol> ・分科会② <ol style="list-style-type: none"> <li>②-1 学校と地域が連携して SDGs の人材育成を進める</li> </ol>

会議名	開催日	場所/方法	概要
			②-2 地域のレジリエンスとESD ・全体ふりかえり
全国 EPO 連絡会 (第2回/1日目)	1月 15日	オンライン	【議題1】令和2年度事業進捗共有 【議題2】その他令和2年度事業の進捗共有
全国 EPO 連絡会 (第2回/2日目)	1月 19日	オンライン	<午前部> 【議題1】令和3年度 EPO 事業について 【議題2】環境省・事務所等からのトピックス 【議題3】令和3年度 EPO 事業について 【議題4】環境省・事務所等からのトピックス 分科会(事務所会議・EPO 連絡会をそれぞれ実施)
ESDセンター実務 担当者打合せ	2月 2日	オンライン	1. 趣旨説明、議題の確認 2. 次年度仕様書について 3. 分科会について 4. 今後の ESD 展開・方針など 5. ESD センター連絡会に向けて
地域循環共生圏P F事業等実務担 当者打合せ	2月 2日	オンライン	1. 趣旨説明、議題の確認 2. 次年度仕様書について 3. 基盤強化事業について 4. 今年度業務のゴール、成果共有会までの動きなど
全国 ESD 連絡会 (第2回)	2月 8日	オンライン	(1) 開会 (2) 2020 年度活動状況(地方センター) (3) 2020 年度活動状況(全国センター) (4) 2021 年度の活動について (5) ESD を巡る動向
全国 ESD 連絡会 の振り返り会議	2月 8日	オンライン	・今後の対応の確認等
PF事業 アドバイ ザリー委員会(第3 回)	3月 4日	オンライン	令和2年度 PF 事業振り返り アドバイザー委員会と作業部会の振り返り 令和2年度環境整備の進捗と GEOC の仮説 意見交換
PF 事業全国成果 発表会 振り返りミ ーティング	3月 10日	オンライン	・地方事務所、EPO からの所感共有 ・令和2年度の PF 事業 環境整備支援の課題 ・来年度の PF 事業について

※ 地域循環共生圏関連会合のうち環境省主催会合は「6. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務」の章に掲載。

※ ESD業務関連会議については、「5. 中部地方ESD活動支援センター運営業務」の章に掲載。

## 10 外部資金を活用した事業

### (1) グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト

- 予算：900,000 円
- 今年度のプロジェクトでは、三重県の団体（特定非営利活動法人 Joint Plus）によるイベント2回、福井県の団体（小原 ECO プロジェクト）によるイベント1回が開催され、それぞれ EPO 中部が支援を行った。
- このほか、愛知県の団体によるイベントの開催予定もあったが、新型コロナ感染拡大防止の観点から中止となった。

#### 【提出された実施報告シート①】

主催団体名	特定非営利活動法人 Joint Plus		
イベントタイトル	河川環境を学習し、ストーンペインティングに挑戦しよう！		
開催日	2020年7月18日(土曜日) 9:00~12:00 (活動実施時間数 計 3.5 時間)		
開催場所	農泊: JointHouse 三重県多気郡大台町小切畑 295 番地		
イベント概要	今回イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください		
	(ねらい) 河川を通して、宮川がつくる自然について、またその成り立ち・仕組みを理解し、河川環境保全、地域生態系の保全に向けて行動できるようになる。 (タイムテーブル) 受付開始 9:00 → プログラム説明等 → 藪川へ移動 → 河川体験プログラム → ストーンペインティング → 振り返りまとめ → 終了 12:30		
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子(エピソード)と合わせてご記入ください (300 字程度・文体は「です・ます」調)		
	Joint Plus が運営する民泊 Joint House を集合・受付場所とし、1 名の方に参加頂きました。開催にあたり、プログラムの趣旨と、工程を説明しました。その後、河川学習として藪川に移動し、河川環境について説明しました。その後、民泊 Joint House にもどり、大台町の河川から集めた石を使用して、ストーンペインティングを行いました。講師から、事前にペイントをした石をもとに、デザインの方法と、塗り方について説明をして頂きました。ペイントにはアクリル絵の具と絵筆を使用しました。最後に、振り返りまとめとして、参加者から感想と講師から講評を頂き、終了となりました。		
成果	プログラムの成果として、数値にできるものがあればご記入ください		
	河川学習: 30 分 採集した石: 60 個 ストーンペインティング: 14 個		
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください(形式自由・5つ以上)		
	宮川がきれいな理由がわかった。 宮川の成り立ちを理解することができた。 石にも様々な種類があることがわかった。 自然から感じたことをストーンペインティングとして表現することが楽しかった。 また参加したいと思います。		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	0 名	1 名
	子どものご家族または保護者など	0 名	
	その他の参加者(地域住民、学生など)	1 名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO スタッフ	4 名	7 名
	その他団体スタッフ(協力者・協力団体スタッフ)	0 名	
	東京海上日動 社員ボランティア(代理店社員ボランティア含む)	1 名	
	EPO スタッフ	2 名	
日本 NPO センタースタッフ	0 名		

イベント協力	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください(箇条書き)		
	宮川上流漁業協同組合		
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください(選択式)		
	東京海上日動「代理店」ボランティア	有	人数 1名
東京海上日動「代理店」一般参加者	無	人数 0名	
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。		
	1. 次世代へのギフト(子どもたちがどのような気づきを得られたか等) 大台町の複雑な地形や温暖多雨な気候などの地域的な特徴により、河川が形成され、森と川の循環から環境が維持されている仕組みを知る事によって、子供たちが、自分自身の特徴や他者との関係を認識し、その特徴を将来の職業、生き方に活かしていくことが大切であることに気づいてもらうことができました。		
	2. ステークホルダーへのギフト(協力者・協力団体とどんなことができたか等) 協力者である宮川上流漁業協同組合は、今回開催場所となった藪川を含め、河川環境の維持に努めて頂いており、イベントを通じて、清流形成する水や石、地質など自然のしゅみを学ぶことで、河川への関心が高まり、将来的な河川環境の保全、利用の促進につながりました。		
	3. 地域へのギフト(地域にたいしてどんな貢献ができたか等) 大台町の河川の特徴、自然のしゅみを知って頂くことで、自分自身の故郷も含め、環境を保全すること、地域を大切することの重要性を感じていただきました。		
全体の感想			
宮川は清流日本一にも選出される河川であり、町外の参加者にその特徴を感じて頂くことができ、河川環境の保全の必要性を学ぶ良い機会を作ることができました。ストーンペインティングにおいても、自分が感じたことを表現する一つ的手段として、参加者も楽しみながら、実施することができました。			

### 【提出された実施報告シート②】

主催団体名	小原 ECO プロジェクト
イベントタイトル	小さな山里の「夏・探険隊」
開催日	令和2年8月1日(土曜日) 09:45～15:00 (活動実施時間数 計4時間)
開催場所	福井県勝山市北谷町小原地区
イベント概要	今回イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください
	(ねらい) 親子で楽しむ自然体験(川遊び(生物調査)、まき割り(カーボンオフセット)、自然の豊かさ・恵み、命の大切さを感じてもらう) (タイムテーブル) 9:45 小原集落 集合(受付) 10:00 スケジュール説明、連絡等 着替え 10:30 自然体験活動 川遊び(川辺の生物観察) 魚つかみ(命の学習) 11:30 午前の部終了  13:00 (午後の部)自然体験活動 薪割り ドラム缶風呂 14:30 プログラム終了(着替え・片付け) 15:00 午後の部終了 解散
イベント結果	イベントの内容を子どもたちの様子(エピソード)と合わせてご記入ください(300字程度・文体は「です・ます」調) どれも良い経験・体験を得た様子です。 また、コロナ禍の中でストレスから解放された様子です。 川の生き物調査、化石発掘体験、川遊びでは

	<p>・レッドデータの貴重な魚を発見でき、みんなで大喜びです。 私も20年ぶりに見ました。 ・川にオタマジャクシがいたことが驚きの子供もいました。</p> <p>薪割り、ドラム缶風呂 ・薪割りが楽しい様子で、帰りたくないと言った子供もいました。 ・親子の触れ合いとして、家にもドラム缶風呂を設置したいという家族もいます。</p>			
成果	プログラムの成果として、数値にできるものがあればご記入ください			
	生物観察: 12種類 薪(間伐材): 100kg			
参加者の声	イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください(形式自由・5つ以上)			
	<p>・環境教育面について指導者の準備が行き届いていた。スタッフのスキルが申し分ない。</p> <p>・豊かな自然との触れ合いは子供たちにとって多くの学びになる。</p> <p>・川の実しさや生きものに触れてとても癒された。</p> <p>・大自然に触れ合う中で子供たちがいつもと違う遊びができ、魚・虫など新たなことを発見していた。</p> <p>・自然の豊かさ(厳しさ)、命の大切さを感じられるような活動を今後もさせたい。</p> <p>・いつもゲームばかりしている子供を外に連れ出せて良かった。</p>			
参加人数	一般参加者	人数	合計	
	子ども(乳幼児から中学生まで)	15名	25名	
	子どものご家族または保護者など	10名		
	その他の参加者(地域住民、学生など)	名		
	協働関係者	人数	合計	
	実施 NPO スタッフ	4名	6名	
	その他団体スタッフ(協力者・協力団体スタッフ)	1名		
	東京海上日動 社員ボランティア(代理店社員ボランティア含む)	1名		
	EPO スタッフ	名		
日本 NPO センタースタッフ	名			
イベント協力	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください(箇条書き)			
	えちぜん鉄道(株)、小原生産森林組合、福井県、勝山市			
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください(選択式)			
	東京海上日動「代理店」ボランティア	有	人数	1名
	東京海上日動「代理店」一般参加者	無	人数	0名
イベント振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。			
	<p>1.次世代へのギフト(子どもたちがどのような気づきを得られたか等) いずれのプログラム内容も子供たちはどれも満足したように感じられた。 中でも生き物調査での絶滅危惧種の発見は自然環境の豊かさや川の実しさ、川を汚さないことへの気づきにつながりそれらの生態系を守り伝えたいという行動につながることへの期待がうかがえた。</p>			
	<p>2.ステークホルダーへのギフト(協力者・協力団体とどんなことができたか等) 新型コロナの影響下で組織として人的応援等ができない中で、物資の提供やアドバイザー的役割を担う中で協働へのパイプが太くなったと感じることができた。今後、他の困難に直面した時にも協力して乗り越えることができると感じる。</p>			
	<p>3.地域へのギフト(地域にたいしてどんな貢献ができたか等) 生き物調査で貴重な魚を発見でき、改めてきれいな川を守り伝えることの意義・大切を実感できた。また、それらを参加者、スタッフ、地域住民が共有できたことは今後の活動や社会生活の中で生かされることと思う。</p>			
	全体の感想			

	<p>新型コロナウイルスの影響や豪雨、梅雨の長雨の中でイベント開催も危ぶまれたが、多くの人の協力下で開催できたことは貴重な経験になりました。</p> <p>感染防止対策を徹底する中でアンケートや親御さんからの感謝の言葉と合わせイベントが無事に開催できたことは何よりうれしいことです。そんな中での開催の経験は地域活動の幅が広がったと感じます。</p>
--	--

【提出された実施報告シート③】

主催団体名	特定非営利活動法人 Joint Plus		
イベントタイトル	森に入り、木の種類や野生動物の形跡を探り、多様な樹木による森づくりを学ぼう！		
開催日	2020年9月26日(土曜日) 9:00～12:00 (活動実施時間数 計 3.5 時間)		
開催場所	農泊: JointHouse 三重県多気郡大台町小切畑 295 番地		
イベント概要	<p>今回イベントの概要(ねらい、タイムテーブル)をご記入ください</p> <p>(ねらい) 森林を通して、大台の自然について、また動物との関わり・育てる方法を理解し、森林環境保全、地域生態系の保全に向けて行動できるようになる。</p> <p>(タイムテーブル)</p> <p>受付開始 9:00 → プログラム説明等 → 総門の森へ移動 → 森林体験プログラム → 森の恵みアート → 振り返りまとめ → 終了 12:30</p>		
イベント結果	<p>イベントの内容を子どもたちの様子(エピソード)と合わせてご記入ください(300 字程度・文体は「です・ます」調)</p> <p>Joint Plus が運営する民泊 Joint House を集合・受付場所とし、1 名の方に参加頂きました。開催にあたり、プログラムの趣旨と、工程を説明しました。その後、森林学習として総門の森に移動し、森林環境について説明しました。その後、民泊 Joint House にもどり、大台町の森林から集めた木の実や葉を使用して、森の恵みアートをを行いました。木の板に木の実や葉を木工用ボンドで貼付けました。最後に、振り返りまとめとして、参加者から感想を頂き、終了となりました。</p>		
成果	<p>プログラムの成果として、数値にできるものがあればご記入ください</p> <p>河川学習: 60 分          採集した木の実、葉: 30 種類          森の恵みアート: 3 枚</p>		
参加者の声	<p>イベント当日に聞いた声、アンケート結果からご記入ください(形式自由・5つ以上)</p> <p>山に登れてよかった。          虫を捕まえることができてよかった。          枝や葉を取ってきて作品が作れてよかった。          山を登って疲れたけど、楽しかった。          子供たちが楽しんでいる様子を見るのができてよかった。</p>		
参加人数	一般参加者	人数	合計
	子ども(乳幼児から中学生まで)	4 名	5 名
	子どものご家族または保護者など	1 名	
	その他の参加者(地域住民、学生など)	0 名	
	協働関係者	人数	合計
	実施 NPO スタッフ	4 名	7 名
	その他団体スタッフ(協力者・協力団体スタッフ)	0 名	
	東京海上日動 社員ボランティア(代理店社員ボランティア含む)	1 名	
	EPO スタッフ	2 名	
日本 NPO センタースタッフ	0 名		
イベント協力	イベントの協力者・協力団体について具体的にご記入ください(箇条書き)		
	宮川森林組合		
	東京海上日動「代理店」の協力についてご記入ください(選択式)		
	東京海上日動 「代理店」ボランティア	有	人数
東京海上日動 「代理店」一般参加者	無	人数	0 名

イベント 振り返り	以下3つの視点から、よかったこと・今後につながることを中心にご記入ください。
	<p>1. 次世代へのギフト(子どもたちがどのような気づきを得られたか等)</p> <p>大台町の複雑な地形や温暖多雨な気候などの地域的な特徴により、森林が形成され、多様な樹木、また樹木どうしの組合せによって環境が維持されている仕組みを知る事によって、子供たちおよび親が、普段当たり前にあることのしくみやつながりに気づいてもらうことができました。</p>
	<p>2. ステークホルダーへのギフト(協力者・協力団体とどんなことができたか等)</p> <p>協力者である宮川森林組合は、今回開催場所となった総門山を含め、森林環境の維持に努めて頂いており、イベントを通じて、豊かな森林資源を体感することで、森林への関心が高まり、森林環境の保全、利用の促進につながりました。</p>
	<p>3. 地域へのギフト(地域にたいしてどんな貢献ができたか等)</p> <p>大台町の森林の特徴、自然のしくみを知って頂くことで、環境を保全すること、自分たちが生まれた地域を誇りに思うことの重要性を感じていただきました。</p>
	全体の感想
	今回の参加者は地域内に居住されている方でしたが、大台町の自然の特徴について、改めて認識してもらい、森林環境の保全の必要性を学ぶ良い機会を作ることができました。森の恵みのアートにおいても、実際に自然に触れ、形や絵を作っていくことで、より肌で感じることができ、参加者も楽しみながら、森林資源について学ぶことができました。

## (2) 地球環境基金

- 予算：300,000 円

### (ア) 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 8月27日に地球環境基金 EPO 連絡会に出席し、新型コロナウイルス感染症による助成事業への影響と対応状況、2020年度助成金募集及び結果、2021年度助成金募集スケジュールや今年度の助成金説明会、ユース環境活動発表大会について協議、確認を行った。

### (イ) 「全国ユース環境活動発表大会」中部地方大会への協力

- 中部地方大会の審査委員として、EPO 中部運営会議委員であり、EPO 中部・協働コーディネーターである、山室秀俊氏（長野県 NPO センター事務局長）を推薦した。

### (ウ) 説明会の開催

- 基金担当者と調整し、「2021年度地球環境基金説明会」の中部エリア説明会を10月22日にオンライン開催した。

#### 【地球環境基金説明会の開催案内チラシ】



**2021年度 地球環境基金助成金 説明会**  
**in 中部** オンライン開催

**開催日時** 2020年10月22日(木)  
18:00~20:00

申込締切 10/18 (日)

**プログラム**

**第一部 18:00~**  
**環境NGO・NPOによる地域の活動事例**  
~中部地域における助成先団体の活動事例の紹介~

(1) 環境市民プラットフォームとやま (PECとやま)  
「富山県におけるSDGsの普及啓発とその達成に向けた  
パートナーシップ構築」[平成30・2019・2020年度/ひろげる助成]  
事例紹介: 事務局長 堺 勇人氏

(2) 若狭くらしに水舎  
「若狭地方における地域住民による山林管理の基盤整備事業」  
[平成28・29・30年度/入門助成・つづける助成]  
事例紹介: 代表理事 中島 阿児氏

**第二部 18:40~**  
**地球環境基金助成金要望の募集について**

(1) 地球環境基金助成金について ← 地球環境基金Webページ  
<https://www.erca.go.jp/jfge/>  
から事前視聴のうえご参加ください。

(2) 要望書の書き方講座  
(3) 質疑応答  
(4) 個別相談

**地球環境基金** は、民間団体 (NGO・NPO) による環境保全活動を幅広く支援 (資金の援助等) を行うことを目的に、独立行政法人環境再生保全機構によって運営されている基金です。来期・2021年度の助成金交付先の募集を開始するにあたり、説明会をオンライン開催します。説明会では、中部地域における助成先団体の活動事例を紹介するほか、要望書の書き方講座を視聴いただき、地球環境基金の担当者が個別に、質疑・相談に応じる時間を設けています。

申し込みました方には開催日前日に参加URLをお送りします。

**申込先 申込方法**

環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)  
Webサイト ▶ <http://www.epo-chubu.jp/>  
(参加申込フォームあり)  
E-mail ▶ [office@epo-chubu.jp](mailto:office@epo-chubu.jp)  
お名前・ご所属先・連絡先 (TEL・メールアドレス) を添えてお申し込みください。

主催: 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部  
協力: 環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

地球環境基金

- 開催後に、実施報告書を作成し、環境再生保全機構に提出した。

## 【地球環境基金・中部エリア説明会の実施報告書】

別紙 1

### 2021 年度 地球環境基金 助成金説明会（中部地区）

#### 概 要

- 【行事名】 地球環境基金助成金説明会 in 中部  
 【日 時】 2020 年 10 月 22 日（木）18:00～20:30  
 【場 所】 オンライン開催  
 【参加者】 12 名  
 【内 容】
- 挨拶 日野 和重 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）
- 第一部 環境 NGO・NPO による地域の活動事例  
 ～中部地域における助成先団体の活動事例の紹介～
- (1) 「富山県における SDGs の普及啓発とその達成に向けたパートナーシップ構築」  
 堺 勇人 氏（環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）事務局長）  
 —活動の背景と目的、概要、アウトプット（活動の成果）、アウトカム（活動の  
 効果）、活動で苦労した点・工夫した点、これから助成活動を目指す方にむけて  
 のコメントを中心にお話しいただいた。
- (2) 「若狭地方における地域住民による山林管理の基盤整備事業」  
 中畠 阿児 氏（若狭くらしに水舎 代表理事）  
 —活動の背景と目的（環境・産業・防災の観点から）、各年度における活動内容  
 とその成果・効果を中心にお話しいただいた。
- （質疑応答）…(1)(2)に関する質疑応答 ※司会者より質問（参加者からの質問なし）
- a) コロナ禍における助成活動の工夫について  
 b) 数ある助成金の中で地球環境基金に応募したきっかけや動機について
- 堺氏：a) オンライン・オフラインの両方を活用している。密を避けるため、天井が  
 高く風通しのよいお寺をイベント会場として活用した。  
 b) アースデイとやまを開催するなど元々環境寄りの団体であったため。
- 中畠氏：a) 人が密集する活動ではないためコロナの影響は受けていないが、協議会  
 開催がストップしているという悩みを抱えている。  
 b) 地球環境基金は、団体の活動の目的（経済的に持続可能であることや環  
 境保全）が明確に伝えられる助成金であったから。
- 第二部 2021年度地球環境基金助成金の説明
- (1) 地球環境基金助成金について  
 村上 智江 氏（独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部）  
 —2021 年度地球環境基金助成金の概要と助成メニューについて、基金の仕組み、  
 応募団体要件、対象活動分野、特徴、前年度からの変更点（特別助成の新設  
 等）、対象経費（コロナ禍への対応）、応募方法、スケジュールについてご説明い  
 いただいた。（※参加者へは動画「地球環境基金について」の事前視聴を依頼）
- (2) 2021 年度助成金の要望書の書き方講座  
 地球環境基金 Web ページに掲載されている 2 本の動画を上映  
 ・要望書の書き方講座（基礎編）  
 ・要望書の書き方講座（応用編）
- (3) 質疑応答…(1)(2)に関する質疑応答  
 特になし
- (4) 個別相談  
 個別相談の希望者 5 名に対し、基金担当者が対応した。

【説明会の様子】

▼活動事例の紹介【堺氏/PEC とやま】



▼活動事例の紹介【中嶋氏/若狭くらしに水舎】



▼概要説明【村上氏/地球環境基金】



▼チャット機能によるアンケート協力依頼



▼動画上映【要望書の書き方講座（基礎編）・（応用編）】



以上

### (3) 愛知県コーディネート業務

- 年間予算：450,000円
- 愛知県委託業務として、環境学習に関する学校等からの依頼に対し、相談業務5件、コーディネート業務5件を下記の通り実施した。

No.	受付日	依頼先	区分	担当	分野	依頼内容	相談業務			
							No.	No.	実施日	講師等
1	5月13日	西尾市交流共創部佐久島	行政	三矢由紀子氏	生命、自然への愛着、生態系・生物多様性	三河・佐久島アートプラン21 令和2年度事業 自然観察会(磯の生き物)の講師の紹介		①	9月20日	蒲都市竹島水族館学芸員(戸館真人氏)
2	5月22日	西尾市環境保全課	行政	手寫和弘氏	生態系・生物多様性、自然への愛着	小学生の夏休み期間中における環境学習講座の講師の紹介	①		(8/13:コロナのため中止)	水谷 央氏(NPO法人もりの学舎自然学校)
3	6月8日	豊田市立浄水小学校	学校	孕石しのぶ氏	食品ロス	総合的な学習における食品ロスに関する講師の紹介	②		(コロナのため授業は中止)	浅野智恵美氏(NACS消費生活研究所)
4	6月12日	名古屋市立中根小学校	学校	河嶋小百合氏	生態系・生物多様性、水、ごみ・資源循環・3R	環境学習プログラムの紹介	③			
5	7月8日	change our next decade	民間	王愛里氏	生態系・生物多様性	訪問先の中学校の紹介		②	9月7日	刈谷市小垣江東小学校
6	8月19日	公益財団法人 愛知県都市整備協会	公益財団	井高 氏	自然への愛着、生態系・生物多様性、ごみ・資源循環・3R	清掃活動イベント時に実施する環境学習の講師紹介等について		③	(2021年5月)	鈴木吉春氏(田原市在住、「環境ボランティアサークル 亀の子隊」代表、愛知環境カウンセラー協会会員)に依頼。
7	8月28日	日進市立東小学校	学校	高橋明美氏	地球温暖化	小学校における環境学習を実施する講師との調整		④	10月21日	村瀬政彦氏(地球温暖化防止活動推進員)
8	8月28日	〃	学校	高橋明美氏	新エネルギー(持続可能な社会)	〃		⑤	10月29日	原理史氏(中部地方ESD活動支援センター)
9	9月30日	大府市市民協働部環境課	行政	近藤祐生氏	地球温暖化、エネルギー	職員向け環境講座の講師の紹介	④			
10	10月30日	豊橋市環境部環境課	行政	杉浦夕紀子	ごみ・資源循環・3R、地球温暖化、エネルギー	イベントにおける講師・パネリストの候補者に関する情報提供	⑤			
合 計							5	5		



## 1 1 今後に向けて

### ア 基本業務について

#### (ア) EPO 施設利用・相談対応

##### ① 課題の整理

- EPO 中部における年間の相談件数、来館者数などは伸び悩んでおり、第5期3カ年において、EPOの「施設」の利用向上が課題となっていた。
- 2020年度業務に着手するにあたり、EPO施設を会場として活用した小規模イベントを実施することにより、EPOの場所、施設としての利用方法について認知度を向上させる企画を立案していたが、新型コロナの影響によりオンラインでの開催に変更となった。

##### ② 今後の展開

- EPO施設を活用した小規模イベントの実施が可能な社会情勢になった折には、EPOを会場にした企画立案を進め、実際にEPOを来訪していただく機会を企図していくことが考えられる。
- アフターコロナ、或いはwithコロナの状況下においてもEPOの施設利用を促進する方策については、運営会議等の場などで引き続き検討していく必要がある。

#### (イ) ウェブサイト、SNSによる情報発信

##### ① 課題の整理

- 2020年12月に全面リニューアルを行ったEPO中部webサイトは、不必要な情報（過去のイベント告知情報等）を削除し、新デザイン、新構成でスタートした。
- リニューアル公開後は、不要な過去情報をなくしてわかりやすい構成とした一方で、本サイトが外部検索サイトでヒットする機会が少しでも多くなるよう、記事投稿を意識的に増やす対応を行っているところである。
- 2019年度に開設したSNS（Facebookページ）と連動する機能もWebサイトに付加しており、閲覧者が記事をSNSでシェアしたくなる工夫等も必要とされている。

##### ② 今後の展開

- リニューアル後のEPO中部webサイトにおけるコンテンツの充実化、ポータルサイトとしての機能性の確保など、今後、日頃の維持管理の中で意識し、拡充に努める必要がある。
- SNSのシェアでは、記事の画像がポイントとなるため、Webサイト、Facebookページともに、画像の掲載方法等については工夫し、記事がより多くシェア（拡散）される投稿を積み重ねていく必要がある。

### イ EPO 業務について

#### (ア) 協働コーディネーターとの連携

##### ① 課題の整理

- 第5期開始時に16名の協働コーディネーターによる協力が得られていたが、その後、コーディネーター側の事情等により、第5期終盤時点では協力可能なコーディネーターの数がリスト上では12名（連絡が取れなくなったコーディネーターも除くと10名）となっている。
- コーディネーターの数が県によってばらつきが生じており、EPO業務への積極的な協力が得られているコーディネーターも固定化がみられる。
- 一方で、第5期に開催した多くの主催イベントの中で、協働コーディネーターとの連携・協力を得て開催したイベントは地域ニーズに即した内容となり、自治体の協力が得られやすく、参加者数もEPO単独企画のイベントよりも多くなる傾向がみられるため、引き続き、地域イベント等の業務では協働コーディネーターの連携・協力が重要になるものと考えられる。

## ② 今後の展開

- 今後の主催イベントの企画等では、協働コーディネーターに加えて、(過去の)環境省事業の採択団体との連携・協力や、新たな人材・団体・自治体とのつながりを活用するなど、多様なネットワークで積極的に地域と連携し、地域ニーズに即したイベント等の業務立案を行っていく必要がある。
- 特に協働コーディネーターの数が少なく、第5期の中でEPO連携イベント等の開催実績が少なくなっている石川県、岐阜県、三重県(東海エリア)は、地域ニーズの拾い上げを意識的・積極的に行う必要があり、またそのために地域活動者等と何らかの形でネットワークを構築する必要があると考える。

## (イ) 「活動見える化プログラム」の構築

### ① 課題の整理

- 「活動見える化プログラム」は、EPO 中部が地域支援や事例蓄積を行う上で有用なツールとなっているが、広く地域活動主体に活用されるツールとはなっていない。
- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業での採択団体支援などの地域支援の実践業務では、引き続き「活動見える化プログラム」を活用することが有用と考えられる。
- Web サイトのリニューアルにあたっては、サイト内で「活動見える化プログラム」の事例等を公開し、「活動見える化プログラム」のチャート図を用いることで、協働取組や地域循環共生圏づくりの事例を Web サイトに蓄積することを可能とした。

### ② 今後の展開

- 「活動見える化プログラム」は、EPO 中部独自ツールとして、様々な地域支援業務の中で活用することが可能であり、今後も、SDGs 活用・地域循環共生圏づくりの事例の蓄積と体系的な整理、新たな事例の掘り起こしなどにおいて、活用していくことが有用である。
- EPO 中部 Web サイトで「活動見える化プログラム」の概説、事例の公開を行っているが、構築者側の視点での概説等となっており、地域主体側にとって理解しやすい解説となるよう、工夫や改善が必要である。

## (ウ) EPO 中部主催イベントの開催

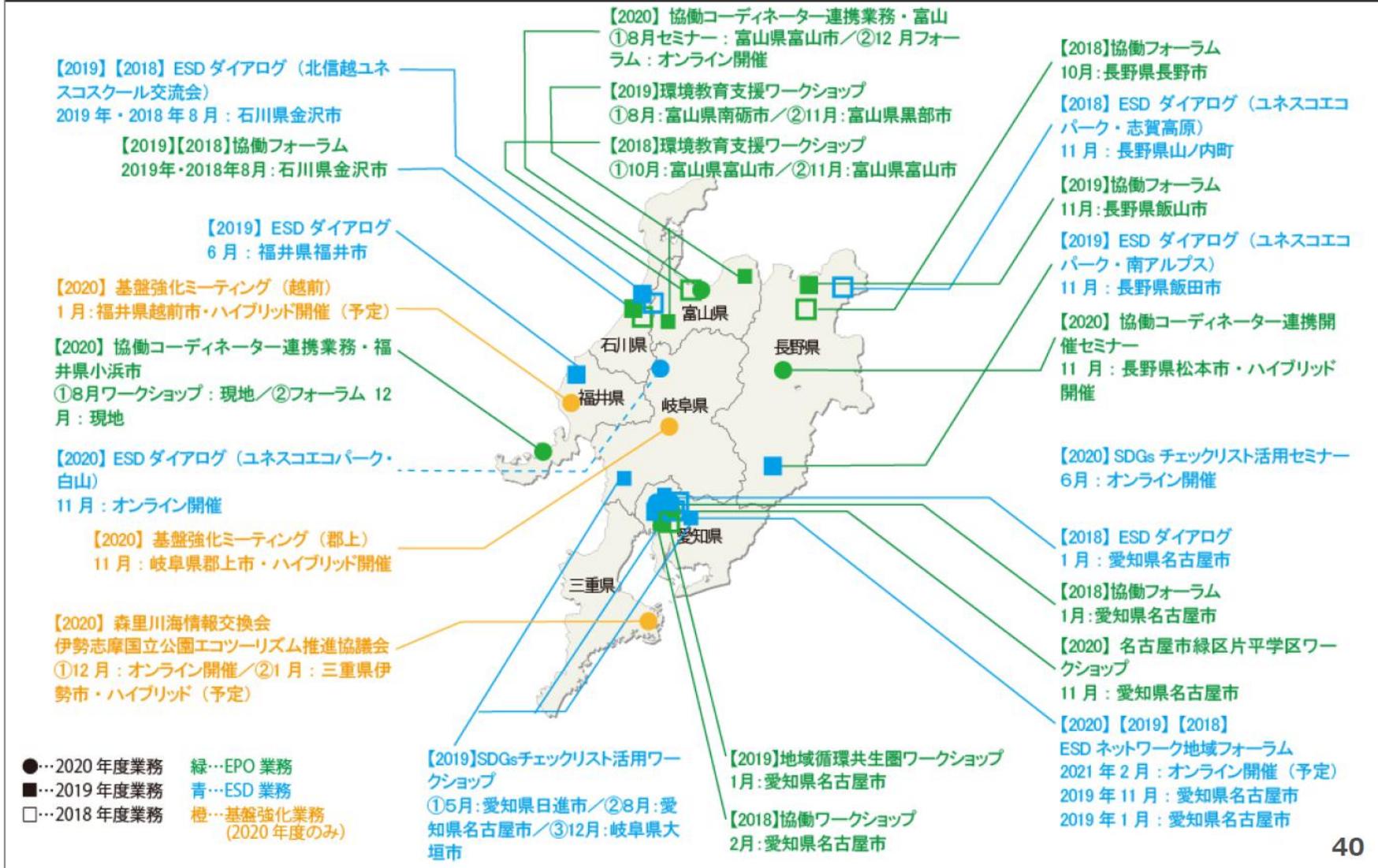
### ① 課題の整理

- 今年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から、オンライン開催・運営(または会場現地とオンライン両設営のハイブリッド開催・運営)となったイベントが多く、運営方法やシステムの取り扱い等に慣れず、手間取る場面も多々あった。
- 第5期3カ年をかけて、中部7県のいずれにおいても主催イベントを実施することができたが、岐阜県、三重県は他県に比べて開催回数が少ない結果となっている。
- 名古屋でイベントを行う際に、その告知PRを行うと、Web サイトのアクセス数、SNS へのリーチ数が伸びる傾向がみられ、名古屋圏でのイベント開催が「EPO 中部」の認知度向上、広報戦略にも寄与していることがうかがえる。

### ② 今後の展開

- 第5期で主催イベントの開催回数が比較的少なかった岐阜県・三重県については、今後のイベント開催地として優先して意識するエリアであると捉えられる。
- 同時に、中部の中心都市であり、地域活動者人口の多い愛知県の県庁所在地である名古屋でのイベント開催は、その告知自体が Web サイトのアクセス数増加、或いは「EPO 中部」の認知度向上につながるということが考えられるため、岐阜県・三重県を含めた東海3県を名古屋圏域と捉え、名古屋市では戦略的にイベントを実施していくことが考えられる。

# 第5期の3年間に主催したイベント



- また、EPO 及び ESD センターによるイベント開催では、グループワーク（ワークショップ、ディスカッション）が参加者から重視される傾向がみられることから、今後の主催イベントでのオンライン、ハイブリッド開催では、グループワークの運営・進行のしやすさの工夫や、それを可能とするシステム探し（システム採用）にも留意していく必要がある。

## ウ ESD 業務について

### (ア) 「SDGs チェックリスト」の作成

#### ① 課題の整理

- 「SDGs チェックリスト」については、Web 等での公開後、企業や自治体その他から研修・イベント等で活用したいとの問合せが多数ある。
- イベントの開催結果の記事を SNS で紹介した際、グループワーキング結果（書き込みがされたパッケージツールのシート）を掲載すると、リーチ数、リアクション数等が伸びる傾向もみられる。
- 一方で、第 5 期に「SDGs チェックリスト」は 2 種類（①基本段階版、②事業所活用版）を作成したが、①基本段階版は主催イベント等での活用が多かったが、②事業所活用版については活用実績が少なくなっている。

#### ② 今後の展開

- 今後も SDGs 推進と ESD 等における地域支援において、「SDGs チェックリスト」を積極的に活用すると同時に、中部地方 ESD 活動支援センターの教材ツールとして活用し、当センター（及び EPO 中部）の PR にも活用を図る。
- 「SDGs チェックリスト」の②事業所活用版についても活用を図り、特に SDGs 実践への対応が難しいと想定される中小企業や小規模自治体等を対象にした SDGs 推進支援の取組等での活用を積極的に展開することが考えられる。
- 一方で、既に SDGs 推進を積極的に進めている自治体等からは、SDGs の取組評価の方法、SDGs を活用した目標設定の手法等に関わるニーズが聞かれるようになっており、「SDGs チェックリスト」活用の次段階のあり方の提示が必要とされている。

### (イ) 中部地方 ESD 活動支援センター主催イベントの開催

#### ① 課題の整理

- ESD 業務のイベントでは、第 5 期 3 年間で、ESD ダイアログ：ユネスコエコパークを活用した ESD のあり方、ESD ネットワーク地域フォーラムでの学生登壇、SDGs 未来都市との連携など、シリーズ化しつつあるテーマでの開催イベントに対し、参加者・関係者から高い評価を得ている。
- 今年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響により、ESD イベントは全てオンライン開催となり、特に学校・教育関係者は感染症対策に敏感であることから、ESD イベントはオンライン開催が望まれる傾向は続く可能性がある。
- 一方で、オンライン開催と、開催後に録画のオンライン配信を行ったことで、参加者数（視聴者数）が従来のリアル会場参加型のイベントよりも多くなっている。
- しかし、オンライン開催のイベントでは、参加者アンケートの回答数が全般的に少なくなる傾向もみられる。

#### ② 今後の展開

- ESD ダイアログ：ユネスコエコパークを活用した ESD のあり方、ESD ネットワーク地域フォーラムにおける SDGs 未来都市同士のセッションなどは、関係者等から継続開催を望む声が多く聞かれ、今後も継続開催が期待されている。

- オンラインの活用、会場現地でのグループワーク（ワークショップ）運営など、開催方法については企画内容や社会情勢に応じた選択と、プログラムにおける工夫が必要となる。
- 特にESDイベントは、グループ・ディスカッションへのニーズが高いことから、オンライン・ファシリテーションに留意した時間配分や登壇者・参加者の発言機会の確保の方法などのプログラムの工夫や、オンライン・ツールなどの積極的な活用を図る必要がある。

## (ウ) センターによる地域団体の支援（地域ESD拠点への支援）

### ① 課題の整理

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、特に今年度前半は、地域ESD拠点をはじめとする地域活動者もイベント等を自粛する傾向があり、中部エリアの地域ESD拠点への2020年度の新規の団体登録は1件のみとなった。
- 全国センターと地方センターで役割分担が明確でなく、地域活動団体によるESDの取組への支援のあり方を中部センターとして明示できていない状況にある。

### ② 今後の展開

- 中部センターとしてESDのための地域支援のあり方を整理した上で、主なターゲットの設定、各セグメントへの支援方法などを明示し、それを実践していくことが求められている。
- 特に、本年度の中部地方ESD活動支援センター企画運営会議、EPO中部運営会議の両会議の委員から、SDGs推進においては今後、中小規模の企業、小規模自治体への支援が重要になるとの指摘があり、「SDGsチェックリスト」の活用も含めた中部センターの支援の展開において、特に中小規模の主体・団体を対象にした支援を積極的に進める必要があるものとする。

## エ イベント参加者アンケート結果より

- EPO業務、ESD業務の全てのイベントにおいて参加者アンケートを実施している。
- しかし、今年度は多くのイベントをオンライン開催、ハイブリッド開催で実施しており、参加者の参加方法をオンライン視聴となった場合には、参加者アンケートへの回答が少ない回収結果となっている。
- 中には、回答ゼロのイベントもあり、今後、参加者アンケートの実施については、プログラム中に盛り込むなどの工夫が必要と考えられる。
- 回答を得られた参加者アンケートの集計結果をみると、全体的にどのイベントに対する評価も高く、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が比較的多い。

		●今回の催事はいかがでしたか(5段階評価)					
		5/5段階	4/5段階	3/5段階	2/5段階	1/5段階	無回答
EPO 業務	201110信州セミナー (n=6)						
	201114片平学区ワーク ショップ(n=16)						
ESD 業務	201115ESDダイアログ (白山)(n=8)						
基盤強 化業務	201125郡上ミーティング (n=18)						
	210118伊勢志摩情報交 換会②(n=5)						
	210126越前フォーラム (n=4)						
EPO業務・計(n=22)							
ESD業務・計(n=8)							
基盤強化業務・計(n=27)							

		●今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	201110信州セミナー (n=6)	3	0	3	0
	201114片平学区ワーク ショップ(n=16)	12	0	4	0
ESD 業務	201115ESDダイアログ (白山)(n=8)	8	0	0	0
基盤強 化業務	201125郡上ミーティング (n=18)	15	1	2	0
	210118伊勢志摩情報交 換会②(n=5)	5	0	0	0
	210126越前フォーラム (n=4)	3	1	0	0
EPO業務・計(n=22)		15	0	7	0
ESD業務・計(n=8)		8	0	0	0
基盤強化業務・計(n=27)		23	2	2	0

### 【具体的に役立つ情報・事例の内容とは】

201110信州 セミナー	地域循環共生圏の考え方が少しわかった気がした
	地域循環共生圏についての知識を深めることができました。
	根羽・小布施の例
201114片平 学区WS	SDGsという言葉は知らなかったが、すでに貢献している事があったと思います。
	学校や女性、外国人への協力、協働をしていきたい。
	SDGsについて勉強になった
	地域の安全—消防団の活動 安全・安心な町づくり—花いっぱい運動 関連があったかな
	全ての行動がSDGsにつながっている
	どの事例もよかった 続けることが大事だと、健康であればこそ地域の方々と接したい
	皆さんの意見がとても参考になりました
	SDGsの考え方が良くわかった。
	積極的な取り組み
	SDGsと日常のつながりがよく理解できた
201115ESD ダイアログ	地域づくりとどう絡めていくかということ
	山ノ内南小学校の取組
	どのような取り組みがされて、どのような成果がら出ているのか、また、今後の課題についての情報が得られた。
	エコパークでの実際
	具体的な活動内容をお聞きし参考になりました。ありがとうございました。
	各学校の取り組み。
	ユネスコ関係の各取組と屋久島町の学校教育の関係は、内容では共有されているが、枠組みとしては、本町はユネスコスクールには加盟していないため、関連が強化されていないという課題があるということが明確になった。
	各校の充実した取組の内容は、可能ならば活用させてほしい。多くの示唆にとんでいました。すばらしいです。地域でできることと地域だけではできないことがあると感じます。地域でできることが地域以外でもできるとめに、より広い視野で、繋がるという視点も大切だという学びがあった。
・他校の取り組み内容や取り組み方がよくわかりました。勉強になりました。 ・ESD、SDGsとのかかわりについても勉強になりました。 ・今後、自校が取り組むべきこともわかってきました。 ・他中学校の事例も知りたくりました。	
201125郡上 ミーティング	縄文型ビジネス
	事業の取り組み方法
	各自すでに取り組んでいる事柄がきけたこと。
	縄文型まちづくりの仕組み
	絵をかくこと。可視化の大切さ。
	ビジネスデザイン

	直観的に動いてから、課題を後付けするイノベーター型の手案があることがわかった。
	ふたつのレクチャー
	「やるべきは地域の中でイノベーターを発掘してアクセラレートするプラットフォームを作ること」という部分は共感できました。
	縄文型と弥生型の違い
	郡上市内のネットワーク・人脈に先が見えた。
	縄文式でビジネス化というキーワードは参考になった。儲かるものは弥生式というイメージだったため。
210118伊勢 志摩会合②	最新の外部団体の事例
	ファンドレイジングの理論と実際
	共感を集めるためのSDGsストーリーづくり
	ファンドレイジングの考え方や、キャンプファイアでのクラウドファンディング手法、ワークショップでの物語の作り方
	ファンドレイジングについて
210126越前 会合	山崎先生の講演が特に
	いろいろな事例や考え方を知ることができた
	地域企業が主人公としてどのようにイノベーション化出来るか。また企業誘致の在り方や地域内で所得が増える方策の考え方や手段等々。

- 今後の活動への積極性が喚起されたか否かの設問でも肯定的な回答が多くなっている。
- 一方、参加者の殆どが教師であった ESD ダイアログ（白山）では、「これまでの取組で充分と思えた」という回答が比較的多く、自身の授業等でその内容の妥当性に悩むことが多い参加者が、ESD ダイアログを聴講したことによって「やってきたことに間違いがないことがわかり安心しました（自由記入欄のコメント）」とあるように、悩みを共有し、取組に自信を持つことができた参加者が少なくなかったものと考えられる。

		●協働に今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか				
		もっと協働に積極的に取り組んでいきたいと感じられる内容だった	これまでの取組方を続けていけば充分だと思える内容だった	協働に取り組む必要性・重要性をあまり感じられない内容だった	よくわからない	無回答
EPO 業務	201110信州セミナー (n=6)	3	0	0	3	0
	201114片平学区ワーク ショップ(n=16)	11	4	0	0	1
ESD 業務	201115ESDダイアログ (白山)(n=8)	3	5	0	0	0
基盤強 化業務	201125郡上ミーティング (n=18)	14	1	1	2	0
	210118伊勢志摩情報交 換会②(n=5)	5	0	0	0	0
	210126越前フォーラム (n=4)	3	0	1	0	0
EPO業務・計(n=22)		14	4	0	3	1
ESD業務・計(n=8)		3	5	0	0	0
基盤強化業務・計(n=27)		22	1	2	2	0

### 【末尾・自由記入欄の感想など】

201110信州 セミナー	住民が事業に参画していただけたテクニック、方法は？ 行政の再生可能エネルギー担当として聴講させていただきました。演題のとおり「地域循環共生圏づくりへの取組」の内容がメインでしたので、自分には難しい内容が多かったです（勉強不足でした）。 ただ、根羽村さんや一般社団法人スマート・テロワール協会さんの事例紹介（取組内容）はどの職種にも、どの分野にも共通して活かせる内容ではないかと思いました。と同時に、「持続可能な」というフレーズがあまりにも抽象的過ぎて、受け手側それぞれに温度差が生じるのでは、と思いました。 自然と人間の共生について考える機会となりました。人、モノ、カネをいかに回していくか地域の中で完結できる仕組み作りをしていきたいです。 貴重な機会をありがとうございました。
------------------	---

201114片平 学区WS	<p>17項目を区別してもっと考えてみたいと思った。</p> <p>SDGs—余り興味としてあがらない事で、普段やっている事、又行動してきている事ですので、不足している事は、今後考えながら行動していきたいと思います。</p> <p>片平学区の先進的な活動に大変驚きました。</p> <p>時間(考える)が少なく、よく理解出来ていなかった</p> <p>地域の課題が解ってきた。SDGsが少し身近になったかな</p> <p>新しい発見でした</p> <p>参加してよかった。目標に向かって意見を出し合い進めたらよいかと思いました。まず身近なことから頑張ります。</p> <p>気にとめていない毎日が、いろんなことに通じているんだなと思った。</p> <p>世界の人類が一つと強く思いました</p> <p>参加した人達に偏りがあった様な気がします</p> <p>SDGs内容は難しいと思ったがみなさんが楽しそうに取り組んでいた。普段の生活の中にSDGsを意識して行動できることが多くあるので取り組んでいきたい。</p> <p>SDGsの言葉から身近な事への関わりへのチャレンジ！そして脳の活性にとっても良かったです。</p> <p>はじめて聞いた言葉ばかりで勉強になりました。</p> <p>初参加でしたが、こんなにも片平学区が質の高い地域貢献活動をやっている街だとは知りませんでした。今後もっともっと住み良い街づくりに参加しようと思いました。</p> <p>良いお話が聞け、初めて知りました事もあって有意義な3時間でした。</p> <p>とても楽しかったです。みなさんのパワーに圧倒されました。</p>
201115ESD ダイアログ	<p>今行っている活動を整理し、児童生徒に自分事として考えていけるよう編成しなおせたらと感じました。</p> <p>「わかり直しや再認識」その意味付け、意識づけはまだなされていませんが、本校での教育活動は、SDGsにつながっていると感じました。</p> <p>今後年度に向けて考える上で、つながりを整理することからやっていきたいと思います。</p> <p>エコパークとESDの関係により絞った解説と報告が良かったかな</p> <p>小規模校の活動であり、大規模校では難しいと思います！先生の児童の活動の取組については、本当にご苦勞様ですが又、地域(公民館等)が主体的に行うSDGs活動はありませんでしたが、今後期待したいです。</p> <p>屋久島町の小中学校と交流をしませんか。現在奈良の学校と実施中です。いかがでしょう。</p> <p>大変勉強になりました。この会に参加させていただくことで、視野が広がりましたし、やってきたことに間違いがないことがわかり安心しました。ご指導にもありましたが、今後、体制づくりや内容の整理整頓については職員で検討していきたいと思います。どうか、今後ご指導よろしくお願い致します。お世話になりました。</p>
201125郡上 ミーティング	<p>2部構成は長時間となりしんどかった。</p> <p>具体的な取組を展開、行政と一緒にやって行くと良い。</p> <p>谷中さんのお話をもっと時間を取ってお聞きしたかったです。</p> <p>谷中さんの話す時間をもっと長くすると、谷中さんがそのままワークショップも進行して体験したかった。しかし、今回、ビジネスアイデアを出す、聞くも面白い組み合わせがたくさんあった。講評が面白かったです。</p>
210118伊勢 志摩会合②	<p>報告者の人選が素晴らしかったです。</p> <p>クラウドファンディングに興味があったので、参考となりました。関係者をいかに巻き込むかに思いを巡らせてみたいと思います。</p>
210126越前 会合	<p>先進事例や、仕事の中で感じたことに基づく思いなどに触れることができたり、ひとつのことについても、そういう見方があるんだなと発見があったり、楽しい会でした。</p> <p>今件における地域循環共生圏づくりで、地域企業、市民、行政(建設部と産業環境部門がしっかり連携の上)、地銀、経済団体、大学等々としっかりした地域総力戦で臨む必要性(連携が取れるプラットフォームを構築の上)が最も大切と示唆された点等や、資料も充実していてこの資料を基に学習を深めたい。</p> <p>今回のフォーラムでどの部分が地域で「循環」し、共生する内容なのか、まったくわからない。新幹線開通によって得られる経済効果などは、今までと変わらず、想定できた効果であり、コロナ禍の影響などもあって候の内容。循環するために越前市でどうするのか、具体的な提案が全くない。トークセッションでろうじて高齢化が進む越前市の課題を山崎氏が述べて方向修正した感があったが、銀行のお二人は「地域循環共生圏」を理解されているのでしょうか？果たしてこれで、地元が地域で循環できる仕組みが作れるのかおおいに疑問。地元企業が潤うこと ≠ 地域循環共生では？そこを山崎さんから何度か指摘されていたのでは？どこにイノベーションがあり、どこに脱炭素の要素がありましたか？この程度の内容なら、地元のローカルTVがやるもので地域循環共生圏の事業費をかけてやるものかな、という感想です。</p>

---

令和2（2020）年度  
中部環境パートナーシップオフィス運営業務  
年間報告書

2021年3月

発行： 環境省中部地方環境事務所  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2  
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889  
URL：http://chubu.env.go.jp

作成： 中部環境パートナーシップオフィス  
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）  
〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル4階  
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606  
URL：http://www.epo-chubu.jp